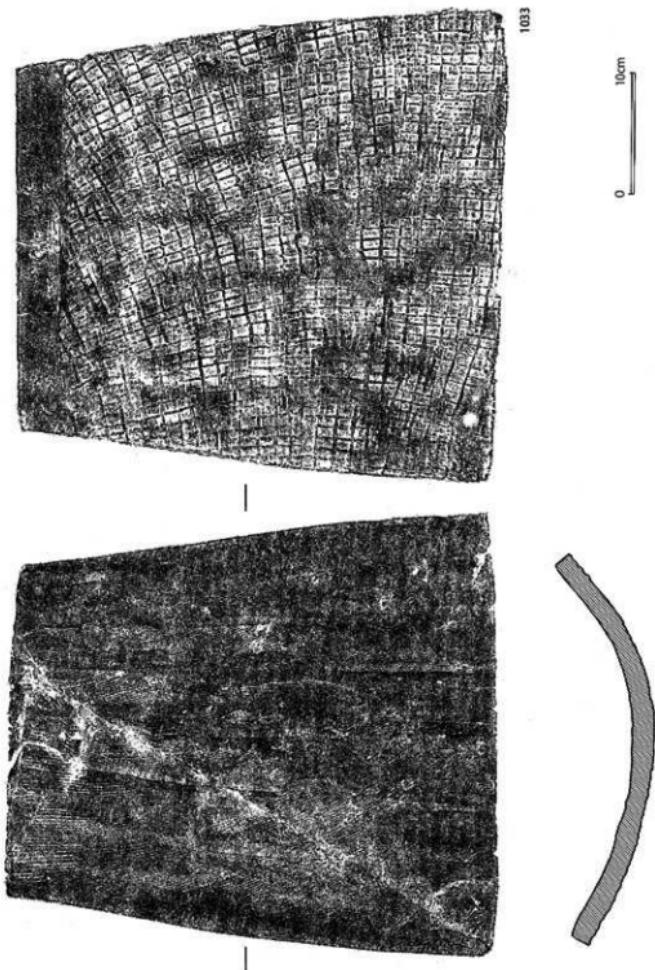
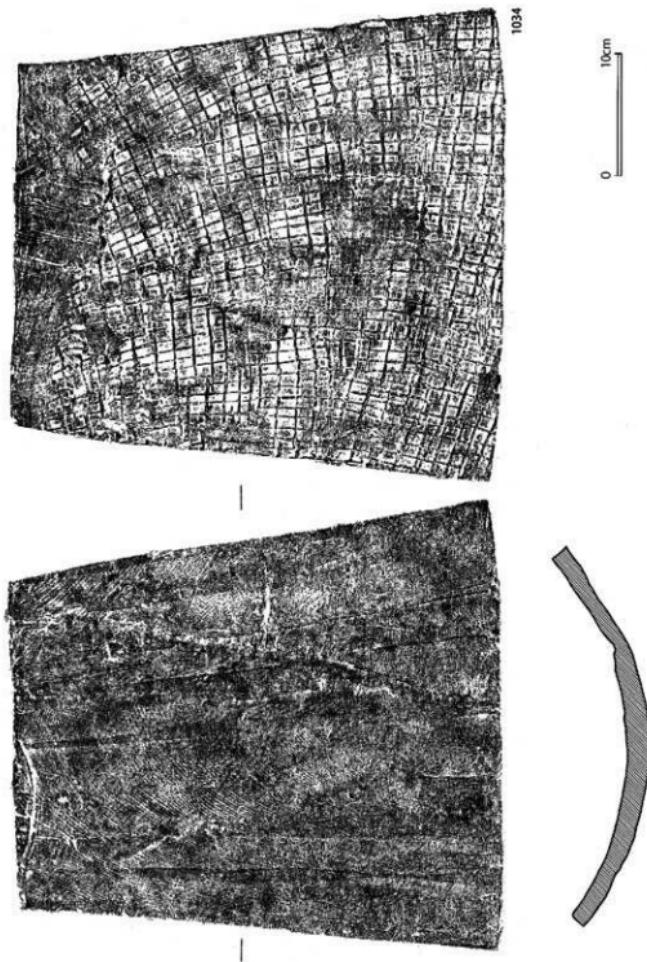


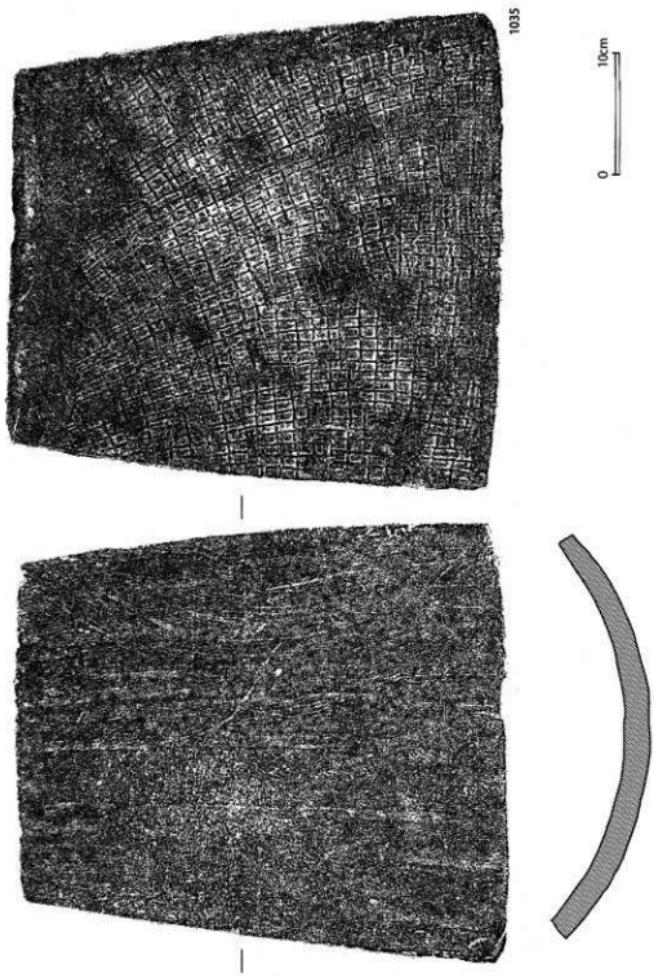
第119図 瓦⑰(平瓦)



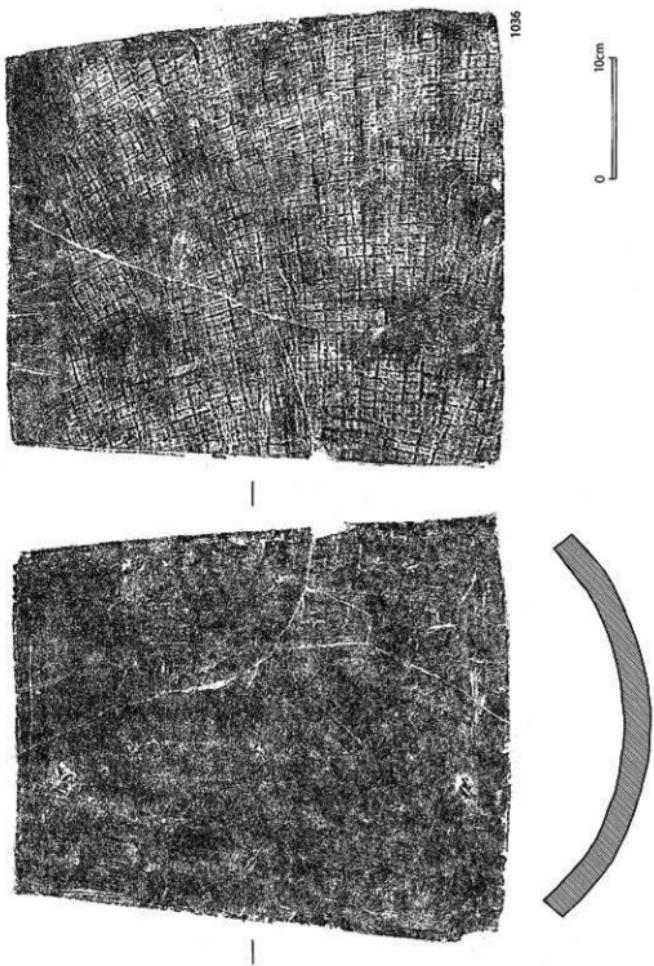
第120図 瓦②(平瓦)



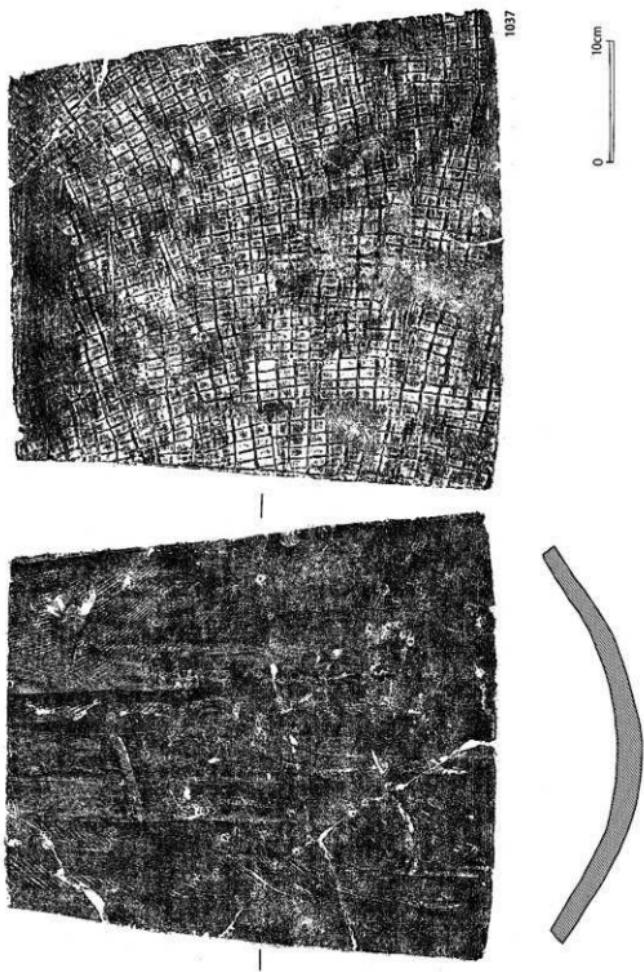
第121図 瓦 ②(平瓦)



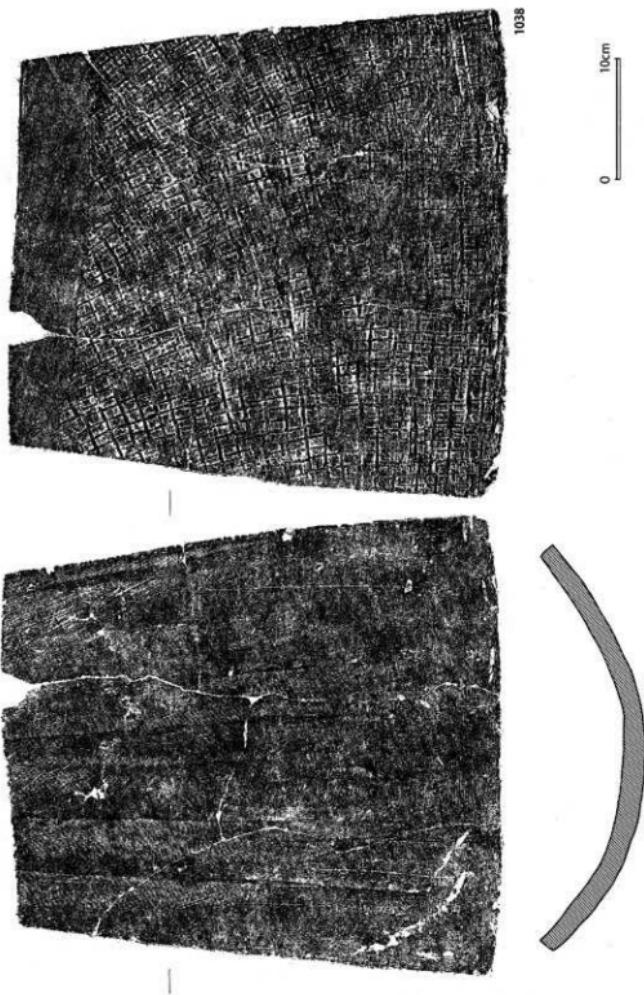
第122図 瓦⑩(平瓦)



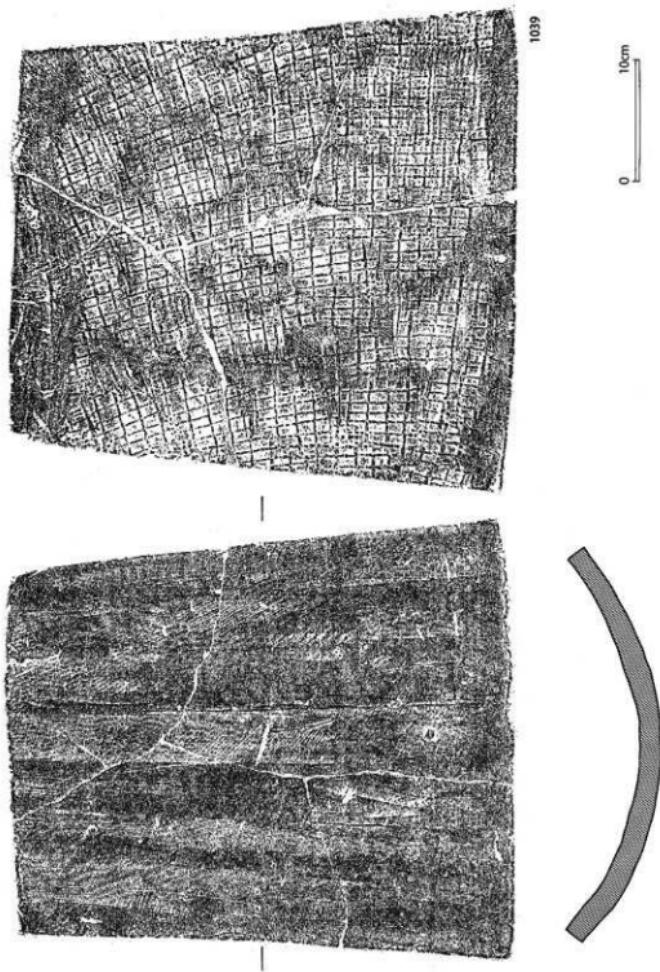
第123図 瓦③(平瓦)



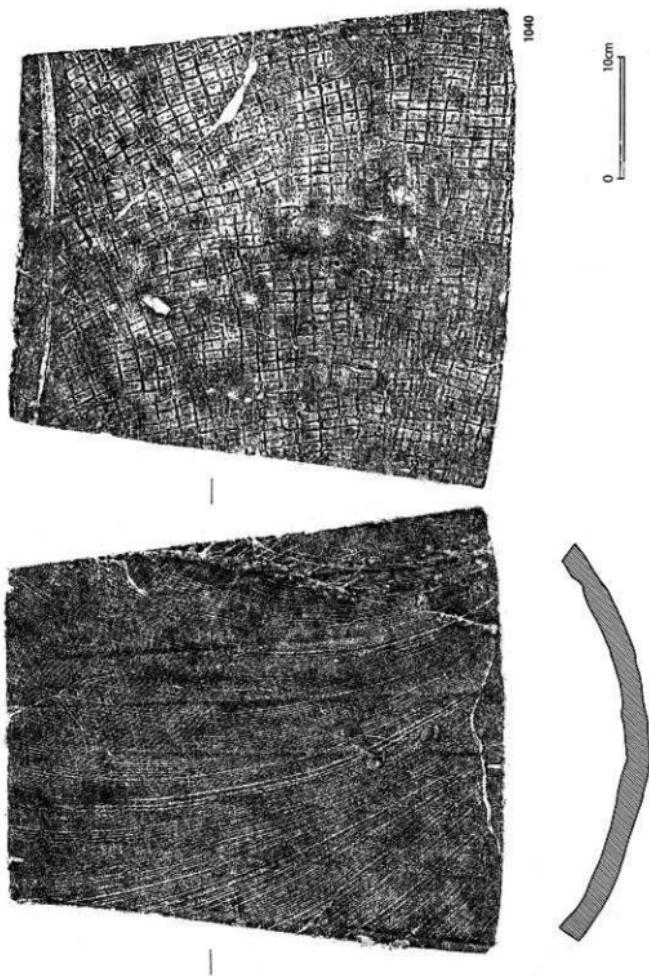
第124図 瓦 ⑫(平瓦)



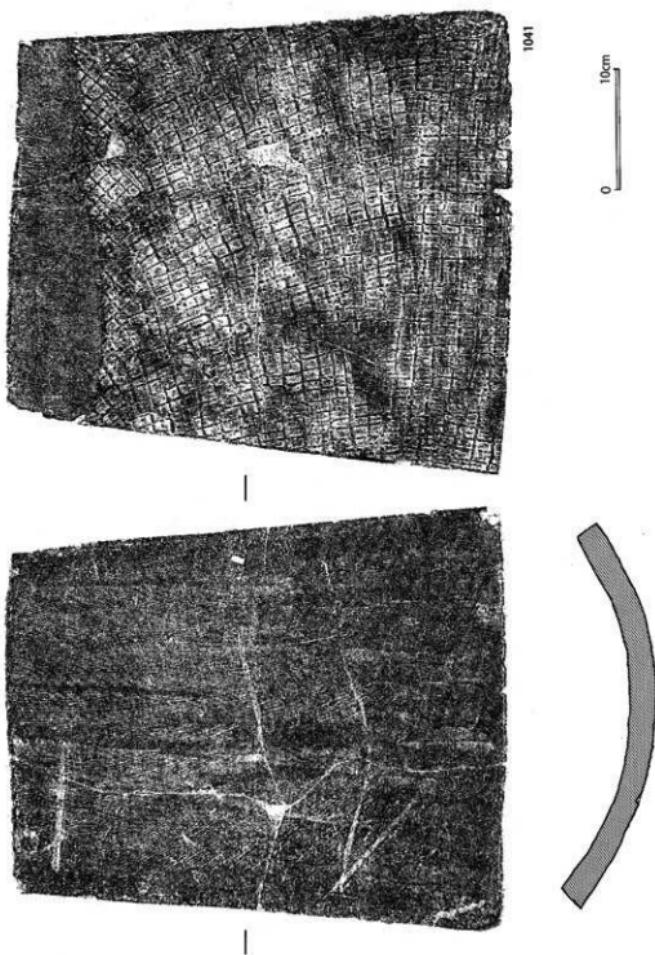
第125図 瓦⑬(平瓦)



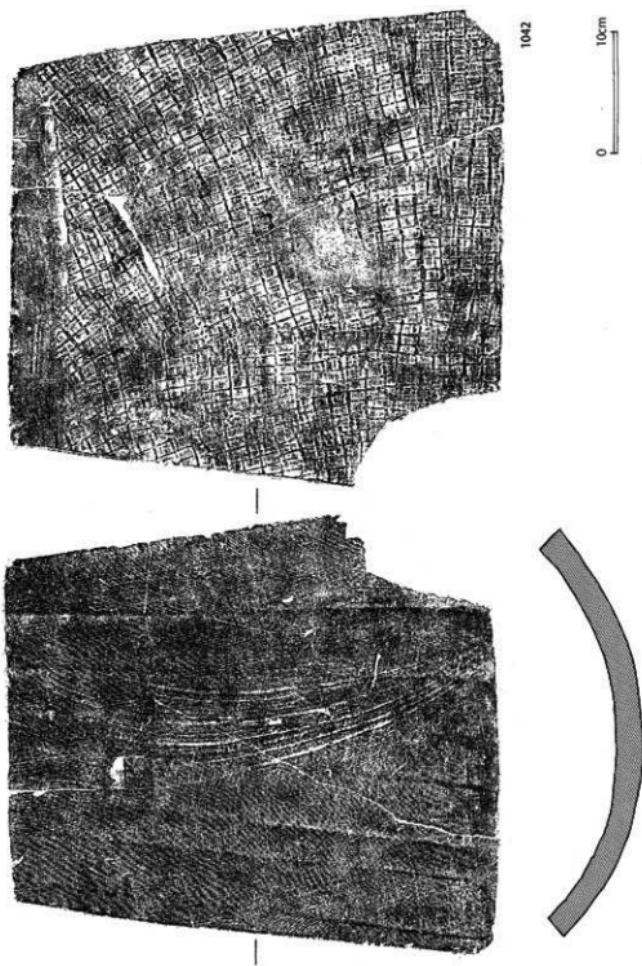
第126図 瓦④(平瓦)



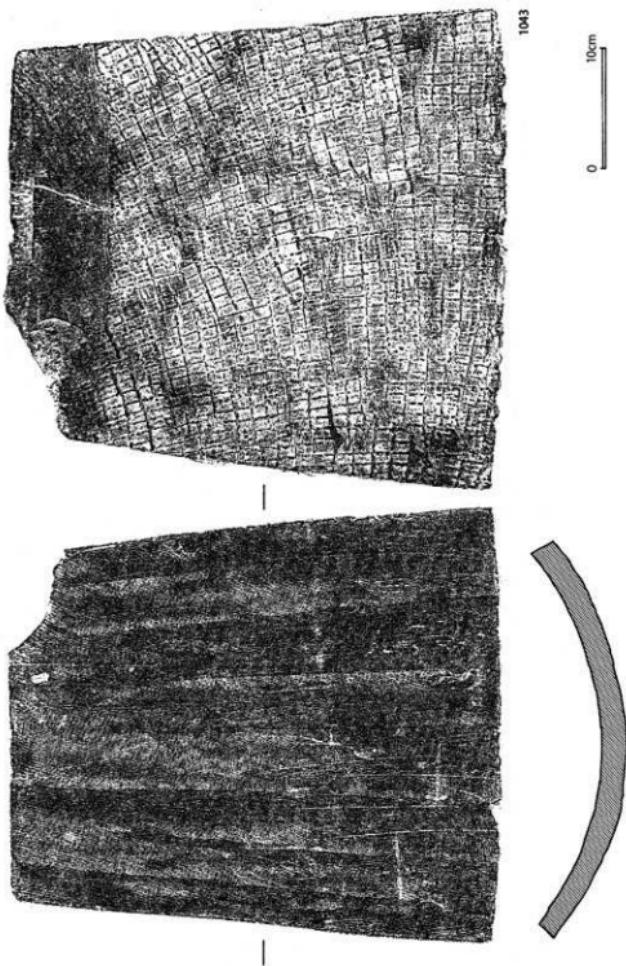
第127圖 瓦 ⑯ (平瓦)



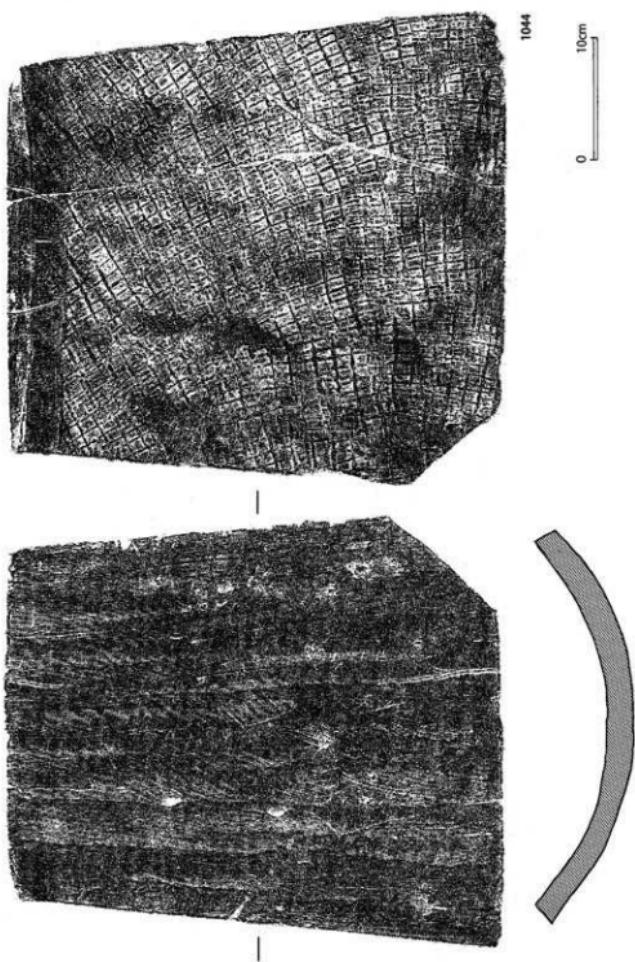
第128図 瓦⑯(平瓦)



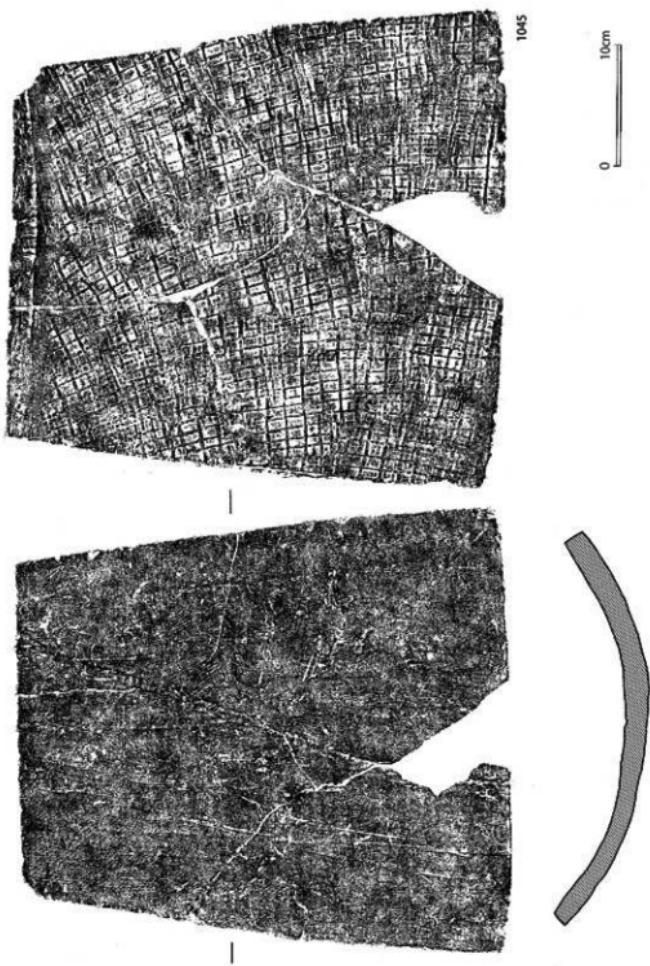
第129図 瓦⑰(平瓦)



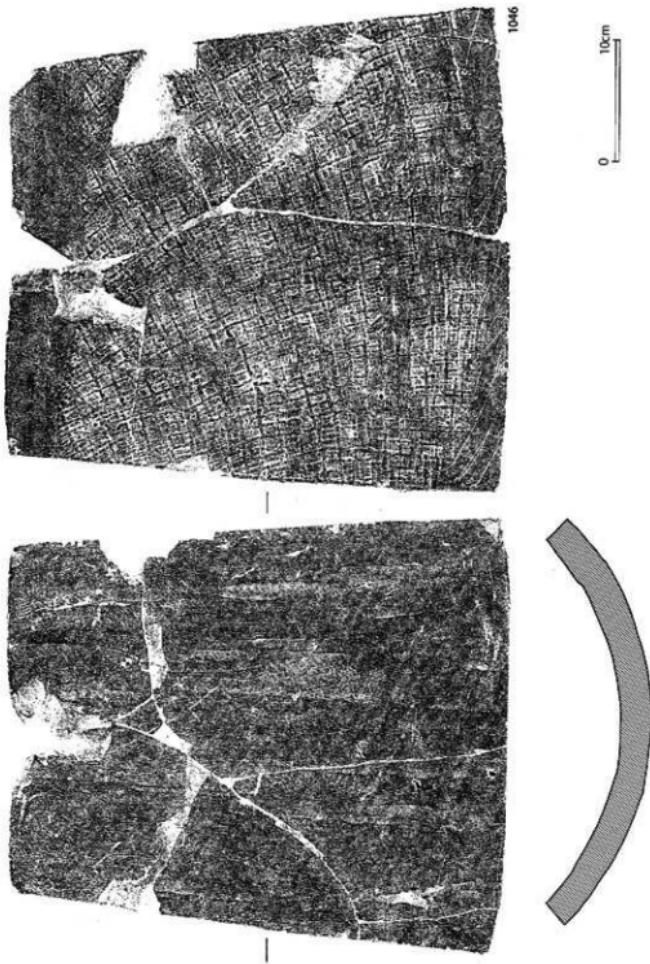
第130図 瓦³⁸(平瓦)



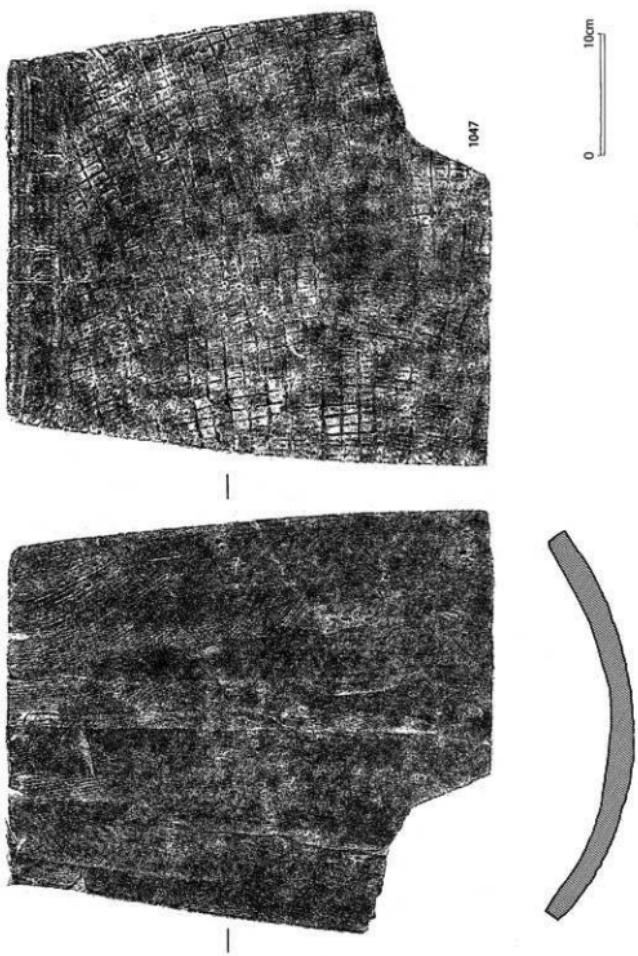
第131図 瓦⑯(平瓦)



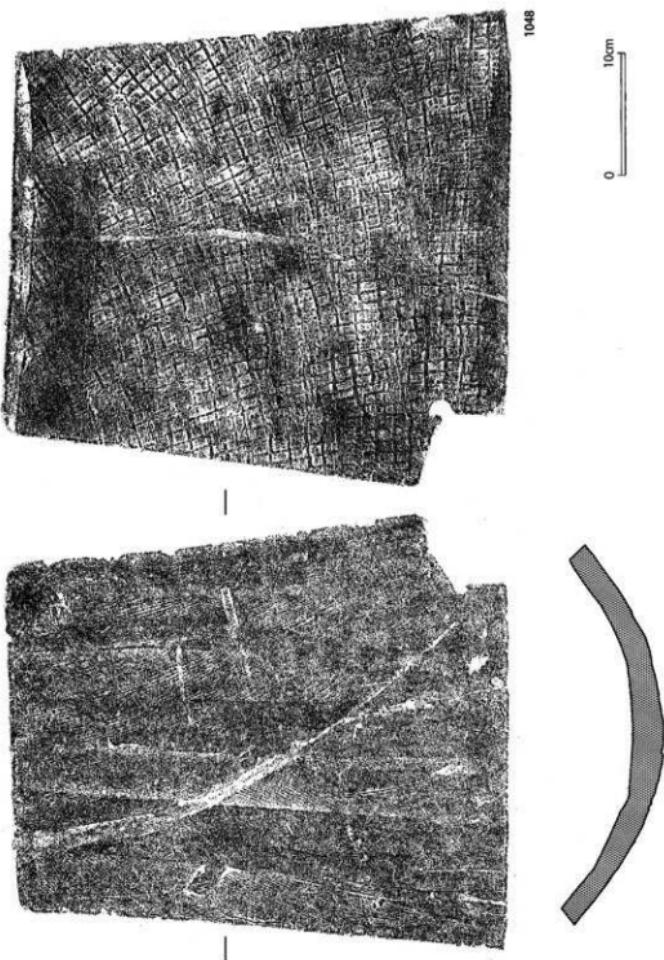
第132図 瓦④(平瓦)



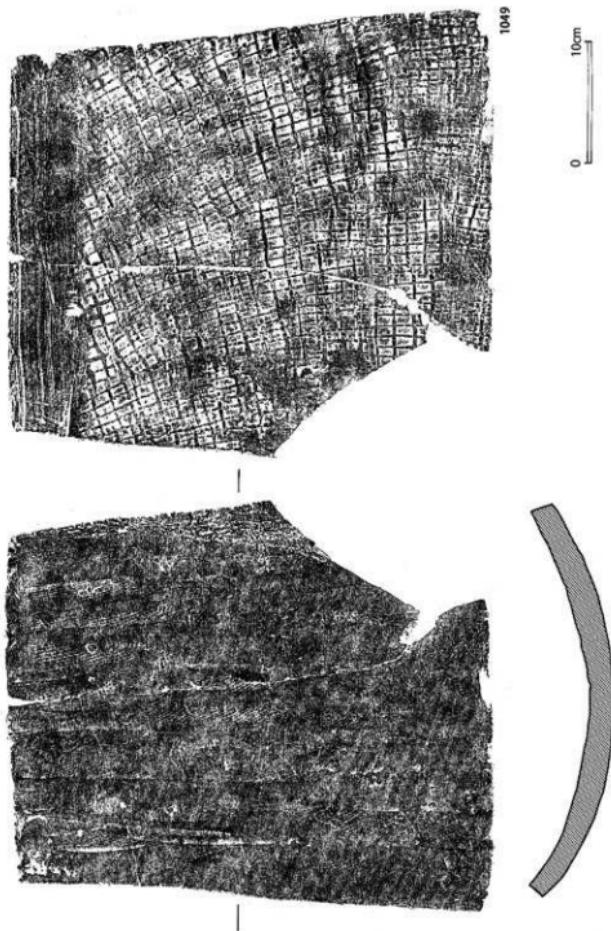
第133図 瓦④(平瓦)



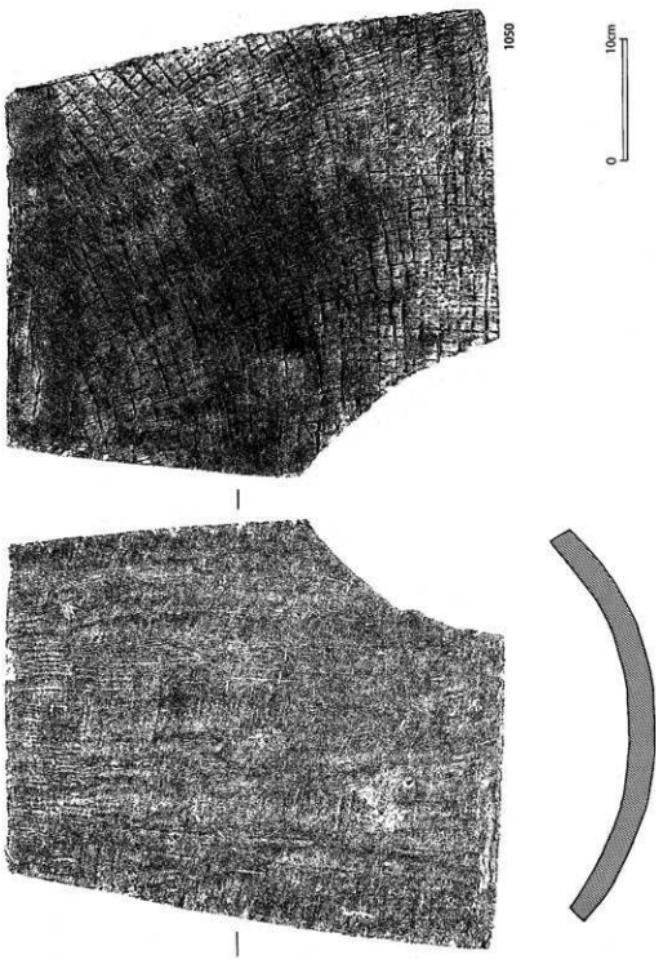
第134図 瓦④(平瓦)



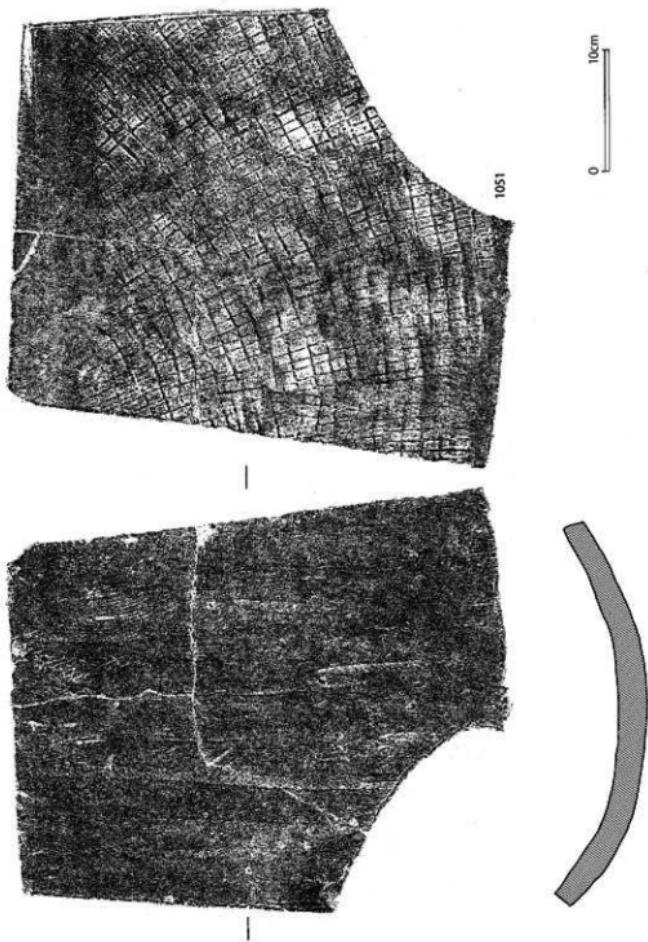
第135図 瓦④(平瓦)



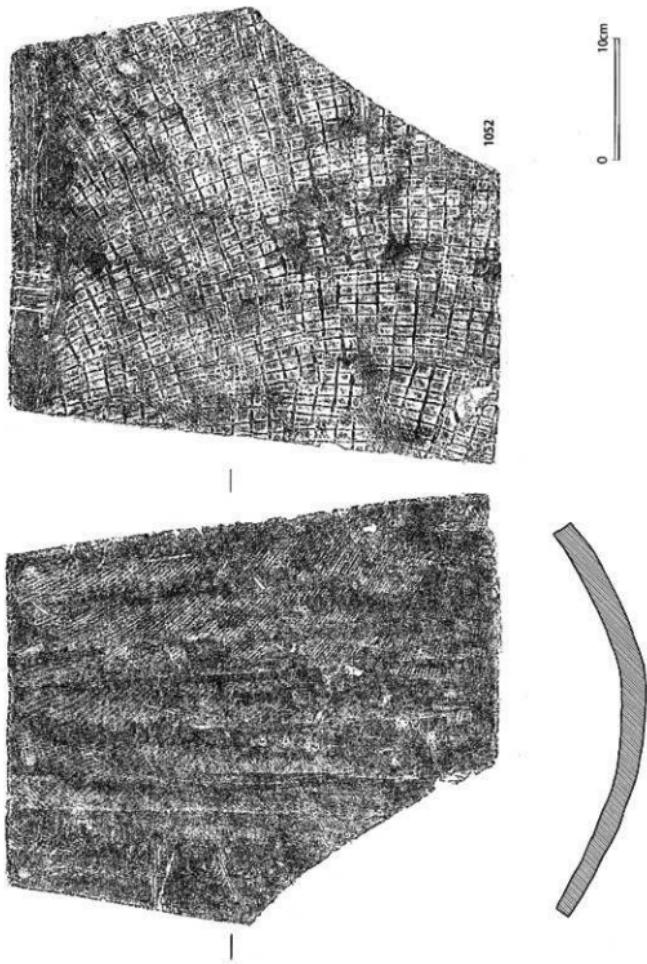
第136図 瓦④(平瓦)



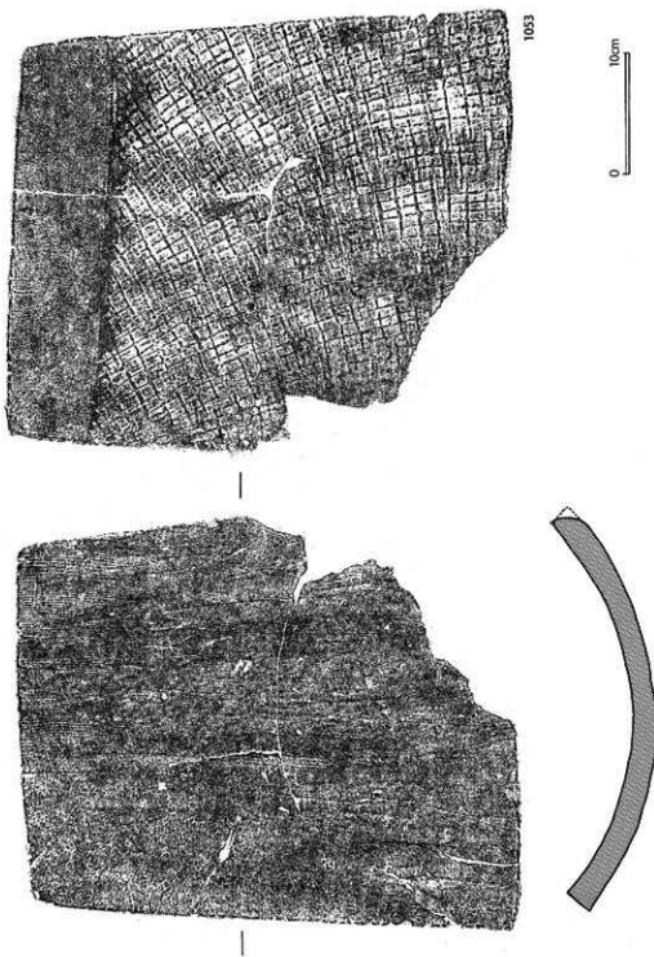
第137図 瓦④(平瓦)



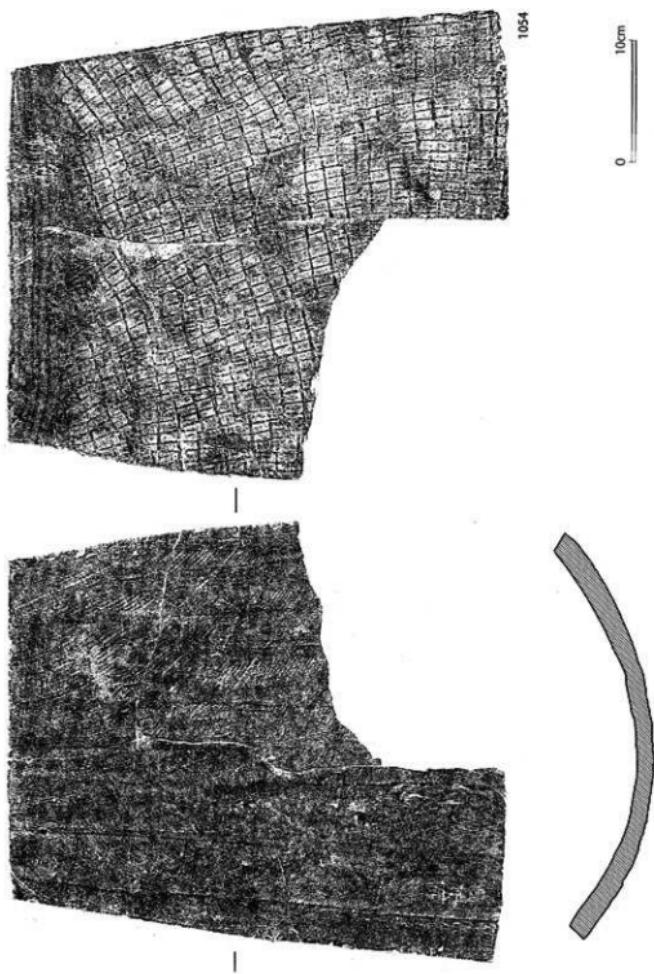
第138図 瓦④(平瓦)



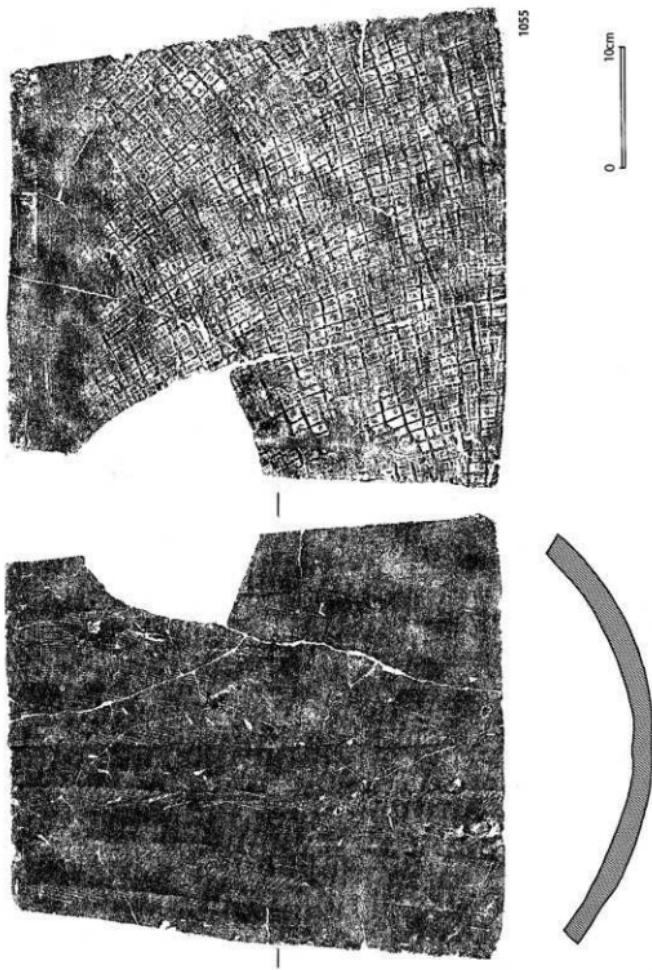
第139図 瓦④(平瓦)



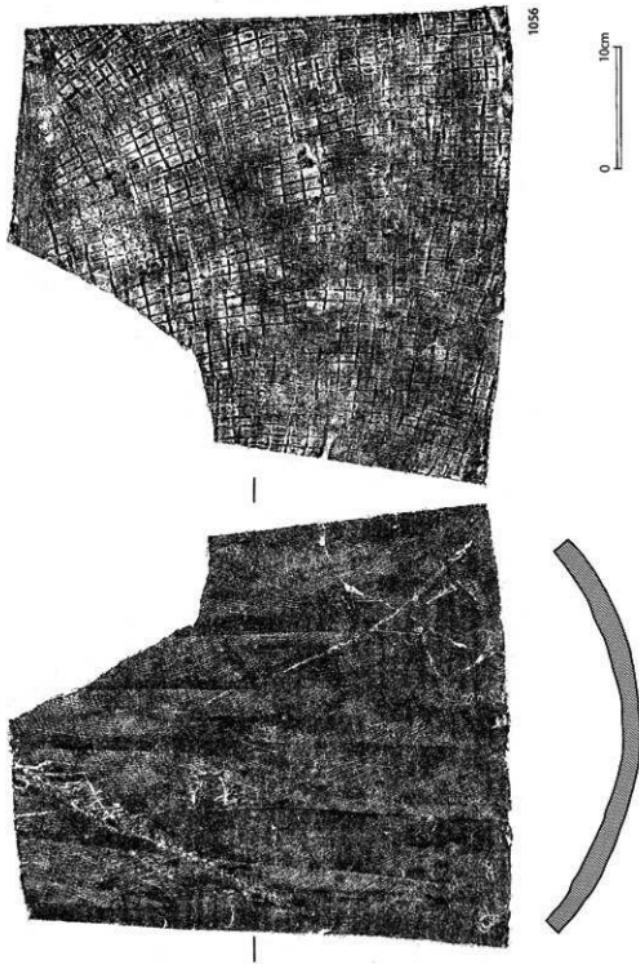
第140図 瓦④(平瓦)



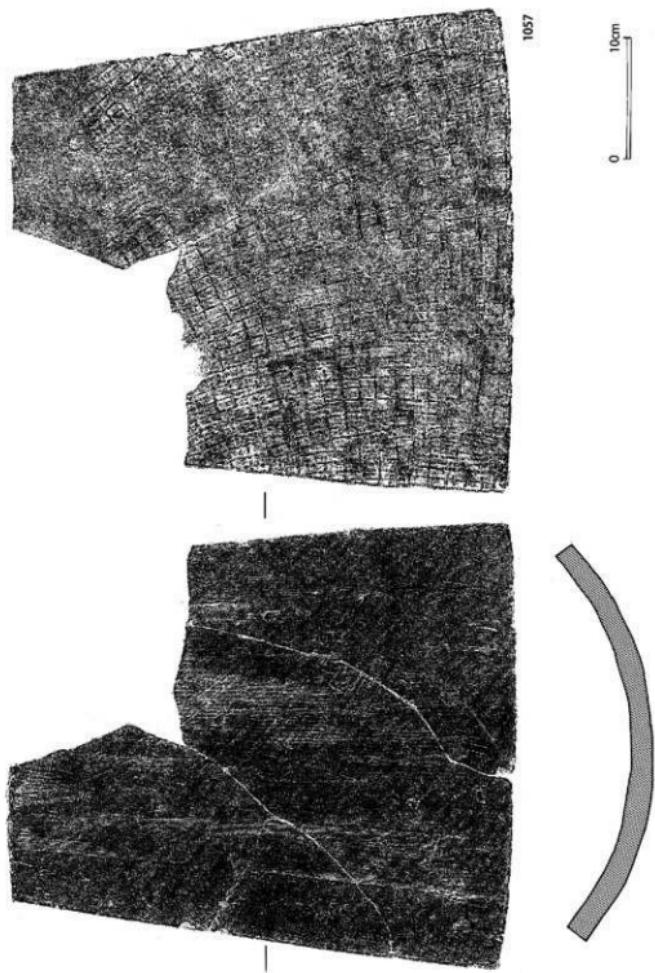
第141図 瓦④9(平瓦)



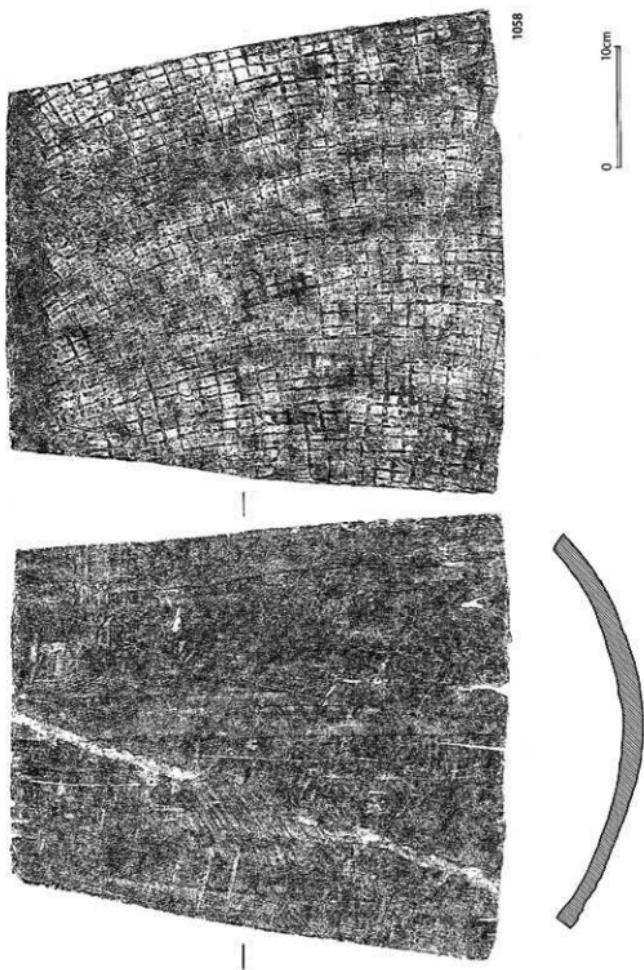
第142図 瓦⑤(平瓦)



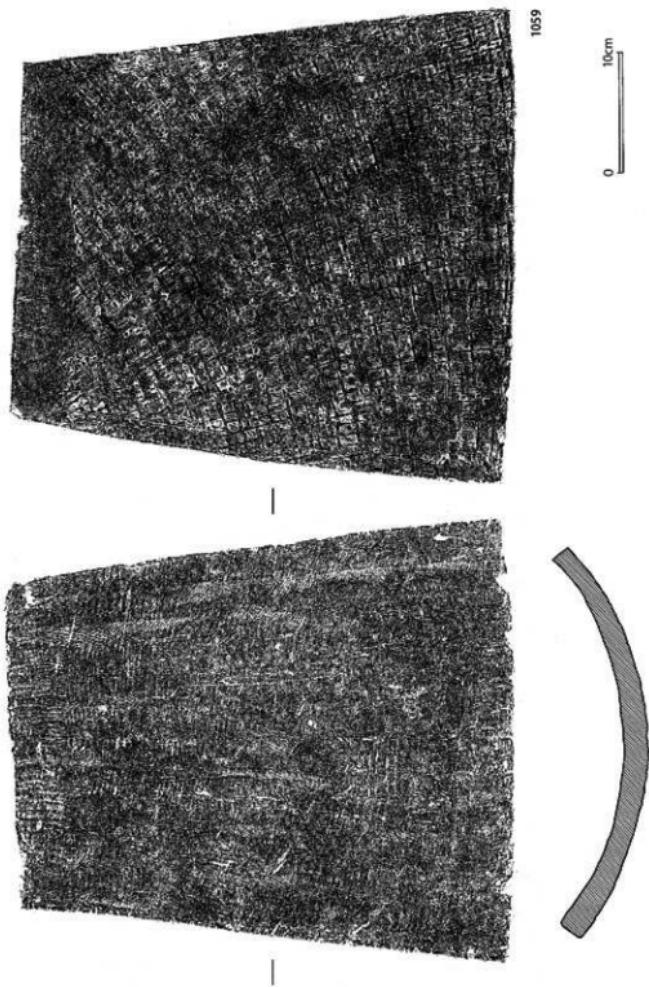
第143図 瓦⑤(平瓦)



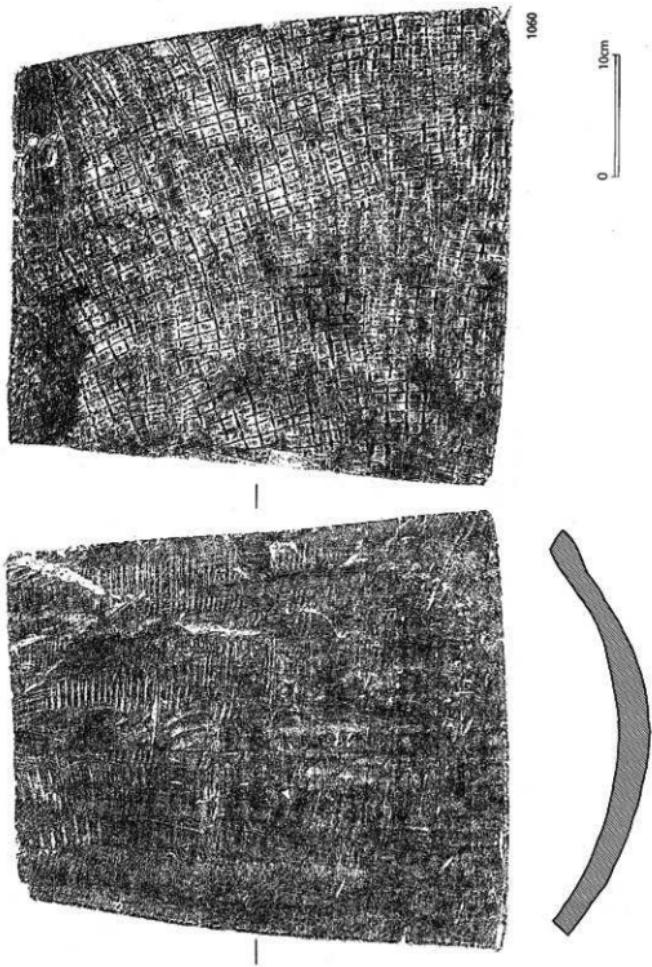
第144図 瓦②(平瓦)



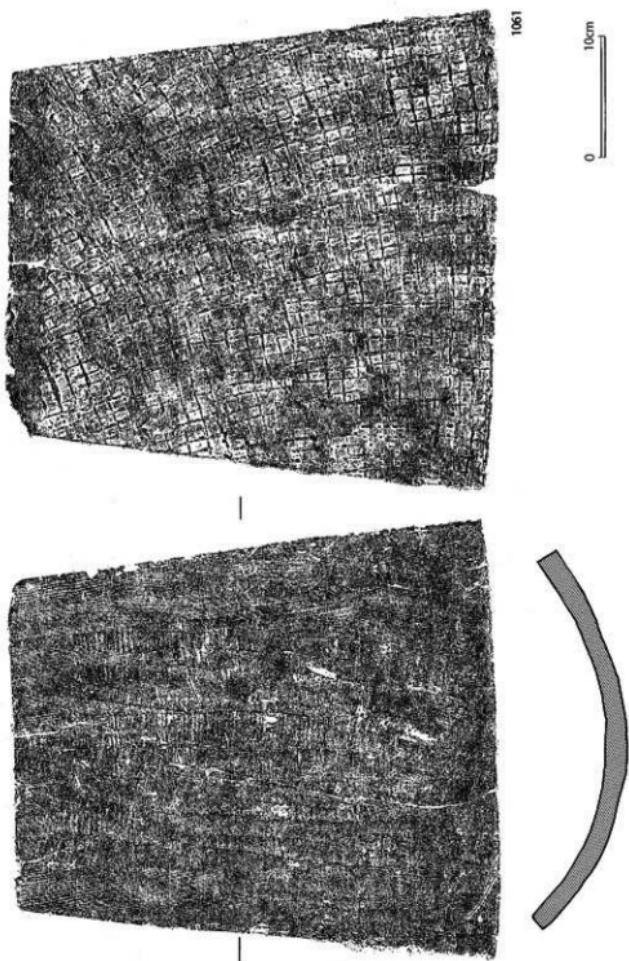
第145図 瓦⑤(平瓦)



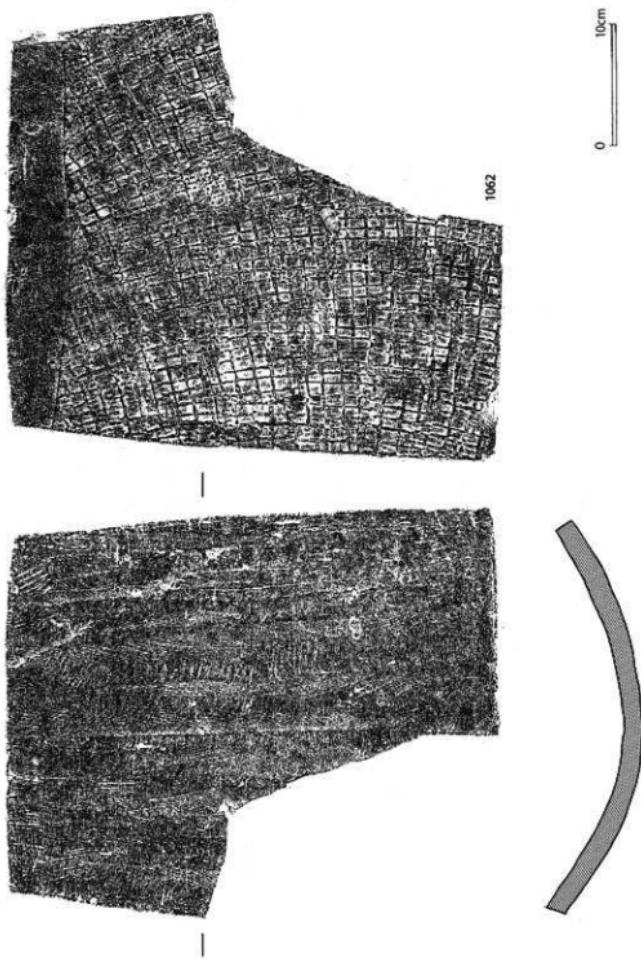
第146図 瓦 54(平瓦)



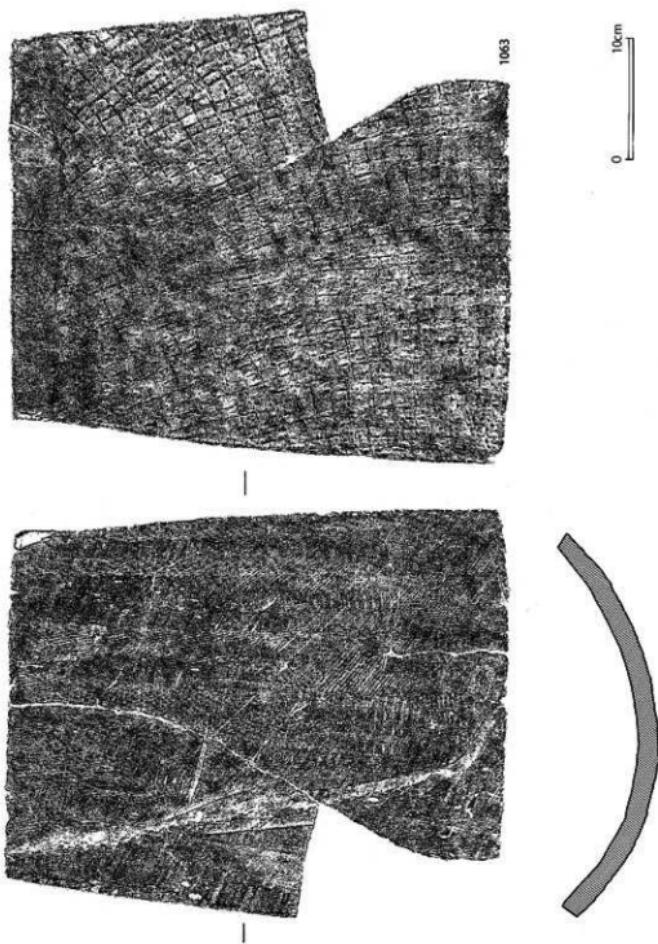
第147図 瓦⑤(平瓦)



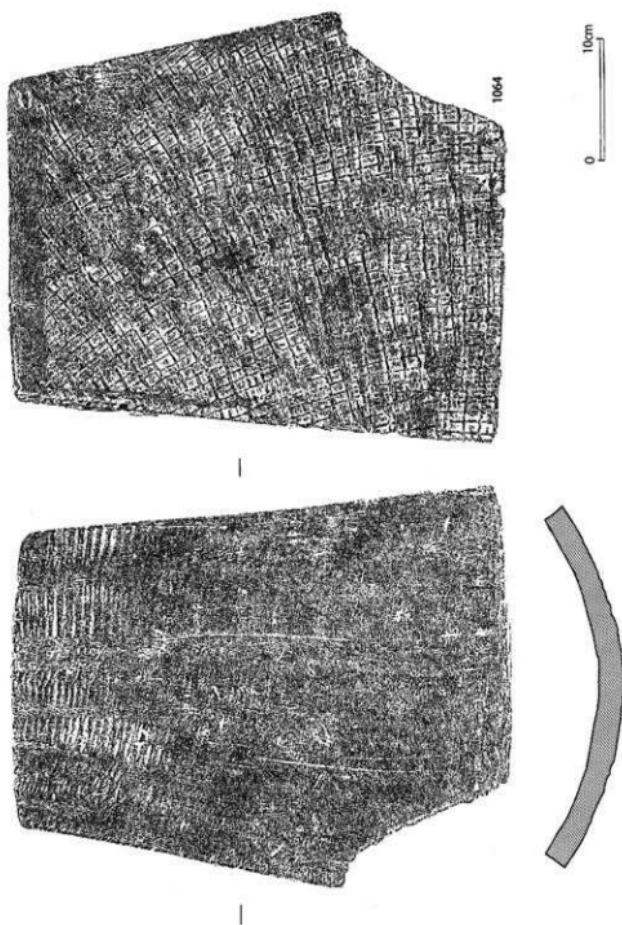
第148図 瓦⑤(平瓦)



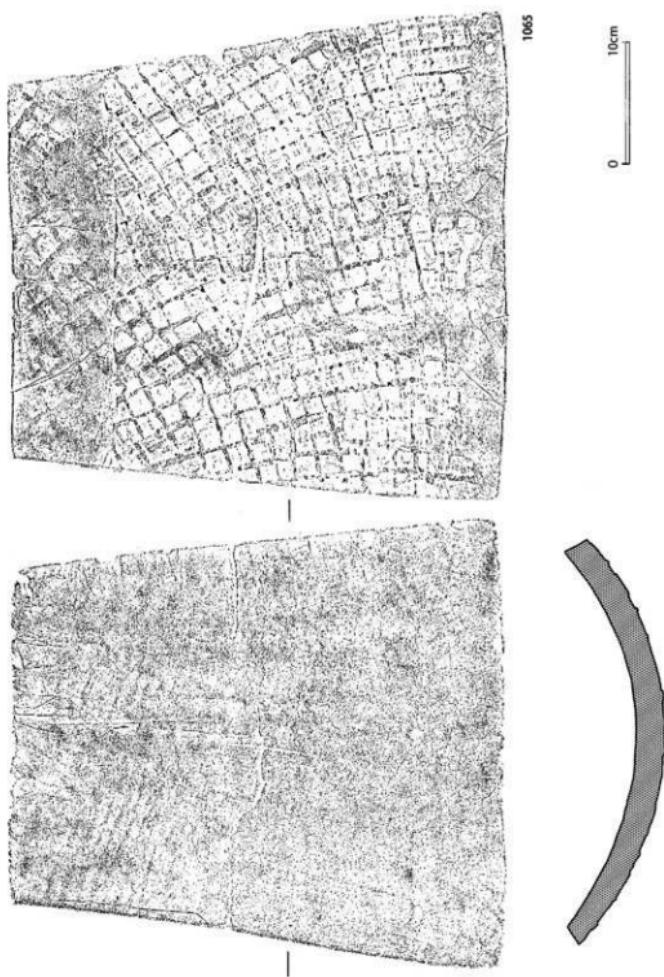
第149図 瓦⑤(平瓦)



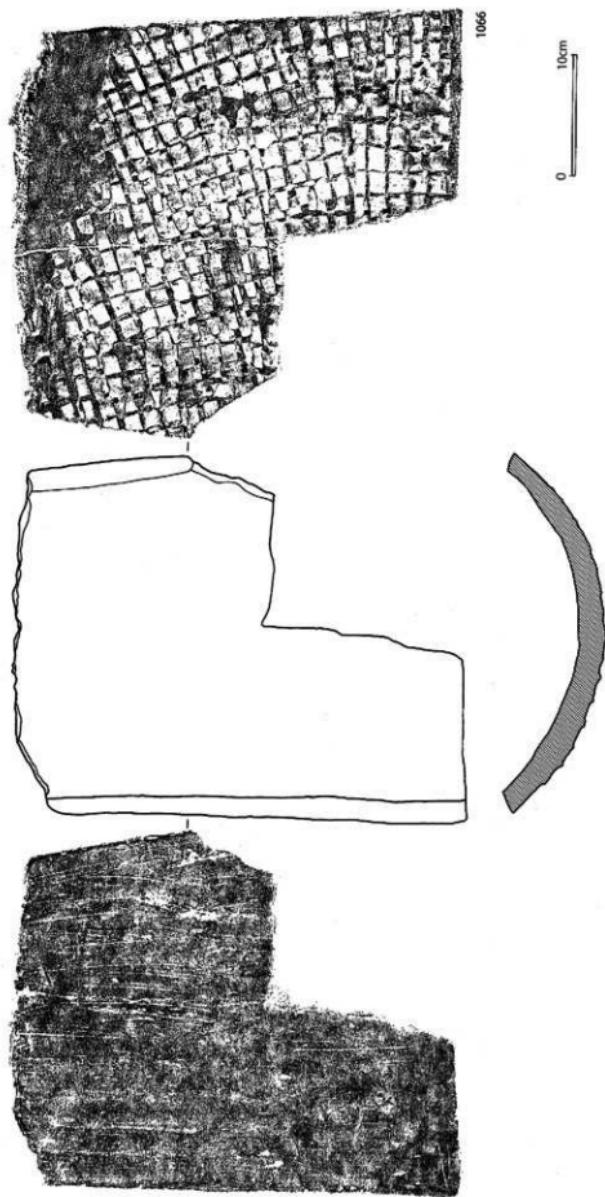
第150図 瓦⑤8(平瓦)



第151図 瓦⑤9(平瓦)



第152図 瓦⑥〇(平瓦)

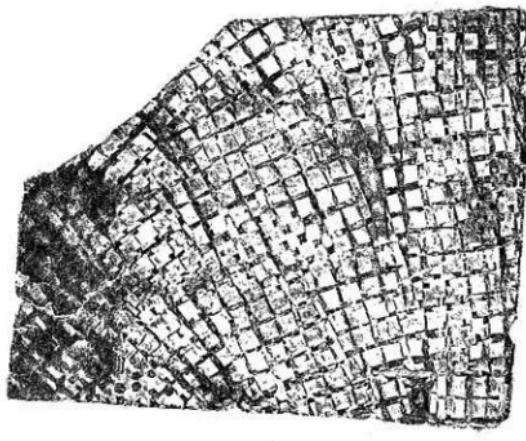


第153図 瓦⑥(隅切瓦)

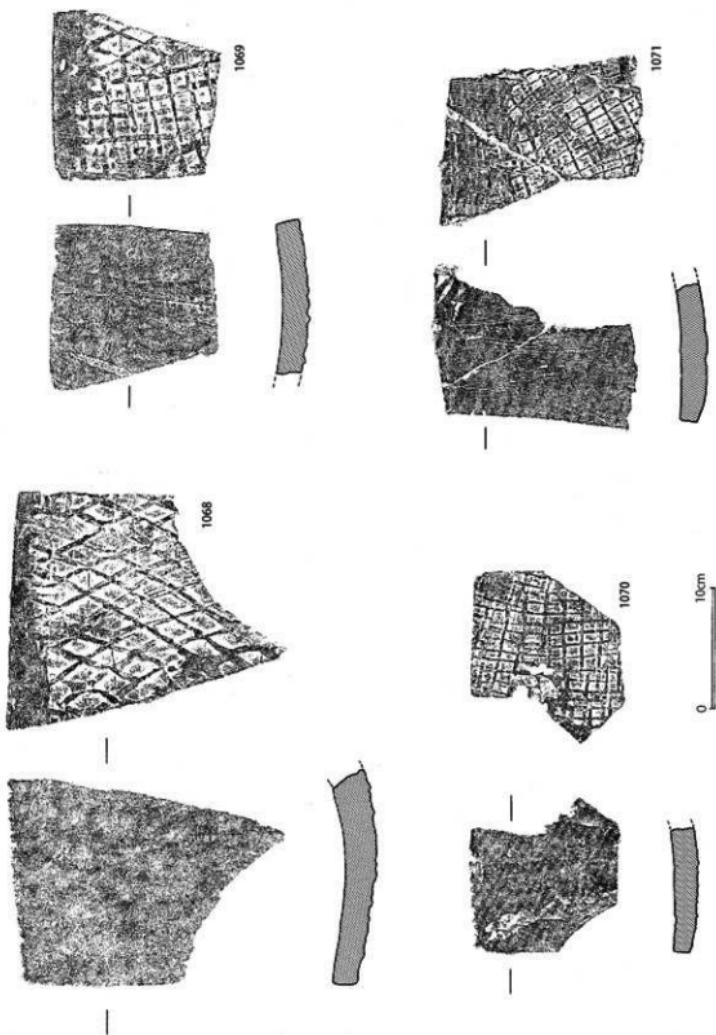
0 ————— 10cm

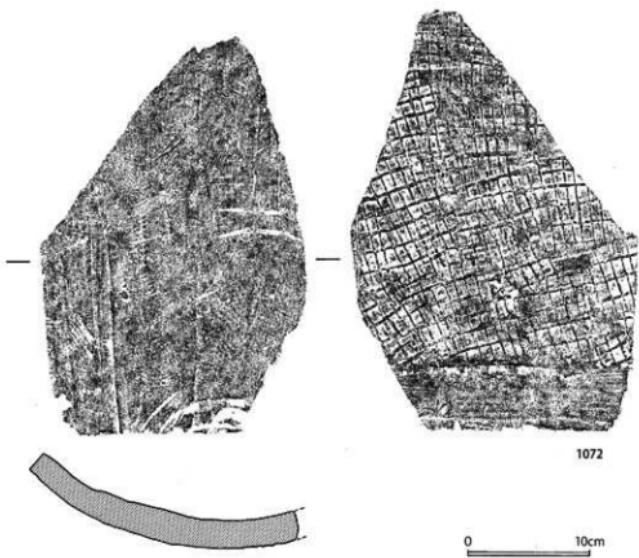


1067

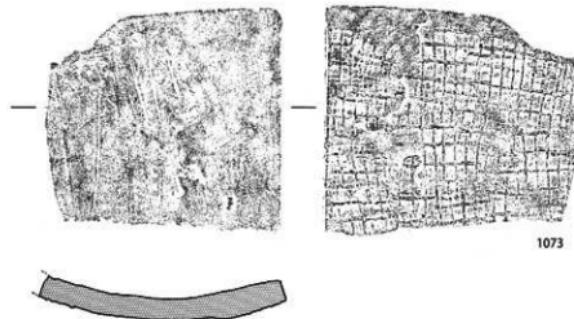


第154図 瓦②(平瓦)





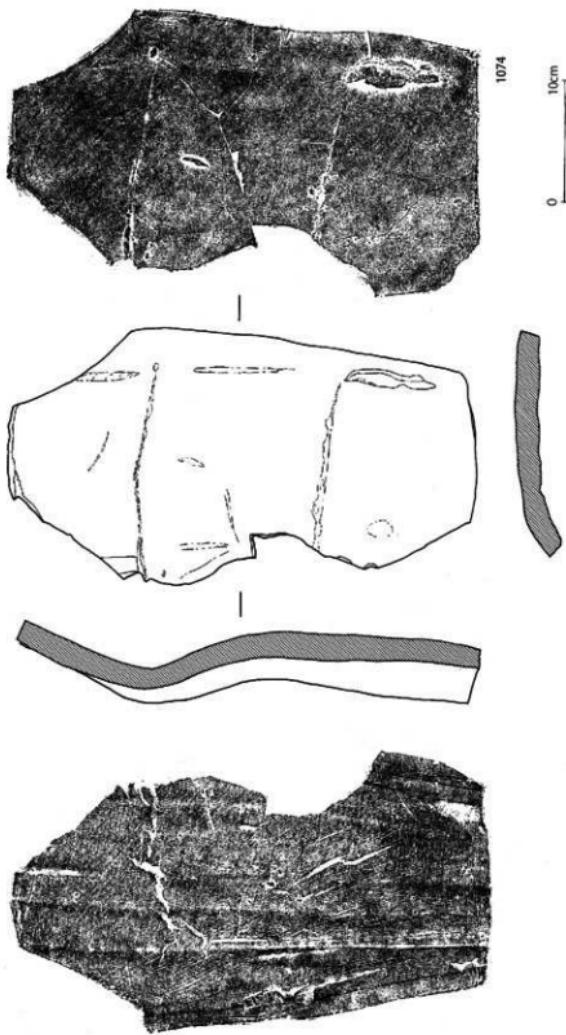
0 10cm



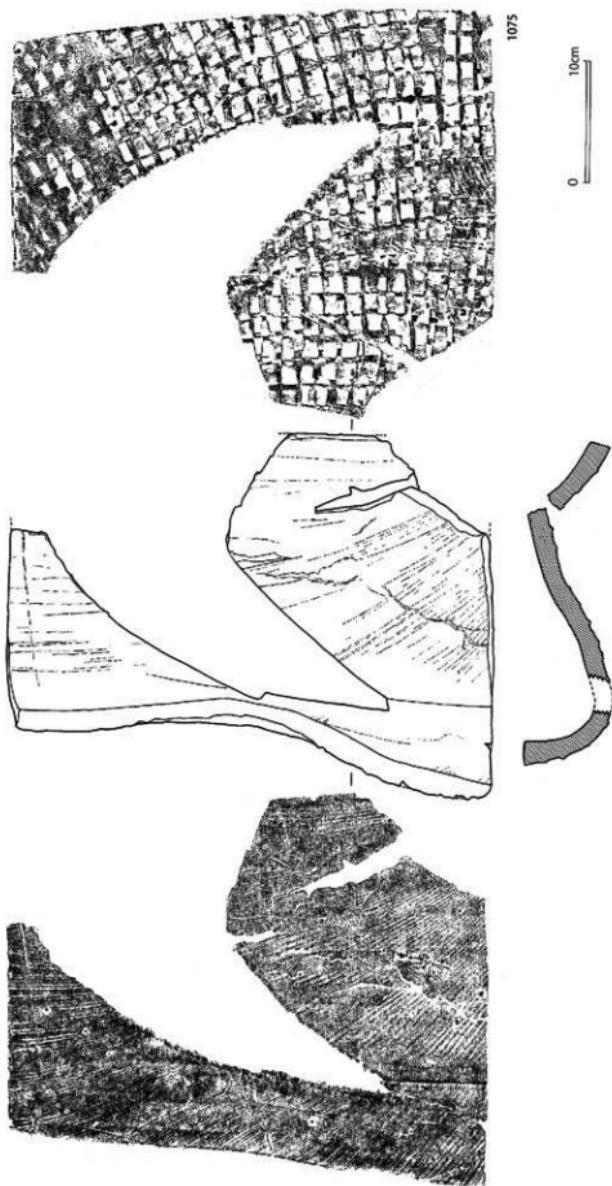
1073

第155図 瓦⑥(平瓦)

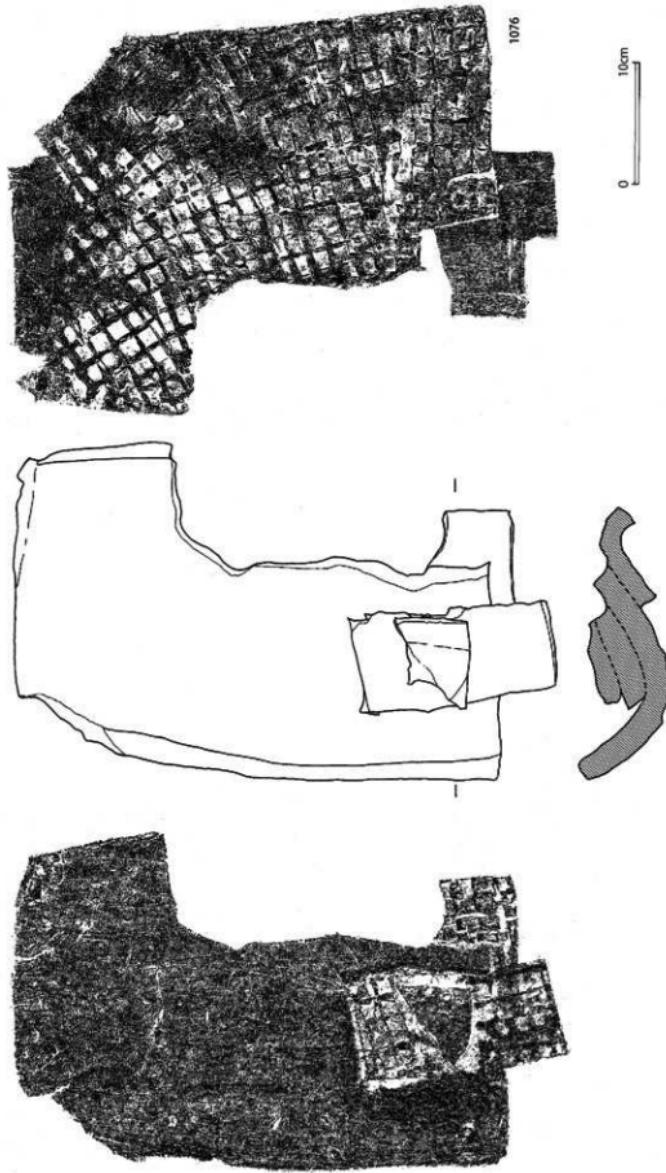
第156図 瓦⑥4(丸瓦)



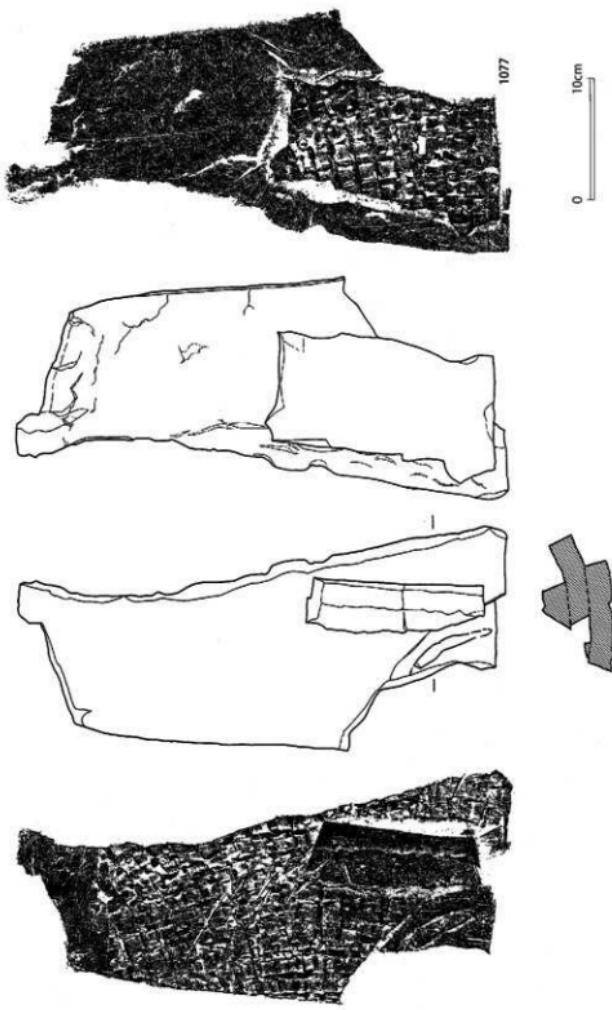
第157図 瓦⑤(平瓦)



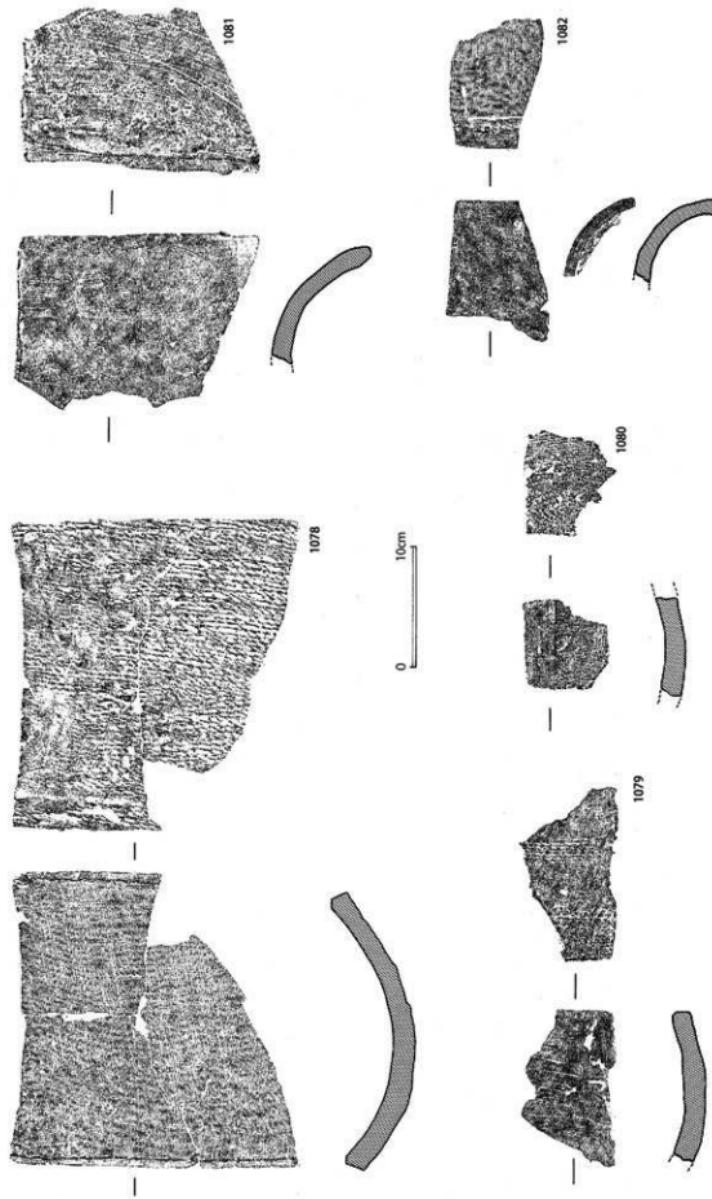
第158図 瓦⑥(平瓦)



第159図 瓦⑥7(平瓦)



第160図 瓦⑥(平瓦・丸瓦)



【金属製品・木製品】

〔銭貨〕

今回の調査では皇朝十二銭のうち 5 種類の銭貨が合計 58 点出土した。その内訳は和同開珎が 22 点、萬年通寶が 6 点、神功開寶が 27 点、隆平永寶が 1 点、承和昌寶が 2 点であった。

A2 区では和同開珎が 18 点まとまって出土し、束ねられていたような状態で 2 つのまとまりが 10 数 cm の間隔で並んでいた。2001 ~ 2007 は 1 つのまとまりで、2008 ~ 2013 はもう一方のまとまりとして確認でき、癒着するものもあった。また、2014 ~ 2018 はこれらの 2 群から遊離した状況で検出されたものである。

2019 ~ 2046 は A1 区木 11 西端付近でまとまって出土したものである。和同開珎が 1 点 (2019)、萬年通寶が 4 点 (2020 ~ 2023)、神功開寶が 23 点 (2024 ~ 2046) 出土し、癒着するものではなく、個々ばらばらの状態で検出された。また、2047 と 2048 は萬年通寶と神功開寶で銭種が異なるが、A2 区南側側溝東端でほぼ同じ場所で検出されたものである。

この他、2049 ~ 2058 はそれぞれ単独に出土したものであるが、今回 2 点だけ検出された承和昌寶 (2057・2058) については E 区中央の礫集積部からの出土であり、同じ銭種で近距離での出土であることから、この 2 点は何らかの要因で同時に埋没した可能性も考えられる。

銭貨の計測値等は遺物観察表に示したが、ここで出土した和同開珎、萬年通寶、神功開寶にはそれぞれで字体の異なるものが認められ、和同開珎で 4 種類、萬年通寶で 2 種類、神功開寶で 5 種類、型式の異なるものがあった。

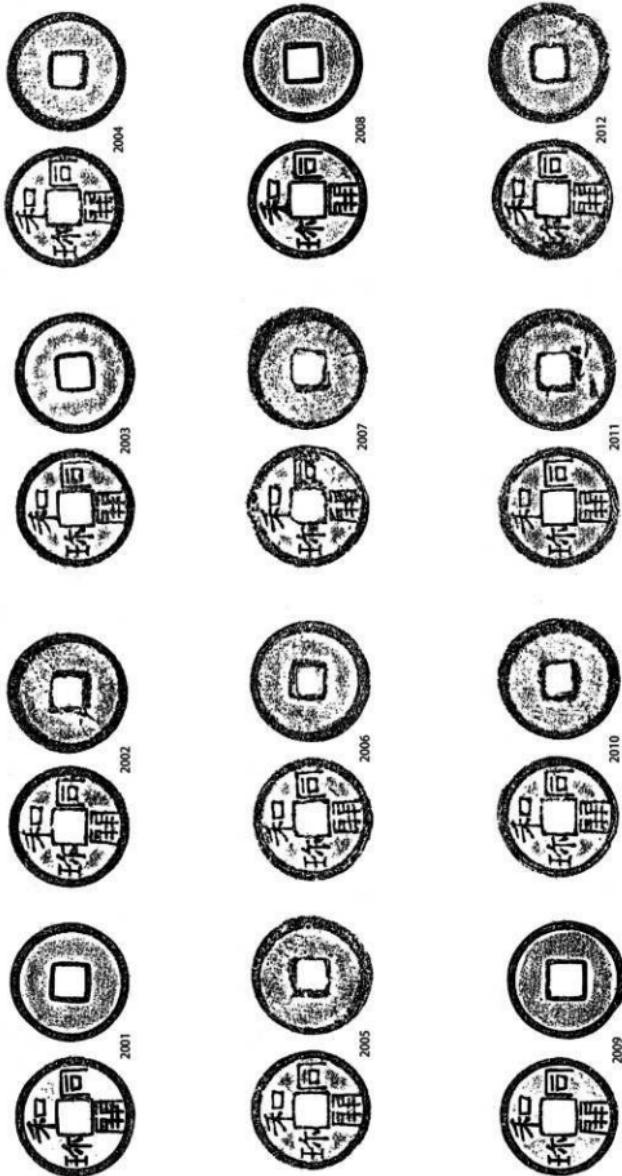
〔鉄柄付銅杓〕

2059 は鉄柄付銅杓である。銭貨がまとまって出土した A1 区木 11 西端付近で検出されたが、当初銅杓の部分だけが確認され、その後すぐ横で分断していた鉄柄部分が検出された。

銅杓部分は注口をもち、径約 20cm、高さ約 10cm を測り、口縁端部がやや肥厚し約 4 ~ 5mm の厚さを測るが、その他はたいへん薄いものとなっており、現状で一部亀裂が入る。杓内面には円弧状の浅い凹凸が一部認められる。成形の際の鍛造の痕跡であろうか。鉄柄はその端部が下方へ「く」字状に屈曲する。3 本に分断してしまっているが、復元すると屈曲する部分までの長さが約 48cm、下方に垂れる部分は約 8cm の長さとなる。銅杓部と柄は杓内面の観察で 4 個の鉢で留められていることがわかるが、外面は錆で覆われており、どのような状態で留められているかは確認できない。また、銅杓内外面には煤が付着する。

このような鉄柄付銅杓については、山口県下関市要津遺跡発掘調査報告書で詳しくまとめられており、鉄柄付の可能性のものも含めて同様の銅杓がこれまでに古墳や集落跡などから全国で 8 出土例あり、時期については 1 例 (12 ~ 13 世紀) を除き、7 世紀後半から 9 世紀のものとみられている。このことから、五反島遺跡の銅杓は 9 例目の出土となり、7 世紀後半から 9 世紀という時期も、今回の調査で多数を占めた須恵器や土師器の年代とも合うといえる。

第161図 錢貨拓本①

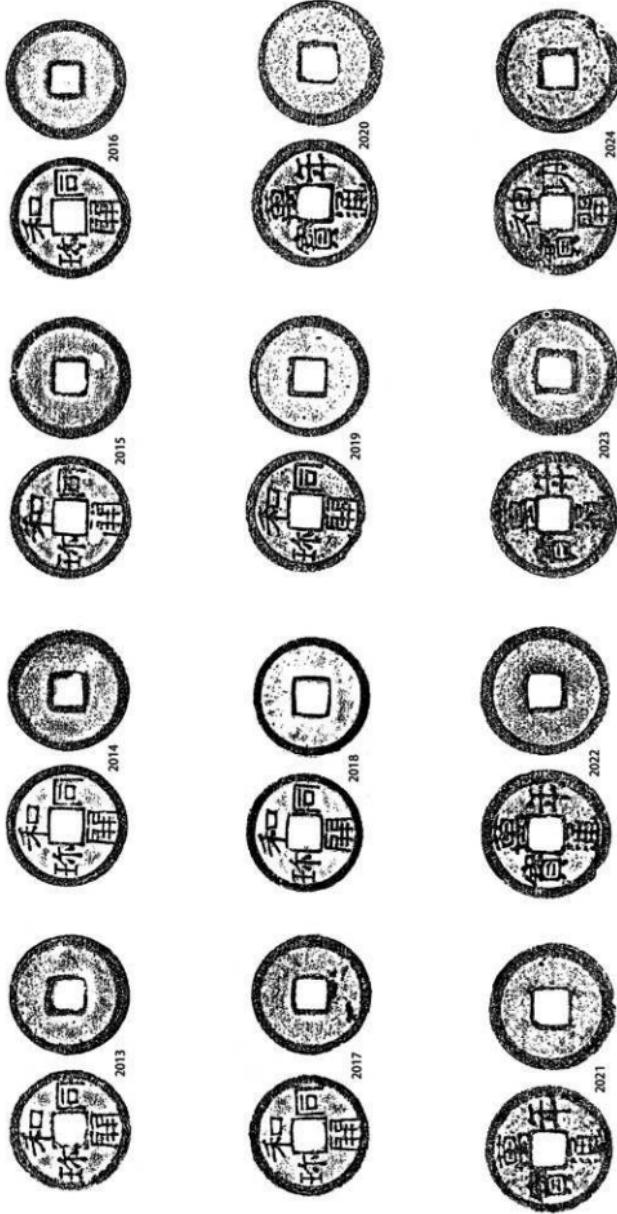


2001～2012：A2区

第162図 錢貨拓本(2)

5cm

2013～2018：A2区、2019～2024：A1区



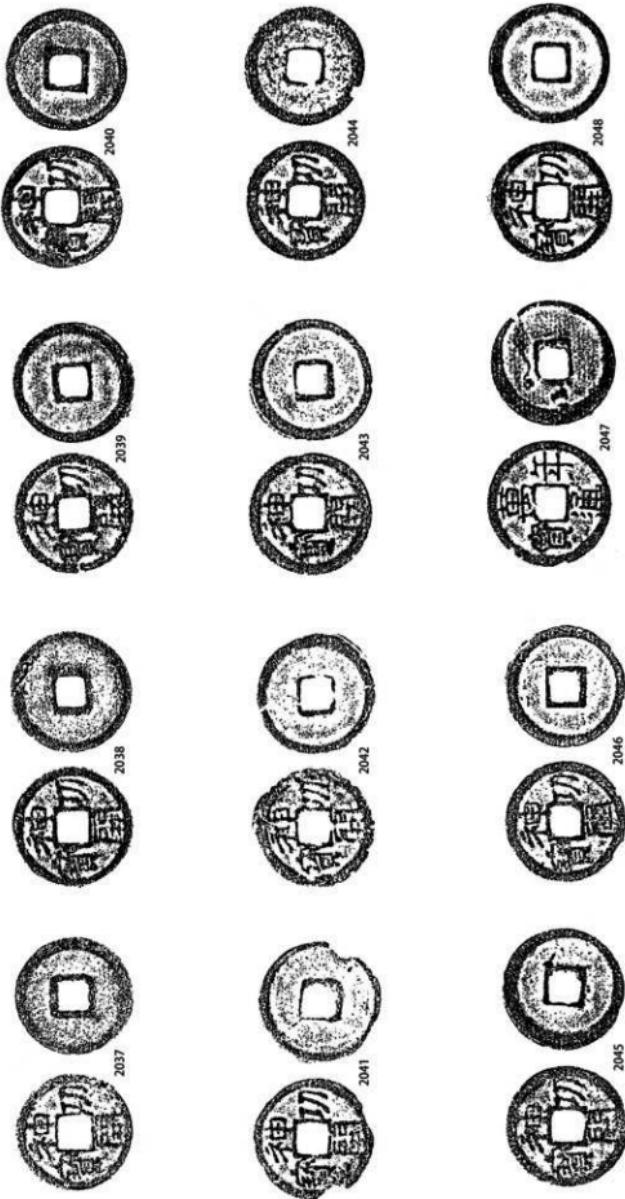
第163圖 續寶拓本(3)

5cm

2025~2036:A1區

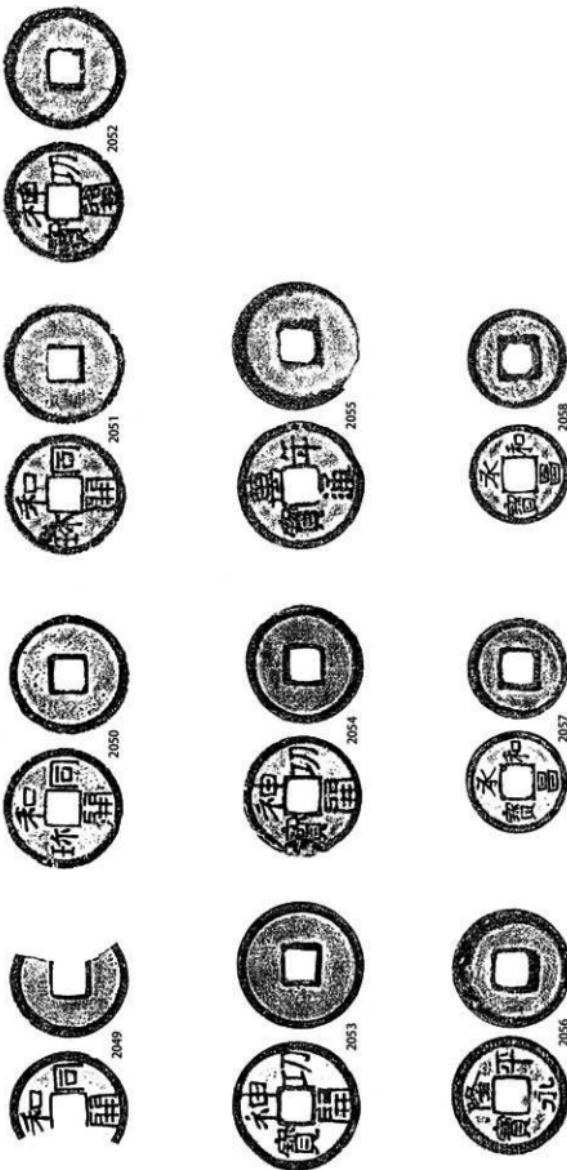


第 164 図 线貨拓本(4)

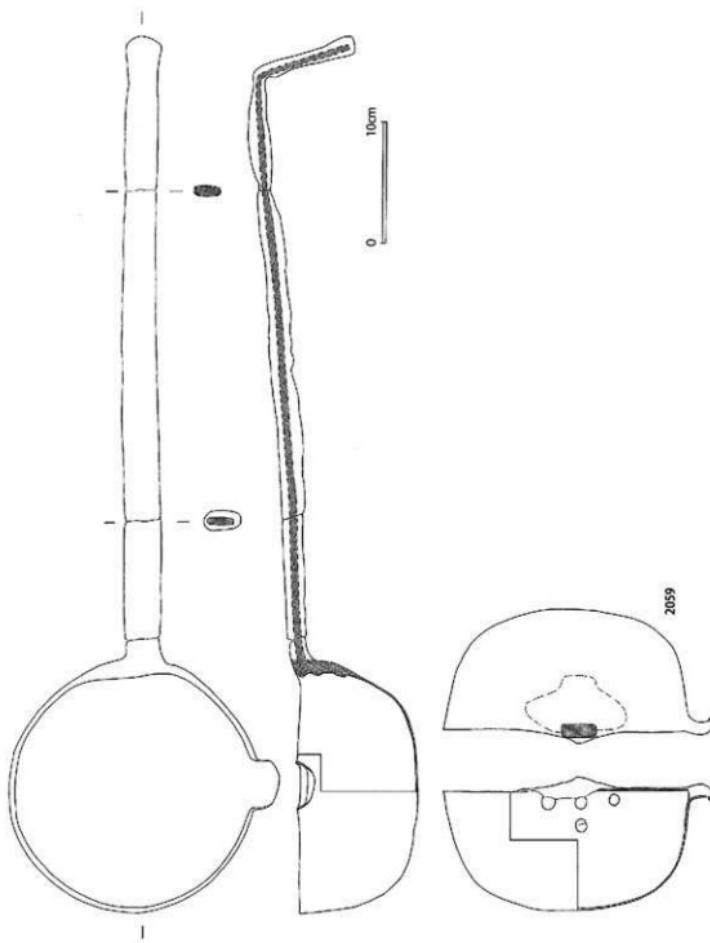


2037 ~ 2046 : A1 区、2047 ~ 2048 : A2 区

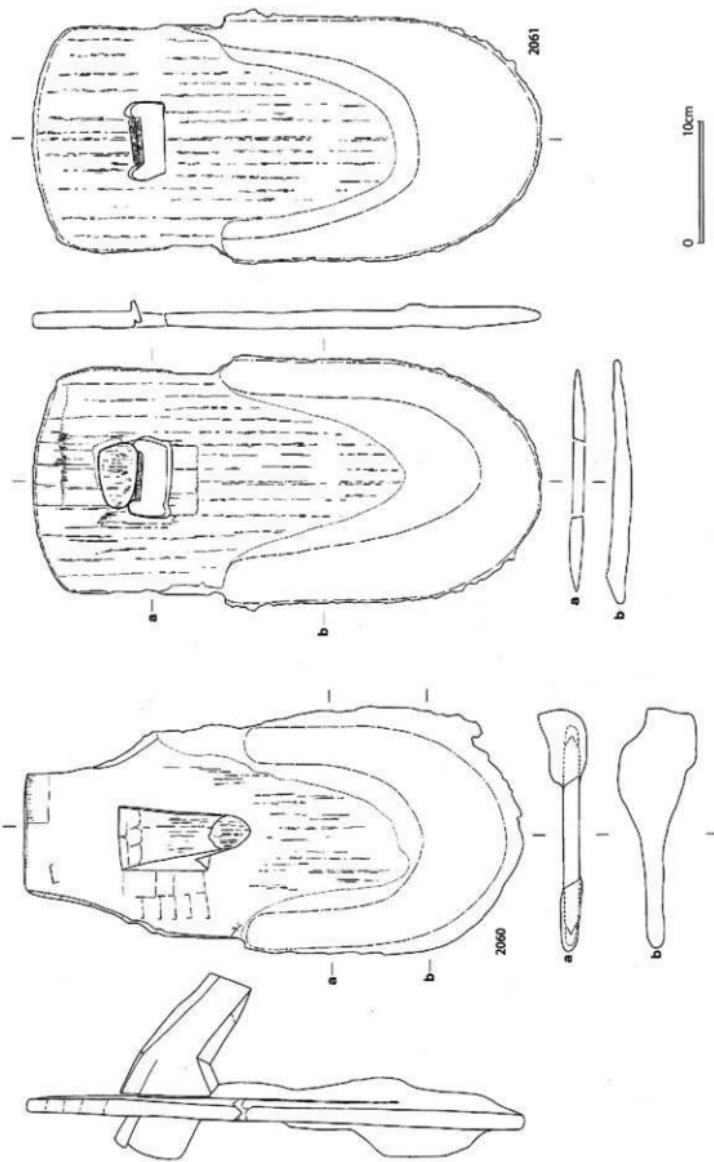
第 165 図 錢貨拓本 ⑤



第166図 鋼柄付鉤杓



第167図 鍬



[鍬・鋤]

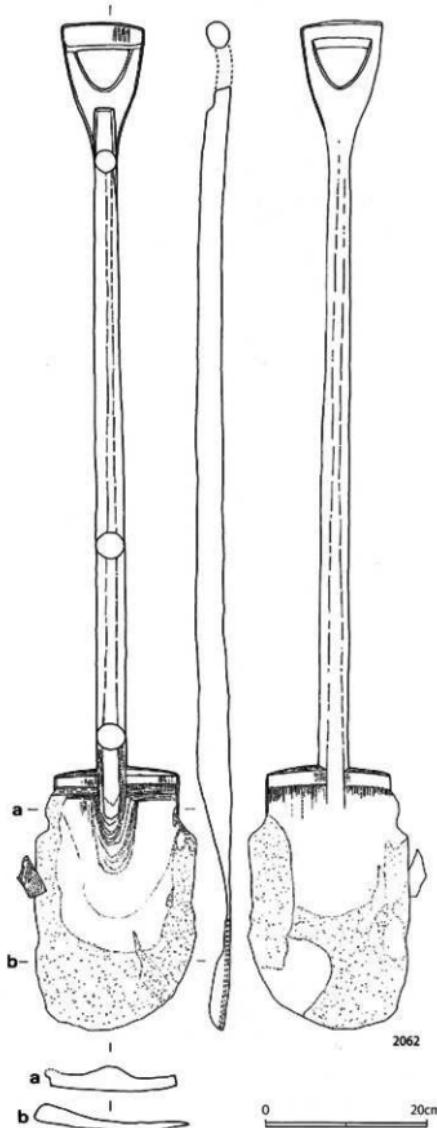
2060・2061は鉄製刃付きの鍬である。2060は風呂部に柄が装着された状態で残り、風呂部と柄が概ね60度の角度で装着されていたことがわかる。柄には風呂部上面と接するように柄穴よりやや大きめに接面が作られている。

2061は柄穴に板面が約70度の角度をもって1枚付く。これは風呂部から一体で作り出されているのか、癒着してしまったものなのかが現状では判断がつかないが、柄を装着するためのかませ板の役割があったのではないかと考えられる。また、風呂部上面の柄穴脇に若干厚めに作り出されている部分がある。これは、2060にみられるように、柄と風呂部との接面部に関わる細工であろうと考えられる。

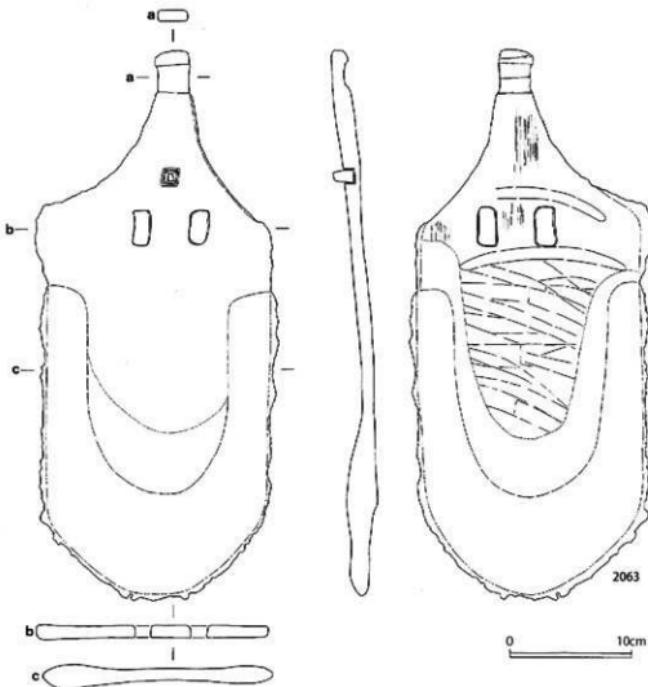
2062～2064は鉄製刃付きの鋤である。2062は風呂部から柄までが一本で作り出されているもので、ほぼ完存状態で出土した。柄の長さは約90.5cmを測り、把手部分は三角形状を呈して穴があけられている。

2064についても、柄は欠損しているが、風呂部と柄の残存状態から一本で作られたものと考えられる。

また、2063については、柄を風呂部に組み合わせるタイプのものである。風呂部に着柄穴が2か所あけられ、着柄軸には紐を固定しやすくするためと考えられる段がある。また、着柄穴の上部に貫通はしていない状態で四角形の彫り込みがあり、それに合わせ形で柱状の木が入り込んでいる。その柱状



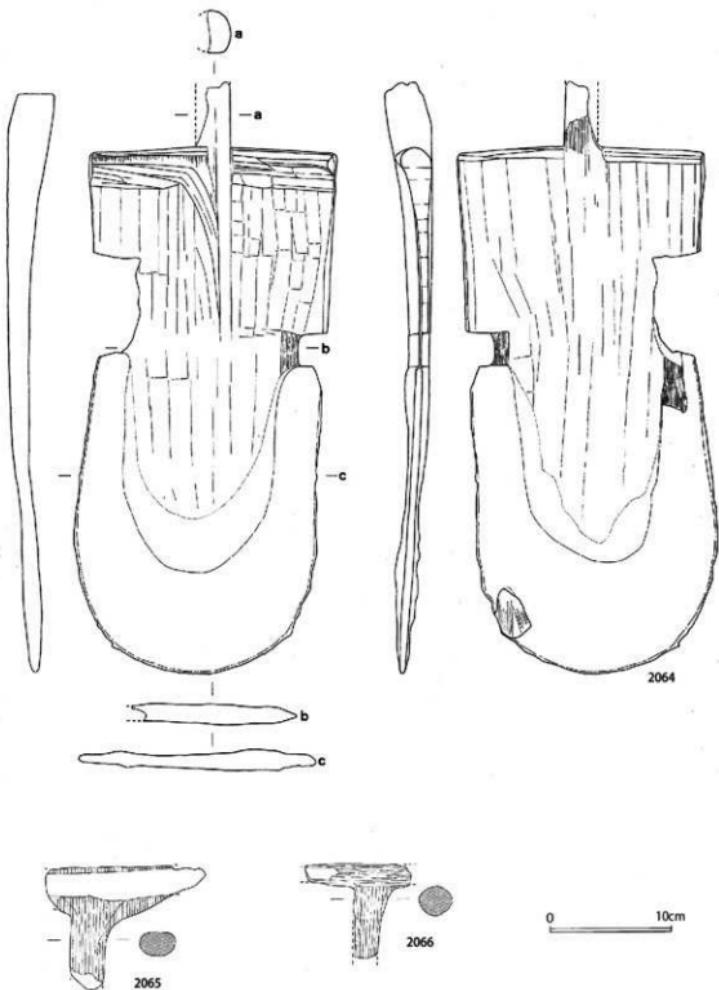
第168図 鋤①



第169図 鋤②

の木は風呂部から1cm程突出する形となるが、これについては、柄にほぞ状の加工を行い、そこにこの突出部を挿入して、柄と風呂部とをよりしっかりと固定するための細工だろうか。

2065・2066は木製柄と考えられる破片である。「T」字状の形状をしており、おそらく鋤の柄の把手部分であろうと考えられる。



第170図 鋤③

[鎌]

鉄鎌が多数出土し、特に A 区と E 区において集中した。鎌刃は直線刃と曲線刃のものがあるが、その中間的な形状のものもみられる。刃と柄の装着については、柄の上部に施された溝状の穴に刃が差し込まれ、刃の差し込み側の端部を折り曲げて固定されているが、釘で留められているものが多い。

2067 ~ 2076・2079 ~ 2081 の 13 点は A 区から出土したものである。2067 ~ 2073 は刃部と柄の装着状態がわかるものである。2068 は直線刃、2069 ~ 2072 は曲線刃を有し、2067 については、刃先端部が欠損しているが、その形状は直線刃と曲線刃の中間的といえる緩やかな曲線刃となる。柄の装着部分には釘が打たれているが、2069 については、柄上端部が割れてきたのを補修するためか小さな鎌が打ち込まれている。刃部と柄の装着部での取り付け角度をみると、2067 ~ 2071 で概ね 130 ~ 150 度の開きをもって装着されている。

2074 ~ 2076 は刃部の一部となる。2074 については刃に鋒で癒着するように部分的に柄の木質部が残り、残存部で釘留めが 2 か所認められる。

2079 ~ 2081 は柄のみの出土となるが、それぞれに釘が残る。2079・2081 については柄下端部が残る。

2077 は C1 区出土の刃部であるが、残存部の形状からは曲線刃であることがわかる。

2078・2082 は D1 区出土である。2078 は柄との装着部分であるが、残りは良くなく、残存部分で釘留めは認められない。2082 は柄の下端部である。

2083 ~ 2090・2092 の 9 点は E 区出土のものである。2083 ~ 2088 は刃と柄の装着状態がわかるものである。2083・2084 については柄がほぼ完存するもので、2083 は鋒のため明瞭でないが、刃部についてもほぼ完存しているとみられる。2084 については刃先は欠損している。柄の長さは 2083 で約 43cm、2084 で約 34cm を測り、両者の柄の下端部については、2079 と同様に側面からみて三角形状に整えられている。

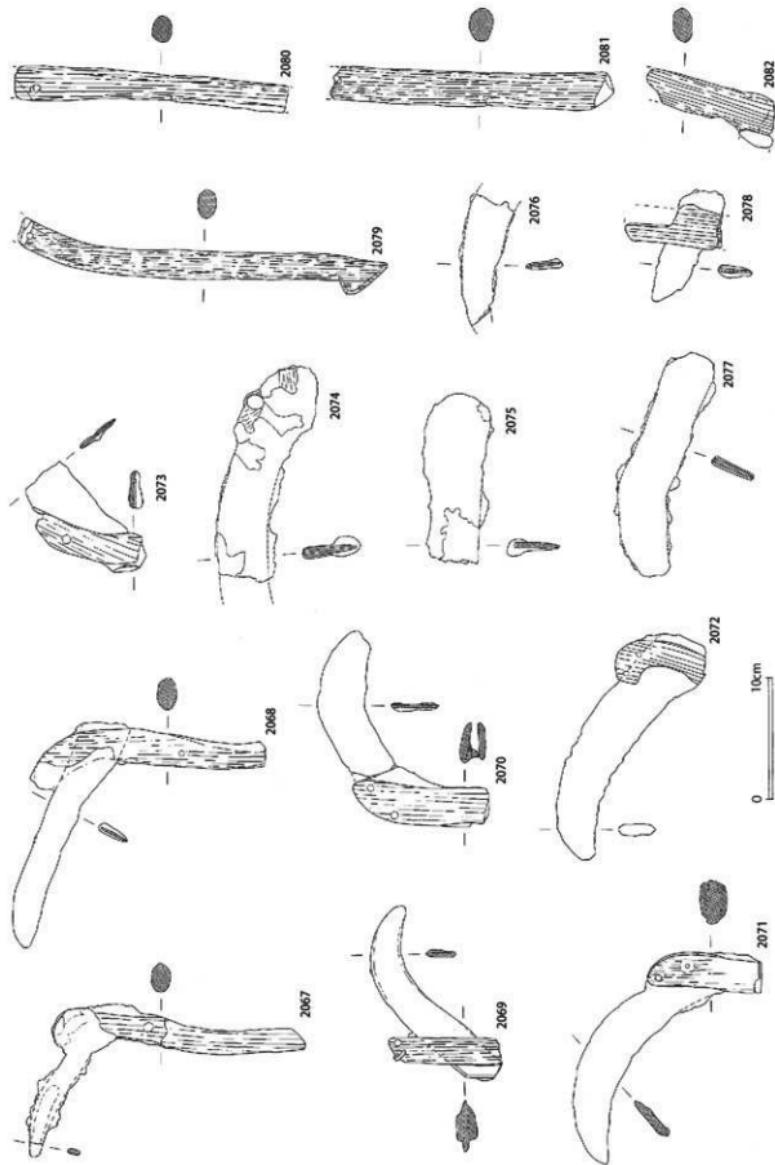
また、刃の形状をみると、2083・2085 は曲線刃であり、2086・2087 は直線刃と曲線刃の中間的な緩やかな曲線刃となり、2084 は残存部だけをみると、直線刃のように見える。そして、2083 ~ 2085 の刃部と柄の装着部での取り付け角度をみると、概ね 130 ~ 140 度の角度をもつて柄に取り付けられている。

この他、E 区出土のものでは、2089・2090 は刃部のみの破片であり、2092 は柄の上端部の破片となる。2092 の柄の内部には折れた刃部が残存している。鋒や残存部の状態にもよるが、E 区のもので釘留めが確認できたのは 2088・2092 となる。

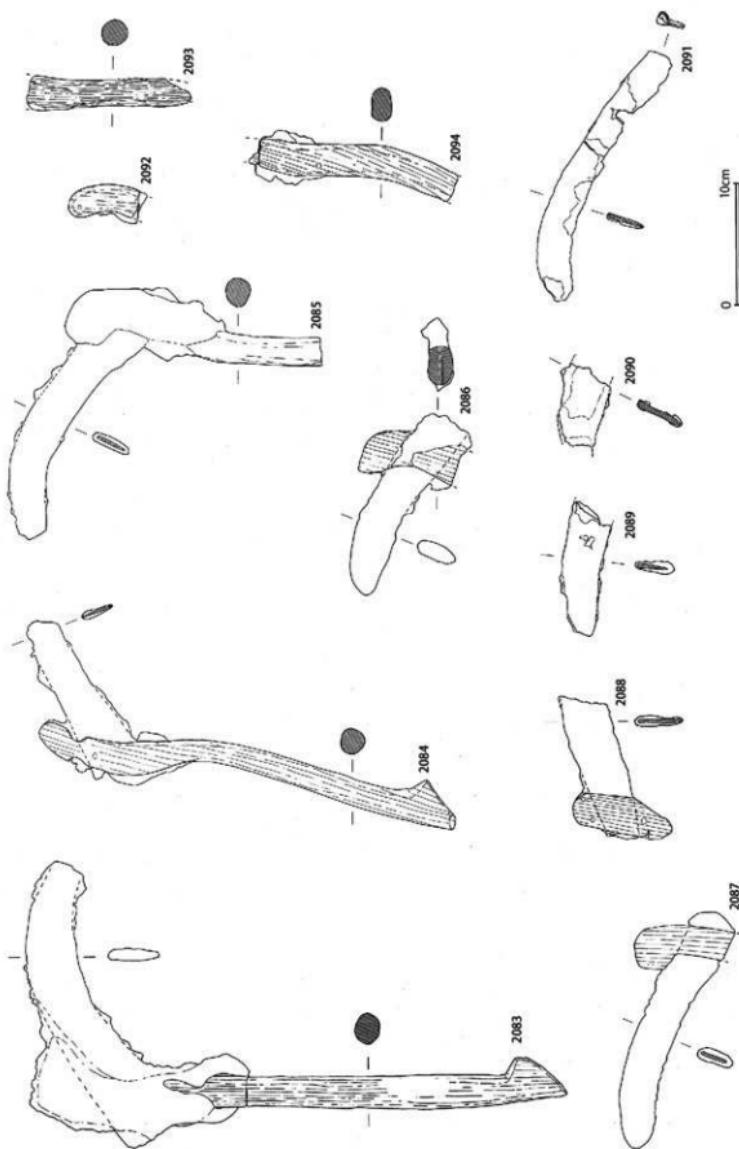
2091 は F 区出土の刃部であるが、全長がほぼ残っている。曲線刃であり、柄挿入側の端部が折り曲げられている。

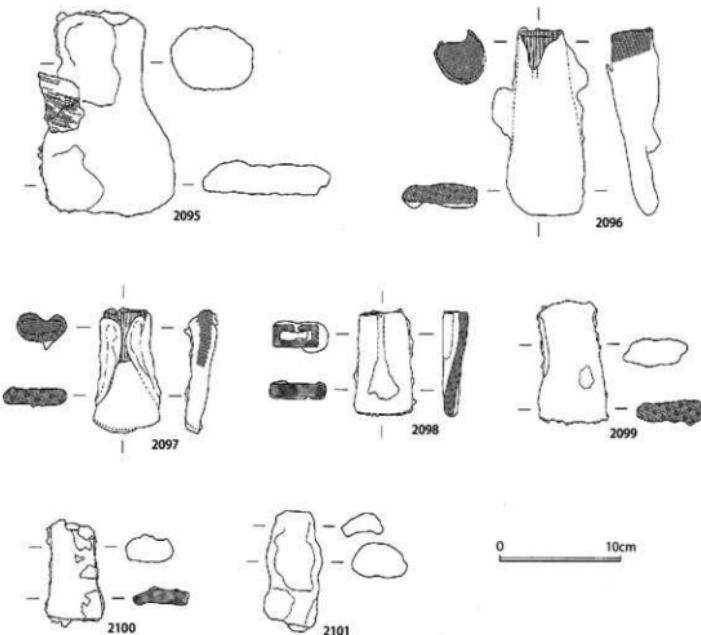
2093・2094 は G 区出土の柄である。2094 については柄の内部に刃部が残っており、釘留めが認められる。

第171図 錆①



第172図 錬(2)



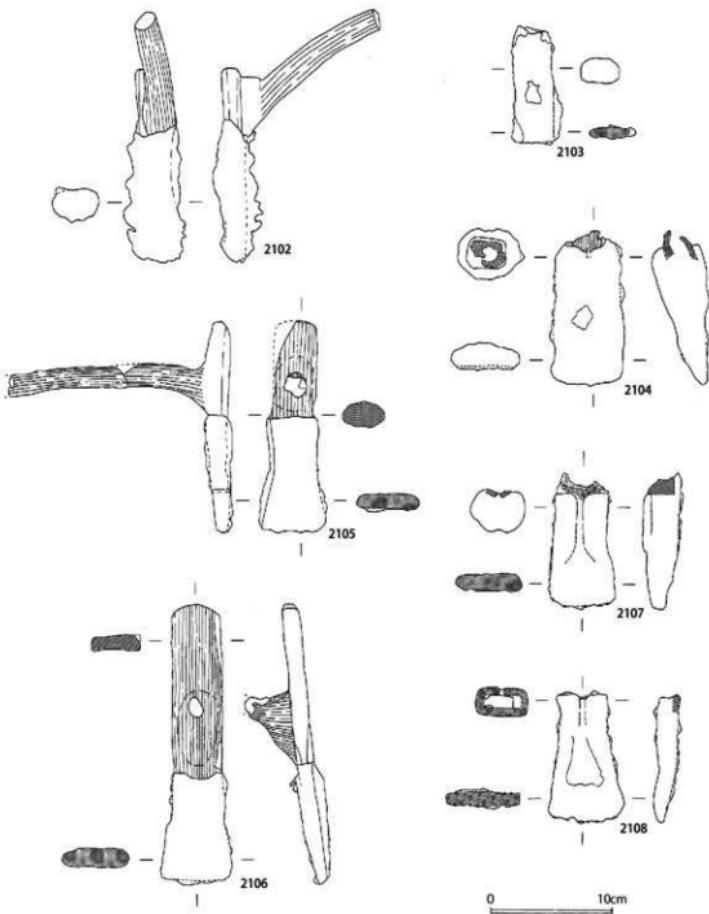


第173図 斧①

[斧]

鉄斧は14点出土し、そのうち7点がA区からの出土であった。すべて袋状の鉄斧と考えられ、柄あるいは袋状部内に木質部を残すものもあった。鋸のため本来の刃部の長さとは若干の差はあると思われるが、ここで出土した刃部の長さをみると、概ね3つに分類でき、長さが15～16cmのもの(2095・2096)、9～10cmのもの(2097・2099・2101～2108)、8cm前後のもの(2098・2100)に分けられる。おそらく寸法等の規格をもって製作されたのではないかと考えられる。

柄が装着された状態のものについては、B2区出土の2102、D2区出土の2105・2106の3点となるが、いずれも刃部の長さが10cmのものとなる。刃部との装着部から柄までが一木で作られている。3点とも柄の先端部までは残存していないが、刃と柄の角度がわかる2102と2105をみると、2102は概ね130度の鈍角となり、2105はほぼ直角となって柄がのびる。柄の太さは径2cm程度となる。



第174図 斧②

[刀子・口金]

2109～2112は鉄製刀子である。2109・2110はB2区出土のものである。2109は一部欠損するが、ほぼ形状がわかるもので、全長26.8cm、刃の長さ12.8cmを測る。2110は柄の端部が欠損するが、刃部はほぼ完存する。刃の長さは10.2cmを測る。また、2111はA2区出土、2112はD2区出土のものである。この2点とも刃部と柄の両端が欠損している。

2130は銅製の口金である。B1区からの出土である。厚さ約1mm、幅約2cmの銅板を楕円形に巻いて成形されている。

[鎌]

2113～2129・2131～2185は鉄鎌である。多数の鉄鎌が出土したが、特にB1区において長身の鉄鎌（2131～2175）がまとまった状況で検出された。

まず、2113～2129の鉄鎌についてみると、鎌身の形状は柳葉式のものが多く、2114・2117～2122・2124が柳葉式に分類できる。このうち、2114については、欠損しているものの脇抉を有するものである。また、2114には目釘が癒着して残っていた。この他、2113・2115は鎌身が三角形式、2116は五角形式、2123は圭頭鑿箭式、2126～2128は方頭式に分類できる。これら17点のうち10点には矢柄の木質部が残っていた。

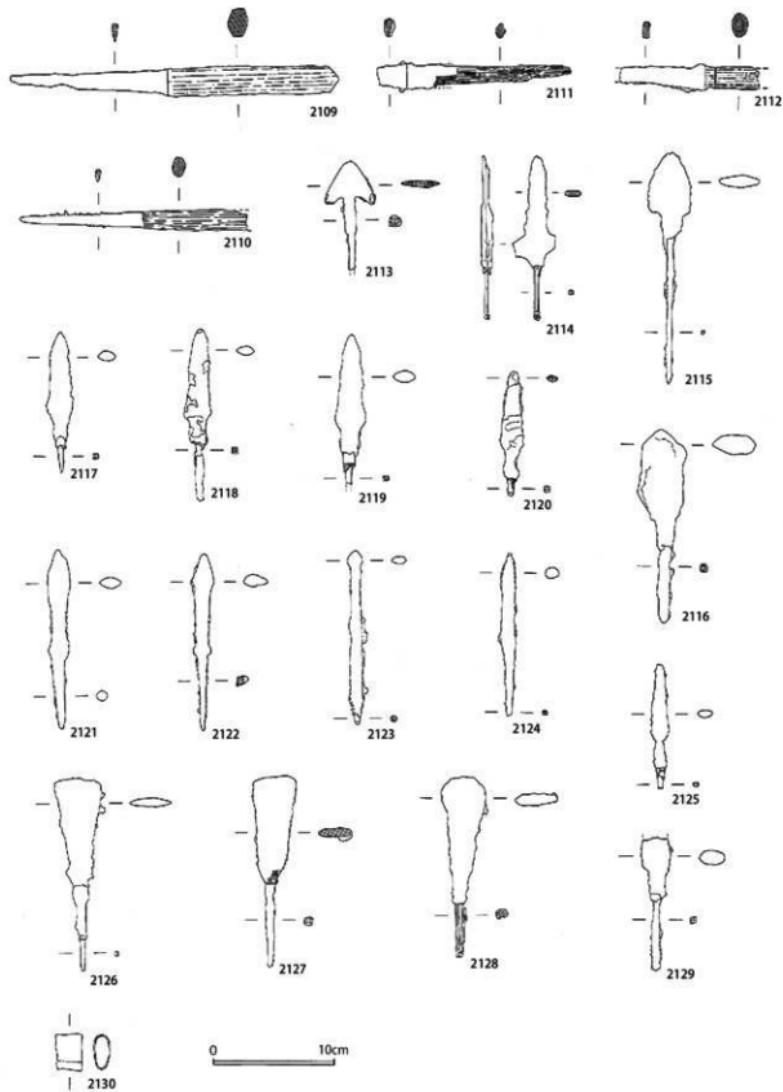
2131～2175はB1区で出土した長身の鉄鎌である。鎌身のみが残るものについても、その出土状況と形状から判断してこれに含めたものもある。鎌身は圭頭鑿箭式の形状となり、鎌身から茎部までが長く、もっとも長く残っていたもの（2133）で、全長47.7cm、鎌身長14.4cm、茎部長33.3cmを測った。鎌身の長さは鎌や欠損等で多少差異があるが、概ね14cm台前後となり、その幅については1.6～2.4cmを測った。これらの鉄鎌には矢柄を残すものが多数あり、その径は概ね1.0～1.4cmを測った。

この長身の鉄鎌であるが、図面化したのは2131～2175の45点であったが、このうち、鎌身同士が癒着しているものがあり、2139は3点の鎌身が癒着し、2168は2点が癒着したものであり、B1区において出土した長身の鎌身の実点数は48点となる。

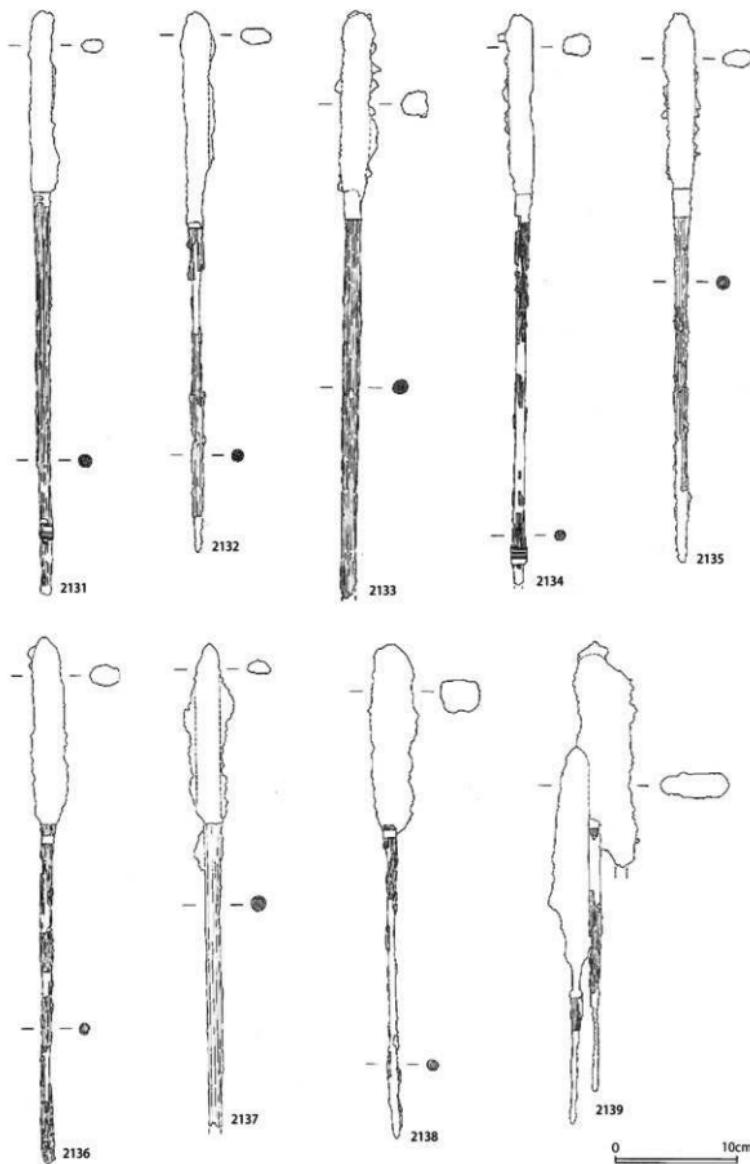
また、B1区以外の区画からも長身の鉄鎌に似たものが10点（2176～2185）検出された。その多くは鎌身付近を中心に残るものであり、すべてが長身の鉄鎌である確証はないが、C1区出土の2180については長さ約43cmを測り、B1区出土の鉄鎌と同様のものと考えられる。

[鉤]

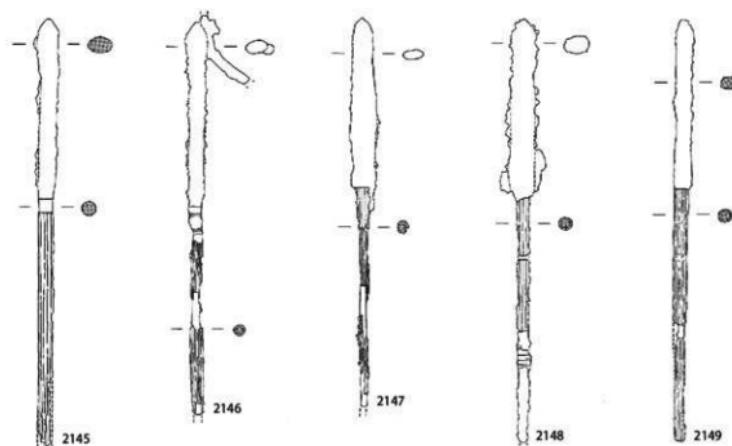
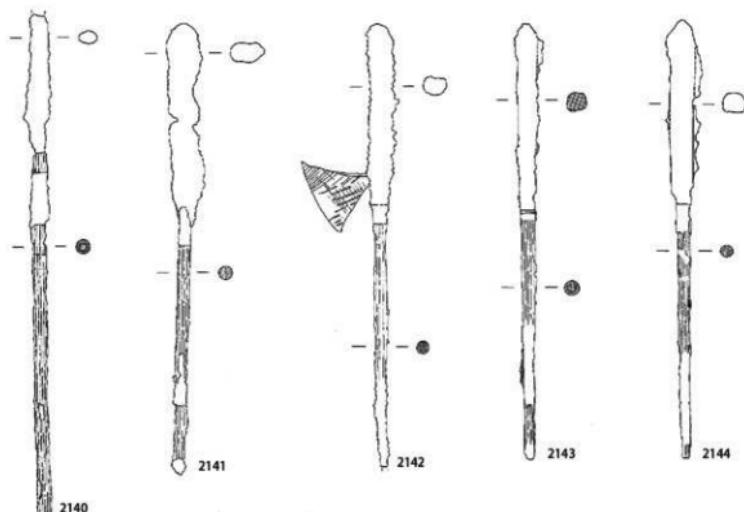
2186はA1区から出土した鉤である。木製柄からのびた鉄製の軸が約7cmのところで70度ほど角度で曲がり、そこから約28cmのびた先端で90度、1cmほどに曲げられ鉤状部が作られている。鉄製の軸部分は鎌で円くなっているが、軸の破断面をみると、元々は方形の断面形であったかもしれない。木製柄の端部は欠損しているが、破損部まで鉄製の茎が入っているのが認められる。



第175図 刀子・口金・鐵①

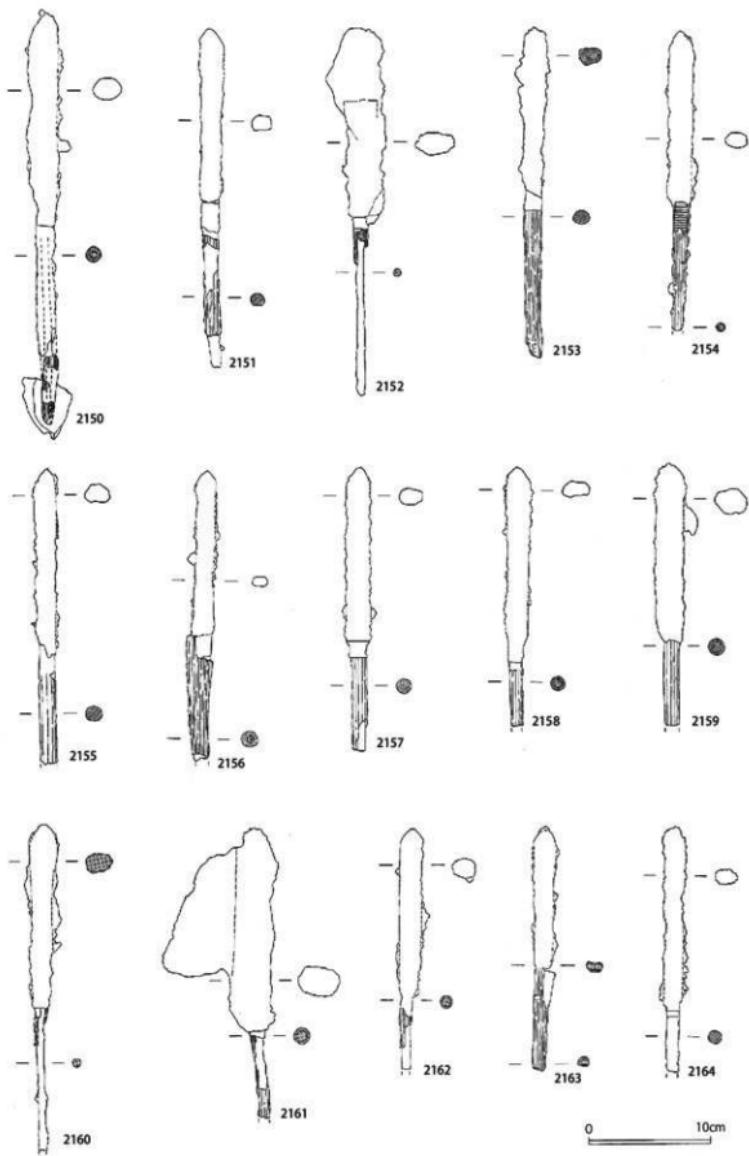


第 176 図 篓 ②

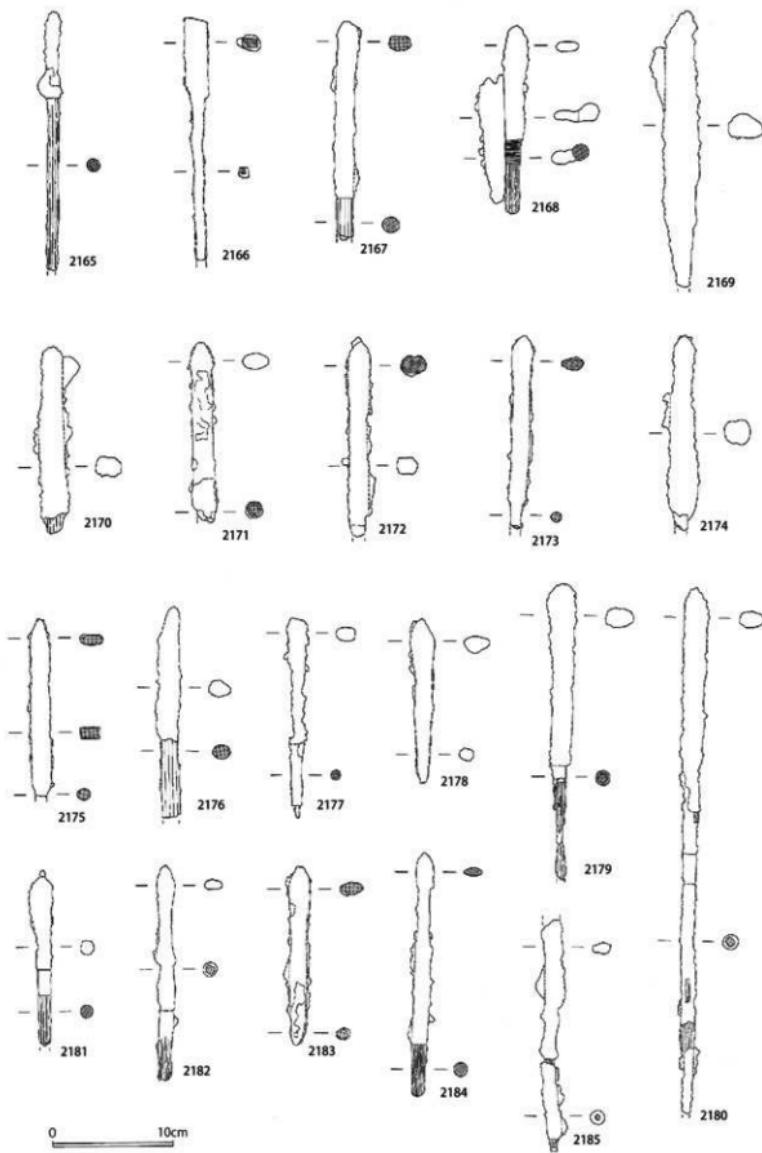


0 10cm

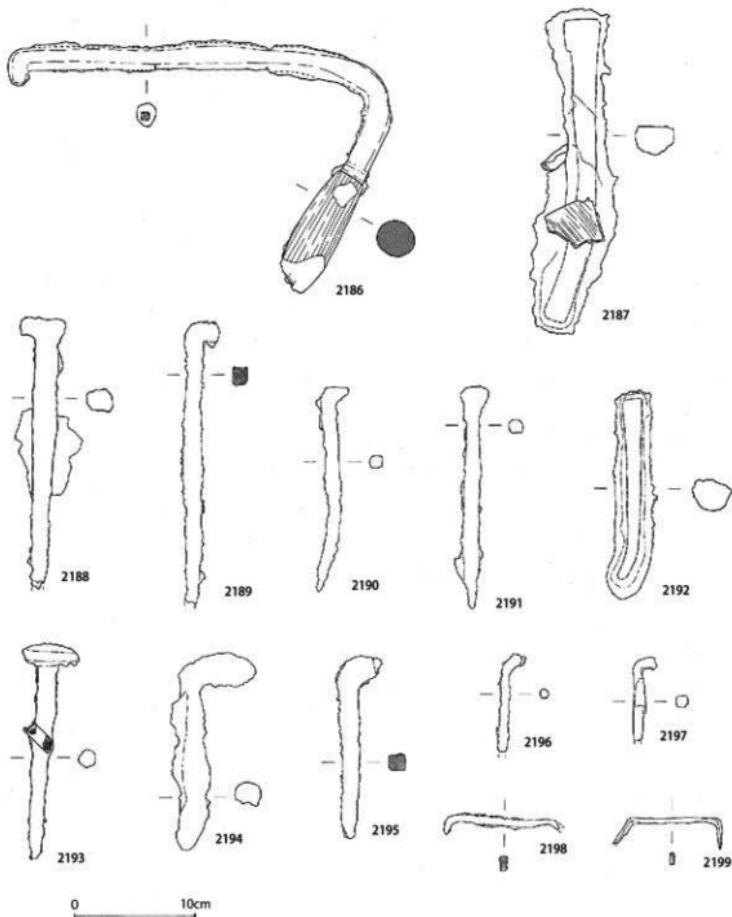
第177図 鐵③



第178図 鐵④



第179図 鋼⑤



第180図 鉤・釘・鎌

[釘・鎌]

鉄釘は30点以上出土したが、大小様々で鏽に覆われ欠損しているもの多かった。2187～2197は比較的残存状態の良い鉄釘である。最大のものが2187で長さが26.6cm(鏽含む)となる。釘の頭は角柱状で折れ曲がるもののがほとんどであったが、2188と2193については円形に作り出されたものである。

鎌は2点(2198・2199)出土した。両者とも幅1cmほどの板状のものとなる。

[笠塔婆]

笠塔婆が 6 点（2200～2205）出土した。2200 はほぼ完形で、頭部は五輪塔状で地輪の下部に刻みを入れ、下端を尖らせていない。頭部の片面に墨書が遺存し、五大種子の一部で梵字「バ・ア」と考えられる。上下 2か所に 2×4 mm 大の矩形の孔がある。

2201 はほぼ完形で、頭部はやや不明瞭な五輪塔状で下端はやや丸くおさめる。頭部の片面に墨書が残り、大日如来法身真言の一部で梵字「バン・ア」と考えられる。

2202 は頭部五輪塔状の極めて薄い笠塔婆で、両面に墨書が残る。表面に梵字「ケン・ウン・ラ・ビ・ア」（大日如來報身真言）、梵字「キリーク・サ・サク」（阿弥陀三尊）と記し、その下に左 1 列が欠失しているが、左から右に向かって横方向に 8 行にわたり梵字「（オン）・ア・ボ・（キヤ）・ペイ・ロ・（シャ）・ナ・マ・（カ）・ボ・ダラ・（マ）・ニ・ハン・（ドマ）・ジンバ・ラ・（ハラ）・バ・リタ・（ヤ）・ウーン・ダ」（光明真言 括弧部分欠失）を記す。さらにその下に「奉為眼阿弥陀佛 即身成佛供養也 文明 年 敬白」と記し、文明年間（1469～87 年）に眼阿弥陀佛の供養のために使われたものとわかる。裏面は「南无大師遍照金剛南無地 菩薩」と記す。

2203 は薄い材の上端部を欠失し、片面に墨書が残る。「祐聖律師即身成佛 文明三年 五月廿四日」と記す。文明 3 年（1471 年）5 月 24 日に祐聖律師の供養のために使用されたものとわかる。

2204 は頭部の一部が残り、その形状は 2202 に類似する。両面に墨書が残り、表面に梵字「ケン・ウン・ラ・ビ・（ア）」（大日如來報身真言）、裏面に梵字「バン」（金剛界大日如來）を記す。

2205 は遺存状況が悪く詳細はわからないが、径 2 mm の円孔があり、笠塔婆の可能性がある。

以上の笠塔婆は文明 3 年（1471 年）及び文明年間の紀年銘を記すものがあり、おむね室町時代の所産で、故人の供養のために使用されたものと考えられる。

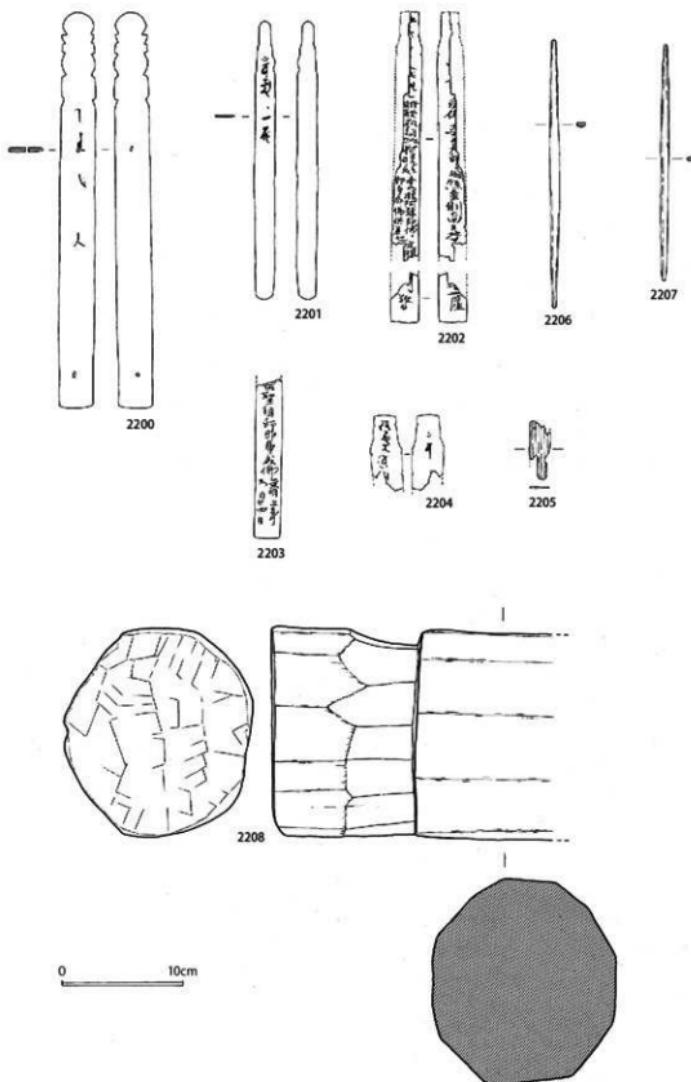
[箸]

2206・2207 は箸である。2206 は 22 cm、2207 は 19.5 cm の長さを測り、断面形はやや扁平な方形で、両端が細くなるように削られている。

[加工木材]

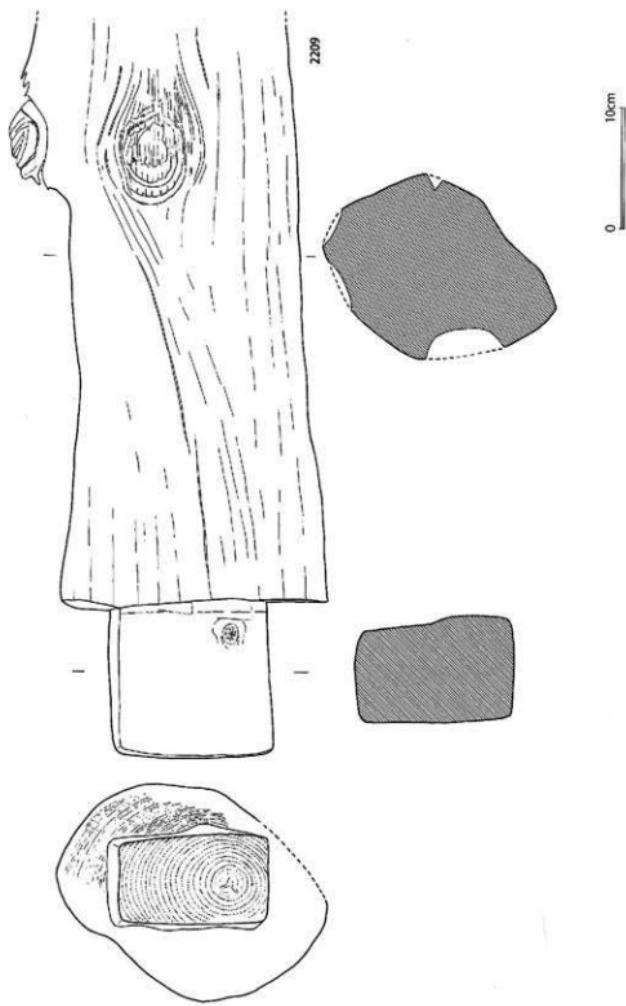
前節で記したが、杭材等と考えられるものに杭加工とは別の加工が施されているものがあった。2208 は E 区南壁中で検出された木 64 の加工部分である。径 17 cm 程度の丸木の端部を 11 cm 程度の部分から削り出し、面取り加工が施されている。面取りはややシャープさを欠いた部分もあり、面取りの角が明確でない部分もある。

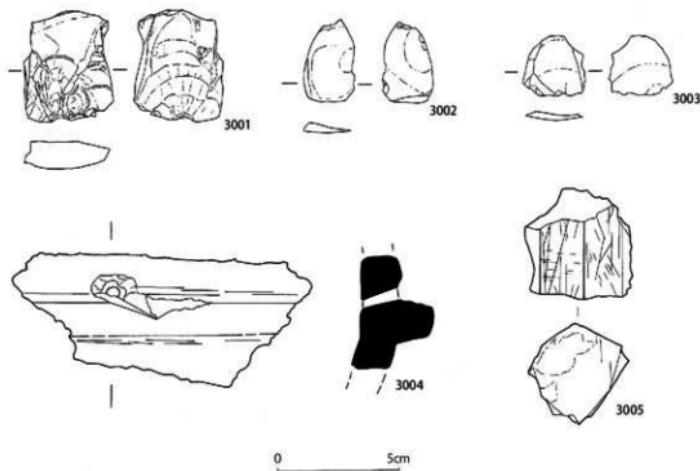
2209 は B1 区・C1 区で検出されたぼぞ加工が施された木 44 のぼぞ部分である。丸木の端部に約 12 cm の長さで、長辺 12 cm、短辺 8 cm 程度の断面方形のぼぞが作り出されている。



第181図 卒塔婆・箸・加工木材（木64）

第182図 加工木材(木44)





第183図 サヌカイト・石鍋他

【石製品】

3001～3003はサヌカイト剥片である。サヌカイト片は4点出土したが、細片を除く3点を図化した。表面の風化は進んでおらず、おそらく弥生時代の所産と考えられる。

3004は滑石製の石鍋片である。鍋の上部に穿孔があり、温石として転用されたものであろうか。12世紀代のものと考えられる。

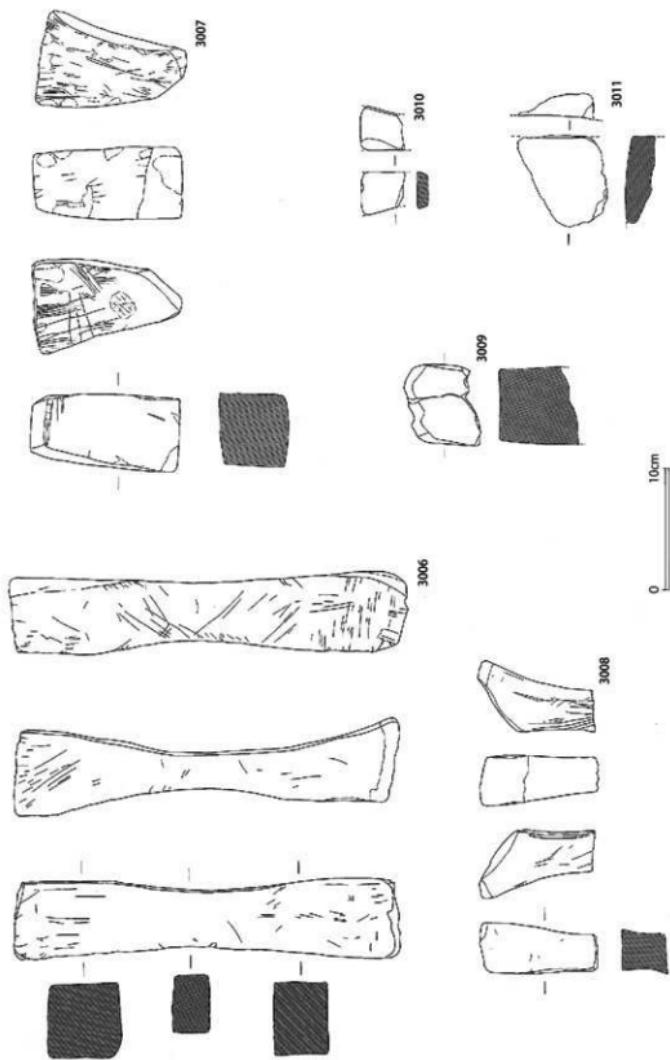
3005は磨製石製品である。砥石が欠損したものという可能性もあるが、残存部で側面3面を面取りするような形状で磨き面があり、残存する端面も磨かれている。また、二次的に被熱したようで、表面から破断面一部が黒色がかっている。破断面をみると、白色の石材で凝灰岩製であるとみられる。

3006～3011は砥石である。3006はほぼ完形のもので、他は欠損・破断するものである。3006～3010は石材が白色の凝灰岩製のものであり、3011については灰色の石材である。

【骨】

今回の調査では、人骨・獣骨等の骨資料が多数出土した。主なものでは、D1区・D2区において大きく残る人の頭蓋骨が2点、またB区・D区において残存状態の良好なウシの頭蓋骨が2点出土した。ウシ・ウマの骨が多くの割合を占めるが、その詳細については、安部みき子氏に分析を依頼し、その結果を第4章第2節に掲載した。

第184図 磨石



第4章 資料分析

(1) 石材の石種の特徴と採石推定地（奥田 尚）

出土した石材を裸眼や肉眼で観察し、石種を同定した。また、石材の石種の特徴をもとに石材の採取地を推定した。石材の石種と採取地について述べる。採石推定地については五反島遺跡から近距離で同様の石材が採取できる地とした。当遺跡付近の地質は大阪層群上部層を削剥して河川堆積物の砂礫層が重なる。これらの砂礫層は主として花崗岩質岩起源の砂礫、僅かに堆積岩起源等の砂礫からなる。構成粒の粒径は小指大以下の砂礫からなり、親指大の礫は稀である。観察した石材は拳大以上のもので、石材の石種の岩相に於いても遺構にみられる砂礫層の石種の岩相とは異なり、全て、他地域から運ばれてきたものと推定される。

1. 石材の石種の特徴と採取地

識別した石種は、流紋岩質溶結凝灰岩 A、流紋岩質溶結凝灰岩 B、流紋岩質溶結凝灰岩 C、火山礫凝灰岩質溶結凝灰岩、斑岩 A、斑岩 B、玢岩 A、玢岩 B、輝石安山岩、黒雲母花崗岩 M、黒雲母花崗岩 N、斑状黒雲母花崗岩、細粒黒雲母花崗岩、片麻状細粒黒雲母花崗岩、片麻状黒雲母花崗岩、花崗閃綠岩、頁岩、砂岩 A、砂岩 B、砂岩 C、チャート、紅柱石ホルンフェルス、泥質ホルンフェルス、砂質ホルンフェルス、泥質片岩である。これら石種の特徴と採石推定地について述べる。

流紋岩質溶結凝灰岩 A: 色は淡青灰色で、顯著な溶結を呈する。構成粒は流紋岩、石英、長石、黒雲母である。流紋岩は灰色と黒色のものがある。灰色の流紋岩は、粒形が角、粒径が 2 ~ 4 mm、量が僅かで、石基がガラス質である。石英は無色透明、粒径が 2 ~ 4 mm、量が僅かである。長石は灰白色、短柱状で、粒径が 1 ~ 3 mm、量が中である。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が 0.5 ~ 1 mm、量がごくごく僅かである。基質はガラス質である。このような石は武庫川の上流、神戸市から三田市にかけての付近に広く分布する中生代の溶結凝灰岩の岩相の一部に似ている。石材は表面が滑らかな川原石様で、粒形が亜角～亜円である。採石地として武庫川の下流付近が推定される。

流紋岩質溶結凝灰岩 B: 色は風化面では灰色であるが、断面では黒色である。顯著な溶結を呈する。構成粒は石英と長石である。石英は無色透明、粒径が 2 ~ 4 mm、量が中である。長石は灰白色、粒径が 2 ~ 3 mm、量が多い。基質はガラス質である。このような石は武庫川の上流、神戸市から三田市にかけての付近に広く分布する中生代の溶結凝灰岩の岩相の一部に似ている。石材は表面が滑らかな川原石様で、粒形が亜角～亜円である。採石地として武庫川の下流付近が推定される。

流紋岩質溶結凝灰岩 C：色は黄土色～灰色で、顯著な溶結を呈する。構成粒は石英、長石、黒雲母である。石英は無色透明、粒径が2～10mm、量が多い。長石は淡桃色、短柱状、粒径が2～5mm、量が僅かである。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.5～2mm、量がごく僅かである。基質はガラス質である。このような石は武庫川の上流、神戸市から三田市にかけての付近に広く分布する中生代の溶結凝灰岩の岩相の一部に似ている。石材は表面が滑らかな川原石様で、粒形が亜角～亜円である。採石地として武庫川の下流付近が推定される。

火山礫凝灰岩質溶結凝灰岩：色は茶色である。顯著な溶結を呈する。構成粒は流紋岩、石英、長石である。流紋岩は茶灰色と黒色のものがある。茶灰色の流紋岩は、粒形が亜円、粒径が4～6mm、量が僅かで、石基がガラス質である。黒色の流紋岩は、粒形が亜角、粒径が2～6mm、量が僅かで、石基がガラス質である。石英は無色透明、粒径が2～3mm、量が僅かである。長石は灰白色、短柱状、粒径が2～3mm、量が中である。基質はガラス質である。このような石は武庫川の上流、神戸市から三田市にかけての付近に広く分布する中生代の溶結凝灰岩の岩相の一部に似ている。石材は表面が滑らかな川原石様で、粒形が亜角～亜円である。採石地として武庫川の下流付近が推定される。

斑岩 A：色は黄灰色である。斑晶鉱物は石英、長石、黒雲母である。石英は無色透明、粒状で、粒径が2～6mm、量が僅かである。長石は灰白色、短柱状で、粒径が2～7mm、量がごく僅かである。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が1～2mm、量がごくごく僅かである。石基はガラス質である。このような石は岩脈として産する石である。斑岩岩脈は各地にみられる。

斑岩 B：色は暗灰色である。斑晶鉱物は石英、長石である。石英は無色透明、粒状で、粒径が0.5～1.5mm、量が中である。長石は無色透明、短柱状で、粒径が0.5～2mm、量が僅かである。石基はガラス質である。このような石は岩脈として産する石である。斑岩岩脈は各地にみられる。

玢岩 A：色は淡灰緑色である。斑晶鉱物は石英、長石、黒雲母、角閃石である。石英は無色透明、粒状で、粒径が0.1～2mm、量が中である。長石は淡桃色、粒径が0.5～2mm、量が中である。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が0.2～2mm、量が僅かである。角閃石は黒色、短柱状で、粒径が0.5～2mm、量が僅かである。石基はガラス質である。このような石は岩脈として産する石である。玢岩岩脈は各地にみられる。

玢岩 B：色は暗灰色である。斑晶鉱物は石英、長石、輝石である。石英は無色透明、粒状で、粒径が0.3～0.7mm、量がごくごく僅かである。長石は灰白色、短柱状で、粒径が0.5～0.7mm、量がごく僅かである。輝石は黒色、粒状で、粒径が0.3～0.7mm、量が僅かである。石基はガラス質である。このような石は岩脈として産する石である。川原石様の面がみられるものもある

ことから川原石か海岸の石を採取されたと推定される。玢岩岩脈は各地にみられる。

輝石安山岩：色は黒色である。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状、粒状で、粒径が0.5～1mm、量が中である。輝石は黒色と青銅色透明のものがある。黒色の輝石は、粒状で、粒径が0.3～0.7mm、量が中である。核に長石が含まれる場合が多い。青銅色透明の輝石は、柱状で、粒径が0.5～1mm、量がごく僅かである。石基はガラス質である。このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

黒雲母花崗岩M：色は淡桃色である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が2～4mm、量が僅かである。長石は桃色と灰白色のものがある。桃色の長石は、粒径が3～8mm、量が多い。灰白色的長石は、粒径が3～6mm、量が中である。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が2～3mm、量が僅かである。このような石は神戸市御影から芦屋市にかけての付近に分布する黒雲母花崗岩の岩相の一部に似ている。石材は表面が滑らかな川原石様で、粒形が亜角～亜円である。採石地として御影から芦屋市にかけての河川の下流付近が推定される。

黒雲母花崗岩N：色は淡桃色である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が2～4mm、量が多い。長石は桃色と灰白色のものがある。桃色の長石は、粒径が2～4mm、量が中である。灰白色的長石は、粒径が2～4mm、量が中である。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が1～2mm、量がごくごく僅かである。このような石は能勢町野間の付近、山陽型花崗岩の周辺部付近に分布する黒雲母花崗岩の岩相の一部に似ている。石材は表面が滑らかな川原石様で、粒形が亜角～亜円である。一部に割石がみられる。採石地として猪名川、岡山以西の山陽地方の河川の下流付近が推定される。

斑状黒雲母花崗岩：色は桃色である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が3～6mm、量が中である。長石は桃色と灰白色のものがある。桃色の長石は斑晶と基質をなすものがある。斑晶の長石は、粒径が10～20mm、量が僅かである。基質の長石は、粒径が5～8mm、量が多い。灰白色的長石は、粒径が2～4mm、量が僅かである。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が2～4mm、量が僅かである。このような石は岡山市の万成から前島にかけての付近に分布する黒雲母花崗岩の岩相の一部に似ている。

細粒黒雲母花崗岩：色は灰白色である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が1～1.5mm、量が中である。長石は灰白色、粒径が0.5～1mm、量が非常に多い。黒雲母は黒色、板状、粒状で、粒径が0.5～1.5mm、量が僅かである。このような石は領家帯に分布する花崗岩の岩相の一部に似ている。石材は表面が滑らかな川原石様である。川原石か海岸の石を採石されたのだろう。

片麻状細粒黒雲母花崗岩：色は灰白色で、顯著な片麻状を呈する。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が0.5mm、量が多い。長石は灰白色、粒径が0.3～0.5mm、量が中である。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.3～0.5mm、量が中である。集合して組状をなす。このような石は領家帯に分布する古期の花崗岩の岩相の一部に似ている。

片麻状黒雲母花崗岩：色は灰白色で、片麻状を呈する。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が2～3mm、量が多い。長石は灰白色、粒径が2～3mm、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が1～3mm、量がごくごく僅かである。このような石は領家帯に分布する古期の花崗岩の岩相の一部に似ている。石材は表面が滑らかな川原石様で、粒形が円である。採石地として木津川付近が推定される。

花崗閃綠岩：色は灰白色である。石英・長石・黒雲母・角閃石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が2～3mm、量が僅かである。長石は淡桃色と灰白色のものがある。淡桃色の長石は、粒径が2～4mm、量が中である。灰白色的長石は、粒径が2～4mm、量が多い。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が1～3mm、量が僅かである。このような石は茨木市から豊能町にかけての付近に分布する茨木花崗岩体の岩相の一部に似ている。石材は表面が滑らかな川原石様で、粒形が亜円である。採石地として安威川や猪名川が推定される。

頁岩：色は暗灰色、灰色である。微かに片理がみられる。このような石は丹波層群の頁岩の岩相の一部に似ている。剥石や山地に転在するような石の様相を呈する。掘削して採石された石と推定される。宇治市で出土した文禄堤に使用されている石材にも同様の岩相と同様の形状を示すものが見られた。採取地としては淀川右岸や宇治川の流域の古期層の分布地が推定される。

砂岩A：色は灰色である。構成粒は石英や長石である。基質は緻密である。このような石は丹波層群の砂岩の岩相の一部に似ている。剥石や山地に転在するような石の様相を呈する。掘削して採石された石と推定される。宇治市で出土した文禄堤に使用されている石材にも同様の岩相と同様の形状を示すものが見られた。採取地としては淀川右岸や宇治川の流域の古期層の分布地が推定される。

砂岩B：色は灰色である。構成粒は、流紋岩、石英、長石である。流紋岩は、粒形が角～亜角で、灰白色、暗灰色、褐色、青灰色を呈し、粒径が1～2mmで、量が非常に多い。石基がガラス質である。石英は無色透明、粒形が角、粒径が1～2mm、量がごく僅かである。長石は灰白色、粒形が角、粒径が1～2mm、量がごく僅かである。このような石は岩相的に大阪府南部に分布する和泉層群の砂岩の岩相の一部に似ている。亜角～亜円礫であり、河川の下流付近の石と推定される。

採石地として泉大津市から岬町にかけての付近の河川の下流付近が推定される。

砂岩 C: 色は灰色である。構成粒は、石英、長石、黒雲母である。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.2～0.4mm、量が非常に多い。長石は灰白色、粒形が角、粒径が0.2～0.5mm、量が中である。黒雲母は、黒色、金色、板状で、粒径が0.2～0.4mm、量が僅かである。このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

チャート: 色は灰色、暗灰色で、層状を呈する。1単層厚は3～5cmである。このような石は丹波層群に岩体として含まれるチャートの岩相の一部に似ている。角の円みが微かにとれた角礫で、表面が滑らかであることから、谷川の石と推定される。採取地としては淀川右岸や宇治川の流域が推定される。

紅柱石ホルンフェルス: 色は暗灰色で、やや粒状化している。粒径が0.5～1mmの紅柱石が散在する。このような石は安威川流域の茨木花崗岩体周辺部にみられる丹波層群の泥質岩が熱変成した部分、笠置付近から和束川流域にかけての丹波層群の熱変成した部分の泥質岩の一部の岩相に似ている。粒形が角～亜角で、表面が滑らかな川原石様であることから木津川あるいは安威川付近で採取された石と推定される。

泥質ホルンフェルス: 色は暗灰色で、やや粒状化している。このような石は安威川流域の茨木花崗岩体周辺部にみられる丹波層群の泥質岩が熱変成した部分の岩相に似ている。また、笠置付近から和束川流域にかけての丹波層群の熱変成した部分の泥質岩の一部にも似ている。粒形が角～亜角で、表面が滑らかな川原石様であることから木津川あるいは安威川付近で採取された石と推定される。

砂質ホルンフェルス: 色は灰色で、一見細粒砂岩様にみえる。構成粒は石英、柘榴石である。石英は無色透明、粒径が0.2～1mm、量が多い。粒径が0.2mmのものが多く、0.5～1mmが僅かである。柘榴石は赤茶色、粒状で、粒径が0.5mm、量が僅かである。このような石は安威川流域の茨木花崗岩体周辺部にみられる丹波層群の泥質岩が熱変成した部分の砂質岩の岩相の一部に似ている。

泥質片岩: 色は灰色で、片理がある。片理に並行して白雲母が並んでいる。白雲母は無色透明、板状で、粒径が0.5～1.5mm、量が中である。基質は泥質である。このような石は三波川変成帯の変成が弱い泥質片岩が分布する地にみられる。紀ノ川や吉野川の流域の泥質片岩の岩相の一部に似ている。

2. 石材について

観察した石材は、剥片や破片とした石を除けば、露岩を剥がしたような剥石、谷川にみられるような角が僅かに円くなり、表面が滑らかな石、角が円くなった川原石様の石で、矢穴等がみられる割石や加工面がみられる加工石を観察していない。結晶片岩は剥石のみで、砂岩Aは剥石が多く、谷川にみられるような石が僅かである。他の石種の石材は川原石様の石で、海岸にみられるような左右対称形の円礫はみられない。河口付近の石を探取されたのだろう。

出土石材の採取地としては、遠くは岡山市付近、紀ノ川か吉野川付近、泉南付近、近くでは淀川の右岸や宇治川、木津川、安威川や猪名川の下流、武庫川下流や御影付近などが推定される。

第1表 石材の石種と採石地

石種	個数	採石推定地
流紋岩質溶結凝灰岩A	22 3 30 11	武庫川の下流付近
流紋岩質溶結凝灰岩B		
流紋岩質溶結凝灰岩C		
火山礫凝灰岩質溶結凝灰岩		
輝石安山岩	1	産地不明
黒雲母花崗岩M	7	御影の付近
黒雲母花崗岩N	46	猪名川付近
斑状黒雲母花崗岩	10	岡山市の付近
細粒黒雲母花崗岩	1	産地不明
片麻状黒雲母花崗岩	3 2	木津川付近
片麻状細粒黒雲母花崗岩		
頁岩	19	淀川右岸から宇治川にかけての付近
砂岩A	37	
チャート	5	
砂岩B	6	
砂岩C	1	産地不明
花崗閃綠岩	2	安威川付近
斑岩A	27	
斑岩B	3	
玢岩A	4	
玢岩B	1	
紅柱石ホルンフェルス	2	
泥質ホルンフェルス	27	
砂質ホルンフェルス	1	
泥質片岩	6	紀ノ川付近
合計	277	

(2) 五反島遺跡出土の人骨および動物遺存体（安部 みき子）

五反島遺跡は大阪府吹田市に位置し、弥生時代から中世にかけての遺物が混在する河川堆積物（砂層）から人骨および動物遺存体が出土した。出土した骨片は 73 点あり、そのうち同定できたものは人骨 12 点、ウシ 16 点、ウマ 12 点、シカ 1 点、イノシシ 2 点、カメとスッポンが各 1 点であった（付表）。

1. 人骨

頭蓋骨は頭蓋冠が 2 点と上顎骨、頬骨、下顎骨が各 1 点出土している。上顎骨は右側の切歯から第 1 大臼歯歯槽部まで遺存しており、第 1 大臼歯のみ釘植し、その他の歯は遊離していた。下顎骨は下顎体の下縁部のみが遺存している。四肢骨は成人の左尺骨と左大腿骨が出土しているが、いずれも両骨端が破損している。出土骨の詳細な年齢の推定は出来なかったが、頭蓋冠の縫合の状態と上顎骨の第 1 大臼歯の摩耗の程度から、いずれも成人である。また、これらの骨片の性判定は出来なかった。出土人骨の最少個体数は成人 2 体である。

資料番号 (No.) 5 には脳の一部が遺存していた。

2. 動物遺存体

【ウシ】

ウシは出土骨片数が最も多く、頭蓋骨が 2 点、下顎骨は 2 点、上腕骨 1 点、尺骨 2 点、桡骨 2 点、中手骨 1 点、脛骨 2 点、距骨 1 点と遊離した臼歯 3 点である。No.7 は鼻部から後頭部までの頭蓋骨の上部の遺存状態が良く、頭蓋上面の形態が明瞭である。角突起の先端は破損しているが角座は遺存しており、計測値は右が 50.6mm、左が 48.1mm であった（第 2 表）一方、No.8 は眼窓後部から後頭骨まで遺存しており、角突起の先端がやや下方に向いており、角座の計測値も No.7 より小さかった（第 2 表）。下顎骨は 2 点出土し、No.11^① は右の永久犬歯が未萌出のため、4 才前後である。一方、No.12 の下顎骨は第 4 前臼歯から第 3 大臼歯までは釘植しており、成体である（第 3 表）。骨計測できた長骨のうち、最大長が計測できた桡骨より体高を推定した結果、No.9 は 120.1cm、No.13 は 113.8cm であった（第 4 表）。近畿地方の室町時代以前の遺跡から出土したウシ^② と比較すると、奈良時代の藤原京や平安時代の平安京の推定体高は、藤原京で 119 ~ 126cm、平城京では 125cm 以上であり、中世の東大阪市鬼虎川遺跡のものは 106 ~ 117cm、同じ東大阪市の西の辻遺跡のものは 112.65 ± 2.87cm であり、本遺跡のウシは中世のものに近い。

【ウマ】

ウマは切歯部が破損した左下顎骨 (No.42) と上顎臼歯 3 点、中位の胸椎、上腕骨 (No.33)、癒合した尺骨と桡骨 (No.59)、桡骨のみ (No.14)、中手骨が各 1 点と中足骨 2 点が出土した。この

うち体高が推定³⁾できた出土骨は2点で、桡骨(No.14)では116.9cmで小型馬に分類され、上腕骨(No.33)は130.4cmであり御崎馬とほぼ同じ大きさの中型馬であった(第4表)。

年齢の推定は切歯部が破損しているNo.42の下顎骨は臼歯の状態から成体である。一方、No.59の右桡骨は近位端に骨端線がわずかに見られ2才半前後と推定された。No.65の中手骨は遠位の骨端が未癒合で、非常に若い。

【その他の動物遺存体】

ウシとウマ以外の動物遺存体は非常に少なく、哺乳類ではシカの右上腕骨1点、イノシシの左上腕骨と左脛骨が各1点、爬虫類ではイシガメまたはクサガメの腹甲板の一部1点、スッポンの肋骨が1点出土したのみである。

《参考文献》

- 1) Knig, H., H. Liebich 2008 カラーアトラス獣医解剖学 上巻 カラーアトラス獣医解剖学編集委員会監修 チクサン出版 東京
- 2) 西中川 駿 1991 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究 平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書
- 3) 林田 重平, 山内 忠平 1957 馬における骨長より体高の推定法 鹿児島大学農学部学術報告6:146-156

第2表 ウシとウマの頭蓋骨の計測値

資料番号	7		8	
	種名	ウシ	ウシ	ウシ
左右	右	左	右	左
32	最小前頭幅	183.8		
33	両眼窓間大距離	225.5		
25	後頭三角幅 o t - o t		187.2	
40	後頭三角高 B - A	143.3	132.2	
27	Paraoccipital bone 最大幅		140.7	
26	後頭頸間最大幅		80.9	
29	大後頭孔高		37.9	
28	大後頭孔幅		40.5	
41	O-頭部最高点		101.2	
30	後頭骨最小幅	147.9	124.9	
31	角間最小幅	131.5	129.4	
46	角座の最小幅	50.6	48.1	34.1
				30.7 (mm)

第3表 ウシとウマの下顎骨の計測値

種名 資料番号 左右	ウシ		ウマ
	11 右	12 左	42 左
3 下顎枝長 M 後縁より goc	83.0		118.7
5 goc より Pm2 前縁まで	231.9		291.4
7 頬臼歯長 (2) Pm2 — M 後縁	151.3		170.8
8 大臼歯長 M1 — M3 後縁	94.0	88.9	80.1
9 小臼歯長 (2) Pm2 — Pm4	67.7		90.7
10-1 第三大臼歯最大長		40.1	30.0
10-2 第三大臼歯最大幅		17.4	14.3
第三大臼歯高		24.1	16.8
11 C後縁—Pm2 前縁	85.0		
12 頸高 gov — 4	130.6		203.5
13 下顎枝中間高 gov — 5	127.8		193.0
14 下顎枝高 gov — Cr	178.3		233.1
15a 下顎体高 (1) M3 後縁	75.2	79.0	100.5
15b 下顎体高 (2) M1 — Pm4	52.9	57.1	72.7
15c 下顎体高 (3) Pm2 の前	33.6		48.2
下顎体厚 M1 — M2	27.4	28.5	22.5

(mm)

第4表 ウシとウマの四肢骨の計測値ならびに体高の推定表

種名 資料番号 左右	ウシ		ウマ	
	9 左	13 右	14 右	33 左
上腕骨	全長(1)	GL		283.8
	全長(3)	Glc		266.4
	骨幹横径			33.7
	骨幹前後径			44.6
	遠位端横径	Bd		75.7
	滑車幅	Bt		70.6
横骨	全長	GL	278.2	293.9
	外側長	Li	252.5	252.3
	骨幹横径		44.3	37.7
	骨幹前後径		25.4	21.7
	近位端横径	Bp	83.1	76.7
	近位関節面横径	BFp	75.5	71.5
尺骨	遠位端横径	Bd	78.8	66.8
	肘頭最小深	SDO	49.6	
	肘突起矢状径	DPA	56.8	
	滑車切痕幅	BPC	46.0	

(mm)

推定体高	120.1	113.8	116.9	130.4
				(cm)

付表 五反島遺跡の人骨および動物遺存体の同定結果

資料番号	原番号	出土地点	種名	出土部位		詳細	備考
				左右	部位名		
1	試掘23	G1第7-2剖面焼成構造面	ウマ	一	胸椎(第3~6)		
2	試掘33	G2 G2-7層	ウシ	左	中手骨	馬骨端破壊	
3	試掘42	G3 G3-9層	ウマ		上頸臼歯		
4	試掘48	G3 G3-9層・土器溝まり付近	ヒト	左右	下頸骨	下顎体の下縁のみ遺存	
5	666	D1区・骨005	ヒト	一	頭蓋冠	頭面骨破損、脳の一部遺存、成人、男女不明	54-1,2と同一
6	667	D2区・骨006	ヒト	一	脳節蓋	頭面骨破損、成人または青年、男女不明	
7	162	B1区②・遺構掘削	ウシ		頭蓋骨		
8	652	D2区東半削側・遺構掘削	ウシ		脳節蓋と左鼻骨		
9	662	A1区・骨001	ウシ	左	椎骨	尺骨	
10	663	A1区・骨002	ウシ	左	尺骨	肘頭と遠位部破壊	
11	665	A2区・骨004	ウシ	右	下頸骨	切歯槽部破損、永久犬歯歯冠未萌出、P2は萌出完了直後、P3は萌出中、M3は萌出完了直前、4歳前後	
12	132	A2区④・遺構掘削	ウシ	左	下頸骨	P3の歯槽以後下頸枝の一部まで遺存、P4~M3は軋植	
13	407	A1区・P6	ウシ	右	尺骨 & 楼骨	肘頭破壊	
14	121	A2区④・遺構掘削	ウマ	右	棟骨		
15	113	A1区②・遺構掘削	ウシ?	右	脛骨	馬骨端破壊	
16	295	A2区・B2区・木017-019~021土台部	ウシorウマ	右	肋骨(中位)	馬骨端破壊	
17	294	A2区・木015土台部	シカ	右	上腕骨	近位部破壊	
18	126	A1区③・遺構掘削	イノシシ	左	脛骨	馬骨端破壊	
19	230	A2区・遺構掘削	ウシ	右	距骨		
20	276	A1区・土器56~058土台部	不明	不明	骨?		
21	277	A1区・石017~057付近土台部	スッポン	不明	肋骨		
22	77	A1区西半・第4層	骨片	不明	不明		
23	276	A1区・土器56~058土台部	不明	不明	骨?		
24	293	A1区・A2区・木012~014土台部	骨片	不明	不明		
25	337	A1区・中央落ち込み	ウシ?	不明	角?		
26	132	A2区④・遺構掘削	骨片	不明	不明		
27	288	A1区・回02・第3層	骨細片	不明	不明		
28	142	A1区・土器031土台部	骨片	不明	不明		
29	147	B1区④・遺構掘削	ウシ	右	腰骨	馬骨端破壊	
30	147	B1区④・遺構掘削	ヒト	左	尺骨	肘頭と遠位部破壊、鈎状突起内側	
31	145	B1区②・遺構掘削	イノシシ	左	腕骨	馬骨端破壊	
32	211	B2区・セクション2・遺構埋土	カメ	不明	薄甲板		
33	266	B2区③・遺構掘削	ウマ	左	上腕骨		
34	50	B1区東半・第3層	ウマ	不明	臼歯片		
35	190	B1区・傳統式製品付近・遺構理土	ウシ	不明	上歯前臼歯		
36	162	B1区②・遺構掘削	ウシ	不明	上歯前臼歯		
37	150	B1区・遺構面上	不明	不明	寰状の骨?		
38	147	B1区④・遺構掘削	不明	不明	骨?		
39	336	B1区・C1区・木044土台部	骨片	不明	不明		
40	215	C1区・北壁・ゼ・遺構理土	ヒト	左	大腿骨	馬骨端破壊、若い?	
41	153	C1区①・遺構掘削	ウシorウマ	不明	尾骨片		
42	166	C1区③・セクション3・西側・遺構掘削	ウマ	左	下頸骨	前臼歯以後遺存	
43	155	C1区①・遺構掘削	ウシ	右	上腕骨	馬骨端破壊	
44	154	C1区②・遺構掘削	ウシorウマ	右	肋骨(中位)	馬骨端破壊	
45	157	C1区①・遺構掘削	ウシorウマ	右	肋骨(中位)	馬骨端破壊	
46	94	D2区・西半・第4層	ウマ	不明	中足骨	馬骨端破壊	
47	158	C2区②・遺構掘削	ウシorウマ	左	脛骨	馬骨端破壊	
48	158	C2区②・遺構掘削	ウシorウマ	不明	尺骨片	馬骨端破壊	
49	59	C2区東半・第3層	ウマ	不明	上臼臼歯		
50	233	B1区・C1区・階段下木材周辺・遺構埋土	ヒト	不明	大腸骨片		
51	153	C1区①・遺構掘削	骨細片	不明	不明		
52	159	D2区・東半削側・遺構掘削	ヒト	右	上頸骨	M1釘・摩耗あり	
53	668	D2区・土器50土台部	大型哺乳類	不明	長骨片		
54-1	104	D1区北壁・第1~2層	ヒト	右	頭頸骨		
54-2	104	D1区北壁・第1~2層	ヒト	左	側頭骨		54-1と同一
54-3	104	D1区北壁・第1~2層	ヒト	不明	筋骨		
54-4	104	D1区北壁・第1~2層	ヒト	不明	頭蓋骨		
55-1	159	D2区・東半削側・遺構掘削	ヒト	不明	頭蓋骨片		
55-2	159	D2区・東半削側・遺構掘削	ウシ	不明	上頸臼歯	55-1と同一個体	
55-3	159	D2区・東半削側・遺構掘削	ウシ	不明	上頸臼歯	55-1と同一個体	
56	373	D2区・木052~053土台部	不明	不明	頭蓋骨片		
57	2	ヘルニア・たたし鉗脚中	ヒト	不明	骨?		
58	768	E1区東半部・遺構掘削	ウマ	不明	中足骨	蹠骨	
59	769	E1区西半部・遺構掘削	ウマ	右	尺骨 & 楼骨	肘頭と遠位端破壊、蹠骨近位骨端線遺存?	
60	709	E2区中・遺構理土	大型哺乳類	不明	長骨骨幹		
61	790	E2区・下層	大型哺乳類	不明	長骨片		
62	762	E2区・下層	ウマ	不明	上臼臼歯		
63	786	E2区・北西隅下層	不明	不明	骨?		
64	767	E1区・下層	不明	不明	骨?		
65	807	F1区東半・下層	ウマ	不明	中手骨	近位端破壊、遠位骨端未癒合?	
66	809	F1区西半・下層	ウシorウマ	不明	上腕骨	遠位端節部より上部遺存	
67	821	G1区東側深部・上層	ウシorウマ	不明	長骨		
68	825	G1区東半・下層	ウシ	左	脛骨	近位端破壊	

第5章　まとめ

以上、今回の発掘調査では、砂層を主体とする河川堆積物中において数多くの遺物を検出するとともに、かつての川床面を確認した。出土遺物については時代幅の広いものであったが、飛鳥時代から奈良時代の遺物が多くを占め、残存状態の良好なもののが多数あった。特に調査区東側での出土量が多く、川床面には多数の土器や瓦等の遺物とともに、木杭や杭跡と考えられるピットを確認することができた。木杭やピットは、東側からの川の流れに対して直交あるいは平行する方向性での並びが認められ、ここに橋や桟橋等の何らかの構築物があったものと考えられる。その年代については、多量の遺物が出土した飛鳥時代から奈良時代のものという可能性もあるが、出土量の差はあれ、弥生時代から中世までの遺物が混在する状況では、現在のところ年代を判断することは難しい。

この木杭・ピットの年代に関しての問題は残るが、ここで、今回立った遺物の出土状況をみせた飛鳥時代から奈良時代の様相を中心に、今回の発掘調査の成果についてまとめてみたい。

まず、当該時期の遺跡の性格についてであるが、遺物の出土状況からみて、2つの可能性が考えられる。1つは、多数の瓦が出土していることから、寺院と何らかの関係があるのではないかという可能性である。そして、もう1つには、残存状態の良好な遺物が大量にあったことから、この付近に港などの物流の施設があり、そうした場に集まった品々が洪水などによって埋没してしまったのではないかという可能性があげられる。

寺院との関係という点については、7世紀後半から8世紀初頭頃の瓦が大量に出土しており、当時の瓦の用途先を考えると、まず寺院との関連性が思い浮かぶ。宮都や官衙等への供給を目的としたものという可能性も全くないわけではないが、寺院との関連性がもっとも考え得るであろう。ただし、今回の出土瓦については完形品に近いものが多く、実際に屋根に葺かれた痕跡が認められない。このことから、今回の出土瓦については、寺院に関わるものであったとしても使用前で供給途上のものであるといえよう。調査区の近隣に寺院が存在したのか、あるいは遠方地への運搬途中のものなのだろうか。そして、今回出土した瓦の中には軒丸瓦があり、2種類の瓦当文様があったが、これまでのところ他遺跡出土のもので同范の瓦当は確認できていない。瓦当文様の系統をたどることができれば、寺院との関係性を含め、当該時期の五反島遺跡の性格を知る上での重要な手掛かりとなるであろう。

さて、仮に瓦が供給途上であるとしてみると、この点に関しては、もう1つの可能性である物流の場という点にも繋がってくる。調査区東側では瓦とともに須恵器の甕や壺などがまとまって出土し、それらは日常的に使用されていたとは考えられないほど良品が数多くあった。さらに、A区では大型の甕が集中し、E区では短頸壺がまとまって出土するなど、ある器種がある場所にかたまって出土する傾向が認められた。これは須恵器だけではなく、B1区では長身の鉄鎌が50点近くまとまって出土し（この鉄鎌が当該時期のものとは断定できないが）、和同開珎など銭貨が集中して出土した地点がA区で2か所あった。このような状況は、何らかの要因で

埋没した遺物が自然に流されてきた結果であるとは考えにくいであろう。おそらく、そこには人為的な意図が働いているものと考えられる。例えば、須恵器が器種ごとに集められて配置された結果、場所によってはある器種がまとまって出土するといった状況に至ったのではないだろうか。そして、これは器種ごとに製品を置く必要性があったからであり、その1つの可能性としては製品として運ばれてきたものが種類ごとに分類されて置かれたことが想定できる。

当時、五反島遺跡がどのような環境であったかを正確には把握できていないが、少なくとも河川下流域の低地であり、河川敷・川岸に位置していた。おそらく日常的に生活を営む一般集落が広く展開していたとは考えにくい環境にあったであろう。さらに、河川流域であることと、一般集落に伴うとは想定しにくい瓦や須恵器等の製品が多く集中していることを勘案すると、当地には物が集まる機能があったととらえることがもっとも考えやすいであろう。つまり、ここには港や橋などの物流機能をもった施設があったと想定でき、そこに集積された製品が種類ごとに一時的にでも分類されて置かれていたのではないだろうか。そして、このように考えると、先述の杭やピットとの関連性を想起せざるを得ないのであるが、この点については、現時点では杭等の時期の断定は難しいので、飛鳥時代から奈良時代にかけての遺物との関連性をこれ以上具体的に議論することは難しい。

このように、飛鳥時代から奈良時代にかけての遺物の出土状況、調査区の位置や環境等を考えあわせると、今回の調査において得た当該時期の資料の性格は、物流に伴うものという可能性が高いものといえ、瓦の存在からはそこに寺院との関連をも含むと考えられる。そして、物流の場と仮定して考えるならば、ここで出土した遺物は、ここから積み出すものなに他所から入ってきたものなのかという問題になる。また、ここから積み出すといつても、必ずしも吹田在地で生産された製品ということではなく、船を用いた水運ならば、ここが他地域間の製品の往来の中での積み替え地点である可能性も考え得る。出土した須恵器には播磨産、東海産など他地域での生産とみられるものも含まれており^(注1)、また、五反島遺跡周辺では生息していない貝を入れた須恵器長頸壺(218)の出土などからも、少なくとも在地産の製品だけで今回の出土遺物が構成されていたのではないことは確かである。

なお、当該時期の遺物としては、瓦・須恵器・土師器などだけではなく、和同開珎・萬年通寶・神功開寶が合わせて55点出土した。平安時代鑄造の隆平永寶・承和昌寶も3点出土しており、これだけの数の皇朝十二錢がまとまって出土することは都城や官衙、寺院関連の遺跡を除いてそれほど多くないであろう。このようにみると、瓦の出土もあることから、今回の出土錢貨は寺院との関係性を想起させるものとなる。ただし、ここが物流の場であったと考えると、経済的取引のために実際に錢貨が用いられたという可能性も考え得る。また、錢貨が地鎮等の祭祀に用いられる事例が多く報告されており、八尾市小阪合遺跡では河川跡から皇朝十二錢が、(財)大阪府文化財調査研究センターが平成9・10年に実施した調査で69枚、(財)八尾市文化財調査研究会が行った第40次調査で23枚出土しており、これらは水辺祭祀に伴うものであると考えられている。五反島遺跡も河床遺跡であることを考えると、今回出土の錢貨が祭祀に伴って

使用されたものという可能性も考えなければならない。この祭祀という点については、昭和61年度の発掘調査の成果にも関わっており、後ほど改めて述べることにするが、多量の銭貨の出土からは、寺院との関連、物流の場、祭祀との関連という可能性が考えられる。

このように、銭貨出土の側面からも、寺院や物流との関連が想起されるのであるが、仮にこの2つの可能性が両者とも備わっているものとしたらどうであろうか。その場合、2つのことが想定される。1つは、当該時期の瓦や須恵器等の遺物の多くが寺院に向けた運搬途中の品々であり、その物流経由地が当遺跡であったという見方である。瓦ばかりでなく、須恵器や土師器などの遺物についても寺院への運搬物であるとすれば、一般集落に関わるものとしては多量すぎるとの感がある須恵器の出土量や小型ながらも丁寧な暗文が施されている土師器の壺や皿の存在にも合点がいく。

そして、もう1つ想定されることが、何らかの物流施設があった当地近隣に寺院が存在したという見方である。五反島遺跡自体は低地部に位置しており、現在の標高で概ね3~4m台となるが、当調査区付近については5~6mで、遺跡範囲外も含めて東西方向に約280m、南北方向に50~90mほどの範囲で自然堤防と考えられる微高地となっている。果たして、飛鳥時代から奈良時代にかけての地形がどうであったかは定かではないが、当時も付近が微高地であったならば、広大な敷地を持たずとも、小規模な寺院施設が存在した可能性が全くないとはいえないであろう。古代寺院が交通の要所に立地することがみられるという指摘もあり^(注2)、この点でいうと、河川を介した物流の場の近隣に寺院が存在していた可能性は残る。

ところで、第3章遺物の項目でも述べたが、須恵器の甕や壺などには、まとまりをもって出土した同器種内においても個々で形態差が認められ、形態だけをみると個々の遺物で年代観が異なるものがみられた。これまで述べてきたように、仮に当該時期の遺物の多くがこの場所に同時期に持ち込まれたものとするならば、こうした形態差や年代観の違いなどをどのようにとらえるべきなのか、今後検討すべき課題であることを付け加えておく。

さて、以上のように、飛鳥時代から奈良時代にかけての五反島遺跡の性格としては、寺院との関係、そして物流の場という2つの可能性が考えられるのであるが、今回の調査では、平安時代の遺物も比較的多く出土し、特徴的なものもみられた。その中には飛鳥時代から奈良時代にかけての遺跡の性格にも関連するのではないかと考えられるものもあった。その1つが墨書き土器である。

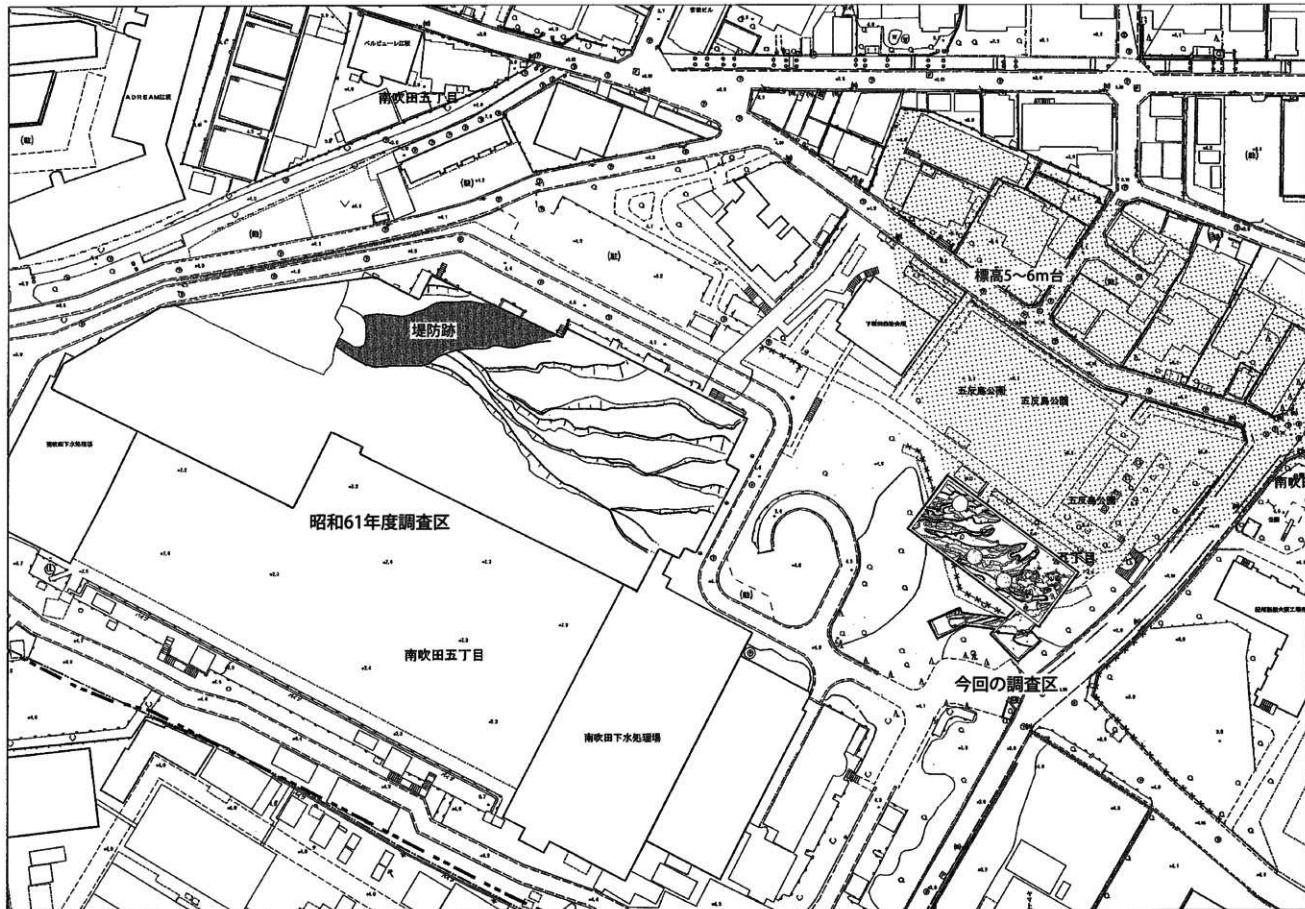
今回出土した墨書き土器は、転用硯の可能性があるものを含めて22点あり、奈良時代のものもあるが、概ね平安時代の所産と考えられる資料であった。その中で、8世紀末から9世紀初頭のものと考えられる土師器壺に「安寺」、10世紀前半のものと考えられる須恵器壺に「○寺」という墨書きが認められた。後者須恵器の墨書きの上の文字については欠損のため断定できないが、「垂」という文字の下の部分に似ている。これが「垂寺」であるならば、五反島遺跡周辺に展開していた垂水荘や垂水西牧と同じ地名を冠する寺院が、当遺跡近辺に存在していた可能性を示すものとなる。この点に関しては現段階で明確なことはいえないが、少なくとも平安時代初頭

から中期にかけて近隣に寺院が存在した可能性は高いといえる。

このように、平安時代の遺物においても寺院に関連する資料が確認できる。しかし、この資料が、前代の飛鳥時代から奈良時代にかけての出土瓦と関連していくものなのかどうかはわからない。

さて、先にも少し触れたが、昭和61年度の発掘調査では平安時代の遺物が大量に出土し、そこには唐式鏡や鉄鎌、鉄鎌、竈などの特異な遺物が多数あり、ここで祭祀が執り行われたのではないかと考えられた。特に、延喜式記載の八十島祭の祭料の一部と鏡や鉄鎌などが一致することと、八十島祭での祭神の1つ垂水神が五反島遺跡の北方約1.7kmに位置する式内社垂水神社に祀られていることなどから、天皇の即位儀礼である八十島祭との関連性についても想定された。そして、今回の出土遺物についても鏡の出土こそなかったが、鉄鎌、鉄鎌、竈など前回の調査と同様の遺物も多数出土している。ただし、これらの遺物については、詳細な時期を判断しがたい側面がある。前回の発掘調査では、平安時代の土器等に伴うものと判断されて、平安時代に祭祀に伴い水中投棄されたものと考えられたが、今回出土の特異な遺物も前回のものと形態的にはさほど大きくは変わらないものであり、今回の出土状況だけで鉄製品や竈をみると、飛鳥時代から奈良時代のものとしてもとらえ得る。しかし、現時点では、細かな年代の判断は難しく、鉄製品や竈の時期については、飛鳥時代から平安時代にかけてという大枠の中でしかいえない。こうした点から前回の祭祀的要素をもつといわれる遺物を改めてみると、それらすべてを平安時代のものと言い切るのは難しいといえる。特に、八十島祭説の根拠ともなった唐式鏡については、中国での製作年代は8世紀後半と考えられており、当遺跡にこの鏡が埋没した時期が当初想定された平安時代前期よりも若干遅る可能性もある。この点で八十島祭との関連性を考えるにはもう少し検討を要すべき課題があるといえよう。ただし、これらの遺物には祭祀的な側面を想起させる要素があり、特に今回皇朝十二鏡が58枚出土したという点でも、飛鳥時代から平安時代にかけての五反島遺跡を考える上で祭祀的側面をも視野に入れておく必要はある。

なお、前回の調査においても、五反島遺跡の性格として、物流上の拠点ではないかという指摘がなされている。特に、785年に三国川の開鑿で淀川と繋がったことにより、西国から平安京への水運の中継点として五反島遺跡の位置づけが高まり、平安時代に堤防が整備され、そして大量の遺物が出土したのではないかと考えられた。しかし、今回の調査では、前代の飛鳥時代から奈良時代の遺物が大量に出土した。そして、その性格としては物流の場という可能性が1つ考えられる。この点で、五反島遺跡では、平安時代に限らず、その前代からも物流拠点としての性格を有していたという可能性がある。また、前回の調査では古墳時代の遺物も多数出土している。古墳時代の遺物から五反島遺跡の性格をどう読み解くかは検討すべき課題であるが、仮にこれらも河川を介した交流の中で五反島遺跡に集まってきたものであれば、中断はあったかもしれないが、五反島遺跡はかなりの長期間にわたり、河川を介した物流の場としての性格を有していた可能性がある。前回の調査区と今回の調査区とでは、どちらも弥生時代から中



第185図 昭和61年度検出遺構との位置関係 (S=1 / 1,000)

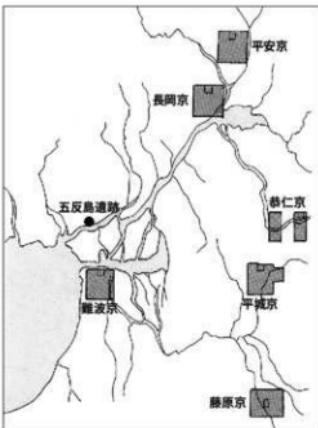
世にかけての時代幅の広い遺物の出土がみられたが、その主体となる時期は異なっていた。これについては、河川の氾濫等によって環境が変化し、時代によって物流機能の場所が移っていったことによるのではないかとも想像できる。そして、三国川の開鑿が1つのきっかけともなって、昭和61年度の調査区で検出された堤防が平安時代に構築され、その場所が水運の拠点として整備されたのかもしれない。

なお、物流という側面からみて、平安時代においては西国と平安京を結ぶ水運の中継地点として、五反島遺跡の1つの位置づけとしてとらえることが可能であるが、飛鳥時代や奈良時代において、五反島遺跡はどの方面を向いた位置づけとなっていたのであろうか。おそらく、五反島遺跡の立地からは瀬戸内海を通じた西国方面との窓口になっていたことはいえよう。しかし、五反島遺跡から以東については、当時、都が飛鳥、難波、平城京等にあったことを考えると、その向かう方面はどこにあったのであろうか。決して都との関係だけにあるとは限らないが、難波宮が五反島遺跡の南方約8kmの距離にあることを踏まえると、難波宮との関係性は1つ考え得るであろう。しかし、大阪湾を臨む難波宮の立地を考えると、果たして五反島遺跡が西国方面と難波宮とを結ぶ中継地となっていたのかどうかについては検討を要する。また違った方面との繋がりがあったのかもしれない。物流の場という点を五反島遺跡の性格の1つとして議論するならば、地域間交流や交易経路等についてのさらなる検討が必要となる。

以上、昭和61年度の調査成果も踏まえつつ、今回の調査についてまとめてきたが、ここではまとめきれていない課題がまだ多くある。例えば、前回の調査と同様、今回も人骨、獣骨（牛・馬など）が多く出土した。これらの時代は明らかではないが、牛馬骨の出土からは、古代・中世における牧経営など牛馬飼育との関連性が想起させられる。また、今回、中世の卒塔婆が出土し、その中に文明3年（1471年）の墨書きがあるものがあった。前回の調査では享禄元年（1528年）の年号が入る卒塔婆が出土しており、約60年近い時代において当遺跡で亡き人の供養が行われたことを示すものとなる。室町時代においては五反島遺跡が仏供養と関係の深い場所であったのかもしれない。このように、五反島遺跡については、前回の調査成果も踏まえると、広い時代幅をもって検討すべき課題が多くあり、今後はそうした点について機会をもって報告していくことができればと考える。

(注1) 歴史土器研究会の方々からのご教示による。

(注2) 森（1991）、梶原（2012）などがあげられる。



注) 吹田市立博物館（2002）所収図を一部改変。

第186図 五反島遺跡と都城の位置関係

《主な参考文献》

- 稻田孝司（1978）「忌の竈と王權」、考古学研究 25-1。
- 大川 清・鈴木公雄・工楽善通編（1996）『日本土器事典』、雄山閣出版。
- （財）大阪府文化財調査研究センター編（2000）『小阪合遺跡』。
- （財）大阪府文化財センター編（2006）『古式土師器の年代学』。
- 梶原義実（2012）「伊勢地域における古代寺院の選地」、名古屋大学文学部研究論集、史学 58。
- （財）古代学協会・古代学研究所編（1994）『平安京提要』、角川書店。
- 黒崎 直（1996）『古代の農具』、至文堂。
- 小森俊寛（2005）『京から出土する土器の編年研究』、京都編集工房。
- 下関市教育委員会編（2015）『下関市文化財調査報告書 38 要須遺跡』。
- 吹田市教育委員会編（1996）『吹田市五反島遺跡発掘調査報告書 自然科学編』。
- 吹田市教育委員会編（2002）『吹田市五反島遺跡発掘調査報告書 遺構編』。
- 吹田市教育委員会編（2003）『吹田市五反島遺跡発掘調査報告書 遺物編』。
- 吹田市立博物館編（2002）『川の古代祭祀—五反島遺跡を考える—』。
- 吹田市立博物館編（2003）『開館 10 周年記念シンポジウム 古代祭祀を語る—五反島遺跡と古代祭祀—』。
- 吹田市史編纂委員会編（1990）『吹田市史第 1 卷』。
- 菅原正明（1989）「西日本における瓦器生産の展開」、『国立歴史民俗博物館研究報告第 19 集』。
- 田辺昭三（1981）『須恵器大成』、角川書店。
- 中世土器研究会編（1995）『概説中世の土器・陶磁器』、真陽社。
- 津野 仁（1990）「古代・中世の鉄鋤—東国の出土品を中心にして—」、物質文化 54。
- 寺沢 薫（1991）『収穫と貯蔵』、石野博信他編『古墳時代の研究 4』、雄山閣出版。
- 中村 浩（1981）『和泉陶邑窯の研究』、柏書房。
- 中村 浩編（1995）『須恵器集成図録 第 1 卷 近畿編 I』、雄山閣出版。
- 中村 浩（2001）『和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年』、芙蓉書房出版。
- 中村 浩・藤原 學編（1996）『須恵器集成図録 第 2 卷 近畿編 II』、雄山閣出版。
- 奈良国立文化財研究所編（1975）『平城宮発掘調査報告 VI』。
- 日本中世土器研究会編（1994）『中世土器の基礎研究 X』。
- 橋本久和（1992）『中世土器研究序論』、真陽社。
- 森 郁夫（1991）『日本の古代瓦』、雄山閣出版。
- （財）八尾市文化財調査研究会（2006）『小阪合遺跡第 40 次調査現地説明会資料』。
- 渡邊淳子（2000）「都と齋—七世紀飛鳥・藤原地域における煮炊具の研究—」、文化財学報 18。

遺物観察表（土器・土製品）

遺物 番号	原種号	種類	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時間	調整	備考
1	172-4	弦生土器要	D1 区④・遺構剖面	口縁部分小片	—	外) 砂 2.5N7/2 淡黄 内) 砂 10N9/7.2 及び黄白 内) 砂 10Y8/4 及び白、10YR/1 黄白 内) 砂 10N9/7.2 及び黄白	弦生剖面 もしくは中間 磨耗で調整不能	付着物で調整不能	・口縁部に孔み目。 ・剥離部で 5 段の水瓶。
2	872-2	弦生土器要	F 区西北部・遺構剖面	口縁部分小片	—	外) 10N9/7.2 及び黄白 内) 砂 10Y8/4 及び白、10YR/1 黄白 内) 砂 10N9/7.2 及び黄白 内) 砂 10N9/7.2 及び黄白	弦生剖面 もしくは中間 磨耗で調整不能	付着物で調整不能	口縁部に孔み目。
3	143-6	弦生土器要削型	E1 区④・遺構剖面	上部のみ 1/4 残 高 6.6 (既存高)	口径 12.8 (復元) 高 6.6 (既存高)	外) 10N9/7.3 及び黄白 内) 砂 10N9/7.6 及び 砂 7.5N7/6 錆	弦生剖面 外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	口縁部に孔み目。
4	125-1 127 地	弦生土器要	A1 区②・遺構剖面 A1 区③・遺構剖面	他 1/2 残	口径 12.8 (復元) 高 20.7	外) 7.5N9/2 及び 砂 7.5N9/7.2 淡褐灰	弦生剖面 外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	口縁部に孔み目。 ・タキリ調整 ・底部内面：板ナデ
5	720	弦生土器要	E 区・土器 155	上部のみ 1/2 残 高 15.4 (既存高)	口径 13.3 (復元) 高 15.4 (既存高)	外) 5Y6/6 錆 内) 7.5N7/3 及び黄白	弦生剖面 外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	口縁部～全体上端内外面：ヨコナデ 体部外面：タキリ後下位は指ササ工
6	532 110 地	弦生土器要	A1 区下位・土器 109 C2 区東半剖面 ・遺構剖面	他 1/2 残 下部のみ残存	高 6.6 (既存高) 内) 10Y5/2 及び、10Y6/1 淡灰 内) 10Y6/4 及び、10Y6/3 及び 内) 10Y6/2 及び、10Y6/1 淡灰	外) 10Y6/3 及び黄白 内) 5Y3/1 壁アーブ裏 内) 砂 5Y4/2-灰オリーブ	弦生剖面 外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	体部外面：タキリ調整 底部外面：ナデ 底部内面：ナデ
7	21-4	弦生土器要	C1 区・セクション③ ・遺構埋土	体部のみ 1/4 残 高 8.4 (既存高)	口径 12.2 (復元) 高 12.0 (既存高)	外) 7.5N9/2 及び 砂 7.5N9/3 及び黄白 内) 10N9/7.2 及び黄白	弦生剖面 外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	外) ハケ 腹壁 内) 板ナデ	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ナデ (既存下位はハケ目次) 底部内面：ナデ (ハラミガホ)
8	121-2	土器要	A2 区④・遺構剖面	上部のみ 1/3 残 高 13.3	口径 13.3 高 13.4	外) 10Y6/3 淡黄橙 内) 砂 10Y6/3 淡黄橙	古墳剖面 外) ハラミガホ	古墳剖面 外) ハラミガホ	口縁部：ヨコナデ
9	440	土器要	A1 区・土器 017	口縁部 1/3 残 高 15.4	—	外) 砂 10Y6/3 淡黄橙	古墳剖面 外) ハラミガホ	古墳剖面 外) ハラミガホ	口縁部：ヨコナデ
10	540	土器要	A1 区下位・土器 117	口縁部 4/5 体部一部欠損 高 15.2 (既存高)	—	外) 砂 7.5N9/3 に近い 色	古墳剖面 外) ハラミガホ	古墳剖面 外) ハラミガホ	体部～底部外壁：ナデ (既存下位はヘラアリ) 底部内面：ナデ
11	295	土器要	A2 区・B2 区・木 017 ・019・Q21 土台部	上部のみ 1/4 残 高 10.3 (既存高)	口径 16.4 (復元) 高 10.3 (既存高)	外) 砂 10Y6/2 淡黄橙	古墳剖面 外) ハラミガホ	古墳剖面 外) ハラミガホ	口縁部外壁に指痕有る。 (既存下位はナデ)

調査報告書							
遺物番号	種類	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調	時期	備考
12 111-3	土師器底	C2 区西半周削 ・邊縁部削	口縁部欠損	高さ 11.3 (保存高) 内) 10φ7.4 黄褐色、 10φ7.4 黑褐色、 2.5φ6.2 白	古墳期 他	古墳期 他	体部外側に径約 5 mm の 穴孔あり。
13 102 154-他	土師器底 C1 区・第 4 層	C2 区西半・セクショニアリ C1 (区)・邊縁部削	1/3 残	口径 16.7 (復元) 器高 2.38 (保存高) 内) 10φ8.5 白	古墳期 他	古墳期 他	体部外側には擦れが付着。 口縁部～体部内面・ヨコナデ 体部内面：ハケアリ (下部は指サエ)
14 170-5	土師器底	D1 区 (区)・邊縁部削	上面のみ 1/5 残	口径 14.3 (復元) 器高 1.55 (保存高) 内) 10φ8.8 2.5φ6.2 白	古墳期 他	古墳期 他	口縁部～体部内面・ヨコナデ 体部内面：ハケアリ
15 214	土師器底	C1 区・セクション (3) ・邊縁部削	口縁部のみ 1/6 残	口径 17.7 (復元) 器高 3.6 (保存高) 内) 10φ7.6 2.5φ7.6 白	古墳期 他	古墳期 他	残存部全体：ヨコナデ
16 15	土師器底	B1 区東半・第 2 層	上面のみ 1/8 残	口径 14.0 (復元) 器高 4.4 (保存高) 内) 10φ6.3 2.5φ6.3 白	古墳期 後期	古墳期 後期	口縁部外側・ヨコナデ 体部外側：ハケアリ (頭部で開裂不明瞭) 体部内面：ハテ (指痕確認する)
17 209-1	土師器底	B1 区・セクション (2) ・邊縁部削	1/2 残	口径 11.7 (復元) 器高 18.4 (保存高) 内) 10φ7.3 黄褐色	古墳期 他	古墳期 他	口縁部～体部内面・ヨコナデ 体部内面：ハケアリ
18 111-4	土師器底	C2 区西半周削 ・邊縁部削	1/4 残	口径 15.9 (復元) 器高 16.0 (保存高) 内) 2.5φ7.3 黑、 5φ6.4 黄褐色、 5φ6.4 黑	古墳期 後期	古墳期 後期	口縁部～口縁部外側・ヨコナデ 体部内面：ハケアリ 体部内面：ハテ (指痕確認する)
19 825-5	土師器底	G 区東半・下層	上面のみ 1/4 残	口径 18.8 (復元) 器高 10.8 (保存高) 内) 10φ6.3 黄褐色	古墳期 後期	古墳期 後期	口縁部外側・ヨコナデ (内部) ハケ目録名： 体部外側：ハケアリ 体部内面：ハケアリ
20 143-4	土師器底	E2 区 (4)・邊縁部削	口縁部のみ 2/5 残	口径 23.1 (復元) 器高 8.3 (保存高) 内) 10φ6.3 黄褐色	古墳期 他	古墳期 他	口縁部外側・ヨコナデ (外底) ハケ目録名
21 22-1	土師器小形丸底盤	G1 区・第 7 回重ね焼出し (A 区)	口縁部わざがに 欠損	口径 10.8 高さ 7.6 外) 5φ6.6 白、 5φ6.1 白 内) 5φ6.6 白	古墳期 他	古墳期 他	口縁部外側・ヨコナデ 体部上半外側・ハケ調整 体部下半外側・ハケアリ 体部内面：ハテ
22 573-2	土師器底	D2 区・土器 150	1/4 残	口径 14.0 (復元) 器高 5.2 (保存高) 内) 10φ7.4 黄褐色 10φ7.3 黄褐色	古墳期 他	古墳期 他	口縁部外側・ヨコナデ 体部外側：ハケ調整 体部内面：ハテ
23 775 798	土師器底または盤	E1 区東半部・邊縁部削 E2 区東半部・邊縁部削	上面のみ 1/3 残	口径 14.1 (復元) 器高 5.6 (保存高) 内) 10φ7.5 2.5φ6.4 黄褐色	古墳期 後期	残存部全体・ナデ (体部正摩擦を避ける)	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調		時期	備考
					外) 1076/3にぶい黄褐色 内) 1076/4にぶい黄褐色 1076/3にぶい黄褐色	外) 古墳前期 脚部外側・脚部内側 : ヨコナデ		
24 769-5 769他	土師器蓋	E1区東半部・遺構剖面 E1区西半部・遺構剖面	片厚 1/6 次掘	口径 13.8 高さ 10.4	外) 1076/2灰褐色、 1076/2灰褐色	古墳前期	注記あり。	
25 170-9	土師器蓋	D1区少・遺構剖面	片厚 3/5・ 幅面大きさく次掘	口径 15.8 (復元) 高さ 12.5 (残存高)	外) 断 1076/2灰褐色、 1076/2灰褐色	古墳前期	片厚外側に少々目、脚柱前面に少々瘤 残すが、全体的に次者物のため、崩壊不 規則。	
26 110-4	土師器蓋	C2区東半部・遺構剖面	片厚 1/2・ 幅面大きさく次掘	口径 14.6 (復元) 高さ 11.7 (残存高)	外) 断 1076/3にぶい黄 1076/2灰褐色	古墳前期	片厚内側 : ヨコナデ 脚柱前面外側 : ハラナデ 脚柱前面内側 : ナデ	全体的に擦れ・洗着 に少し、調査・修復。
27 111-10 1238他	生土器底毛(くは)棒 土師器蓋または棒	C2区西半部・遺構剖面	台部を中心 に 1/3 残	底径 9.6 (復元) 高さ 6.5 (残存高)	外) 2.5/5/1 黄灰 1076/1 黄灰 2.5/5/2 灰褐色	古墳前期 古墳または 劣生地盤?	台面外側 : ナデ (ハケ目盛る) 台面内側 : ナデ (板状のものによる) 口縁端面 : ヨコナデ	
28 147 238他	土師器底	B1区④・遺構剖面 B1区・遺構剖面	1/3 残	口径 18.0 (復元) 高さ 9.9 (残存高)	外) 1076/1 黄灰 2.5/5/1 黄灰 5/6/4 にぶい黄、2.5/4/1 黄灰	古墳前期?	内側 : ハケ目盛 外側 : 口縁端附近に少々目、底部に稍 凹でかみられるが、調査者のために削 除不規則	
29 199-2	土師器底	A区・セクション① ・遺構出土	口縁断 1/4 次掘	口径 12.4 高さ 3.5	外) 2.5/6/3にぶい黄 内) 断 2.5/7/3灰黃	古墳後期?	体削下半へ底部外面 : ヨコナデ (一部) ケ目盛る	
30 704-2	韓式灰土器?鉢	E区・中央石塗清漆 ・遺構出土	口縁多穴状	—	外) 1076/2灰褐色 内) N3/0 離灰	古墳?	外側 : タタキ調査 (格子目) 内側 : ナデ	
31 361	須恵器蓋	A2区・木3号台版	1/2 残	口径 12.7 高さ 3.0	外) 2.5/5/1 オリーブ灰、 2.5/6/7/1 オリーブ灰	古墳後期	天井部外面 : 回転ヘラケアズ 他 回転ナデ	
32 96-1 312	須恵器蓋	A2区・セクション① A2区・木7号台版	4/5 残	口径 14.5 高さ 4.4	外) N5/0 灰 内) N5/0 灰、N1/5/0 黒 N5/0 黑	古墳後期	天井部外面 : 回転ヘラケアズ 他 回転ナデ	
33 748	須恵器蓋	E区・土器 163	完形	口径 13.1 高さ 4.2	外) N5/0 灰 内) N5/0 灰	古墳後期	天井部外面 : 回転ヘラケアズ 他 回転ナデ	
34 825-2	須恵器蓋	G区東半・下層	1/3 残	口径 15.0 高さ 5.0	外) 5/6/1 黄灰 内) N7/0 灰白	古墳後期	天井部外面 : 回転ヘラケアズ 他 回転ナデ	
35 119-3	須恵器蓋	A2区・遺構剖面	完形	口径 12.8 高さ 4.7	外) N5/0 灰 内) N5/0 灰	古墳後期	底面 : 回転ナデ	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調	時期	備考	
							口縁部外面	回転ナデ
36 556 298他	須恵器	A2区下位・土器 133 A1区・②区底部 3・台形 他	口縁部2/3・ 底部1/4残 外)	口径13.0(復元) 高さ13.8(保存高)	N40灰、N50灰 内) N20灰、N40灰 底) N50灰	古墳中期～ 後期?	口縁部外面下半・カギ目 体部外面下半・タキ目 体部内面下半・回転ナデ 体部内面下半・ナデ(自家崩壊)	
37 486	須恵器底	A2区・土器 063	口縁部1/6欠損	口径2.2～6.7 高さ2.30	外) 内) N40灰 新) N40灰白	古墳後期	口縁部外面: カギ目 体部上部: カギ目 体部内面: カギ目	
38 121-3	土師器坏	A2区・樂器ア型・第3層	1/4残	口径18.8(復元) 高さ1.5(保存高)	外) 579853にぶい赤褐色 内) 新) 579854にぶい赤褐色	TC	体部下半～底部外面: 地ササエ及びナデ 底部内面: 地ササエ及ヨコナデ(自家崩壊 いへらミガ)	
39 42	土師器底	A1区・第3層	1/4残	口径18.3(復元) 高さ10.1(保存高)	外) 579864にぶい赤褐色 内) 579864にぶい赤褐色 底) 579866他。 (07882灰白)	TC?	口縁部外面: フオカワニゲナデ (一箇所のみ)(ナメ) 体部上半外側: ハケ装飾 体部下半内面: ヨコナデ 底部内面: ナデ	内面に強な放射状の暗 文あり。
40 202-3 203	土師器坏	A2区・セクション① ・須恵器土 A2区・樂器ア型 ・須恵器土	6.7残	口径18.9 高さ7.0	外) 内) 107087/4にぶい黄褐色	TC後半	体部下半～底部外面: ヘラケズリ (地表面に濃赤が暗紅 色化せり)、 底部内面: ナデ 他) ヨコナデ	底部内面に濃赤が暗紅 色化せり。
41 131-2	土師器坏	A2区下位・須恵器	1/2残	口径16.6(復元) 高さ5.1	外) 579864にぶい黄褐色 内) 7.579872灰褐色	TC後半	体部下半～底部外面: ヘラケズリ 底部内面: ナデ 他) ヨコナデ (地表面に濃赤が暗紅 色化せり)	底部内面に濃赤が暗紅 色化せり。
42 560	土師器坏	A2区下位・土器 137	1/3残	口径17.3(復元) 高さ6.6(保存高)	外) 579866體 内) 7.579858灰褐色 底) 107087/4にぶい黄褐色	TC後半	体部下半～底部外面: ヨコナデ・ヘラケ (地表面に濃赤が暗紅 色化せり)	底部内面に濃赤が暗紅 色化せり。
43 434	土師器坏	A1区・土器 011	1/4残	口径16.7(復元) 高さ4.9	外) 7.579844灰、7.579864にぶい黄褐色 内) 579846系褐色 底) 579856明褐色	TC?	体部下半～底部外面: ヨコナデ 底部内面はナデ、口縁部ヨコナデと みられるが、全体的に付着物で調整は 不可能。	
44 294-4	土師器底	A2区・木015土器部	杯形のみ1/3残	口径17.6(復元) 高さ3.7(保存高)	外) 7.579864にぶい黄褐色 内) 579866他 底) 7.579864にぶい黄褐色	TC	口縁部外面: ヨコナデ 杯形内面: ヨコナデ	
45 294	土師器坏	A2区・木015土器部	は抹去形	口径10.0 高さ3.1	外) 107084.4灰 内) 107054.4にぶい黄褐色 底) 7.579858灰褐色	TC後半～ BC初	体部下半～底部外面: 古墳式に較るよう な直底 他) ヨコナデ	
46 552	土師器底	A2区下位・土器 129	抹去形	口径10.0 高さ3.1	外) 2.5771灰白 内) 107087/3にぶい黄褐色 底) 2.5771灰白	TC末～ BC後半	体部下部外面: ヨコナデ 底部内面: ナデ 他) ヨコナデ	抹去形により、兩面 の判別は不明。

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調査	備考
					外	内			
47	土師壺环	A2区下位・土器124	完形	口径12.5 高さ3.6	7.5TR5/2灰褐色 内) 7.5TR5/4にぶい褐、7.5TR2/2黒褐色	7C末～8C初	底部下半～底部外面：指ササ工後ナデ 他ヨコナデ	底部内面により、内面の 調査が不可能。	
48	土師壺环	A2区・木015土台部 A2区・木026・027土台部	5.6残	口径12.1 高さ3.3	外) 内) 10YR6/6明褐色 内) 5TR8/4にぶい褐	7C末～8C初	底部下半～底部外面：指ササ工後ナデ 他ヨコナデ	底部内面(中位)：ナデ	
49	土師壺環	A2区下位・土器138 A2区・木001脚2 ・遺構埋土	3.4残	口径24.3 高さ3.6	外) 2.5TR5/4にぶい赤褐色 内) 5TR8/4にぶい褐 内) 5TR8/4にぶい褐	7C末～8C初	底部～底部外側：ヘラケズリ 底部内面(中位)：ナデ 他ヨコナデ	底部内面に擦刷(傷？) 多數あり。	
50	土師壺環	A2区・土器047	口縁部分わずかに 欠損	口径24.0 高さ4.0	外) 7.5TR7/6褐、2.5YR5/6明褐色、 内) 2.5G5/5オリーブ灰 内) 7.5TR7/6褐 内) 5TR8/3浅褐色	8C前半	底部～底部外側：指ナデ(無いミガキ？) 底部内面(中位)：ナデ 他ヨコナデ		
51	土師壺環	A1区・土器025	口縁部1/5欠損	口径23.3 高さ3.0	外) 5TR7/4にぶい褐 内) 5TR7/4にぶい褐 内) 5TR8/6褐	8C中	底部外側：指ササ工後ナデ 底部内面(中位)：ナデ 他ヨコナデ	底部内面に極く浅い擦 刷あり。	
52	土師壺環	A2区下位・土器125	口縁部2/5欠損	口径20.9 高さ3.4	外) 5TR6/4にぶい褐 内) 2.5TR8/6明褐色	8C中?	底部外側：跡で調査不規 則な内面(中位)：ナデ 他ヨコナデ	底部内面に極く浅い擦 刷あり。	
53	土師壺环	A1区・土器012	口縁部分わずかに 欠損	口径13.8 高さ3.8	外) 内) 7.5TR7/4にぶい褐	8C中	底部下半～底部外側：ヘラケズリ 底部内面：ナデ 他ヨコナデ	底部内面にへたりのもの のが方方向に当たる擦 刷あり。	
54	土師壺环	A1区・土器003	1/8残	口径13.0(復元) 高さ3.0(復元高)	外) 2.5YR2/1黒 内) 7.5TR6/4にぶい褐	8C中	底部下半～底部外側：ヘラケズリ 底部内面(中位)：ナデ 他ヨコナデ		
55	土師壺環	A1区・木028・029土台部 A2区・木028・030土台部	口縁部1/8欠損	口径12.3 高さ2.4	外) 内) 7.5TR6/5褐	8C中	底部外側：ヘラケズリ 底部内面(中位)：ナデ 他ヨコナデ		
56	土師壺环	A1区・土器026	完形	口径13.5 高さ3.7	外) 7.5TR7/3にぶい褐 内) 7.5TR6/4にぶい褐	8C中～後半	底部下半～底部外面：ヘラケズリ 底部内面(中位)：ナデ 他ヨコナデ		
57	土師壺环	A1区・北壁アビ ・遺構埋土	完形	口径13.7 高さ3.1	外) 7.5TR6/3にぶい褐 内) 7.5TR5/6褐	8C末～9C初	底部内面：指ササ工後ナデ 他ヨコナデ		
58	土師壺環	A区・セクション① ・遺構埋土	3.0残	口径15.4 高さ2.5	外) 内) 斷) 7.5TR7/6褐	8C後半	底部下部外側：ヘラケズリ (中位)：ナデ 底部内面(中位)：ナデ 他ヨコナデ		

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期	調査	備考
59 130	土師漆皿	A1区・北壁アセ ・通溝剖面 A1区(2)・通溝剖面	5/6残	口径15.5 高さ:3.1	外) 内) 7.5R8/7にぶい黒。 7.5R7/4にぶい黒	BC未~9C初	底部外面：漆ナサエ後ナデ 他ヨコナデ (横に刷毛は刷毛ナケズ)	底部外面に刷毛があり。
60 128-3	土師漆皿	A1区・北壁アセ ・通溝剖面	口縁部分わざりに 欠損	口径15.8 高さ:3.1	外) 内) 7.5R8/6にぶい黒。 7.5R7/4にぶい黒	BC未~9C初	底部外面：漆ナサエ後ナデ 他ヨコナデ	底部外面に刷毛あり。
61 299	土師漆皿	A2区・木 025 土台部	口縁部1/2欠損	口径14.8 (復元) 高さ:3.1	外) 7.5R8/6.4にぶい黒。 7.5R7/6.6相 内) 7.5R8/6.6相、7.5R8/6相 10R8/7.2にぶい黒。 10R8/7.3にぶい黒	BC未~9C初	底部外面：漆ナサエ後ナデ (底の内面は次回物で調整不能)	底部外面に刷毛あり。
62 126-1	土師漆皿	A1区・セクション① 東壁 Im・通溝剖面 A1区(2)・通溝剖面	2/3残	口径21.3 (復元) 高さ:6	外) 内) 7.5R8/6.4にぶい黒 7.5R7/6相	BC前半	天井前面外縁へラミガキ 天井前面内面(中央) : ナデ 他ヨコナデ	天井前面内面に刷毛文あり。
63 145-1	土師漆皿	A1区西半・第1層 B1区(2)・通溝剖面	1/2残	口径24.1 高さ:2.8 (復元高)	外) 7.5R8/6相 内) 10R8/6相、N50灰	BC前半	天井前面外縁へラミガキ 天井前面内面 : ナデ (やや暗め)	天井前面内面に刷毛文あり。
64 455-2	土師漆皿	A1区・漆痕器裏 土サンプル	面部を中心にして 裏面	口径24.1 (複数高) 高さ:4.1 (複数高)	外) 7.5R7/7.6相、7.5R8/6相 内) 7.5R8/7.6相 10R8/7.6相	BC	天井前面 : ナカ ? (摩耗で不明瞭) 脚部上面 : ナデ 脚部下面 : ナデ 脚部下面下半強 : ハケ削除	天井前面内面に刷毛文あり。
65 523	土師漆皿	A1区下位・土蔵100	1/3残	口径20.0 (復元) 高さ:21.8 (復元高)	外) 10R8/7.4にぶい黒相 P10R8/6.2相 内) 10R8/7.8相	BC後半~ 前半	天井前面外縁 : ハケ削除 (下部は板ナゲの跡ある) 天井前面内面 : ハケ削除 手づくね	ハケ削除の痕跡をもつと考えられる。
66 294-5	土師漆皿	A2区・木 015 土台部	上部のみ1/3残	口径16.6 (復元) 高さ:6.0 (復元高)	外) 10R8/7.4にぶい黒相 内) 10R8/7.4にぶい黒相	BC後半	天井前面外縁 : ヨコナデ	天井前面外縁に刷毛文あり。
67 127-3 238-1	土師漆皿	A1区(4)・通溝剖面 B1区・通溝剖面	2/3残	口径16 (復元) 高さ:4.5	外) 5TR7/6相、10R7/7.1灰白、 10R8/6相 内) 5TR7/6相 10R8/7.3にぶい黒相	BC	天井前面外縁 : ナデ (ハラ状のもの) 他ヨコナデ	天井前面外縁に刷毛文あり。
68 112-1	土師漆皿	A1区(1)・通溝剖面	底部一部欠損	口径10.4 高さ:2	外) 内) 10R7/7.2にぶい黒相	BC	天井前面外縁 : ヨコナデ 天井前面内面 : ナデ (上面はヨコナデ) 伴手~底部内面 : ヘラカタ	天井前面外縁に刷毛文あり。
69 126-2	土師漆皿	A1区(1)・通溝剖面	1/3残	口径12.7 (復元) 高さ:3.9	外) 10R8/4.4にぶい黒相 内) 10R8/6.2灰地 10R8/3にぶい黒相	BC前半?	天井前面外縁 : ヨコナデ 天井前面内面 : ナデ	注口付き。

遺物 番号	種類	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	時期	調査	備考
70 451 126-3	土師器裏	A1区・土器 028 A1区③・遺物剖面	上面のみ 1/3残	口径 24.3 (復元) 器高 14.6 (保存値)	外) 7.57R64 にぶい想、7.57R67 1/2 残底、 7.57R85 1 残底、7.57P71 1/2 残底、 7.57R73 1 残底 内) 7.57R73 にぶい想、7.57R51 1/2 残底、 7.57R72 1 残底	8C	口縁部内外面 : ヨコナデ 体部外面 : ハケ調査 体部内部 : ハラケアリ地テ
71 441 230他	土師器裏	A2区・土器 018 A2区・遺物剖面	上面のみ 1/3残	口径 26.8 (復元) 器高 14.7 (保存値)	外) 10R74.4 にぶい想 内) 10R66.4 にぶい想 10R73 にぶい想 10R74.4 にぶい想 10R73 にぶい想	8C	口縁部内外面 : ヨコナデ 体部外面 : ハケ調査 体部内部 : ハケアリ及ハラ ナデ (表面調査)
72 430 119	土師器裏	A1区・土器 007 A2区②・遺物剖面	1/3残	口径 18.0 (復元) 器高 15.1	外) 10R73.3 にぶい想 内) 10R66.3 にぶい想 10R72.2 にぶい想	7C ~ 8C 前半	口縁部内外面 : ヨコナデ 体部外面 : ハケ調査 (他のものによると)
73 39他	土師器裏	C2区西半・第2層 A1区・北壁 1~2層 他	1/3残	口径 19.4 (復元) 器高 12.8 (保存値)	外) 2.57R62 1 残底、5.75R67 1 残 内) 2.57R13 1 残底、7.57R68 3 残 新	7C ~ 8C 前半	口縁部内外面 : ハケ調査 体部外面 : ヨコナデ
74 71-2 126他	土師器裏	A1区・田G1区周辺 A1区③・遺物剖面	1/3残	口径 16.4 (復元) 器高 16.5 (保存値)	外) 10R57.2 既調査、10R64.2 既調査、 10R67.2 にぶい想 内) 10R66.2 既調査 10R73.3 にぶい想 5.75R63 にぶい想	7C ~ 8C 前半	口縁部内外面 : ヨコナデ 体部外面 : ハケ調査 (他のものによると)
75 126-5	土師器裏	A1区③・遺物剖面	1/5残	口径 16.6 (復元) 器高 13.0 (保存値)	外) 10R61.1 残底 10R64.1 残底 2.57R61 白 新	7C ~ 8C 前半	口縁部内外面 : ヨコナデ 体部外面 : ハケ調査
76 126-4	土師器裏	A1区③・遺物剖面	上面のみ 1/4残	口径 15.6 (復元) 器高 11.3 (保存値)	外) 7.57R51 1 残底 10R68.1 白 新	8C 前半	口縁部内外面 : ヨコナデ 体部外面 : ハケ調査 体部内部 : ハラケアリ
77 531	土師器裏	A1区・土器 108	上面のみ 1/4残	口径 16.6 (復元) 器高 11.3 (保存値)	外) 7.57R52 1 残底 7.57R44.2 既調査 7.57R72 既調査	8C ?	口縁部内外面 : ヨコナデ 体部外面 : ハラケアリ 体部内部 : ナカフ
78 276-6	土師器裏	A1区・土器 056~058 A1区部	1/4残	口径 14.6 (復元) 器高 16.0 (保存値)	外) 2.57R61 1 残底 2.57R52 残底 2.57R62 残底	8C	口縁部内外面 : ヨコナデ 体部外面 : ハケ調査 (上部ハケ調査)
79 554 555他	土師器裏	A2区下位・土器 131 A2区下位・土器 132 他	4/5残	口径 19.9 (復元) 器高 20.8 (保存値)	外) 2.57R72 既調査 内) 10R77.2 にぶい想 新	7C ~ 8C 前半	口縁部内外面 : ヨコナデ 体部外面 : ハケ調査 体部内部 : ヨコナデ

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期	調整	備考
80 433 87他	土器底裏	A1区・土器010 E2区東半・第4層 他	4/5残	口径 28.5～30.0 高さ 30.0	外) 7.5YR6/4 にぶい褐、7.5YR5/3 にぶい褐 内) 7.5YR6/4 にぶい褐、 7.5YR7/3 にぶい褐、 7.5YR7/4 にぶい褐	8C 前半～中	口縁部内外面：ヨコナデ 体表面：ヘケアケ裏 体内部：ヘケアケ裏 把手：手づくね	外面に広く焼付面。
81 483 550他	土器底裏	A2区・土器060 A2区下位・土器127 他	3/5残	口径 23.7 (復元) 高さ 28.0	外) 10YR7/1 白灰 内) 10YR5/3 にぶい黄褐 10YR6/1 白灰	8C 前半～中	口縁部外面：ヨコナデ 体表面半外側：ヘケアケ 把手：手づくね ハケアケ裏	
82 458-2	土器底裏	A1区・土器015 (は台部)	上半部のみ / 6残	口径 22.0 (復元) 高さ 15.5 (保存高)	外) 7.5YR7/3 にぶい褐 内) 7.5YR7/4 にぶい褐	8C 前半～中	口縁部内外面：ヨコナデ 体表面外面：ヘケアケ裏 体内部面：板ナデ	
83 533	土器底羽釜	A2区・土器110	上面のみ / 6残	口径 22.8 (復元) 高さ 7.3 (保存高)	外) 内) 7.5YR6/4 にぶい黄褐	8C	口縁部内面：ハケ調整 把手：ヨコナデ	
84 119-6 129他	土器底脚	A2区・土器010 (は台部) A2区下位・土器058 他	1/5残	口径 25.4 (復元) 高さ 14.4 (保存高)	外) 内) 10YR7/4 にぶい黄褐	8C	口縁部内外面：ヨコナデ 体表面底部外面：ナデ (板ナデのものによる) 体表面底部内面：ナデ (板ナデのものによる)	口縁部 1/4 に焼付面。 把手側?
85 276-1	土器底皿	A1区・土器050～058 土台部	完形	口径 39.5 高さ 1.6	外) 7.5YR7/4 にぶい褐、 7.5YR7/6 褐、7.5YR6/4 にぶい褐、 7.5YR2/1 黒	9C 後半	底部外面：板ナデ 底部内面：ナデ 把手：ヨコナデ	
86 539	土器底皿	A1区・土器116	完形	口径 11.2 高さ 1.7	外) 10YR7/6 黄黄褐 内) 10YR7/4 にぶい黄褐 10YR6/6 黄褐	10C 前半～中	底部外面：板ナデ 底部内面：ナデ	
87 276-4	土器底皿	A1区・土器056～058 土台部	5/6残	口径 10.8 高さ 1.5	外) 2.5Y7/3 黄褐、2.5Y7/4 黄褐 内) 2.5Y7/3 黄褐、 7.5YR8/4 丸輪面	10C 前半～中	底部外面：板ナデ 底部内面：ナデ 把手：ヨコナデ	
88 276-3	土器底皿	A1区・土器056～058 土台部	体底・底部わざか に欠損	口径 11.7 高さ 1.5	外) 内) 2.5Y8/3 丸輪	10C 中	底部外面：板ナデ 底部内面：ナデ	
89 127-2	土器底皿	A1区(4)・土器056	口縁部 1/4 欠損	口径 9.0 高さ 1.5	外) 7.5YR6/2 にぶい褐 内) 7.5YR6/4 にぶい褐	平安?	口縁部内外面：ヨコナデ 底部外面：ヘケアケ 底部内面：ナデ	内部に焼付面。灯明皿?
90 120-2	土器底皿	A2区(3)・土器056	2/3残	口径 15.1 (復元) 高さ 2.8	外) 7.5YR6/6 丸輪面 内) 7.5YR7/6 黑	11C 前半	体表面～底部内面：板ナデ 底部内面：ナデ 把手：ヨコナデ	

遺物 番号	原種号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調整	備考
						外	内			
91	118-3 202	土器底皿	A2区(1)・遺構剖面 A2区・セクション(1)	2/3残	口径16.0 底高3.0	10YR8/2灰白、2.5YR3/3浅黄 10YR7/3灰白、2.5YR3/3浅黄	11C前半～ 12C前半～	表面～底部外面：指オサ工痕跡なナデ 底面内面：ナデ 他ヨコナデ		
92	442	土器底皿	A2区・土器019	はがれ形(接合)	口径6.6 底高1.5	5YR7/2灰白、5YR7/2灰白 5YR7/2灰白	11C後半	底部外面：指オサ工痕ナデ 他ヨコナデ		
93	431	回転台土器皿	A1区・土器008	はがれ形	口径8.8 底高1.5	10YR8/2灰白、7.5YR8/3浅黄 7.5YR8/2灰白	平安	底部外面：回転ヘラ切り妻ナデ 他ヨコナデ (底面内面に指痕跡有る)		
94	178	回転台土器皿	A1区・土器アセ	口縁部1/5欠損	口径8.3 底高1.5	10YR7/4灰白、10YR6/4灰白 10YR7/6灰白	平安	底部外面：回転ヘラ切り妻ナデ 他ヨコナデ		
95	181	回転台土器皿	A2区(3)・遺構剖面	はがれ形	口径9.2 底高1.8	7.5YR7/4灰白、 7.5YR7/3灰白 7.5YR7/1灰白 7.5YR7/4灰白	平安	底部外面：回転ヘラ切り妻ナデ 他ヨコナデ		
96	541	回転台土器皿	A1区下位・土器118	完形	口径12.3 底高1.6	7.5YR8/4浅黄 7.5YR8/4浅黄、2.5YR7/1灰白、 N6.0灰	平安	底部外面：回転ヘラ切り妻ナデ (底面内面有る) 他ヨコナデ		
97	199-42	回転台土器皿	A区・セクション(1) G3区(C2)～G3-9層	口縁部2/5欠損	口径14.2 底高1.8	7.5YR7/3灰白 7.5YR7/4灰白	平安	底部外面：回転ヘラ切り妻ナデ 他ヨコナデ		
98	199-3	回転台土器皿	A区・セクション(1)	口縁部1/4欠損	口径13.9 底高1.6	10YR7/3灰白、 10YR7/2灰白 10YR7/2灰白	平安	底部外面：ナデ		
99	281-1	土器底盤	A2区・土器047～050 土台形	1/3残	口径15.3(復元) 底高6.3(底付量)	2.5YR2灰白、 2.5YR2灰白	12C?	口縁部内面：ヨコナデ 他ヨコナデ		
100	482 129	土器底盤	E2区・土器059 A2区(1)・遺構剖面	7/8残	口径18.3 底高7.1	7.5YR7/4灰白 7.5YR7/4灰白 (4件裏二片はヨコナデ後ヘラミガキ)	後半	底部下半～底部外面：ヘラケリ 底部内面：ナデ 他ヨコナデ		
101	151-3	土器底盤	E2区(1)・遺構剖面	口縁部1/8欠損	口径10.8～11.0 底高3.2	7.5YR7/2灰白、 10YR7/3灰白 2.5YR8/2灰白	7C後半	底部外面(中央部)：ナデ ヨコナデ 口縁部～底面(中央部)： ヘラミガキ		

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期	備考	
							外) 5.75R6/4 にぶい褐 内) 5.75R6/4 にぶい褐	7C 来～8C 初
102 151-2 直腹 42	土師壺	E2 区③・通縫剖面 G3 区 (C2 区) - G3 ⑨層	口縁部・全体一部 欠損	口径 14.3 高さ 3.3	外) 5.75R6/2 褐褐色 内) 5.75R7/3 にぶい褐	7C 来～8C 初	口縁部～体部上半面：ヘミガキ 体部下半～底部外面：ヘミガキ 内面：ヨコナデ	底部外面に痕跡が有文 (園化せず)。
103 500	土師壺	E2 区・土器 077	口縁部わずかに欠 損	口縁部 14.1 高さ 3.5	外) 5.75R6/4 にぶい褐 内) 5.75R7/3 にぶい褐	7C 来～8C 初	口縁部～体部上半面：ヘミガキ 体部下半～底部外面：ヘミガキ 内面：ヨコナデ	底部外面に痕跡が有文 (園化せず)。
104 424	土師壺	B1 区・土器 001	口縁部 1/5 欠損	口径 17.2 高さ 3.8	外) 7.5R06/8 褐 内) 7.5R7/6 褐	8C 中	体部外面：指サエ後ナデ (体部) 指サエ後ナデ 底部外面：指サエ後ナデ 内面：ヨコナデ	底部外面に痕跡が有文 (園化せず)。
105 490	土師壺	B1 区・土器 067	1/2 残	口径 16.4 高さ 4.0	外) 7.5R07/3 にぶい褐 内) 7.5R7/3 にぶい褐	8C 中～後	体部下半～底部外面：ヘミガキ 底部外面：ナデ ヨコナデ	底部外面に痕跡が有文 (園化せず)。
106 401	瓦盤	G2 区・G2-7 層 (B2 区)	完形	口径 14.7 高さ 3.1	外) 7.5R6/4 にぶい褐	8C 来	外側：ヘミガキ (口縫部はヨコナデ後) 底部外面：ナデ ヨコナデ	底部外面に痕跡が有文 (園化せず)。
107 509	土師壺	B1 区・土器 086	口縫部 1/4 欠損	口径 15.0 高さ 3.9	外) 7.5R07/6 褐、10R6/2 灰黃褐 内) 7.5R7/6 褐	8C 来	底部外面：指サエ後ナデ 内面：ヨコナデ	底部外面に痕跡が有文 (園化せず)。
108 491	土師壺	B1 区・土器 068	口縫部 1/10 欠損	口径 16.4 高さ 3.2	外) 7.5R05/4 にぶい褐、 2.5R07/3 にぶい褐 内) 10R6/4 にぶい褐 2.5R05/3 にぶい褐	8C 来～9C 初	底部外面：指サエ後ナデ 内面：ヨコナデ	底部外面に痕跡が有文 (園化せず)。
109 147	土師壺	B1 区④・通縫剖面	脚部を中心残 す	高さ 14.0 (残存高)	外) 斷 7.5R7/6 褐	8C (8C 後半?)	脚部外側：指サエ後ナデ (脚部) 指サエ後ナデ 底部外面：ヨコナデ	底部外面に痕跡が有文 (園化せず)。
110 204-4	土師壺	B1 区・セクション② ・通縫型土	口縫部 1/3 欠損	口径 10.8 高さ 3.2	外) 10R6/6 灰黃褐 内) 7.5R06/6 褐 内) 7.5R04/6 褐	8C	口縫部外側：ヨコナデ 体部～底部外側：ヘミガキ 底部外面：ナデ	底部外側：ヨコナデ 体部～底部外側：ヘミガキ 底部外面：ナデ
111 642	土師器皿	B1 区・土器 ⑧	底部 1/3 欠損	口径 8.5 高さ 3.3	外) 10R7/4 にぶい褐 内) 7.5R05/4 にぶい褐 内) 7.5R7/6 褐	8C	口縫部外側：未調 他ヨコナデ	口縫部外側：未調 他ヨコナデ
112 501	土師器皿	E2 区・土器 078 E2 区④・通縫剖面	上半部のみ 1/3 残	口径 22.4 (復元) 高さ 22.0 (復元)	外) 10R6/2 灰黃褐 内) 7.5R06/3 にぶい褐 内) 10R7/2 灰黃褐	8C 後半～ 7C 前半？	体部外側：指サエ後 ナデ 内面：手づくね	体部外側：指サエ後 ナデ 内面：手づくね

遺物 番号	形種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期	調査	備考
113 87-2 146	土師器皿	E2区東半・第4層 B1区(?)・遺構剖面	1/3残	口径15.0 (復元) 高さ16.3 (残存高)	外) 黄褐色 内) 黄褐色	?C~8C前半	口縁部外面 : ヨコナデ 口縁部内面 : ハケ調整 全体外面 : ハケ調整 全体内面 : ハサエ工痕ナデ	
114 87-1 145	土師器皿	E2区東半・第4層 B1区(?)・遺構剖面	4/5残	口径15.7 高さ14.6	外) 10YR6/4に近い黄褐色 内) 10YR7/4に近い褐 色	7C~8C前半 もしくは 古墳中間 後期?	口縁部～全体内面 : ハケ調整 全体部～底部外面 : ハケ調整 全体下半～底部内面 : 同上円筒内面 ハサエ工痕ナデ	
115 205-4	土師器皿	B1区・北壁アゼ ・遺構型土	2/5残	口径13.1 (復元) 高さ11.7	外) 10YR8/6に近い黄褐色 内) 10YR6/4に近い黄褐色 色	?C~8C前半	口縁部～全体内面 : ヨコナデ 全体部～底部外面 : ハナダ (一部) ラケズリ)	
116 143-3	土師器皿	E2区(?)・遺構剖面	1/5残	口径13.4 (復元) 高さ11.6 (残存高)	外) 10YR6/3に近い黄褐色 内) 10YR7/3に近い黄褐色	?C~8C前半	口縁部～全体内面 : ヨコナデ 全体部～底部外面 : ハケ調整 全体内面 : ハケズリ	
117 試掘34	土師器皿	G2区・G2アゼ (B2区)	上面のみ 1/3残	口径13.2 (復元) 高さ8.8 (残存高)	外) 10YR6/6由来複褐色、 10YR2/1 褐灰、 10YR4/1 褐灰、 10YR7/1 白灰	?C~8C前半	口縁部外面 : ヨコナデ 口縁部内面 : ハケ調整 全体外面 : ハケ調整 全体内面 : ハケズリ	
118 510	土師器皿	B1区・土器087	ほぼ完形	口径14.5 高さ12.3	外) 7.5YR7/3に近い褐 内) 10YR7/2に近い褐 色	7.5YR7/3に近い褐 色	口縁部外面 : ヨコナデ 口縁部内面 : ハケ調整 全体部～底部外面 : ハラズリ 全体下半～底部内面 : ナデ	
119 162	土師器皿	B1区(?)・遺構剖面	上半部のみ 1/3残	口径25.4 (復元) 高さ24.5 (残存高)	外) 2.5YR3/3 淡黄 内) 断) 2.5YR7/1 色白	8C	口縁部外面 : ヨコナデ 口縁部内面 : ハケ調整 全体外面 : ハサエ工痕ナデ	
120 475 30-6	土師器皿	E2区・土器052 C2区西半・第2層	他	口径22.4 (口縫部1/4欠損) 高さ23.0 (残存高)	外) 7.5YR3/3 淡褐色 内) 7.5YR6/4に近い褐 色	8C	口縁部内面・背部 : ヨコナデ 全体外面 : ハケ調整 全体内面 : ハサエ工痕ナデ	
121 145	土師器皿	B1区(?)・遺構剖面	完形 (複合)	口径11.3 高さ1.7	外) 2.5YR2/2 白灰、 2.5YR7/1 白灰	10C後半	底面部外面 : ヨコナデ 底面部内面 : ナデ	
122 428	土師器皿	B1区・土器005	完形	口径9.2 高さ2.2	外) 7.5YR7/3 淡褐色、 7.5YR6/4に近い褐、 7.5YR6/6 棕褐色、 7.5YR5/3に近い褐、 7.5YR4/4 棕褐色	10C後半	底面部外面 : ハサエ工痕ナデ 底面部内面 : ナデ	
123 試掘 29-1	土師器皿	G2区・土器4 (B2区)	完形	口径30.0~9.8 高さ15	外) 5YR8/2 白灰	11C後半	口縁部外面 : ヨコナデ 底面部外面 : ハサエ工痕ナデ	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	時期		調査 備考
					外	内	
124 98-2	土師陶皿	B1区・セグメント② 東側(m中・遺構削除)	3/4残	口径9.2 高さ6.6	2.57/7.1 黄 2.57/7.2 黄、 2.57/6.1 黄灰	11C後半	底部外面：青土サエ後縁ナデ 底面内面：(青土サ)ナデ ヨコナデ
125 75	回転台土器器皿	B1区西半・第4層	丸形	口径8.8 高さ5.5	外) 2.57/2.7 扇形、 内) 10.98/7.6 扇形	平安	底部外面：回転ヘラ切り 他 回転ナデ
126 336-1	回転台土器器皿	B1区・C1区・木044 土台部	はす形	口径7.9 高さ4.4	外) 10.98/3.3 深鉢、 内) 10.98/8.2 扇形	平安	底部外面：回転ヘラ切り 他 回転ナデ
127 204-3	回転台土器器皿	B1区・セグメント② ・遺構削除	はす形	口径8.6 高さ4.7	外) 2.57/7.2 黄、 内) 2.57/6.3 にぶい黄 内) 10.98/7.3 にぶい黄	平安	底部外面：回転ヘラ切り 他 回転ナデ
128 140-2	回転台土器器皿	C2区(1)・遺構削除	はす形	口径9.1 高さ4.4	外) 7.57/6.3 にぶい黄 内) 7.57/7.4 にぶい黄 内) 7.57/7.3 にぶい黄	平安	底部外面：回転ヘラ切り裏ナデ 他 回転ナデ
129 123	回転台土器器皿	C2区(3)・遺構削除	3/4残	口径8.5 高さ4.4	外) 2.57/1.8 扇白 内) 7.57/8.2 扇白	平安	底部外面：ヘラ切り後ナデ 他 回転ナデ
130 293	回転台土器器皿	G2区・土器8 (G2区)	口縁部3/4欠損	口径13.0 高さ3.4	外) 5.78/4.4 にぶい黄、 10.98/2.7 扇形 内) 5.78/4.4 にぶい黄 内) 5.78/2.4 にぶい黄	平安	底部外面：回転ヘラ切り後ナデ 他 回転ナデ
131 145-4	回転台土器器皿	B1区(2)・遺構削除	口縁部1/5欠損	口径13.0 高さ3.9	外) 10.98/3.3 深鉢、 内) 10.98/7.3 にぶい黄 内) 10.98/7.4 にぶい黄 内) 10.98/7.3 にぶい黄	平安	底部外面：回転ヘラ切り裏ナデ 他 回転ナデ
132 152-6	回転台土器器皿	C2区(4)・遺構削除 C2区・土器122 ・遺構削除	2/3残	口径13.3 高さ3.5	外) 2.57/2.8 扇形、 内) 10.98/7.3 にぶい黄 内) 2.57/7.2 扇形 内) 10.98/6.3 にぶい黄	平安	底部外面：回転ヘラ切り 他 回転ナデ
133 545	土師陶皿	D2区・東半削除 C2・土器122	底面わざかに欠損 (底面)	口径16.4 高さ5.9	外) 7.57/6.4 にぶい黄、 7.57/6.1 黄 内) 7.57/5.4 にぶい黄、 7.57/6.6 黄	6C後半～ 7C前半	底部・底部内面：板ナデ 体面・底面：ヘミワキ 底面内面：(青土サ)ナデ ヨコナデ
134 519	土師陶皿	C2区・土器096	口縁わざかに欠損 (底面)	口径16.6 高さ5.4	外) 7.57/6.6 扇形 内) 7.57/6.6 黄	7C後半	底部外面：ナデ ヨコナデ

遺物 番号	種類	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調査	備考
					外	内			
135 157.2	土器底环	C1 区 1・遺構剖面	2/3 管	口径 15.8 器高 3.6	外) 6.5 内) 5.96/6.3	灰褐色	7C 後半	体部下半～底部外腹：指サエ後ナデ 他 ヨコナデ	底部外腹に擦痕有文 (回らせす)。
136 526	土器底环	C2 区・土器 103	口縁部 1/6 欠損	口径 10.9 器高 3.0	外) 5.96/6.6 内) 10.97/7.3	灰褐色	7C 来～8C 初	底部外腹：ナデ 底部外腹 (中実)：ナデ (体跡外腹はヨコナデ後ヘラミガキ)	底部外腹：ナデ
137 92.2	土器底皿	C1 区 西半・第 4 層	口縁部・ 体部 1/4 欠損	口径 15.8 器高 2.4	外) 7.59/7.6 内) 7.59/6.4 内) 7.59/7.6	灰褐色	8C 中	体部下半～底部外腹：ヘラケズリ 底部外腹：ナデ 他 ヨコナデ	底部外腹：ヘラケズリ
138 520	土器底皿	C1 区・土器 697 C1 区 2・遺構剖面	2/5 管	口径 22.0 器高 2.9	外) 7.59/6.6 内) 7.59/4.3 内) 7.59/6.6	灰褐色	8C 中	体部下部外腹：ヘラケズリ 底部外腹：指サエ後ナデ 他 ヨコナデ	底部外腹：ヘラケズリ
139 327	土器底环	C1 区 西半・第 4 层 C2 区・土器 106・土台部	3/4 管	口径 19.0 器高 4.0	外) 7.59/5.6 内) 7.59/4.4 内) 2.59/6.6	灰褐色	8C 中	底部外腹 (中実)：ナデ 他 ヨコナデ	底部外腹 (中実)：ナデ
140 526	土器底环	C1 区・土器 113	1/4 管	口径 18.7 器高 4.3 (保存高)	外) 5.96/4.4 内) 5.96/1.1	灰褐色	8C 中～後半	体部下半～底部外腹：ヘラケズリ 底部外腹：ナデ 他 ヨコナデ	底部外腹：ヘラケズリ
141 215.2	土器底环	C1 区・北壁アゼ ・遺構壁土	1/4 管	口径 9.1 (保存元) 器高 4.0	外) 7.59/7.3 内) 7.59/6.4 内) 7.59/7.3	灰褐色	8C	体部下部外腹：ヘラケズリ 底部外腹 (中実)：ナデ 他 ヨコナデ	底部外腹：ヘラケズリ
142 158.1	土器底盤剖面	C2 区 2・遺構剖面	口縁部・高台部 一部欠損	口径 13.1 器高 3.3	外) 10.96/2.2 内) 10.97/2.2	灰褐色	8C 前半	口縫部内外腹・体部上部外腹：ヨコナデ 体部外腹：ナミガキ 底部外腹：ナデ (斑痕有り)	底部外腹が全体的に覆む (回らせしている)。柄然 にふるもの?
143 537 87.他	土器底盤 (墨書き)	C2 区・土器 114 E2 区 西半・第 4 層	1/3 管	口径 23.5 (保存元) 器高 2.3 (保存高)	外) 5.96/4.4 内) 5.96/2.0 内) 5.96/4.4	灰褐色	8C 前半～中	口縫部内外腹：ヘラケズリ (上部は板ナデ) 手形：手づくね	体部外腹に墨書き。 (「棒」)
144 111.5	土器底羽釜	C2 区 西半剖面・遺構剖面	上部のみ 1/3 管	口径 20.0 (保存元) 器高 2.0 (保存高)	外) 5.96/4.4 内) 5.96/6.6 内) 2.59/6.6	灰褐色	8C～9C 前半	口縫部内外腹：ハケ頭鑿 底部外腹：指サエ後ナデ 他 ヨコナデ	口縫部内外腹：ハケ頭鑿
145 156.2	土器底皿	C1 区 3・セクション 3 D1 区 2・遺構剖面	1/4 管	口径 19.0 (保存元) 器高 10.6 (保存高)	外) 5.96/6.6 内) 7.59/7.4	灰褐色	8C	口縫部内外腹：ナデ 外) ヘラミガキ	純粋な。

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調整	備考
					外 径	内 径			
146 111-11 174	土師器	C1区西半周削・通縫剖面 D2区下・直縫剖面	1/8残	口径24.7(8元) 高さ12.7(残存部)	外 径 内 径	57.9R6/4にぶい黄 57.9R6/2にぶい黄 57.9R6/4にぶい黄	8C?	口縫部内面・ヨコナデ 体側下半～底部外面：指ササ後へラケ 体側～底部外面：ナデ特徴なヘラミガキ	
147 91	土師器	C1区東半・第4層	口縫部1/5欠損	口径17.0 高さ5.5	外 径 内 径	7.57R6/6 壁 57.9R3にぶい黄 57.9R6/6 壁	9C前半	口縫部内面・ヨコナデ 体側外面・ヨコナダ 体側外面・ヨコナデ 底部外面：ヨコナデ (一部ナデ上げ)	内面に削文あり。
148 327-2	土師器皿	C2区・土器 040土台部	2/3残	口径11.3 高さ1.7	外 径	10YR7/3にぶい黄	10C後半	底部外面：指ササ後第2ナデ 底内面(中空) ヨコナデ	
149 42-2	直縫	回転台土師器皿 (C2区)	G3区・G3-9層	口縫部1/4欠損	口径8.8 高さ1.4	外 径 内 径	10YR7/2にぶい黄 7.57R6/3にぶい黄	底部外面：回転ナデ 底部外面：回転ナデ 底部外面：回転ナデ	
150 52-1	直縫	回転台土師器皿 (C2区)	G3区・G3-9層	完形	口径10.2 高さ2.0	外 径	2.37R6/2灰白	底部外面：回転ナデ (底内面は回転ナデ後一方削ナデ)	
151 527	直縫	回転台土師器皿	C1区・土器 104	底部わざかに欠損	口径9.0 高さ1.4	外 径 内 径	10YR7/3にぶい黄 7.57R7/3にぶい黄 7.57R7/2灰白	底部外面：回転ナデ (底内面は回転ナデ)	
152 328-1	回転台土師器	C2区・木 040土台部	口縫部3/4欠損	口径14.8 高さ4.0	外 径 内 径	10YR7/6 黄褐 10YR7/4にぶい黄	平安	底部外面：回転ナデ 底部外面：回転ナデ	
153 168 327	直縫	直縫 (C2区)・セクショナル西側 C2区・土器 040土台部	口縫部1/3欠損	口径16.4 高さ4.5	外 径 内 径	10YR7/4にぶい黄 10YR6/6 黄褐 10YR6/6 黄褐	平安	底部外面：回転ナデ 底部外面：回転ナデ 底部外面：回転ナデ	
154 109 110	直縫	直縫 (セクショナルより 直縫・通縫剖面) C2区東半周削・通縫剖面	口縫部1/7欠損	口径14.7～15.7 高さ4.5	外 径 内 径	10YR7/3にぶい黄 10YR7/4にぶい黄 10YR8/4 黄褐 10YR4/1 灰白	平安	底部外面：回転ナデ 底部外面：回転ナデ 底部外面：回転ナデ	
155 110-2	直縫	直縫 (C2区東半周削)	4/5残	口径14.9 高さ4.2	外 径 内 径	7.57R7/3にぶい黄 7.57R6/3にぶい黄 7.57R6/1 黄褐、No.0灰	平安	底部外面：回転ナデ 底部外面：回転ナデ	
156 173-2	土師器	D2区下・直縫剖面	は延充形	口径11.9 高さ2.6	外 径 内 径	10YR7/4にぶい黄	8C中	底部外面・ナデ ヨコナデ	
157 173-3	土師器	D2区下・直縫剖面	口縫部1/3欠損	口径18.7 高さ4.6	外 径 内 径	10YR7/8 灰白 57.9R8/1 灰白 57.9R6/4にぶい黄	8C中	底部外面～底部外面：ナデ ヨコナデ	底部内面に擦磨が附文 があるとみられるが、 次箇所で不明點。

備考						
遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期
158 170-2	土器底皿	D1 区2・通構造	口縁部わずかに欠損	口径 21.0 高さ 3.3	外) 7.5/964/6 にぶい黄 内) 7.5/963/6 にぶい黄 新) 5/963/3 にぶい黄	B/C 中
159 170-3	土器底皿	D1 区2・通構造	口縁部1/3欠損	口径 15.8 高さ 2.9	外) 7.5/965/6 紅 内) 7.5/965/6 紅 新) 7.5/964/4 にぶい黄	茎部外面：赤サエ後ナデ 他ヨコナデ
160 569	土器底皿	D2 区・土器146	2/5 残	口径 16.4 (復元) 高さ 1.0 (復元)	外) 7.5/93/2 黄褐、7.5/96/2 黄 内) 7.5/R3/1 黄褐、7.5/R5/2 淡赤 新) 7.5/95/2 淡赤、2.5/96/3 淡赤	8C 前半? 7C~
161 373	土器底皿	D2 区・木032・053 土台部	上部のみ 1/2 残	口径 12.3 (復元) 高さ 0.4 (復元)	外) 10/96/4/6 にぶい黄褐 内) 10/98/3/3 にぶい黄褐	8C 前半? 7C~
162 219	土器底皿	D1 区・北壁アビ ・通構造	上部のみ 1/5 残	口径 16.6 (復元) 高さ 1.5 (復元)	外) 7.5/96/8 紅、7.5/95/3 にぶい黄 内) 7.5/95/6 紅 新) 5/96/6 紅	8C 前半? 7C~
163 107-2	土器底皿	C2 区西W・第4層	上部のみ 1/3 残	口径 24.6 (復元) 高さ 2.0 (復元)	外) 10/95/6 淡赤 内) 10/96/4 淡赤 新) 10/97/4 にぶい黄褐	9C
164 572	土器底盤	D2 区・土器149	全体下部・底部 欠損	口径 22.0~23.7 高さ 20.9 (復元)	外) 内) 10/98/1/灰白、 7.5/97/4/6 にぶい黄	10C
165 228	土器底皿	C2 区・通構造	1/2 残	口径 12.6 高さ 1.0	外) 2.5/98/1 淡黄 内) 2.5/98/2 淡黄	口縁部～脚：ヨコナデ 他ヨコナデ
166 105	土器底皿	D1 区東半・第4層	2/3 残	口径 9.4 高さ 1.4	外) 7.5/98/2 灰白 内) 10/98/3 淡黄褐、 10/97/1 灰白	8C 前半? 11C 前半?
167 564	土器底皿	D1 区・土器141	口縁部1/6欠損	口径 15.3~15.8 高さ 3.3	外) 10/98/2/灰白、7.5/98/3 淡黄 内) 10/97/4 にぶい黄褐 新) 10/98/1 灰白、7.5/98/3 淡黄褐、 10/96/1 灰白	11C
168 566	回転台土器底皿	D1 区・土器143	口縁部1/2欠損	口径 9.2 高さ 1.7	外) 10/98/2 灰白、 10/97/3 にぶい黄褐 内) 10/98/2 灰白	平塗

遺物 番号	原種号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期		備考
							天井部内面(中央) : ナデ ヨコナデ	天井部内面(中央) : ナデ ヨコナデ	
169	108	土師器底	区画不明・第4層	1/5残	口径17.1 (復元) 高さ2.5	外) 10YR6/6 黄褐色 内) 7.5YR6/6 灰褐色 5YR6/6 灰褐色	8C前半		
170	702	土師器底	E区・南側溝・下層相当	口横部1/5欠損	口径14.2 高さ3.3	外) 内) 7.5YR6/6 にぶい褐 7.5YR6/6 灰褐色	7C末～8C初	天井部外面: ヨコナデ 底部内面: ヨコナデ 他: ヨコナデ	底部内面に焼成が認め る(図示せず)。
171	736	土師器底	E区・土器171	ほぼ完形	口径10.7 高さ2.8	外) 7.5YR5.4/4 にぶい褐 7.5YR6/6 にぶい褐	7C末～8C初	天井部外面: ヨコナデ 底部内面: ヨコナデ	底部内面に焼成が認め る(図示せず)。
172	791-3	土師器底	E2区東半部・遺構剖面	4/5残	口径20.9 高さ3.9	外) 7.5YR6/6 にぶい褐 内) 10YR7/2/2 にぶい褐	8C前半	口横部: ヨコナデ 底部内面: ヨコナデ 他: ヨコナデ	底部内面中央付近に褐色 斑点は殆ど無くは殆ど無く その他の部分は正規 と考へられる範囲の解 がある。
173	770-1	土師器底	E1区西半部・遺構剖面	3/4残	口径23.0 (復元) 高さ3.4	外) 7.5YR5.4/4 にぶい褐 内) 7.5YR6/4 にぶい褐	8C中	天井部外面: ヨコナデ 底部内面: ヨコナデ	
174	769-3	土師器底	E1区西半部・遺構剖面	一部欠損	口径19.9～20.5 高さ4.1	外) 7.5YR7/1 にぶい褐 内) 5YR7/4 にぶい褐、10YR6/1 灰褐色 5YR7/2 灰褐色	7C～8C?	天井部外面: ヨコナデ 底部内面: ヨコナデ (への次のもの)による	
175	719	土師器底	E1区・下層・土器154	完形	口径11.3～11.8 高さ2.6	外) 7.5YR6/6 褐	8C末～9C初	天井部外面: ヨコナデ	
176	733	土師器底	E区・土器168	口横部1/2欠損	口径17.6 高さ4.0	外) 斷 10YR7/2/2 にぶい褐、 10YR7/3/2 にぶい褐	8C前半～中?	天井部外面: ナデ ヨコナデ	
177	790	土師器底	E2区・下層	断形を中心とする 底部を中心に残 る	底径11.4 底高2.3 (残存高)	外) 断 10YR7/4/1 にぶい褐。 10YR6/4 にぶい褐	8C (8C前半 ～中?)	天井部外面: ナデ ヨコナデ	天井部外面: ナデ ヨコナデ
178	768-8	土師器底	E1区東半部・遺構剖面	片面部のみ1/5残	口径24.3 (復元) 高さ2.9 (残存高)	外) 5YR6/4 にぶい褐 内) 5YR6/6 褐 5YR7/3 灰褐色	8C～9C前半	天井部外面: ヨコナデ	天井部外面: ナデ ヨコナデ
179	794	土師器底	E2区西半部・遺構剖面	ほぼ完形	口径9.3～9.6 高さ1.9	外) 10YR7/2/2 にぶい褐 5YR7/1 白	11C後半	天井部外面: ヨコナデ	底部外面: ナデ ヨコナデ
180	792-6	回転式土師器	E2区西半部・遺構剖面	口横部1/4欠損	口径8.2 高さ1.2	外) 5YR7/2 灰褐色 内) 10YR7/2 にぶい褐	平安	底部外面: 回転式土師器 他: 回転式土師器	底部外面: 回転式土師器

遺物 番号	種類	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調査	備考
					外	内			
181	769-2	回転台土器裏面	E1区西半部・通樋割削	口縁部1.5、底部一部欠損	口径9.5 高さ1.6	外) 578/1 底上 内) 1018/2 黄褐色 外) 2.57/2 灰白色	平安	底部外側：回伝へラ切り後ナデ 底部内側：回伝ナデ後ナデ	
182	791-6	回転台土器裏面	E2区東半部・通樋割削	1/3 残	口径10.7 高さ1.9	外) 1018/2 黄褐色 内) 1018/2 黄褐色 外) 1018/2 黄褐色	平安	底部外側：回伝へラ切り 底部内側：回伝ナデ後ナデ	
183	754	土器裏面	E区・土器 189	口縁部・底部上面 3/4 欠損	口径16.5 (復元) 高さ17.8	外) 1018/1 黒 内) 1018/3 黑 外) 1018/4 黑 内) 7.57/4/1 地区 内) N°150 黑 外) 7.57/4/2 黑	7C (もしくは 6C?)	口縁部：ヨコナデ 全体～底部上面：ハケ削痕 (体表～底部内側にハケ目あり)	
184	758	土器裏面	E区・土器 193	口縁部 3/4 欠損	口径11.7 (復元) 高さ10.6	外) 7.57/4/1 黑 内) 7.57/4/2 黑 内) 7.57/4/3 黑 外) 7.57/4/4 黑	7C (もしくは 5～6C?)	口縁部外側：ヨコナデ 全体～底部上面：ハケ削痕 (体表～底部内側にハケ目あり)	
185	742	土器裏面	E区・土器 177	先毛	口径14.8 高さ14.3	外) 7.57/5/4/4 黑 内) 1018/6/3 黑 外) 1018/7/2 黑 (6C)	7C～8C 前半	口縁部外側：ハケ削痕 全体～底部上面：ハケ削痕 (体表～底部内側にハケ目あり)	
186	725	土器裏面	E区・土器 160	口縁部 2/3 欠損	口径13.4 (復元) 高さ13.7	外) 1018/7/3 黑 内) 1018/8/1 黄白	7C～8C 前半	口縁部外側：ヨコナデ 全体～底部上面：ハケ削痕	
187	768-7	土器裏面	E1区東半部・通樋割削	上部のみ 1/4 残	口径18.6 (復元) 高さ11.2 (残存高)	外) 内) 1018/2 黄白	7C～8C 前半	口縁部外側：ヨコナデ 全体～底部上面：ハケ削痕	
188	726	土器裏面	E区・土器 161	口縁部 1/4 欠損	口径23.8 高さ23.6	外) 1018/5/2 黄褐 内) 1018/4 黑 外) 1018/3 黑褐 外) 1018/5/2 黄褐	8C 前半	口縁部：ハケ削痕 (縫部ヨコナデ) 全体～底部上面：ナデ (黒目あり)	
189	791-5	土器裏面	E2区東半部・通樋割削	1/4 残	口径39.0 (復元) 高さ12.8	外) 7.57/6/3 黑 内) 7.57/6/4 黑 外) 7.57/6/5 黑	8C?	口縁部：ヨコナデ (一部ヨタキナデのようないき地 全体～底部上面：ハケ削痕 全体～底部内側：ヨコナデ)	
190	806-4	土器裏面	F区東半部・下層		口径31.5 (復元) 高さ1.6	外) 578/6 明るい 内) 578/6 黄褐色 外) 1018/8/1 黄白	7C 前半～ 8C 前半	全体～底部上面：ヘラカギナ 全体～底部下面：ナデ ヨコナデ	外側～複合部：横利あ り。
191	806-1	土器裏面	F区東半部・下層	口縁部・底部わざ か欠損 (結合)	口径15.8 高さ3.8	外) 内) 2.57/8/2 黄褐	11C 前～ 12C 前半	全体～底部上面：地アサエ後ナデ ヨコナデ	底部外側に點状光澤 もししくは擦合跡あり。
192	808	回転台土器裏面	F区西半部・通樋割削	1/3 残	口径13.2 (復元) 高さ3.1 (残存高)	外) 2.57/6/2 黄褐 外) 2.57/7/2 黄褐	平安	底部外側：回伝へラ切り後ナデ ヨコナデ	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期	調査	備考
193	土師器灰	G 区東半・上層	外縁部分のみ残 高さ 4.3 (残存高)	口径 17.4 (復元) 高さ 4.3 (残存高)	外) 7.5/96/3/に込. 内) 7.5/97/4/に込. 外) 7.5/96/3/に込. 内) 7.5/97/3/に込.	7C	灰青外部 : 油卓サエ他ナデ 他 : ヨココナデ	内面に油付状態文あり。
194	須恵器灰	木 030・031 土台部	完形	口径 10.9 高さ 3.2	外) 10/81/1 黄白 内) 2.5/71/1 黄白	7C 前半	天井部前面 : 回転ヘラ切り (自ら焼成のため鮮かな調節は不明) 他 : 回転ナデ	
195	須恵器灰	A2 区・通溝直削	口縁部 1/10欠損	口径 10.0 高さ 3.1	外) 7.5/81/1 白 内) 2.5/81/1 白 外) 5/81/1 白	7C 前半	天井部前面 : 回転ヘラ切り後削なナデ 他 : 回転ナデ	
196	須恵器灰	D2 区半周削直削 A2 区・セクション①・ ・油棒埋土	口縁部 1/4欠損	口径 10.1 高さ 3.3	外) 7.5/6/1 黄 内) 2.5/71/1 黄白 外) 7.5/7/1 黄白	7C 前半	天井部外面 : 回転ヘラ切り後削なナデ 他 : 回転ナデ	
197	須恵器灰	A2 区・セクション①	ほぼ完形	口径 10.0 高さ 3.4	外) N6/0 黄、N5/0 黄 内) N7/0 黄白 外) N7/0 黄白	7C 中~後半	底部外露 : 回転ヘラ切り后削 底部内面 (中空) : ナデ 他 : 回転ナデ	
198	須恵器灰	A1 区下位・土塗 119	ほぼ完形	口径 10.5 高さ 3.3	外) N6/0 黄、2.5/G77/1 黄オリーフ 内) 2.5/G78/1 明灰	7C 後半	底部外面 : 回転ヘラ切り后削 底部内面 (中空) : ナデ 他 : 回転ナデ	
199	須恵器灰	A1 区・土塗 035 (土台部)	2/3 缺	口径 8.3 高さ 2.7	外) 5/76/1 黄 内) 2.5/Y/3 黄 外) 2.5/Y/1 黄 内) 1.5/Y/1 黄	7C 後半	底部外面 : 回転ヘラケイフ 底部内面 (中空) : ナデ 他 : 回転ナデ	
200	須恵器灰	A2 区・土塗 013	ほぼ完形	口径 10.5 高さ 3.6	外) 10/98/1 白 内) 2.5/Y/1 黄 外) 10/98/2 黄灰褐 内) 10/98/2 白	7C 後半~ 8C 前半	底部外面 : 回転ヘラ切り後削ナデ 底部内面 (中空) : ナデ 他 : 回転ナデ	
201	須恵器灰	A1 区・土塗 045	1/3 缺	口径 16.2 (復元) 高さ 5.7	外) 10/94/1 黄、7.5/76/1 黄 内) 5/76/1 黄 外) 5/76/1 黄白	7C 後半~ 8C 初	底部外面 : 回転ヘラ切り後削ナデ 底部内面 (中空) : ナデ 他 : 回転ナデ	
202	須恵器灰	A1 区・土塗 056~058 ・土台部	1/3 缺	口径 13.6 (復元) 高さ 4.7 (残存高)	外) 5/77/2 黄白 内) 5/77/1 黄白、2.5/Y/2 黄灰褐 外) 2.5/Y/2 黄黄	8C 前半~ 9C 前半	底部外面 : 回転ヘラ切り後削ナデ 底部内面 (中空) : ナデ 他 : 回転ナデ	
203	須恵器灰	A2 区・土塗 015	完形 (複合)	口径 13.2 高さ 3.7	外) 5/78/2 黄白、5/77/1 黄白 内) 10/97/1 黄白 外) 10/97/1 黄白	8C 前半~ 9C 前半	底部外面 : 回転ヘラ切り後削ナデ 底部内面 (中空) : ナデ 他 : 回転ナデ	
204	須恵器灰	A2 区・通溝直削	ほぼ完形	口径 16.0 高さ 5.9	外) 7.5/93/3 黄褐 内) 10/94/2 黄褐 外) 5/78/1 黄白	8C 来~ 9C 前半	底部外面 : 回転ヘラケイフ 底部内面 (中空) : ナデ 他 : 回転ナデ	
205	須恵器灰	A1 区③・通溝直削	1/2 缺	口径 15.6 (復元) 高さ 4.0	外) N4/0 黄 内) N6/0 黄	8C 来~9C 初	底部外面 : 回転ヘラ切り後削ナデ 底部内面 (中空) : ナデ 他 : 調整不規則	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	時期	調査		備考
						前半	後半	
206 202-2	須恵器片身	A2区・セクション① ・通縫埋土	丸形	口径13.0 高さ3.7 外) 2.5φ8.1底白、57/11底白 内) 2.5φ8.0底白、57/61底白	9C 前半～ 10C 前半	底部外面：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ 底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	
207 119-4	須恵器皿	A2区②・通縫埋土	2.5残	口径18.2 (復元) 高さ1.6 外) 内) 57/11底白	8C 前半～中	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	
208 119-1	須恵器片皿	A2区②・通縫埋土	は延形	口径17.2 高さ2.9 外) 7.5φ6.1底白 内) 7.5φ7.1底白	8C 前半	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ 底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	
209 432	須恵器片皿	A1区・土器009	丸形	口径17.9 高さ3.2 外) 57/8.2底白 内) 57/8.1底白、57/6.1底白 57/7.1底白、57/5.1底白、 57/5.1底白	8C 前半	底部外面：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ 底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	底部外面：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	
210 131	須恵器片皿	A2区②・通縫埋土	丸形	口径15.9 高さ1.5 外) 57/6.1底白、57/5.1底白 内) 57/6.1底白	8C 前半	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	
211 119-2	須恵器片皿	A2区②・通縫埋土	丸形	口径15.9 高さ2.1 外) 内) 56/0底白	8C 前半	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	
212 86-2	須恵器片皿	A2区両半・第4層	1/2残	口径16.0 高さ2.5 外) 57/6.1底白、57/5.1底白 内) 56/0底白	8C 前半	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	
213 549	須恵器短筒	A2区下位・土器26	丸形	口径13.3 高さ11.4 外) 57/9.1底白、73Y6/1底白	6C 来～ 7C 前半	底部下部～底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	底部下部～底部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	底部下部に輪状の圧痕 あり、輪台部分が削除し た箇所か?
214 127-1	須恵器短筒	A1区④・通縫埋土	3/5残	口径12.4 (復元) 高さ1.5 外) 57/0底白、N7/0底白、 58/5.1底白 内) 57/0底白、N6/0底白 56/0底白	7C 後半～ 8C 初	底部下部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	底部下部外側：回転ヘラケ(?)ナデ 底部内面(中央)：ナデ	
215 96他	須恵器短筒	A2区両半・第4層 Im・通縫埋土	3/5残	口径12.4 (復元) 高さ1.5 外) N6/0底、2.5φ6/1底白、オーリーブ灰 内) 2.5φ7.1底白、2.5φ7.1底白 N6/0底、2.5φ6/1底白、オーリーブ灰	8C 前半	底部外面：ナデ 自然縫に沿う不規則 底部外側：ナデ	底部外面：ナデ 自然縫に沿う不規則 底部外側：ナデ	
216 484-1	須恵器長筒	A2区・土器061	口楕部・ 高台部欠損	口径20.2 (参考値) 高さ2.0 外) 内) 57/11底白	7C 前半～中	底部外側：ヘアリーナード 底部内外面～底部外側：ヘアリーナード 底部内外面～底部外側：調整不可	底部外側：ナデ 自然縫に沿う不規則 底部外側：ナデ	底部外側に自然縫が薄 くかかる。
217 427	須恵器長筒	A1区・土器004	口楕部2/3欠損	口径17.2 (復元) 高さ2.7 外) 57/7/1底白 内) 57/7/1底白	8C 前半	底部外面：ナデ 底部内外面～底部外側：調整不可	底部外面：ナデ 底部内外面～底部外側：調整不可	
218 459	須恵器長筒	A1区・土器027	口楕部1/2欠損	口径11.2 (復元) 高さ2.1 外) 7.5φ6/2底白、オーリーブ灰、 57/5.1底白 内) 57/7/2底白	8C 前半	底部外面：ナデ 底部内外面～底部外側：調整不可	底部外面：ナデ 底部内外面～底部外側：調整不可	・箇所内部に異物がつま っていた。 ・底部に粗いものへの 接着がある箇所 が複数ある。

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	時間		調整	備考
					前半	後半		
219 469	須恵器長颈瓶	A2 区・土器 046	口縁部欠損	高さ 19.6 (保存高) 外) N7/0 底白、7/5/5/2 底オリーブ 内) N5/0 底白	8C 前半	8C 後半外側・底部外側・回転ヘラグアズリ 体部下部外側・回転ヘラグアズリ	自然 體のため調整が不正確。	
220 551	須恵器長颈瓶	A2 区下位・土器 128	口縁部の2/4、口 縫隙部 1/2 欠損	口径 11.4 (保存高) 高さ 11.9 (保存高) 外) P7 7/5/4 底 内) 10/5/1 底	8C 前半?	口縫隙部外側：回転ナデ		
221 443-1	須恵器平瓶	A2 区・土器 020	方形	口径 8.8 高さ 15.4	外) N7/0 底白	底部外側：ナデ 口縫隙部内側：体部外側 回転ナデ		
222 128-1 403 他	須恵器平瓶	A1 区・北壁・P2 A1 区・P2 他	2.5 残	口径 12.1 (保存高) 高さ 8.5	外) N5/0 圓底 内) N5/0 底 5/9/5/1 縫隙 10/9/2 底	体部下部～底部外側：回転ヘラグアズリ 他 回転ナデ		
223 115-1	須恵器平瓶	A1 区・F4・須恵器I	はす形	口径 6.0 ～ 6.1 高さ 8.5	外) N7/0 底 内) N6/0 底	底部外側：回転ヘラグアズリナデ 口縫隙部内側：体部外側 回転ナデ	底部～底部外側：調整ナデ	
224 144 199 他	須恵器双耳瓶	B1 区(?)・須恵器I A 区・セミショコロ(?) ・須傳尊土 他	口縁部欠損・体部 ～底部 1/2 残	口径 22.9 (保存高) 高さ 14.6 (保存高) 外) 斷 7.5/7/1 底白	外) 2.5/9/4/2 底 内) 5/8/1 底 10/9/2 底 外) 中	底部外側：ナデ 他 回転ナデ	自然から自然瓶が 届かず。 ・底面。	
225 72 115 他	須恵器瓶	A1 区東半・第 1 層 A1 区(?)・須傳尊I 他	体部・底部のみ 1/2 残	口径 12.6 高さ 24.3	外) N7/0 底白、N3/0 圓底 内) N6/0 底 2.5/9/4/1 底 外) N5/0 底 内) N5/0 底 N5/0 底	8C 前半	底部外側・回転ナデ 体部～底部外側：タキナ型後ナデ (ほどほどど当員候ならい)	体部ナ片面凹面で成形。
226 462	須恵器椭瓶	A1 区・土器 039	はす形	口径 12.5 高さ 24.1	外) N5/0 底 内) N6/0 底 N5/0 底	8C 前半	口縫隙部外側・回転ナデ 体部～底部外側：ナデ (当員候ならる)	体部ナ片面凹面で成形。
227 473	須恵器椭瓶	A2 区・土器 050	口縫隙部 1/4 欠損	口径 12.5 高さ 23.7	外) N5/0 底 内) N4/0 底 N4/0 底	8C 前半	口縫隙部外側・回転ナデ 体部～底部外側：タキナ型後一部ナデ 体部～底部外側：当員	体部ナ片面凹面で成形。
228 472	須恵器椭瓶	A2 区・土器 049	はす完形	口径 11.4 高さ 23.7	外) N5/0 底 内) N4/0 底 N4/0 底	8C 前半	口縫隙部外側・回転ナデ 体部～底部外側：タキナ型後一部ナデ 体部～底部外側：当員	体部ナ片面凹面で成形。
229 457-1	須恵器椭瓶	A1 区・土器 034	はす完形	口径 11.5 高さ 23.5	外) 7.5/8/6 底白、7.5/8/2 底明灰、 内) N7/0 底白 P9/2 噴灰、S1/5/5/2 底灰、 10/5/4/1 リー灰 外) 7.5/9/6 底白、N7/0 底白	8C 前半	口縫隙部外側・回転ナデ 体部～底部外側：タキナ型後後ナデ 体部～底部外側：ナデ (当員候ならる)	体部ナ片面凹面で成形。
230 460	須恵器椭瓶	A2 区・土器 037	口縫隙部・ 体部一部欠損	口径 10.9 ～ 11.4 高さ 21.2	外) N7/0 底白 内) N7/0 底白、10/9/4/2 底黄褐 N7/0 底白	8C 前半	口縫隙部外側・回転ナデ 体部～底部外側：タキナ型後 体部～底部外側：ナデ (当員候ならる)	体部ナ片面凹面で成形。

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調		時期	備考
					口縁部 3/4・体部 2/5・底部穴	外) 566/1 黄灰 内) 斷 N60 黄灰		
231	162-4 162-他	須恵器類	A2 区(4・須恵器) B1 区(2・須恵器) 他	口縁部 3/4・体部 2/5・底部穴	外) 566/1 黄灰 内) 断 N60 黄灰	7C 来～ 8C 前半	口縁部内外面・回転ナデ 体部外面：タキ調整後カラキ (当面無残る)	体部片面削で成形 とされるが、厚部 分欠損。
232	199 204-他	須恵器類	A 区・セラシヨン(1) B 区・セラシヨン(2) ・須恵器 他	上部のみ残 (口縁部・部分欠損)	口径 19.0 高さ 17.1 (生存部)	外) N80/0 黄白、108/9/1 黄白 内) N80/0 黄白	7C～8C	口縁部内外面・回転ナデ 体部外面：タキ調整 (向心円文・當具痕 (上部) デ角)
233	537	須恵器類	A2 区下位・土器 134	はげ形 (結合)	口径 15.4 高さ 2.1	外) N60 黄灰、N3/0 黄灰 内) N40 黄灰、N3/0 黄灰 断 N40 黄灰	7C～8C	口縁部内外面・回転ナデ 体部～底部外：タキ調整後カラキ 側面～底部内面：ナデ角
234	562	須恵器類	A2 区下位・土器 139	光形	口径 16.0 高さ 26.5	外) N50/0 黄灰、N3/0 黄灰 内) N50/0 黄灰、N3/0 黄灰	7C～8C	口縁部内外面・回転ナデ (外) 562/1 黄灰、584/1 黄青灰 (内) 584/1 黄灰
235	474 132	須恵器類	A2 区・土器 051 A2 区(2・須恵器)	口縁部 1/2・穴拂・ 一部穴吹	口径 17.8 高さ 30.7	外) 584/1 黄灰 内) 582/1 黄灰、584/1 黄灰	7C～8C	口縁部内外面に墨跡あり。 (へら記印か?)
236	546	須恵器類	E2 区・土器 073 A2 区下位・土器 223 他	口縁部 5/6・穴拂・ 一部穴吹	口径 17.5 (復元) 高さ 30.9	外) N20 黒、N3/0 黑灰、N6/0 黑、 7.57/1/1 黄白、1.57/1/1 黄 内) 断 N60/0 黄灰	7C～8C	口縁部～底部外：タキ調整後カラキ 体部～底部内面：ナデ角 (一部) ナガチナデ角
237	481	須恵器類	A1 区・土器 058	上部のみ残 (口縁部・穴拂)	口径 21.0～21.8 高さ 21.0 (生存部)	外) 575/1 黑、576/1 黄、577/1 黄白 内) 107/9/1 黑灰、107/9/1 黄灰 断 107/9/1 黄白	7C～8C	口縁部内外面・回転ナデ 体部～底部外：タキ調整後カラキ (上部) ナガチナデ角
238	471	須恵器類	A2 区・土器 048	口縁部一部分欠損	口径 19.6 高さ 36.3	外) 7.57/1 黄白 内) N70/0 黄白、7.57/1/1 黄白 断 107/8/1 黄白	7C～8C	口縁部内外面・回転ナデ (一部) ナガチナデ角
239	452	須恵器類	A2 区・土器 029	口縁部 1/8・穴拂	口径 23.6 高さ 31.0	外) 斜 7.57/1 黄白	7C～8C	口縁部～底部外：タキ調整後カラキ 体部～底部内面：ナデ角 (向心円文・當具痕)
240	109-2 387	須恵器類	C2 区(東半周側)(セラシヨン)・須恵器	上部のみ 1/3 残	口径 24.8 (復元) 高さ 12.1 (生存部)	外) N50 黄 内) N3/0 黄灰、N4/0 黄 断 7.57/6/2 黑灰	7C～8C	口縁部内外面・回転ナデ 体部外：タキ調整後カラキ 側面：ナデ角
241	467	須恵器類	A2 区・土器 044	口縁部一部分欠損	口径 21.4 高さ 45.3	外) 584/1 黄灰 内) 585/4/1 黄青灰、7.57/6/4 黄 断 585/4/1 黄青灰	7C～8C	口縁部内外面に墨跡あり。 (へら記印か?) ・体部上部に墨跡あり。

遺物 虞番号								器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調	時期	調整	備考
242	459	漆器瓶裏	A1区・土器002 A1区・土器036	他	口縁部1/4、 体部1/10欠損	口径 23.0 高さ 45.2	外) N40灰、 内) N50灰、 新) 10851灰灰	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 (部分分野にナデ)	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
243	477	漆器瓶裏	A1区・土器054		体部一部、 口縫部欠損	口径 50.8 (底存形) 高さ 51.8	外) N30陶灰、 内) N50陶灰、 新) 107941陶灰灰	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：タタキ調整後部分的に ナデ	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
244	479	漆器瓶裏	A1区・土器056		口縫部2/5欠損	口径 28.2 高さ 51.8	外) N50灰、 内) N50灰、 新) 108561灰灰	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
245	486	漆器瓶裏	A1区・土器043	は延充形	は延充形	口径 24.6 高さ 49.6	外) 108651灰灰、 内) 108671灰灰、 新) 108641灰灰、 新) 1085611灰灰	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：ナシサワ及ナデ	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 (部分分野：ナシサワ及ナデ)	7C～8C					
246	488	漆器瓶裏	A2区・土器065	は延充形	は延充形	口径 25.4 高さ 47.2	外) N30灰、 内) N40灰、 新) N40灰	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：ナシサワ及ナデ	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
247	437	漆器瓶裏	A2区・土器014	口縫部2/3、 体部一部欠損	口縫部2/3、 体部一部欠損	口径 21.6 (底存形) 高さ 47.7	外) 内) 10771灰白 新) N40灰白	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
248	476	漆器瓶裏	A2区・土器053	は延充形	は延充形	口径 20.2 高さ 44.7	外) 内) N50灰青 新) 10851灰青	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
249	530	漆器瓶裏	A2区・土器107	は延充形 (底存形) 面が一部壊れ	は延充形 (底存形) 面が一部壊れ	口径 21.2 高さ 42.8	外) 7.5751灰、 内) N40灰、 新) 7.5772灰	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
250	464	漆器瓶裏	A1区・土器041	口縫部1/5欠損	口縫部1/5欠損	口径 25.5 高さ 45.2	外) N30陶灰、 内) N50灰、 新) N50灰、 新) 10851灰灰	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
251	463	漆器瓶裏	A1区・土器040	口縫部1/5欠損	口縫部1/5欠損	口径 17.5 高さ 46.6	外) 内) 斜 5IG61灰青	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
252	461	漆器瓶裏	A1区・土器038	口縫部2/5欠損	口縫部2/5欠損	口径 19.2 高さ 44.4	外) 5141灰、 内) 5122灰、 新) 51341オーブ灰、 新) 51441灰	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	7C～8C					
253	454	漆器瓶裏	A1区・土器031	丸形	丸形	口径 25.0 高さ 50.0	外) 10742オーブ灰 内) 10751灰灰	回転ナデ 体部～底部外縁：タタキ調整後力丸目 体部～底部内縁：同心円文当具縁 力丸目	前半 BC前半のものと考えら れる可能性がある。						

備考							
遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調	時期	調査
254 465	須恵器	A1区・土器 042	口縁部2/3欠損 器高37.0	口径28.0 器高37.0	外) N6/0灰白 内) N7/0灰白	7C~8C	口縫部外面・回転ナデ 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 体部中央付近に径5~8mmの穿孔。1か所あり。 自然地が広くかかる。
255 456	須恵器	A1区・土器 033	口縁部2/3欠損 器高60.6	口径32.0(復元) 器高60.6	外) N7/0灰白 内) N6/0灰白	7C~8C	口縫部外面・回転ナデ 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 自然地が広くかかる。
256 480	須恵器	A1区・土器 057 A2区・土器 021(竹簡破片)	口縫部3/4欠損 器高39.0	口径34.1(復元) 器高39.0	外) N6/0灰白 内) N5/0灰 7.57/1底白	7C~8C	口縫部外面・回転ナデ 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 自然地が広くかかる。
257 458-3	須恵器	A1区・土器 035	1/3残	口径36.5(復元) 器高61.0(残存高) 内) N5/0灰	外) 10/6/1灰、10/5/1灰、 10/4/1灰、10/5/1灰 内) N6/0灰	7C~8C	口縫部外面・回転ナデ 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 自然地が広くかかる。
258 444	須恵器	A2区・土器 021	口縫部1/2欠損 器高72.2	口径36.0 器高72.2	外) N6/0灰白 内) N7/0灰白	7C~8C	口縫部外面・回転ナデ 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 自然地が広くかかる。
259 455	須恵器	A1区・土器 032	口縫部欠損 器高56.5(残存高)	器高56.5(残存高) 内) N5/0灰 7.57/6底白	外) N6/0灰 内) N5/0灰 7.57/6底白	7C~8C?	口縫部外面・回転ナデ 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 体部～底部外：タキナ型後手形2分野に 自然地が広くかかる。
260 205-2	須恵器	B1区・北壁アビ ・須恵器土	4/5残	口径12.4 器高4.1	外) 2.57/1底白、N1*1.50黒 内) 2.57/1底白、7.57/6底白	7C前半	天井部内部・天井部内部(中央)：ナデ 他回転ナデ
261 502	須恵器	B2区・土器 079	完形	口径9.6 器高4.0	外) 5G/11海オリーブ灰、N5/0灰 内) N7/0灰白	7C前半	天井部内部・天井部内部(中央)：ナデ 他回転ナデ
262 146-3	須恵器 (信蓋?)	B1区(3・遺構剖面)	2/5残	口径4.7(復元) 器高4.5	外) 7.57/4灰 内) 5/77/2底白	7C前半	天井部外面・回転ナデ
263 143-1	須恵器	B2区(4・遺構剖面)	は延形	口径8.8 器高3.1	外) 10/6/1灰 内) N8/0灰白、7.57/6/2底カリーブ 7.57/1底白	7C前半	底外部：回転ナデ 他回転ナデ
264 316-1	須恵器	B1区・土台部	1/4残	口径10.7(復元) 器高3.4	外) N6/0灰、N4/0灰 内) N5/0灰 7.57/7底白	7C中~後半	天井部外面：回転ナデ 天井部内面：ナデ
265 152-3	須恵器	B2区(5・遺構剖面)	完形	口径10.2 器高2.5	外) N7/0灰白、N6/0灰 内) N6/0灰、N4/0灰	7C後半	全体：回転ナデ
266 146-2	須恵器	B1区(3・遺構剖面)	7/10残	口径15.3 器高4.9	外) 斜 7.57/7底白	7C	底外部：回転ナデ 他回転ナデ

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調査	備考
					内部	外部			
267 494-1	須恵器壺	B1区・土器07	4/5残	口径11.5 高さ.5	外) 斧 7.57/11灰白	7C	底部外面：圓底へラ切り複数ナデ 他 回転ナデ		
268 495	須恵器壺	B1区・土器07	筒形	口径11.5~12.5 高さ.3	外) 7.57/2灰白、オリーブ 内) 7.57/6灰、1.576/2灰オリーブ	TC後半~ BC前半	底部外面：圓底へラ切り複数ナデ 他 回転ナデ		
269 206	須恵器壺	E2区・セクション② ・通溝型土他	口横部1/6欠損	口径12.6 高さ.3.3	外) 7.57/6灰、N80灰白、N50灰 内) 575/1灰、N50灰 筋 N50灰	TC後半~ BC前半	底部外面：圓底へラ切り複数ナデ 他 回転ナデ		
270 505	須恵器壺	B1区下位・土器062	完形	口径15.4 高さ.2.8	外) N60灰 内) N50灰	8C前半	天井内部(中央)ナデ 他 回転ナデ		
271 204他	須恵器壺	B1区・土器066 B1区・セクション② ・通溝型土他	口横部1/6欠損	口径14.7 高さ.6.7	外) 578/2灰白、2.57/7灰 筋 2.57/6灰黄	8C前半~中	底部外面：ヘラナデ 底部下端外側 回転ヘラケズリ 底部内側(中央)ナデ		
272 204-2	須恵器壺	B1区・セクション② ・通溝型土	口横部1/8欠損	口径12.5 高さ.4	外) 2.50/3/1灰オリーブ灰、N50灰 内) N50灰 筋 N50灰	8C前半~ BC前半	底部外面：圓底へラ切り複数ナデ 他 回転ナデ		
273 170-7	須恵器壺	B1区2・通溝型土	2/3残	口径15.3 高さ.4.5	外) N5/5灰 筋 576/1灰	8C末~9C初	底部外面：圓底へラ切り複数ナデ 他 回転ナデ		
274 205-3 238他	須恵器壺	B1区・北壁アビ B1区・通溝型土他	口横部1/5欠損	口径12.1 高さ.3.7	外) 10/61灰、10/51灰、 10/61灰、7.57/5灰、 7.57/4灰、 7.57/5灰、10/51灰	8C末~ 9C前半	底部外面：圓底へラ切り複数ナデ 他 回転ナデ		
275 205-1	須恵器壺	B1区・北壁アビ ・通溝型土	1/2残	口径12.7 高さ.3.4	外) 2.57/1灰白 筋 2.57/1灰白	9C中	底部外面：圓底へラ切り複数ナデ 他 回転ナデ		
276 152-2	須恵器壺	E2区4・通溝型土	1/2残	口径15.8 高さ.3	外) N7/0灰白、N50灰 筋 N7/0灰白	11C~ 12C前半	底部外面：圓底斜切り 他 回転ナデ		
277 92-1 151他	須恵器壺	C2区東半・第4層 E2区・通溝型土他	1/2残	口径24.8(復元) 高さ11.5(復元)	外) 斧 7.57/6/1灰	TC末~ BC前半	底部下部~底部外側：他へラケズリ 他 回転ナデ		
278 145-3	須恵器壺	B1区2・通溝型土	口横部・全体のみ 1/4残	口径20.8(復元) 高さ8.9(復元)	外) N2/0灰、2.57/6/2灰 内) 576/1灰、2.57/7/1灰 筋 2.57/7/1灰白	8C	底部外面：圓底へラケズリ 口横部内部~底部外側 回転ナデ (C2区東半外側に一部ヘラミガキ)		
279 184	須恵器壺	E2区・セクション② G3区・土器②	1/2残存	口径8.0(復元) 高さ12.9(復元)	外) N60灰 筋 N7/0灰白	7C中~後半	底部下半外側 ヘラケズリ 他 回転ナデ		

遺物 番号	原種号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調	時期	調査	備考	
280	152	須恵器縁盤	62区(4)・遺構剖面	完形	口径10.0 高さ15.8	外) N8/0灰白 内) N8/0灰白	7C後半	底部外面：円筒ヘラケズ・後後ナデ 底部内面：ナデ 体部下端：回転ヘラケズり 他 回転ナデ		
281	215-1 447	須恵器縁盤	C1区・北壁アゼ 町区・土蔵024	4.5残	高さ14.3(保存高) 外) 斷) 7.5Y5/1灰、N7/0灰白	外) 内) 断) 7.5Y5/1灰、N7/0灰白	7C後半～ BC切?	底部外面：管サエ横断 底部内面：ナデ 体部下端外面：回転ヘラケズリ後後ナデ 他 回転ナデ		
282	146	須恵器平瓶	B1区(3)・遺構剖面	他	3.5残	口径11.7 高さ14.9	外) 内) 断) N7/0灰白	7C末～ 8C前半	底部外面：ナデ 底部下端外面：回転ヘラケズリ後後ナデ 他 回転ナデ	
283	492-1	須恵器平瓶	B1区・土蔵069	4.5残	口径12.7(復元) 高さ15.9	外) 内) 断) N7/0灰白	7C末～ 8C前半	底部外面：ナデ 他 回転ナデ		
284	497-1	須恵器平瓶	B1区・土蔵024	口縁部欠損	高さ11.1(保存高) 外) 内) 断) 10Y7/1灰白	外) 内) 断) 10Y7/1灰白	7C後半	体部上部外面：回転ナデ 体部下端～底部内面：回転ヘラケズリ 他 回転ナデ		
285	981 138-他	須恵器平瓶	81区・セクション2・剖面 Im中・遺構剖面 81区・遺構面上 ・土蔵2・他	1/2残	口径10.3(保存高) 高さ17.9	外) N5/0灰 内) N6/0灰 断) 5E5/1素板	8C中～後半	底部外面：ナデ 他 回転ナデ		
286	143-2	須恵器縁盤	B1区(3)・遺構剖面	1/2残	口径5.8(復元) 高さ17.9	外) N4/0灰 内) N5/0灰 断) 5E7/1素板灰、5M6/1青灰	8C前半	底部外面：ナデ 他 回転ナデ		
287	140	須恵器蓋	82区(1)・遺構剖面	口縁部1/2・高台 部わざかに穴開	口径4.0(復元) 高さ9.1	外) N6/0灰 内) N7/0灰白	9C前半	口縁部内面：体部上部外面：回転ヘラケズリ 体部下端外面：回転ヘラケズリ 他 回転ナデ		
288	499	須恵器縁盤	81区・土蔵076	1/3手形	口径11.4 高さ26.4	外) N7/0灰白 内) 2.5G7/11側ナーフ灰	7C末～ BC前半	口縁部内面：回転ナデ 体部～底部内面：タキナジ輪後カラキ目 他 回転ナデ		
289	446	須恵器縁瓶	B1区・土蔵023	口縁部3/5欠損	口径12.6(復元) 高さ28.3	外) N7/0灰白 内) 2.5G3/1箱ナーフ灰 断) 7.5Y7/1灰白、A2/0素 内) N6/0灰 断) N6/0灰	7C末～ BC前半	口縁部内面：摩利のたん頭後不明跡 体部～底部内面：タキナジ輪後ナデ 他 回転ナデ		
290	143-5	須恵器縁瓶	62区(4)・遺構剖面	上部のみ1/5残	口径11.3(保存高) 高さ13.1(保存高)	外) N5/0灰 内) N5/0灰 断) N5/0灰	7C末～ BC前半	口縁部内面：回転ナデ 体部～底部内面：タキナジ輪後分筋にナデ 他 回転ナデ		
291	445	須恵器蓋	B1区・土蔵022	体部一部欠損	口径13.4 高さ24.8	外) 5Y9/2灰白、2.5Y5/1灰 内) N6/0灰 内) N5/0灰 内) N7/0灰白	7C～8C	口縁部内面：回転ナデ 体部～底部内面：タキナジ輪後カラキ目 他 回転ナデ		

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調整	備考
					外	内			
292	瓦盤 32	須恵器裏 (G2 区・G2・7 層 (G2 区))	口縁部 1.6、 体部一部欠損	口径 16.0 高さ 2.7	N3.0 黒、 10YR7/7 黄褐色 N5.0 白、 N7.0 白	10YR7/7 黄褐色 N5.0 白、 N7.0 白	7C ~ 8C	口縫部外面：タキ調整後カラメ 体部外面：タキ調整後カラメ 底部～底部内面：同心円内当具類 底部～底部外面：蝶のため剥離不明	
293	111-3 145 他	須恵器裏 (C2 区・土器・遺構剖面) (B1 区・土器・遺構剖面) 他	口縫部 4.5、 体部 1.3 残 ・遺構剖面 他	口径 16.1 高さ 2.4 (保存高)	外) N4.0 白 内) N7.0 白	2.5Y6/1 黃褐色、 2.5Y7/1 白 10YR4/1 黄褐色、 10YR6/1 白 10YR7/2 黄褐色	7C ~ 8C	口縫部外面：タキ調整後カラメ 体部～底部内面：回転ナデ 体部～底部外面：同心円内当具類 底部～底部外面：タキ調整後カラメ 底部～底部外面：蝶のため剥離不明	
294	512 111 他	須恵器裏 (C2 区・土器・遺構剖面) (B1 区・土器・遺構剖面) 他	C1 区・土器 089 C2 区・土器・遺構剖面 他	口径 7.0 残 高さ 2.0 (復元)	N4.0 白 N7.0 白	2.5Y6/1 黃褐色、 2.5Y7/1 白 10YR4/1 黄褐色、 10YR6/1 白 10YR7/2 黄褐色	7C ~ 8C	口縫部外面：回転ナデ 体部～底部内面：同心円内当具類 体部～底部外面：タキ調整後カラメ 底部～底部外面：蝶のため剥離不明	
295	110-3 147 他	須恵器裏 (G2 区・土器 064)	C2 区・土器・遺構剖面 完形	口径 2.2 (復元) 高さ 3.0 (保存高)	N5.0 白、 N4.0 白、 N7.0 白	2.5G5/1 オリーブ灰 2.5G7/1 オリーブ灰 7.5Y6/2 白	7C ~ 8C	口縫部外面：回転ナデ 体部～底部内面：タキ調整後カラメ 底部～底部外面：蝶のため剥離不明	
296	487	須恵器裏 (G2 区・G2・7 層 (G2 区))	口縫部 1.6 欠損 完形	口径 17.1 高さ 3.8	N5.0 白、 10G7/1 白	2.5G5/1 オリーブ灰	7C ~ 8C	口縫部外面：回転ナデ 体部～底部内面：タキ調整後カラメ 底部～底部外面：蝶のため剥離不明	
297	瓦盤 27	須恵器裏 (C2 区・土器 094)	口縫部 1.6 欠損 1/3 残	口径 20.5 高さ 4.9	N7.0 白 N7.0 白	2.5Y6/1 黄褐色 10YR3.5 黄褐色	7C ~ 8C	口縫部外面：回転ナデ 体部～底部内面：同心円内当具類 底部～底部外面：蝶のため剥離不明	
298	517	須恵器裏 (C2 区・土器 093)	はす穴形 1/3 残	口径 15.2 (復元) 高さ 5.5	N7.0 白、 10YR3.5 黄褐色 7.5Y7/1 白	10YR4/1 黄褐色 10YR5.6 黄褐色 10YR3.5 黄褐色	7C 前半	天井部外面：回転ナデ 天井部内面：回転ナデ 天井部外側：回転ナデ 天井部内側：回転ナデ	
299	516	須恵器裏 (C2 区・土器 093)	はす穴形 1/3 残	口径 12.4 高さ 4.1	N7.0 白、 7.5Y7/1 白	7.5Y7/1 白 10YR3.5 黄褐色 7.5Y6/1 白	7C 前半	天井部外面：回転ナデ 天井部内面：回転ナデ 天井部外側：回転ナデ 天井部内側：回転ナデ	
300	153-1	須恵器裏 (C1 区①・遺構剖面)	1/2 残	口径 15.0 高さ 3.9	N7.0 白 7.5Y7/1 白	2.5G5/1 オリーブ灰 2.5G7/1 オリーブ灰 2.5G6/1 オリーブ灰	7C 前半	底外側：回転ナデ 底内側：回転ナデ	
301	216	須恵器裏 (C2 区・セケンジヨン②) ・遺構帯土	はす穴形 1/4 残	口径 11.4 高さ 4.1	N7.0 白 7.5Y6/1 白 7.5Y6/2 白	2.5G5/1 オリーブ灰 2.5G7/1 オリーブ灰 10YR6/6 黄褐色、 5YR6/4 黄褐色、 5YR5/3 白	7C 後半	底外側：回転ナデ 底内側：回転ナデ	
302	506	須恵器裏 (C2 区③・セケンジヨン③) 西側・遺構剖面	C1 区・土器 083	はす穴形 1/4 残	N7.0 白 7.5Y7/1 白	7.5Y6/1 白 7.5Y6/2 白	7C 後半	底外側：回転ナデ 底内側：回転ナデ	
303	168-2	須恵器裏 (C2 区④・セケンジヨン④)	高台部穴 1/1 残	口径 14.4 (復元) 高さ 4.7 (保存高)	N7.0 白 7.5Y7/1 白	10YR6/6 黄褐色、 5YR6/4 黄褐色、 5YR5/3 白	7C 後半	全体 (保存高): 回転ナデ 色剥離赤色がかかる。	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調整	備考
					外) 断面	内) 断面			
304	須恵器片	C2 区・土器 102	口縁部 1/3 次損	口径 14.8 器高 4.3	外) N5/0 灰、N6/0 灰	内) N5/0 灰、2.5/8/3 漆黒、 2.5/7/2 灰白、10/8/1 灰白	7C 後半～ 8C 前半	漆器外表面：回転ナデ 漆器内表面：ナデ 他 回転ナデ	漆器表面に付着するいは 極端な汚染。
305	須恵器片	C1 区西半・第 1 層 C1 区・セクション③ ・須恵器土	口縁部 1/4 次損	口径 16.7 器高 3.4	外) 2.5/8/1 灰白、 2.5/7/2 灰白 内) 10/8/1 灰白、 2.5/7/1 灰白	外) N5/0 灰、 内) N5/0 灰 断面 N6/0 灰	8C 前半～中	漆器外表面：回転ナデ 漆器内表面：ナデ 他 回転ナデ	ヘラ記号(底面外側)。
306	須恵器片	C1 区・セクション③ ・須恵器土	はぎ形	口径 11.9 器高 3.5	外) N6/0 灰、 内) N5/0 灰 断面 N6/0 灰	外) N5/0 灰、 内) N5/0 灰 断面 N6/0 灰	8C 前半～ 9C 前半	漆器外表面：回転ナデ 漆器内表面：ナデ 他 回転ナデ	
307	須恵器片	C1 区・土器 111	口縁部・ 全体 1/3 次損	口径 12.9 器高 4.3	外) N2/0 黒、 内) N2/0 黒、 断面 2.5/7/1 灰白	外) N7/0 灰白、 内) N7/0 灰白 断面 N6/0 灰	8C 末～ 9C 前半	漆器外表面：回転ナデ 漆器内表面：ナデ 他 回転ナデ	
308	須恵器片	C2 区西半側・須縁部	2/3 残	口径 17.3 器高 2.5	外) N7/0 灰白 内) N7/0 灰白	外) N7/0 灰白、 内) N7/0 灰白 断面 N6/0 灰	8C 前半	天井外部表面：回転ナデ 他 回転ナデ	
309	須恵器片	C1 区①・須縁部	口縁部 1/8 次損	口径 2.5 器高 3.0	外) 7.5/7/3 漆黒、 内) 7.5/7/3 漆黒、 断面 N6/0 灰	外) 7.5/7/1 灰白、 内) 7.5/7/1 灰白、 断面 N6/0 灰	8C 中～後半	天井前部表面：回転ナデ 天井内部表面：ナデ 他 回転ナデ	
310	須恵器	C1 区②・須縁部	3/4 残	口径 15.5 器高 3.5	外) N5/1 灰、 内) N5/1 灰	外) 2.5/7/1 灰白、 内) 2.5/7/2 灰白、 断面 9.6 (保存度) 2.5/7/1 灰白	10C 前半～ 11C	漆器外表面：回転ナデ 他 回転ナデ	
311	須恵器	C1 区西半・セクション③・ベルトより西・第 4 層	2/5 残	口径 20.0 (保存度) 器高 9.6 (保存度) 2.5/7/1 灰白	外) N7/1 灰白、 内) N7/1 灰白 断面 11.5	外) 2.5/7/1 灰白、 内) 2.5/7/2 灰白、 断面 10/8/1 灰白、 2.5/7/1 灰白	7C 後半～ 8C 前半	体部下部～漆器外表面：回転ナデ 他 回転ナデ	
312	須恵器	C1 区・土器 698 A2 区西半・第 4 層 他	1/2 残	口径 20.6 器高 11.5	外) 5/7/1 灰白、 内) 5/7/1 灰白	外) 7.5/7/1 灰白 内) 7.5/7/1 灰白	8C	口縁部～体部(半外側)：ヘラケズリ 漆器内表面：ナデ 他 回転ナデ	
313	須恵器	C2 区・土器 121 A2 区・須縁部	口縁部一部欠損	口径 20.1 器高 11.4	外) N7/0 灰白 内) N6/0 1 灰白	外) N7/0 灰白 内) N6/0 1 灰白	8C	体部・底部外表面：回転ナデ 漆器内表面：ナデ 他 回転ナデ (口縁部～底部上部外側に 一部ヘラケズリ)	
314	須恵器	C1 区②・須縁部 D2 区・西側アゼ ・須縁部	1/2 残	口径 7.1 (保存度) 器高 7.1	外) N7/0 灰白 内) N6/0 1 灰白	外) 6C 末～ 7C 前半	体部下部～漆器外表面：回転ナデ 他 回転ナデ		
315	須恵器	C1 区③・セクション③ 東側・須縁部 C1 区④・須縁部	口縁部のみ (口縁部 4/5 次損)	口径 18.9 器高 19.0 (保存度)	外) 2.5/6/1 オリーブ灰 内) 2.5/6/1 オリーブ灰	8C 前半	口縁部内表面：回転ナデ		

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期	調査	備考
316 111-2 174	須恵器 (字瓶?)	C2 区西半側・通溝剖面 D2 区 2-3・通溝剖面	口縁部のみ 1/3 残 高さ 3.7 / (残存高) N5.0 底	口径 17.6 (復元) 高さ 3.7 / (残存高) N5.0 底	外) SG5/1 オリーブ灰、 SG5/1 黄オリーブ灰 内) N7.0 底白、N5.0 底 底部外面：黒ナデ	7°C ~ 8°C ?	口縫部内外面：回転ナデ	
317 513-1	須恵器平底	C1 区・土88 090	1/2 残	高さ 10.9 (残存高)	外) 内) N6.0 底 新 7.5/5.2 底外 内) 10/6.1 底 新 7.5/6.1 底	7°C ~ 8°C 斜半	底部外面：黒ナデ 底部下部外面：回転ヘラクスリ後ナデ 他) 回転ナデ	
318 154-4	須恵器長脚瓶 (ラヌコ形瓶)	C1 区 2-3・通溝剖面	7/10 残	高さ 21.3 (残存高) 口径 7.5/6.1 底	外) 内) 10/6.1 底 新 7.5/6.1 底	7°C 前半 ~ 8°C 初	底部外面：回転ナデ 底部外側：黒ナデ	素面質
319 507	須恵器	C1 区・土88 084	口縫部わずかに 欠損	口径 3.4 高さ 8.3	外) 内) N7.0 底白、 新 2.5/0.7 底白 内) N5.0 底白	9°C 前半	口縫部外面：ナフ 口縫部下部外面：回転上部外面：回転ナデ 他) 斜半	
320 160	須恵器	C2 区 4-5・通溝剖面	完形	口径 8.9	外) 内) N7.0 底白	9°C 前半	底部外面：ナフ 口縫部内外面：体部上部外面：回転ナデ 他) 斜半	
321 518 157	須恵器	C1 区・土88 095 C2 区 2-3・通溝剖面	1/3 残	口径 21.6 (復元) 高さ 17.3 (残存高)	外) 内) N4.0 底、N5.0 底 新 2.5/0.8 底白	7°C ~ 8°C	口縫部内外面：回転ナデ 体部外面：タキ後カヨ 口縫部内面：同小円文当具質	調査不可
322 111-2 173-地	須恵器瓶底	C2 区半側・通溝剖面 D2 区 2-3・通溝剖面	1/4 残	口径 12.5 (復元) 高さ 22.5 (残存高)	外) 内) N7.0 底白 新 7.5/0.7 底白 内) N6.0 底 新 7.5/1.2 底白 外) 内) N7.0 底白	7°C ~ 8°C 斜半	口縫部内外面：回転ナデ 体部外面：タキ調節輪 口縫部内面：回転ナデ 他) 斜半	体部の反転動作による 美術文化
323 529	須恵器	C2 区・土88 106	口縫部 5/6・体部 及 D2 区一部・欠損	口径 41.4 (復元) 高さ 71.1	外) 内) N6.0 底 新 60.8	7°C ~ 8°C	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外面：タタヨ調整 体部～底部内面：同小円文当具質	
324 543 574	須恵器	C2 区・土88 115 C2 区・土88 120 D2 区・土88 151	口縫部 1/2・ 体部 1/4 欠損	口径 41.2 高さ 60.8	外) 内) N6.0 底 新 7.5/1.2 底白、 N8.0 底白	7°C ~ 8°C	口縫部内外面：回転ナデ 体部～底部外面：タタヨ調整 体部～底部内面：同小円文当具質	・自然粘が厚くかかる。 ・保満中央部に厚み 8 mm の突起がある。 他の穿孔の可能性のある 部跡が 2 万所あり。
325 111-7	須恵器片唇	D2 区西半側・通溝剖面	口縫部・ 体部 1/4 欠損	口径 9.8 高さ 5.5	外) 5/5/1 底、2.5/8/1 底白 内) 2.5/8/1 底白	7°C 前半	天井部外面：回転ヘラクスリ後ナデ 天井部内面：(中央)：ナデ 他) 回転ナデ	
326 222-2	須恵器片唇	D2 区・西壁アゼ ・通溝剖面	3/5 残	口径 12.3 (復元) 高さ 3.9	外) 10/6/4 底灰、 10/6/7/3.5 黄褐色 内) 10/6/4 底灰 10/6/5 底灰	7°C 前半	天井部外面：回転ヘラクスリ未調査 天井部内面：(中央)：ナデ 他) 回転ナデ	
327 638	須恵器片唇	D2 区西半側・通溝剖面	口縫部完形	口径 13.3 高さ 3.7	外) N6.0 底、 N5.0 底白 内) N7.0 底白、N6.0 底 新 6.0 底白	7°C 中~後半	天井部外面：回転ヘラクスリ後回転ナデ 天井部内面：(中央)：ナデ 他) 回転ナデ	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調整	備考
					外	内			
328 222-1	須恵器片皿	D2区・西壁7セ・埴輪土 壁付元形	口径14.6 高さ3.0	外) 516/1灰 内) N60灰 筋) 576/1灰	8C 前半	天井部外面：回転ヘラケズリ 天井部内面：中央：ナデ 他 回転ナデ			
329 637	須恵器片身	D2区・第3層	元形	口径3.8 高さ2.6	外) N70灰白 内) N60灰	7C 中～後半	底面下端～底部外面：回転ヘラケズリ 底面下端～回転ナデ	底面下端～底部外面：回転ヘラケズリ 底面内面：中央：ナデ 他 回転ナデ	ヘラケズリ(底面外面)。
330 358	須恵器片身	D1区・土器140・土台部	16残	口径24.0 高さ4.1	外) 内) 斷) 7.5/8灰白	7C 後半～ 8C 後半	底面下端～底部外面：回転ヘラケズリ 底面内面：中央：ナデ 他 回転ナデ		
331 170-6	須恵器片身	D1区(?)・須燒削	1/2残	口径15.8(復元) 高さ4.8	外) 107/2灰白 内) 7.5/61灰 筋) 515/2灰オリーブ	8C ?	底面外面：ナデ 他 回転ナデ(ただし底面内面は焼物 で調整不可)		
332 170	須恵器片身	D1区(?)・須燒削	5.6残	口径15.0 高さ4.0	外) 518/8灰 内) N60灰 筋) N70灰白	8C 前半～中 8C 前半	底面外面：回転ヘラケズリ 底面内面：中央：ナデ 他 回転ナデ	底面外面：回転ヘラケズリ 底面内面は焼物で調整不可	
333 170-8	須恵器皿	D1区(?)・須燒削	1/8残	口径23.4(復元) 高さ2.5(復元高)	外) 内) 断) 2.5/7/2灰黄	8C 前半～中 8C 前半	底面外面：回転ヘラケズリ 他 回転ナデ	(底面外面に一部ヘラケズリの跡あり)	
334 173	須恵器片	D2区(?)・須燒削	1/4残 (底面ほんの少 量)	口径17.2 高さ12.5 (復元高) 内) 断) 2.5/7/1灰白	外) N70灰白 内) 断) 5/6/1灰	7C ?	底面外面：ナデ 他 回転ナデ		
335 174	須恵器片身	D2区(?)・須燒削	体部1/4、 口縁部欠損	高さ18.0(復元高)	外) 内) 断) 5/6/1灰	8C 前半	全体：回転ナデ(ただし、肩部外壁は自 然崩により調整不可)	全体：回転ナデ(ただし、肩部外壁は自 然崩により調整不可)	
336 565	須恵器長颈瓶	D1区・土器142	体部1/5、 口縁部欠損	高さ15.8(復元高)	外) 内) N50灰	8C 前半	全体：回転ナデ(ただし、肩部外壁は自 然崩により調整不可)	全体：回転ナデ(ただし、肩部外壁は自 然崩により調整不可)	
337 568 111他	須恵器片皿	D2区・土器145 C2及E2半削側・須燒削	口縫部2/3、 体部2/5欠損	口径12.3 高さ27.5	外) N40灰、2.5/8/1灰白 内) 断) N70/0灰白	7C 后半～ 8C 前半	口縫部外面：回転ナデ 体部～基部外面：タキシテ調整後カギ目 体部～基部内面：向心円当真頬	口縫部外面：回転ナデ 体部～基部外面：タキシテ調整後カギ目 体部～基部内面：向心円当真頬	体部片面明瞭で焼形。
338 172-1	須恵器平瓶	D1区(?)・須燒削	口縫部2/3、 把手欠損	口径5.8(復元) 高さ6.6	外) 107/2/0灰白 内) N50灰白	8C 前半～中	口縫部外面：回転ナデ 体部内面：体部上面：回転ナデ	口縫部外面：回転ナデ 体部内面：体部上面：回転ナデ	
339 170-10	須恵器蓋	D1区(?)・須燒削	把手付近 中心に残	—	外) N50灰 内) 7.5/61灰 筋) 107/6/1灰	7C ~ 8C ?	外側：タタキ棒カギ目 内面：同心円当真頬		
340 400	須恵器蓋	区域不明・須燒削	口縫部1/2欠損	口径13.2 高さ1.6	外) N50灰白 内) N60灰白	8C	全体：回転ナデ		

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期	調整	備考
341 760	須惠器环甌	E区・土壠 195	完形	口径 10.9 底高 4.2	外) N7/0灰白、N6/0灰、7.5Y4/1灰、 内) N7/0灰白、N6/0灰	7C 前半	天井部外面：回転ヘラ切り縁ナデ 天井部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
342 792-4	須惠器环甌	E2 区西半部・須惠器則	口横部 1/10欠損	口径 10.3 底高 3.6	外) N5/0灰白 内) N5/0灰白 新) N3/0陶灰、2.5Y3/2陶灰地	7C 前半	天井部外面：回転ヘラ切り縁ナデ 天井部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
343 768-3	須惠器环甌	E1 区東半部・須惠器則	5/6残	口径 9.9 底高 3.7 (底存高)	外) 10Y6/1 陶白 内) 10Y6/2 陶白 新) 10Y6/2 陶白	7C 前半	天井部外面：回転ヘラ切り縁ナデ 天井部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
344 747	須惠器环甌	E区・土壠 162	完形	口径 9.2 底高 3.7	外) N6/0灰白 内) N6/0灰 新) N6/0灰	7C 前半	天井部外面：回転ヘラ切り縁未調整 天井部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
345 738	須惠器环甌	E区・土壠 173	(底存形)	口径 8.9 底高 3.1	外) N6/0灰 内) N6/0灰 新) N6/0灰	7C 前半	天井部外面：回転ヘラ切り縁ナデ 天井部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
346 772	須惠器环甌	E1 区西半部・須惠器則	口横部 1/2欠損	口径 9.3 底高 3.3	外) N6/0灰 内) N5/0灰 新) N5/0灰	7C 前半	天井部外面：回転ヘラ切り縁調整 天井部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
347 741	須惠器环甌	E区・土壠 176	完形	口径 10.2 底高 2.4	外) N6/0灰白、N5/0灰 内) N6/0灰 新) N5/0灰	7C 中~後半	天井部外面：回転ヘラケズイ 天井部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
348 761	須惠器环甌	E区・土壠 195	完形	口径 10.1 底高 3.2	外) 2.5Y4/1 灰白、2.5Y3/1 黑褐 内) N6/0灰 新) N6/0灰	7C 後半	天井部外面：回転ヘラケズイ 天井部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
349 768-1	須惠器环甌	E1 区東半部・須惠器則	完形	口径 10.0 ~ 1.5 底高 3.5	外) N6/0灰 内) N6/0灰白 新) N6/0灰白	7C 前半	底部外面：回転ヘラ切り縁ナデ 底部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
350 792-3	須惠器环甌	E2 区西半部・須惠器則	(底存形)	口径 12.2 底高 3.7	外) N8/0灰白 内) S7/1 陶白 新) 2.5Y5/3 にふく黄	7C 中~後半	底部外面：回転ヘラ切り縁ナデ 底部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
351 769	須惠器环甌	E1 区西半部・須惠器則	完形	口径 10.1 底高 3.4	外) S7/1 陶、N3/0陶灰 内) 2.5Y5/2 陶灰	7C 中~後半	底部外面：回転ヘラ切り縁ナデ 底部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	
352 739	須惠器环甌	E区・土壠 174	完形	口径 10.6 底高 3.7	外) N5/0灰、N4/0灰、S7/1 陶白、 内) 2.5Y7/1 陶白 新) 2.5Y6/1 陶灰	7C 後半	底部外面：回転ヘラ切り縁ナデ 底部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	2つヘル記録 (底部内面)。
353 768-2	須惠器环甌	E1 区東半部・須惠器則	(底存形)	口径 11.3 底高 4.2	外) 2.5Y7/2 陶灰、N11.5/0 黑 内) 10Y4/2 陶黄褐、N3/0 陶灰 新) S7/1 陶	7C 中~後半	底部外面：回転ヘラ切り縁ナデ 底部内面：(中央) : ナデ 他：回転ナデ	

遺物 番号	所蔵番号	種類	出土区・層位	現存状況	計測値 (cm)	色調	用途	調整	備考
354	734	須恵器环身	E区・土壠 169	完形	口径 10.4 高さ 3.6	外) 578/1 底白、577/1 底白、 575/1 底白、576/1 底白	7C 後半～ 8C 前半	蓋物外側：回転ヘラカズリ後ナデ 蓋物内側：回転ヘラカズリ後ナデ 他 回転ナデ	
355	771	須恵器身	E1区東半部・通槽剖面	16残	口径 12.2 (底元) 高さ 3.3 (底元)	外) 525/41 黄灰、525/111 底白 内) N50 底、517/1 底白	7C ?	体部下部内側：ナデ 他 回転ナデ	形状が瓦質となる。
356	791-4	須恵器片唇	E2区東半部・通槽剖面	口縁部 1/2 次損	口径 15.7 高さ 2.6	外) N40 底 内) N50 底	8C 前半	天井部外側：回転ヘラカズリ後回転ナデ 他 回転ナデ	
357	737	須恵器环身	E区・土壠 172	完形	口径 11.5～12.7 高さ 3.9	外) 578/1 底白、N50 底 内) N50 底	8C 前半～ 9C 前半	蓋物外側：回転ヘラカズリ後ナデ 蓋物内側：回転ヘラカズリ後ナデ 他 回転ナデ	
358	721	須恵器环身	E区・土壠 156	4/5 残	口径 12.4 高さ 4.0	外) 257/51 黄灰 内) 257/81 底白 578/1 底白	8C 後半～ 9C 前半	蓋物外側：回転ヘラカズリ後ナデ 他 回転ナデ	
359	792-2	須恵器环身	E2区西半部・通槽剖面	は延完形	口径 13.7～14.9 高さ 4.7	外) N50 底 内) N60 底	8C 後半～ 9C 前半	蓋物外側：回転ヘラカズリ後ナデ	
360	740	須恵器皿	E区・土壠 175	は延完形	口径 21.8～22.8 高さ 3.7	外) 757/51 底、519/6/6 横 内) 膜 756/1 底	8C 前半～中	蓋物外側：回転ヘラカズリ後ナデ	
361	745	須恵器皿鉢	E区・土壠 180	口縁部 1/2 次損	口径 8.4 高さ 10.3	外) 107/1 底白、107/1 底白、 107/41 底、107/11 底白	9C 後半～ 10C 前半	蓋物外側：回転ヘラカズリ後ナデ	
362	749	須恵器鉢盖	E区・土壠 184	は延完形	口径 6.5 高さ 2.5	外) 757/41 底、5P7/1 黄褐灰 内) 257/81 底白	7C 前半	体部下部外側：回転ヘラカズリ後ナデ	
363	752	須恵器鉢盖	E区・土壠 187	口縁部 1/5 次損	口径 6.6 (底元) 高さ 2.1	外) 104/1 底、N70 底白 内) N70 底白、N50 底	7C 前半	蓋物外側：回転ヘラカズリ後ナデ	
364	792-1	須恵器皿鉢	E2区西半部・通槽剖面	は延完形	口径 6.0 高さ 8.1	外) 内) N8/0 底白	7C 前半	体部下部外側：回転ヘラカズリ後ナデ	
365	731	須恵器皿鉢	E区・土壠 166	口縁部 1/2 次損	口径 9.6 高さ 14.0	外) N40 底、25G/41 黄オリーブ灰、 25G/31 黄オリーブ灰 内) N50 底、N40 底	7C 前半	蓋物外側：ナデ (輪幅狭狭)	
366	727	須恵器皿鉢	E区・土壠 162	は延完形	口径 9.2 高さ 14.2	外) 757/11 底白 内) 257/71 底白	7C 前半	体部下部～底外側：ナケズリ後ナデ	・外表面が広く、点狀に 施設する。 ・焼成が瓦質となる。

遺物 番号	原種号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調	時期	調査	備考
367	728	須恵器短縦轍	E区・土層163	はざ形	口径11.1 高さ15.0	外) N60灰(一部N70灰白) 内) N50灰 2.5G71/オーリーブ灰	7C前半	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転へラヶズリ 他 回転ナデ	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転へラヶズリ 他 回転ナデ
368	753	須恵器短縦轍	E区・土層188	口輪部3/4欠損	口径5.8 高さ9.0	外) N60灰、N50灰、N40灰、 内) N50灰 N70灰白	7C中	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転ナデ	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転ナデ
369	722	須恵器短縦轍	E区・土層157	口輪部1/3欠損	口径6.3 高さ9.9	外) N60灰、N50灰、N40灰 内) N50灰 N70灰白	7C中	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転ナデ	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転ナデ
370	750	須恵器短縦轍	E区・土層185	はざ形	口径9.1 高さ9.7	外) 内) 灰 N40灰	7C中	体部下部～腹部外面：ヘラヶズリ 他 回転ナデ	体部下部～腹部外面：ヘラヶズリ 他 回転ナデ
371	729	須恵器短縦轍	E区・土層164	はざ形	口径6.9 高さ9.7	外) 内) 灰 N70灰白	7C中～後半	体部下部～腹部外面：ヘラヶズリ 他 回転ナデ	体部下部～腹部外面：ヘラヶズリ 他 回転ナデ
372	723	須恵器短縦轍	E区・土層158	口輪部1/8欠損	口径8.4 高さ10.3	外) N50灰、N40灰、N30陶灰 内) N50灰 N50灰	8C初	施面部内面：ヘラヶズリ 体部下部外面：回転へラヶズリ 他 回転ナデ	施面部内面：ヘラヶズリ 体部下部外面：回転へラヶズリ 他 回転ナデ
373	751	須恵器短縦轍	E区・土層186	完形	口径9.1 高さ10.3	外) 内) 7.5G71灰白、N40灰	8C初	施面部内面：ヘラヶズリ 他 回転ナデ	施面部内面：ヘラヶズリ 他 回転ナデ
374	732	須恵器短縦轍	E区・土層167	はざ形(複合)	口径11.8 高さ16.5	外) N60灰、N50灰 内) N50灰	8C前半	施面部内面：ナデ 体部下部外面：回転へラヶズリ 他 回転ナデ	施面部内面：ナデ 体部下部外面：回転へラヶズリ 他 回転ナデ
375	718	須恵器短縦轍	E区・土層153	はざ形	口径12.5 高さ16.0	外) N60灰 内) N70灰白 N50灰	8C前半	施面部内面：ナデ 体部下部外面：回転ヘラヶズリ 他 回転ナデ	施面部内面：ナデ 体部下部外面：回転ヘラヶズリ 他 回転ナデ
376	730	須恵器	E区・土層165	口輪部2/3欠損	口径10.0 (復元) 高さ11.6	外) 内) N60灰、N50灰 N70灰白	7C～8C?	施面部内面：ナデ (一部回転ヘラヶズリ)	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：ヘラヶズリ 他 回転ナデ
377	757	須恵器長縦轍	E区・土層192	口輪部1/3欠損	口径8.4 (復元) 高さ19.9	外) 内) 10G61灰 N70灰白	7C末～8C初	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転ナデ	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転へラヶズリ 他 回転ナデ
378	744	須恵器長縦轍	E区・土層179	口輪部、 高台金欠損	高さ19.6 (復元)	外) 内) 灰 N70灰白	7C末～8C初	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転へラヶズリ 他 回転ナデ	施面部内面：ナデ 体部下部～腹部外面：回転へラヶズリ 他 回転ナデ

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調	時期	調査	備考
379 743	須恵高長筒盃	E区・土層178	口端部・ 高台部欠損	高さ18.4(保存部) 外) 斷) 7.5/6/1灰	底部外面：ナデ 頭部下半内面：巻き上げナデ 体部下部外面：回転ナデ横方向ナデ 底部～底部内面：調整不可用	8C前半		体部外面周部は、自然 施のため調整が不可能。
380 791-2	須恵高長筒盃	E2区東半部・通溝剖面	口端部欠損	高さ23.9(保存部) 外) 断) 10/7/1灰白	底部外面：ナデ 頭部外側～体部外側：回転ナデ 体部～底部内面：調整不可用	8C前半		体部外面周部は、自然 施のため調整が不可能。
381 791-1	須恵高平盤	E2区東半部・通溝剖面	光沢	口径5.2 高さ12.9	外) 断) N8/0灰白	底部外面：へら切り未調整 口頭部内面～外面：回転ナデ 体部～底部内面：調整不可用	7C前半～中	
382 779-1	須恵高盃	E1区・上層	口頭部のみ残 縁部等1/2欠損	口径6.5 高さ6.6(保存部)	外) 断) N4/0灰 N5/0灰白	底部外面：回転ヘラケツリ 底部内面：(中灰)：ナデ 他 回転ナデ	9C～10C初	
383 805	須恵高環甌	F区中央付近 ・上層(中間付近)	口頭部完形	口径15.7 高さ5.5	外) 10/4/1灰 N6/0灰 N6/0灰	底部外面：回転ヘラケツリ 底部内面：(中灰)：ナデ 他 回転ナデ	8C	
384 806-2	須恵高环甌	F区東半部・下層	口頭部完形	口径14.0 高さ3.7	内) N5/0灰 2.5/9/5/4にいたる赤褐色 外) 断) N6/0灰、N2/0褐灰	底部外面：回転ヘラ切り 他 回転ナデ	8C後半～ 9C前半	
385 810	須恵高長筒盃	F区中央付近・通溝剖面上	口頭部完形	口径10.3 高さ16.8	外) N5/0灰 N7/0灰白 N8/0/1青灰	底部外面：(中灰)：ナデ 他 回転ナデ	7C後半～ 8C初	
386 809	須恵高盃	F区西半部・下層	口頭部1/2欠損	口径6.0(復元) 高さ12.2	外) 内) 5/16/1灰、7.5/7/4/1灰	底部外面：回転ナデ	9C中～後半	
387 826	須恵高盃	G区西半・博足土	把持付近中心に残 一	外) 5/15/1灰 5/16/1灰、5/14/1灰 5/16/1灰、7.5/19/6/3にいたる褐 色	底部外面：(中灰)：ナデ 他 回転ナデ	7C～8C?		底部ナデとみられるが、外見は掌根で同 様不明。
388 825	須恵高短筒盃	G区東半・下層	光沢	口径7.0 高さ6.2	外) 内) 5/16/1灰、7.5/7/4/1灰	底部外面：へら切り後ナデ 他 回転ナデ	7C中	
389 639	須恵高环 (裏面)	A2区・セグメント① ・東側底部・通溝剖面	1/3残	口径18.0(復元) 高さ4.9	外) 断) N6/0灰	底部～体部外側：回転ナデ 底部内面部：ナデ	8C末～ 9C初	体部～底部外側に施。 体部の文字は「匂」または「西成」か?
390 809-17	須恵高环 (裏面)	G1区・G1-6層 (A1区)	口頭部完形	口径13.3 高さ3.7	外) 断) 7.5/9/7/4にいたる 灰(素)～灰初	底部外面：ヨリナデ 底部内面：(中灰)：ナデ 他 板ナデ	8C末～灰初	体部外面に施。 「記名」

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調査	備考
					外	内			
391 151	漆器蓋(平) (墨書き)	E2区(上)・漆器部	口縁部1/5欠損	口径14.2 高さ4.1	外) 7.5/51.1灰、7.5/61灰 内) 7.5/71.1灰白	8C末～9C初	漆器外表面：回転ヘラ切り漆ナデ 他回転ナデ	漆器外表面に墨書き。 「中」	
392 29-2	漆器蓋(平) (朱用印)	G2区・土器⑥ (E2区)	口縁部わざがいに 欠損	口径14.0 高さ6.4	外) 7.5/51.1灰 内) 7.5/71.1灰白 N7/0灰白	8C末～9C初	漆器外表面：回転ヘラ切り漆ナデ 他回転ナデ	漆器外表面に墨書き。 「中」	
393 149	漆器蓋(平) (墨書き)	E2区(上)・漆器部	小片	—	外) N6/0灰 内) N7/0灰白、7.5/9RS/2灰褪 N7/0灰白	不詳	—	墨書き残る。	
394 172-2	漆器蓋(平) (墨書き)	D1区(上)・漆器部	1/4残	口径13.7 (復元) 高さ3.0	外) 5/8/1灰白 内) 5/7/2灰黄 N7/0灰白	10C前半	漆器外表面：回転ヘラ切り漆ナデ 他回転ナデ	漆器外表面に墨書き。 「墨書き」か? 「墨書き」でも墨書きの よつうの筆跡あり。	
395 806-3	土器蓋(平) (墨書き)	F区東半部・下層	口縁部1/9欠損	口径15.5 高さ1.1	外) 5/9R/6/4にぶい網 内) 5/9R/6/4にぶい網	8C末～9C初	漆器外表面：ヘミガガナ 他ヨコナデ	漆器外表面に墨書き。 「乙」または「己」か?	
396 640	土器蓋(平) (墨書き)	C1区(上)・漆器部 (木村井辺)	口縁部わざがいに 欠損	口径12.0 高さ3.8	外) 内) 断) 10YR7/4にぶい網	8C後半 (未だか?)	漆器外表面～底部外壁：ヘミガガナ 他ヨコナデ	漆器外表面に墨書き。 「中」	
397 153	土器蓋(平) (墨書き)	C1区(上)・漆器部	完形	口径13.4 高さ3.0	外) 内) 10YR6/3にぶい網	8C末～9C初	漆器外表面：ヘミガガナ 他ヨコナデ	漆器外表面に墨書き。 「短」	
398 158-2	土器蓋(平) (墨書き)	C2区(上)・漆器部	3/4残	口径13.7 高さ2.9	外) 7.5/9R/6/4にぶい網 内) 10YR6/4にぶい網 N7/0灰白 7.5/9R/6/4にぶい網	8C末～9C初	漆器外表面：ヘミガガナ 他ヨコナデ	漆器外表面に墨書き。 「安寺」	
399 504	土器蓋(平) (墨書き)	C1区・土器⑥(08)	は半完形	口径12.5 高さ2.9	外) 内) 7.5/9R/6/4にぶい網	8C末～9C初	漆器外表面：ヘミガガナ 他ヨコナデ	漆器外表面に墨書き。 また、朱のへら書き跡 あり。	
400 214-2	漆器蓋(平) (墨書き)	C1区・セクション③ ・遺構型土	1/2残	口径14.4 (復元) 高さ3.6	外) 5/6/1灰、N4/0灰 内) 5/6/1灰	8C末～9C初	漆器外表面：回転ヘラ切り漆ナデ 他回転ナデ	漆器外表面に墨書き。	
401 62	漆器蓋(平) (墨書き)	C1区西半・第1層	1/4残	口径12.2 (復元) 高さ3.1 (復元高)	外) 内) 断) 7.5/6/1灰	8C前半～ 9C初	漆器外表面：ヘラ切り漆ナデ 他回転ナデ	漆器外表面に墨書き。	
402 154-3	漆器蓋(平) (朱用印?)	C1区(2)・漆器部	1/4残	口径13.0 (復元) 高さ4.2	外) 内) 断) N7/0灰白	8C前半～ 9C初	(底部) 少なく複数の 体当部下部外壁・回転ヘラアズリ 体当部～底部内壁：調焼不可用	漆器外表面・高台部に墨 書き。	
403 503	漆器蓋(平) (墨書き)	C1区・土器⑥(08)	完形	口径12.4 高さ3.8	外) N8/0灰白	9C	漆器外表面：回転ヘラ切り 他回転ナデ	漆器外表面に墨書き。 「加」か?	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調査	備考
					外	内			
404	拭瓶 (乾用器?)	G3区・G3・9層 (C2区)	3/4残	口径14.0 高さ5.5	5TR6/4にぶい黄、 5TR6/4にぶい黄、 10TR6/2灰黄 5TR6/4にぶい黄、 10TR6/1灰	口端部:全体外面 (回転式)灰黄 内:白灰	9℃~10℃?	ヨコナデ 他:ナナデ	底部外面に黒帯 はく付着すことから、乾用器の可能性あり。
405	須恵器 (乾用器)	C1区東半・第4層	底面のみ1/5残	—	2.5TR6/2灰黄 内:2.5TR7/2灰黄 5TR7/1灰	—	8℃未~9℃初	ヨコナデ 他:自転ナナデ	底面内面に黒帯。
406	須恵器 (乾用器)	C1区・土器088	1/2残	口径14.0(復元) 高さ4.4	外:内:白 5TR6/2灰黄、 5TR7/1灰白、 5TR7/1灰白、 5TR7/1灰白、 NS6/0白、 10TR4/1灰	8℃前半~ 9℃初	ヨコナデ 他:自転ナナデ	底部外面・高台部に黒 帯残る。	底部外面・高台部に黒 帯残る。
407	須恵器 (擦器、乾用器?)	C1区・土器112	—	口径14.6 高さ4.4	外:内:白 5TR6/2灰黄、 5TR7/1灰白、 5TR7/1灰白、 5TR7/1灰白、 NS6/0白、 10TR4/1灰	8℃未~ 9℃前半	ヨコナデ 他:自転ナナデ	底部外面:回転式ヘラ ナナデ	底部外面付に黒帯。
408	土器墨突 (乾用器)	C1区・北壁アビ ・須恵器土	—	口径15.0(復元) 高さ6.6	外:内:白 5TR7/3灰黄 5TR7/2灰白	10℃後半~ 11℃前半	ヨコナデ 他:自転ナナデ	底部外面に黒帯あり。	底部外面に黒帯あり。
409	須恵器 (擦器?)	C1区東半・第4層 D2区(+)・須恵器	1/2残	口径14.6(復元) 高さ3.4(残存高)	外:内: 5TR4/2灰オリーブ、 5TR5/2 5TR8/2灰白	8℃前半~ 9℃前半	ヨコナデ 他:自転ナナデ	底部外面:回転式ヘラ ナナデ	底部外面に黒帯のよう な黒帯あり。
410	769-5	黒色土器碗	E1区西半部・須恵器	1/6残	口径17.4(復元) 高さ4.3(残存高)	外:内: NS6/0灰 10TR7/2灰にぶい黄、 N3/0黒	9℃?	ヨコナデ 他:自転ナナデ	底部外面:ヨコナデ (下部ヘラ式)ナナデ
411	522	黒色土器碗	E2区・土器099 C2区東半部・須恵器 (セラミック)ドリッパ ー:須恵器	3/5残	口径18.9(復元) 高さ3.9	外:内: N1+1.50灰 2.5TR7/2灰	10℃後半	ヨコナデ 内:白:ヘラミガナ	底部外面:ヨコナデ 内:白:ヘラミガナ
412	拭瓶46	黒色土器碗	G3区・土器③ (C2区)	1/3残	口径14.0(復元) 高さ5.5	外:内: 10TR7/2灰にぶい黄 N1+1.50灰 10TR7/2灰にぶい黄	10℃後半	ヨコナデ 他:ナナデ	底部外面:ヨコナデ 他:ヘラミガナ
413	111	黒色土器碗	D2区西半部(+)・須恵器	2/3残	口径15.4 高さ5.1	外:内: 2.5TR7/4灰黄、 7.5TR6/2灰白 N1+1.50灰 10TR7/2灰にぶい黄、 N1+1.50灰	10℃後半	ヨコナデ 他:自転式ヘラミガナ	底部外面:ヨコナデ 他:自転式ヘラミガナ
414	119-5	黒色土器碗	A2区(+)・須恵器	3/5残	口径14.5 高さ3.3	外:内: N3/0陶瓦 NS6/0灰	10℃後半~ 11℃前半	全体:ヘラミガナ	底部外面:ヨコナデ 他:自転式ヘラミガナ
415	140-3	黒色土器碗	E2区(+)・須恵器	1/4残	口径14.3(復元) 高さ5.1	外:内: N3/0陶瓦 NS7/0白	10℃後半~ 11℃前半	全体:ヘラミガナ	底部外面:ヨコナデ 他:自転式ヘラミガナ

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調整	備考
					外) N3/0 周 内) N4/0 黄	外) N2/0 黑 内) N4/0 黄			
416	767-2	黑色土器塊	E1区・下層	1/3残	口径15.6(復元) 高さ4(残存高)	外) N3/0 周灰 内) N4/0 黄	10C前半～ 11C中半	全体：ヘラミガキ 残存部全体：ヘラミガキ (外周に指面磨耗)	両面。
417	749-2	黒色土器塊	E2区西半部・遺構削除	口縁部、 体部の少く1/5残	口径15.0(復元) 高さ3.8(残存高)	外) N2/0 黑 内) N4/0 黄	10C前半～ 11C中半	全体：ヘラミガキ 残存部全体：ヘラミガキ (外周に指面磨耗)	両面。
418	704	黒色土器塊	E区・中央石塼積部 ・遺構削除	口縁部、 体部の少く1/5残	口径17.0(復元) 高さ3.8(残存高)	外) N2/0 黑 内) N4/0 黄	10C前半～ 11C中半	全体：ヘラミガキ 残存部全体：ヘラミガキ (外周に指面磨耗)	両面。
419	90-2	瓦器塊	C1区東半・第4層 C1区?・遺構削除)他	2/3残	口径15.0(復元) 高さ3.7(残存高)	外) N5/0 黑 内) N5/0 白	12C前半～中	残存部全体：ヘラミガキ	
420	873-2	瓦器塊	F区東半部・遺構削除	1/5残	口径14.2(復元) 高さ3.8(残存高)	外) N8/0 白 内) N8/0 黄 内) N8/0 白	13C前半～中	口縁部外面：ヨコナデ 体部外面：施サ工後・ナデ 底面外面：施サ工後・ナデ 内面：粗緻なヘラミガキ	
421	768-4	瓦器塊	E1区東半部・遺構削除	口縁部1/8次損	口径10.5～12.3 高さ3.8	外) N2/0 黑 内) N4/0 黄 内) N5/0 白	13C中～後半	口縁部外面：ヨコナデ 体部外面：施サ工後・ナデ 底面：粗緻なヘラミガキ	
422	767	瓦器塊	E1区・下層	1/4残	口径12.4(復元) 高さ4.1	外) N3/0 周灰 内) N4/0 黄 内) N5/0 白	13C中～後半	口縁部外面：ヨコナデ 体部外面：施サ工後・ナデ 底面：粗緻なヘラミガキ	
423	768-6	瓦器塊	E1区東半部・遺構削除	1/2残	口径11.5 高さ3.6	外) N4/0 黄 内) N3/0 周灰 内) N5/0 白	13C中～後半	口縁部外面：ヨコナデ 体部外面：施サ工後・ナデ 底面：粗緻なヘラミガキ	
424	769-4	瓦器塊	E1区西半部・遺構削除	1/3残	口径10.4(復元) 高さ3.0	外) N4/0 周灰 内) N4/0 黄 内) N5/0 白	13C中～後半	口縁部外面：施サ工後・ナデ 体部外面：施サ工後・ナデ 底面：粗緻なヘラミガキ	
425	812	瓦器塊	F区西半部・遺構削除	1/3残	口径12.8(復元) 高さ2.2	外) N5/0 黄 内) N4/0 黄 内) N5/0 白	13C中～後半	口縁部外面：施サ工後・ナデ 体部外面：施サ工後・ナデ 底面：粗緻なヘラミガキ	
426	813	瓦器塊	F区東半部・遺構削除	1/4残	口径13.0(復元) 高さ3.4	外) N3/0 黑 内) N4/0 黄 内) N5/0 白	13C中～後半	口縁部外面：ヨコナデ 体部～底部前面：ナデ 内面：粗緻なヘラミガキ	
427	808-2	瓦器塊	F区西半部・遺構削除	2/5残	口径13.0(復元) 高さ3.2(残存高)	外) N3/0 周灰 内) N5/0 白	13C中～後半	口縁部外面：ヨコナデ 体部～底部前面：粗緻なヘラミガキ 内面	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期	調査	備考
428 107	瓦器類	D2 区西半・第 4 層	上面のみ 1/3 残 N/S0 黄白 N/S0 黄白	口径 2.2 (裏元) 高さ 2.8 (裏存高)	外) N/S0 黄 内) N/S0 黄白	室町 (15C ?)	体部外面 : ベニミガキ 他) ヨコナデ (体部内面に指擦痕あり)	周辺に指擦痕文あり。
429 152-7	輪島漆器類	E2 区 (4)・漆器類	底面のみ (内面 2 個)	高さ 1.9 (裏存高)	裏地) 7.5/8/3 黄 他) 2.5/7/3 黄	9C	—	削り出し平台。
430 131-3	灰地漆器塊	A2 区 (3)・漆器類	口輪漆・体部小片	口径 15.0 (裏元) 高さ 4.4 (裏存高)	裏地) 2.5/6/2 黄 他) 2.5/8/1 黄白	10C	残存部: 田舎ナデ	残存部では内面のみに施地。
431 158-4	白磁塊	C2 区 (2)・遺物類	底面のみ 1/3 残 N/S0 黄白	高さ 2.3 (裏存高)	裏地) 10/8/1 黄白 他) 2.5/6/1 黄白	—	平安後期～ 鎌倉	—
432 116	白磁皿	A1 区・北壁アゼ ・3 ~ 4 層	口輪形小片	口径 12.0 (裏元) 高さ 2.5 (裏存高)	裏地) 1.5/8/1 黄白 口部 (部分) 5/4/1 黄白 他) 5G/8/1 黄白	13C ~ 14C ?	—	口周 0.
433 223-5	青磁塊	D2 区・西壁アゼ ・遺物型土	口輪形小片	口径 16.2 (裏元) 高さ 3.3 (裏存高)	裏地) 5/7/1 黄白 他) 5/6/3 オーブ黄	—	平安後期～ 鎌倉	—
434 806-5	常滑燒器	F 区東半部・下層	口輪形小片	—	外) 内) 2.9/8/2 黄赤 内) N/S0 黄白	—	口輪部内外面・回転ナデ	—
435 71	土師器皿	A1 区・旧 G1 区周辺 ・3B ~ 4 層	口輪形 144 穴形	口径 14.7 ~ 15.3 高さ 3.0	外) 内) 2.9/8/2 黄赤 内) 2.5/7/2 黄白	13C 中 ~ 14C	体部下半～底部外面 : ベニサエ 底面内面 : ベニサエ後ナデ 他) ヨコナデ	—
436 553	土師器皿	A2 区下部・土器 130	口輪漆・底部わざ かに欠損	口径 11.6 高さ 2.4	外) 2.5/7/3 黄 内) 10/6/7/3 いぐい黄 他) 2.5/8/2 黄白	13C 前半～ 14C 前半	底面外側 : ベニサエ後ナデ 底面内面 : ベニサエ 他) ヨコナデ	—
437 792-5	土師器皿	E2 区西半部・遺物類	7/8 瓶	口径 11.7 高さ 2.4	外) 2.5/8/1 黄白、 10/6/7/1 黄白 内) 2.5/7/2 黄 他) 7.5/8/1 黄白	13C 前半～ 14C 前半	体部～底部外側 : ベニサエ後ナデ 底面外側 : ナデ 他) ヨコナデ	—
438 327	土師器皿	C2 区・土器 106 土台	完形	口径 11.0 高さ 2.0	外) 10/6/7/1 黄白 内) 7.5/7/3 いぐい黄	13C 前半～ 14C 中	底面外側 : ナデ 他) ヨコナデ	底面に粘土が堆積。 底面に発生時の ものとみられる押 痕。
439 145-2	土師器皿	B1 区 (2)・遺物類	完形	口径 9.0 高さ 1.6	外) 2.5/7/2 黄 内) 2.5/7/2 黄白、 2.5/5/3 黄白	13C 前半～ 14C 中	底面外側 : ナデ 他) ヨコナデ	—
440 204	土師器皿	B1 区・セックヨン (2)	完形 ・遺物型土	口径 7.5 高さ 2.1	外) 10/6/8/2 黄白 内) 10/6/8/1 黄白、 10/6/8/2 黄白	13C 前半～ 14C 前半	体部下半～底部外面 : ベニサエ後ナデ 他) ヨコナデ	—

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調整	備考
					外	内			
441	625-4	土師壺皿	G区東半・下層	口縁部1/5欠損	口径 17~8.0 高さ 1.3	外) 7.5/98/3 朱黄 内) 10/98/3 朱黄	14C 前半	底部外面：指サエ後期ナデ 他ヨコナデ	
442	636	土師壺皿	B1区東半・第4層	口縁部1/10欠損	口径 6.8 高さ 1.7	外) 2.5/96/2 朱白 内) 7.5/98/3 朱黄	14C	底部～底部外側：指サエ後ナデ 他ヨコナデ	
443	184-2 世	土師壺皿	E2区・セクション② ・通溝壁土	1/3 残	口径 12.5 (復元) 高さ 3.5	外) 5/95/3 にぶい黒褐、 内) 10/96/2 朱白、 7.5/95/3 にぶい黒褐、 7.5/96/3 にぶい黒褐	14C 前半~ 15C 前半	底部～底部外側：指サエ 底部内面：ナデ 他ヨコナデ	
444	170-4 190	土師壺皿	D1区④・通溝壁 B1区・棒状粘土品 ・通溝壁土	3/4 残	口径 8.3 高さ 1.8	外) 7.5/98/6 朱 内) 7.5/98/4 にぶい黒褐、 7.5/98/2 朱白、 7.5/98/6 朱白	14C 前半~ 15C 前半	底部～底部外側：指サエ後ナデ 底部内面：ナデ 他ヨコナデ	
445	172-3	土師壺皿	D1区④・通溝壁	完形	口径 8.0~8.5 高さ 1.5	外) 10/97/3 にぶい黒褐。 2.5/98/2 朱白 内) 10/97/4 にぶい黒褐。	15C 前半	底部下半～底部外側：指サエ後ナデ 底部内面：ナデ 他ヨコナデ	
446	199-5	土師壺皿	A区・セクション① ・通溝壁土	完形	口径 7.3~7.8 高さ 1.8	外) 10/96/6 朱黄褐、 内) 7.5/98/14 にぶい黒褐。 10/96/1 朱白	15C 前半	底部～底部外側：指サエ後ナデ 底部内面：ナデ 他ヨコナデ	
447	276-2	土師壺皿	A1区・土器 056~058 ・土台面	体部わざざひに欠損	口径 7.9 高さ 1.7	外) 10/98/3 朱黄褐。 10/98/2 朱白 内) 10/98/1 朱白	15C 前半	底部下半～底部外側：指サエ後ナデ 底部内面：ナデ 他ヨコナデ	
448	10-1	製造土器	A1区・第2層	底部のみ 1/3 残	底部のみ 1/3 残 高さ 4.3 (復存高)	外) 10/98/1 朱黄褐 内) 7.5/98/2 朱白	古墳?	残存部：ナデ	
449	111-13	製造土器	C2区西半斜側・通溝壁	底部のみ 3/4 残	底部のみ 3/4 残 高さ 3.6 (復存高)	外) 5/98/4 にぶい黒 内) 10/98/1 朱白	古墳?	残存部：ナデ	
450	試做	製造土器	G2区・土器③ (E2区)	上半部 1/5 残	口径 20.5 (復元) 高さ 6.6 (復存高)	外) 7.5/98/1 朱白、 2.5/97/1 朱白 内) N8/0 朱白	6C~7C	残存部：指サエ及びナデ	
451	99	製造土器	E2区・セクション③ 前 1m・通溝壁	上半部 1/6 残	口径 14.6 (復元) 高さ 5.5 (復存高)	外) 7.5/98/3 にぶい黒 内) 10/98/3 にぶい黒褐	6C~7C	残存部：指サエ及びナデ	
452	147-4	製造土器	B1区④・通溝壁	上半部 1/4 残	口径 16.5 (復元) 高さ 7.5 (復存高)	外) 10/98/3 にぶい黒褐 内) 10/98/4 にぶい黒褐	6C~7C	残存部：指サエ及びナデ	
453	126-6	製造土器	A1区③・通溝壁	上面のみ 1/4 残	口径 16.6 (復元) 高さ 7.9 (復存高)	外) 7.5/98/1 朱白、 N8/0 朱白	6C~7C	残存部：指サエ及びナデ	

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調		時期	調査	備考
					外	内			
454 151-4	陶壺土器	E2 区(下)・遺構剖面	上半部 1/4 残	口径 13.1 (復元) 高さ 1.2 (保存高) 内: N30.0 茶灰 外: 2.5/6/2 黄 2.5/7/1 白 2.5/7/1 白	6C~7C	残存部: 指さサ工及びナデ 残存部: 指さサ工及びナデ			
455 154-7	陶壺土器	C1 区・遺構剖面	上ののみ 1/5 残	口径 13.4 (復元) 高さ 0.3 (保存高) 内: 2.5/7/1 黄 2.5/7/1 白	6C~7C	残存部: 指さサ工及びナデ			
456 154-6	陶壺土器	C1 区・遺構剖面	上面のみ 1/4 残	口径 11.6 (復元) 高さ 0.5 (保存高) 内: 2.5/6/1 黄 2.5/7/1 白	7C	残存部: 指さサ工及びナデ 外: 指さサ工及びナデ 内: ナデ			器物が重いことから地 域の簡便防衛資料の 可能性も考えられる。
457 769-6	陶壺土器?	E1 区西半部・遺構剖面	1/3 残	口径 14.0 (復元) 高さ 1.8 (保存高) 内: 2.5/6/3 黄 2.5/6/3 にぶい黄 外: 10/96.4 (復元) 内: 10/96.4 (復元) 外: 7.5/7/1 黄 内: N50.0 黄	7C~8C	残存部: 指さサ工及びナデ 外: 指さサ工及びナデ 内: ナデ			
458 154-5	陶壺土器	C1 区・遺構剖面	上半部 1/4 残	口径 15.4 (復元) 高さ 10.6 (保存高) 内: 2.5/6/6 黄 2.5/7/1 白 外: 7.5/7/1 黄 内: 10/96.4 (復元) 外: 7.5/7/1 黄 内: N50.0 黄	7C~8C	残存部: 指さサ工及びナデ 外: 指さサ工及びナデ 内: ナデ			
459 294-2	土器残片? (壺)	A2 区・木 015+台部 A1・A2・R2・圓(?) 瓦群 1	1/4 残	口径 9.2 (復元) 高さ 20.5 (保存高) 内: 5/7/6/6 世 外: 7.5/7/6/2 灰 内: 10/96.3 黄 外: 7.5/7/6/2 灰 内: 10/96.3 黄	不明	口縁地部: ヨコナデ 体部~底部外: ナデ 体部~底部内: ナデ 外: ハケ調整 内: ナデ (底部・底はハケ調整)			
460 724-1	壺	E 区・土壤 159	体部 1/3 欠損	口径 21.2 高さ 33.8 内: 7.5/7/6/3 にぶい 7.5/7/6/3 にぶい 7.5/7/6/3 にぶい 10/96.2 灰 外: 7.5/7/6/3 にぶい 7.5/7/6/3 にぶい 7.5/7/6/3 にぶい 10/96.2 灰	8C?	外: ハケ調整 内: ナデ			・付け足系。 ・外底 (袋口部) と小底 に焼付着。
461 825-3	壺	G 区東半・下層	排水・袋口破片	—	平安以降	外: ハケ調整及びハケ調整 (底は外表面とナデ)			・付け足系。 ・欠頭部。舌 (手) がつぶと考 えられる。 ・剝離層。
462 756-1	壺	E 区・土器 191	2/5 残	排水口 23.1 (復元) 高さ 34.2 (保存高) 内: 7.5/7/3 黄 7.5/7/3 黄 7.5/7/4 にぶい 7.5/7/4 にぶい 7.5/7/4 にぶい 外: 10/97/3 にぶい 10/95/2 黄 10/97/4 にぶい 10/97/4 にぶい 10/97/4 にぶい 10/97/4 にぶい 外: 10/96/2 にぶい 10/94/2 黄 10/96/3 にぶい 10/96/3 にぶい 10/97/6 明晩晩 外: 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 外: 10/97/4 にぶい 10/96/3 にぶい 10/97/6 にぶい 10/97/6 にぶい 10/97/6 にぶい 外: 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい	7C	外: 指さサ工及びナデ 内: ナデ			・付け足系。 ・外底。
463 222-3	壺	D2 区・西壁アビ A2 区・木 032 土部	排水口破片	—	古代	外: ハケ調整 内: ナデ			・付け足系。
464 181-2 307	壺	A2 区(下)・遺構剖面	排水口破片	—	古代	外: ハケ調整 内: ナデ			・付足系。
465 538-1	壺	A2 区下位・土器 135	4/5 残	排水口 17.2 (復元) 高さ 31.2 (保存高) 内: 7.5/7/3 黄 7.5/7/3 黄 7.5/7/4 にぶい 7.5/7/4 にぶい 7.5/7/4 にぶい 外: 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 外: 10/97/4 にぶい 10/96/3 にぶい 10/97/6 明晩晩 外: 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 外: 10/97/4 にぶい 10/96/3 にぶい 10/97/6 にぶい 10/97/6 にぶい 10/97/6 にぶい 外: 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい 10/97/3 にぶい	7C?	内底: 指さサ工及びナデ 外底: 指さサ工及びナデ			・左右 2 か所に孔のあ る凸部がある。 ・角把手手がつく。

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値 (cm)	色調	時期	調整	備考
466 792-7	面	E2 区西半部・遺構剖面	焚口・底破片	—	外) 断 7.5/16.3/3 にぶい黄褐。 7.5/14.4/3 黄褐。	古代	外側 : ハケ跡及びナデ 内側 : ハケ跡及びナデ	・曲げ系。 ・生垣式壁。
467 573	面	D2 区・土堀 150	焚口破片	—	外) 10/98.2/底白 内) 10/94.3/にぶい黄褐 10/97.3/にぶい黄褐	古代	内外面 : ハケ跡	
468 173-4	面	D2 区・ ¹ ・遺構剖面	焚口・底破片	—	外) 5/98.3/底白 内) 5/97.3/にぶい黄褐 10/97.4/にぶい黄褐	古代	外側 : ハケ跡及びナデ 内側 : ナデ	付け足系。
469 158-3	面	C2 区 ² ・遺構剖面	焚口破片	—	外) 2.5/7.1/底白、5/94.1/底 内) 10/97.1/底白、10/95.1/裏 2.5/5.6/黄褐	古代	外側 : ハケ跡 内側 : ハケ跡	付け足系。
470 166-1	面	C1 区 ³ ・ ⁴ クショノ ⁵ 西側 ・遺構剖面	焚口破片	—	外) 7.5/95.8/底白 内) 10/96.8/底白 10/97.4/にぶい黄褐	古代	外側 : ハケ跡 内側 : ハケ跡及びナデ	付け足系。
471 217	面	C2 区 ⁶ ・セクショノ ⁷ 西側 ・遺構剖面	焚口破片	—	外) 10/96.4/にぶい黄褐 内) 10/97.2/底白 2.5/9.2/底白	古代	外側 : ハケ跡 内側 : ナデ	付け足系。
472 222-4	面	D2 区・西壁アビ ・遺構堆土	焚口底部破片	—	外) 7.5/96.1/にぶい黄褐 内) 10/97.3/にぶい黄褐	古代	内外面 : 指ササエ及びナデ	付け足系。
473 111-14 174	面	C2 区西半側・ ⁸ 遺構剖面 D2 区 ⁹ ・遺構剖面	焚口底部破片	—	外) 10/98.1/底白 内) 2.5/9.1/底白、 10/98.1/にぶい黄褐	古代	外側 : ハケ跡及びナデ (GJ 素は指ササエ及びナデ) 内側 : ナデ	付け足系。
474 281-2	面	A2 区・土器 (44) ~ 050 土台部	基部破片	—	外) 10/96.3/にぶい黄褐 内) 2.5/7.3/底白	古代	外側 : ハケ跡 内側 : ナデ	
475 259	土壁	A1 区・木 007 土台部	光毛	—	外) 2.5/7.3/底白	古代?	ナデ調整	留め。
476 86-3	土壁	A2 区西半・第 4 層	はげ芋形	—	外) 断 2.5/6.2/底白	古代?	ナデ調整	留め。
477 51-1	土壁	B1 区西半・第 3 層	圓筒欠損	—	外) 断 10/96.6/明黄褐	古代?	ナデ調整	留め。
478 252-1	土壁	A1 区・窓 1 残部 2 土台部	はげ芋形	—	外) 断 10/96.4/にぶい黄褐	古代?	ナデ調整	留め。

遺物 番号	器種	出土区・層位	残存状況	計測値(cm)	色調		時期	調整	備考
					外)	内)			
479	252-2	土埴	A1区・回1瓦飾2土台部 施部一部欠損	—	古代?	ナガ青整			蜜丸。
480	312-2	土埴	A2区・木037土台前 一部欠損	—	外) 斷) 75/85/6 施地	古代?	ナガ青整		蜜丸。
481	75-2	土埴	B1区西半・第4層 1/2残形	—	外) 断) 25/86/3 に孔小懸	古代?	ナガ青整		蜜丸。
482	86-5	土埴	A2区西半・第4層 1/2残	—	外) 断) 75/87/6 地	古代?	ナガ青整		有漏。
483	214-5	土埴	C1区・セメント ・漆喰埋土 1/2残	—	外) 断) 10/87/3 に孔小懸	古代?	ナガ青整		有漏。
484	152-5	土埴	E2区(?)・漆喰埋土 1/3残	—	外) 断) 5/77/6 白	古代?	ナガ青整		有漏。
485	212	土埴	E2区・漆喰埋土 1/3残	—	外) 断) 5/77/3 漆質	古代?	ナガ青整		有漏。
486	178-2	埴羽口	A1区・裏壁7 ・漆喰埋土	先端部附近片 —	外) NS0/0灰白、 内) 25/88/1 灰白、 25/88/2 灰白	不明	—	蜜丸、漆喰物付着する。	

遺物觀察表（軒丸瓦）

遺物 番号	原番号	種類	出土区・場所	直当計測値(cm)	内区計測値(cm)	外区計測値(cm)	色調		調査等特徴	備考
							内区	外区		
1001	591	軒丸瓦 (八井瀬置文)	A2区・E.016	上下:164 左右:170 厚(下端):56	内区:11.7 中厚:3.8 井幅:—	内区:0.7~1.1 外縁:1.0~1.7 外縫:0.1~1.1 断面:58/61青灰、 58/51青灰、 58/61青灰	瓦当裏面:指サエ・ナデ 丸瓦部凸面:ナデ 丸瓦部凹面:布目、糸切り縫	・瓦全長:39.5 cm ・丸瓦部厚:14.5 cm ・丸瓦部厚:1.5~1.8 cm ・正面右に凹面。		
1002	592	軒丸瓦 (八井瀬置文)	A2区・E.017	上下:162 左右:177 厚(下端):49	内区:11.9 中厚:3.9 井幅:—	内区:0.6~0.7 外縁:1.0~1.7 外縫:0.1~1.0 断面:58/51青灰、 58/61青灰	瓦当裏面:指サエ・ナデ(下端)ハケアリ 丸瓦部凸面:ナデ 丸瓦部凹面:布目、糸切り縫	・瓦全長:39.0 cm ・丸瓦部厚:15.0 cm ・丸瓦部厚:1.5 cm ・正面右に凹面。		
1003	593	軒丸瓦 (八井瀬置文)	A2区・E.018 A区・E.04 瓦群)(4)	上下:169 左右:— 厚(下端):48	内区:12.1 中厚:3.9 井幅:—	内区:0.8~0.9 外縁:1.4~2.0 外縫:0.1~1.3 断面:58/61青灰、 58/60灰白、 N80灰白	瓦当裏面:指サエ・ナデ 丸瓦部凸面:ナデ 丸瓦部凹面:布目、糸切り縫	・瓦全長:約41.0 cm ・丸瓦部厚:1.7~2.0 cm ・正面右に凹面。		
1004	595	軒丸瓦 (八井瀬置文)	B2区・E.020	上下:172 左右:173 厚(下端):63	内区:12.3 中厚:4.1 井幅:—	内区:0.6~1.0 外縁:1.3~1.7 外縫:0.9~1.2 断面:58/61オーブ灰、 58/61(明)オーブ灰、 2.5G/77明オリーブ灰	瓦当裏面:指サエ・ナデ(下端)ハケアリ(後ナデ) 丸瓦部凸面:ナデ 丸瓦部凹面:布目、糸切り縫(糸野部)	・丸瓦部厚:1.2~1.5 cm ・正面右に凹面。		
1005	594	軒丸瓦 (八井瀬置文)	B2区・E.019	上下:166 左右:165 厚(下端):55	内区:11.8 中厚:4.1 井幅:—	内区:0.5~0.8 外縁:1.5~1.7 外縫:1.0~1.4 断面:58/61青灰、 58/61(明)青灰 58/61(明)青灰、 N60灰白	瓦当裏面:指サエ・ナデ 丸瓦部凸面:ナデ 丸瓦部凹面:布目、糸切り縫(糸野部)	・丸瓦部厚:1.5~1.7 cm ・正面右に凹面。(他にみられる傷か一箇ない)		
1006	612	軒丸瓦 (八井瀬置文)	B1区・E.037	上下:172 左右:168 厚(下端):52	内区:11.8 中厚:3.9 井幅:—	内区:0.7~1.0 外縁:1.4~1.7 外縫:1.0~1.1 断面:10/81灰白	瓦当裏面:指サエ・ナデ(下端)ハケアリ 丸瓦部凸面:ナデ 丸瓦部凹面:布目(糸野部)	・丸瓦部厚:1.8 cm ・正面右に凹面。(他にみられる傷か一つ)。		
1007	576	軒丸瓦 (八井瀬置文)	B1区・E.001	上下:— 左右:171 厚(下端):50	内区:— 中厚:3.9 井幅:—	内区:0.5~0.7 外縁:1.3~1.5 外縫:1.0~1.1 断面:10/61灰白、 N70灰白	瓦当裏面:指サエ・ナデ(下端)ハケアリ 丸瓦部凸面:ナデ 丸瓦部凹面:布目、糸切り縫	・正面右に凹面。(他にみられる傷か一つ)。		
1008	635	軒丸瓦 (八井瀬置文)	C1区・北壁セ ・瀬崎博士	上下:— 左右:— 厚(下端):37	内区:— 中厚:4.4 井幅:—	内区:0.7~0.8 外縁:1.3~1.6 外縫:1.0~1.3 断面:10/82灰白(5)・青灰、 10/81灰白	瓦当裏面:指サエ・ナデ(下端)ハケアリ 丸瓦部凸面:ナデ 丸瓦部凹面:布目、糸切り縫	他の八井瀬置文の瓦当とは異なる点。		
1009	613	軒丸瓦 (八井瀬置文)	C1区・E.038	上下:— 左右:— 厚(下端):53	内区:— 中厚:— 井幅:—	内区:0~0.8 外縁:1.1~1.5 外縫:0~0.5 断面:57/71灰白、 57/74青灰、 57/50/74にぶい青灰、 37/71灰白	瓦当裏面:指サエ・ナデ(下端)ハケアリ	正面下に凹面。		
1010	619	軒丸瓦 (十六井瀬置文)	C1区・E.044	上下:— 左右:— 厚(下端):25	内区:— 中厚:5.9 井幅:—	内区:0.6 外縁:1.3~1.6 外縫:1.0~2.1 断面:10/85/1青灰 10/85/1灰白	瓦当裏面:指サエ・ナデ(下端)ハケアリ	正面下に凹面。		
1011	92	軒丸瓦 (丸瓦形)	C1区西半 ・第4層	—	—	外縁:1.6 内区:— 中厚:— 井幅:—	凸面:ナデ 凹面:布目、糸切り縫 凸面:布目、糸切り縫	・丸瓦部厚:1.8 cm ・瓦当の側面が残る。		
1012	206-2	軒丸瓦 (セシヨンゾ ②・瀬崎博士)	—	—	—	—	裏面:ナデ 正面:2.0~2.3 裏面:10/96/1青灰、 10/96/1(明)青灰、 10/96/4にぶい青灰	方形状瓦。側面直立。垂水先 五年か?		

遺物観察表（丸瓦・平瓦）

遺物 番号	種類	出土区・層位	金長 (cm)	広場幅 (cm)	狭場幅 (cm)	厚さ (cm)	色 調		調査等特徴	備考
							凸面	凹面		
1013 604-1	丸瓦	82区・瓦029	37.9	17.0	12.8	1.7	凸面：N60/0灰、7.5Y5/1灰 凹面：N40/0灰、2.5Y7/2灰 断面：N40/0灰	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（広場側にあら場の窓み、広場部をナデ） （後側面にラーチ切りの痕跡がある。）	
1014 606-1	丸瓦	82区・瓦031	36.0	—	10.7	1.4	凸面：10BG4/1 黄 凹面：10BG2/1 黄 断面：10BG6/1 黄	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（軽井原方に向むけ合せ目窓みによる窓み。）	形が歪む。
1015 616-1	丸瓦	C1区・瓦041	40.6	—	15.0	1.8	凸面：2.5Y7/2 灰 凹面：2.5Y7/2 灰 断面：10Y6/7/2灰 10Y6/7/6灰、10Y6/3に近い黄 10Y6/7/6灰	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（軽井原付近を東方向へのヘラナ 子により窓みのような形となる。）	
1016 611-1	丸瓦	82区・瓦036	38.7	15.6	11.8	1.5	凸面：2.5GY8/1 白 凹面：10G7/1 錆 断面：10G7/1 錆 完形：形状のため不明	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（E面側に布の合せ目等による 窓み。西側に東方向の粘土接合面。）	形が歪む。（特にE面側）
1017 605	丸瓦	82区・瓦030	36.5	11.6	10.4	1.9	凸面：7.5Y7/1 灰白、N5/0 灰 凹面：N40/0 灰 断面：N40/0 灰	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（中央方に向ひ広場側に向むけ 合せ目等による窓み、西側に極方の粘土接合面。 広場部をナデ。）	形が歪む。（特にE面側）
1018 350-1	丸瓦	A2区・下位瓦群5	40.0	21.9	14.5	1.7	凸面：N2/0 灰、10B1/1 白 凹面：N2/0 灰 断面：7.5Y5/1 灰	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（E面側に極方の粘土接合面。）	
1019 581	丸瓦	A1区・瓦006	40.8	21.0	—	1.3	凸面：5Y4/1 灰、5Y8/1 灰 凹面：5Y3/1 オーブ灰 断面：2.5Y6/2 灰白	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（E面側に布の合せ目等による 窓み。西側に東方向の粘土接合面。）	
1020 609	丸瓦	C2区・瓦034	36.9	24.3	13.6	1.1	凸面：10G7/6/1 錆 凹面：10G7/7/2 灰 断面：10G7/7/2 灰 完形：形状のため不明	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（E面側に布の合せ目等による 窓み。西側に東方向の粘土接合面。）	広場側がたがるるように 歪む。
1021 582	丸瓦	A1区・瓦007	40.2	—	—	—	凸面：7.5Y7/2 灰白、10Y4/1 灰 凹面：5G5/1 オーブ灰 断面：2.5G7/1 明オリーブ灰	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（E面側に極方の粘土接合面。）	
1022 286-6	丸瓦	A区・窓1-2瓦群2	40.4	21.7	—	—	凸面：7.5Y4/3 灰、5Y8/2 灰白 凹面：7.5Y8/1 灰白、7.5Y5/2 灰オリーブ 断面：7.5Y8/4/3 灰、7.5Y8/1 灰白	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（E面側に極方の粘土接合面。）	
1023 151	丸瓦	82区-3-清瀬町界	40.5	—	14.2	1.2	凸面：7.5Y7/1 灰白 凹面：7.5Y7/1 灰白 断面：5Y6/1 灰	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（E面側に布の合せ目等による 窓み、西側に東方向の粘土接合面。）	（E面側に布の合せ目等による 窓み、西側に東方向の粘土接合面。）
1024 618	丸瓦	A1区・瓦043	39.0	22.7	16.0	1.6	凸面：N5/0 灰、5Y7/1 灰白 凹面：N5/0 灰、2.5Y7/2 灰 断面：N5/0 灰、4.5Y7/2 灰	凸面：ナデ 凹面：ナデ 断面：ナデ	（E面側に極方の粘土接合面。）	

遺物 番号	種類	出土区・層位	金長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	色 調		測量等特徴	備考	
							凸面	凹面			
1025	丸瓦	A2区・瓦023	39.5	24.4	16.3	1.7	凸面：白 (凹面) 7.5/7/1 底白 7.5/7/1 底白 7.5/7/1 底白 7.5/7/1 底白	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)			
1026	瓦頭	G3区・G3-8層 (C2区)	40.7	22.5	—	1.7	凸面：白 (凹面) 5/7/1 底白 5/8/1 底白	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)			
1027	丸瓦	A2区・四5.2瓦群2	41.6	—	15.7	1.7	凸面：白 (凹面) 6/2/1 リーブ灰 6/2/1 灰 10/7/1 底白	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)			
1028	丸瓦	C2区 (旧G3区付近) ・通管土	37.6	—	15.6	1.2	凸面：白 (凹面) 7.5/7/1 底白 7.5/6/2 底白 5/8/2 底白	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)			
1029	丸瓦	B2区・瓦032	38.5	24.8	14.5	1.5	凸面：白 (凹面) 6/1/0 底、5/7/1 底白 6/2/0 底、5/7/1 底白 6/2/0 底、5/7/1 底白 6/2/0 底	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)			
1030	617-1	丸瓦	C1区・瓦042	39.6	—	15.0	3.3	凸面：白 (凹面) 2.5/6/0 底灰、N3/0 頭灰 2.5/5/0 底灰、N3/0 頭灰 N3/0 頭灰、5/7/7/2 底灰 N3/0 頭灰、5/7/7/2 底灰	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)	厚みが薄く、他の丸瓦の 2倍程度の厚みとなる。	
1031	丸瓦	C1区・瓦5群3	—	—	14.0	1.8	凸面：白 (凹面) 2.5/5/2 間灰 2.5/5/3 にぶい黄 10/9/7/6 底灰	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)	凹面に細かく粘土を充填し たと考えられる組合せあり。		
1032	丸瓦	E区・木055土台部	—	—	—	—	凸面：白 (凹面) 2.5/6/4 1周リーブ灰、 5/7/6/3 にぶい黄	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)			
1033	平瓦	A2区・瓦021	40.5	34.0	24.5	1.7	凸面：白 (凹面) 7.5/5/1 底 7.5/5/1 底 7.5/5/1 底	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)			
1034	320-2	平瓦	A2区・下位瓦群1	40.1	36.5	25.2	1.8	凸面：白 (凹面) 10/7/1 底白 7.5/6/1 底白 7.5/7/1 底白	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)		
1035	平瓦	A1区・瓦013	40.0	33.3	25.3	2.0	凸面：白 (凹面) 10/9/3/1 頭 5/6/2/2 リーブ 2.5/6/2 底灰	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)			
1036	585-1	平瓦	A1区・瓦010	40.4	30.0	25.5	1.3～2.3	凸面：白 (凹面) N2/2/3 頭灰 2.5/7/3 頭灰 N6/0 底白、N2/0 底	凹面：ナデ (底方向に板方向のナデ。)	(布目はどちらどもある。)	

遺物 番号	種類	出土区・層位	全長 (cm)	立場幅 (cm)	採集幅 (cm)	厚さ (cm)	色 調		調査等特徴	備考
							合面	凹面		
1037 321	平瓦	A1区・下位瓦群1 A2区・下位瓦群1・土台部	40.3	34.0	26.5	2.0	合面：格子目タキ A (後端部付近は底面の一部ナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のナデ (腹方に粘土接合あり。)	N30°西面、S97°E北白 凹面：7.5Y7/1灰白、N40°E 新面：7.5Y7/1灰白		
1038 289-5	平瓦	A1区・A2区・B2区 ・固1・5瓦群1	41.2	33.4	26.3	1.8	合面：格子目タキ A (後端部付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のナデ、部分的に ヘラケヅリ	2.5Y5/2南灰 凹面：2.5Y4/1黄灰 新面：N40°灰 新面：2.5Y6/2灰黄		
1039 286-4	平瓦	A1区・固1・2瓦群2	41.3	33.0	26.4	1.8	合面：格子目タキ A (後端部付近は底面付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のナデ	10YR2/1灰 凹面：10YR6/1灰 新面：7.5Y5/1灰 新面：2.5Y6/2灰黄		
1040 289-4	平瓦	A1区・A2区・B2区 ・固1・5瓦群1	40.8	34.2	25.3	1.8	合面：格子目タキ A (後端部付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫 (腹360度方向・横方向の合せ目等による箇所。)	5Y7/3浅黄 凹面：5Y7/1灰 新面：5Y7/1灰白		
1041 324-4	平瓦	A1区・下位瓦群3	40.7	32.5	25.5	2.1	合面：格子目タキ A (後端部付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のナデ (腹方に布の合せ目等による箇所。)	2.5Y5/2黒褐、2.5Y7/2灰黃 凹面：2.5Y6/2灰 新面：2.5Y6/2灰白		
1042 271	平瓦	A1区・固1瓦群3	40.5	—	25.2	2.2	合面：格子目タキ A (後端部付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫 (腹360度方向の合せ目等による箇所。)	N30°西面、2.5Y7/2灰黃 凹面：2.5Y6/2南灰 新面：N30°灰 新面：2.5Y7/2灰黃		
1043 324-2	平瓦	A1区・下位瓦群3	40.2	33.0	—	2.0	合面：格子目タキ A (後端部付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のヘタケズリ後ナデ	2.5Y7/1灰白 凹面：2.5Y7/1灰 新面：2.5Y7/1灰白、N30°灰 新面：2.5Y7/1灰黃		
1044 324-3	平瓦	A1区・下位瓦群3	40.6	—	25.8	2.2	合面：格子目タキ A (後端部付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のヘタケズリ後ナデ	2.5Y6/1灰 凹面：2.5Y7/1灰白、N30°灰 新面：2.5Y7/1灰黃		
1045 249-1	平瓦	A1区・固1・2瓦群1	40.5	33.5	25.3	1.9	合面：格子目タキ A (後端部付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のヘタケズリ後ナデ	2.5Y6/1灰 凹面：2.5Y6/1灰 新面：2.5Y6/1灰白、2.5Y7/1灰白		
1046 271-2 288	平瓦	A1区・固1瓦群3 A1区・固1瓦群3	42.0	32.5	26.3	2.5	合面：格子目タキ A (後端部付近は底面付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のナデ (一部布の合せ目等による箇所。)	7.5Y5/1灰 凹面：7.5Y5/1灰 新面：N7-150 黑、2.5Y7/1灰 新面：2.5Y7/1灰白		
1047 289-1	平瓦	A1区・A2区・B2区 ・固1・5瓦群1	39.7	—	26.0	1.8	合面：格子目タキ A (後端部付近ナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のナデ	7.5Y6/1灰 凹面：10Y4/1灰 新面：10Y4/1灰		
1048 289-7	平瓦	A1区・A2区・B2区 ・固1・5瓦群1	41.2	—	26.2	1.5～2.0	合面：格子目タキ A (後端部付近を部分的にナデ) 凹面：布目、糸切り縫、縫方向のナデ (腹360度方向の合せ目等による箇所。)	2.5Y6/1灰 凹面：5Y6/2オリーブ、5Y3/1オリーブ 新面：5Y6/1灰 新面：5Y6/1灰		
1049 371	平瓦	A1区・固1瓦群3 B1区C1区境界北壁中 ・通鋪土	40.0	—	27.0	2.0	合面：格子目タキ A (後端部付近ナデ) 凹面：布目、縫方向のナデ (一部ヘタケズリ。)	N60°灰 新面：7.5Y6/1灰		

遺物 番号	原標号	種類	出土区・層位	全長 (cm)	広幅端 (cm)	狭幅端 (cm)	厚さ (cm)	色 調		圖版等特徴	備考
								凸面	凹面		
1050	289-2	平瓦	A1区・A2区・B2区 ・ <u>下位瓦群1</u>	40.7	—	25.0	2.1	2.5/6/1 黄灰 (凹面) 2.5/5/1 黄灰 (新面)	2.5/6/1 黄灰 (凸面) 2.5/5/1 黄灰 (新面)	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1051	324-5	平瓦	A1区・下位瓦群3	40.5	—	26.5	2.3	2.5/7/1 黄灰 (凹面) 2.5/7/3 黑灰 (新面)	2.5/7/1 黄灰 (凸面) 2.5/7/2 黑灰 (新面) N8.0 既白	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1052	589-1	平瓦	A1区・瓦 014	40.7	—	26.0	2.1	5/6/1 黄 (凹面) 5/7/1 既白 (新面)	5/6/1 黄 (凸面) 5/7/1 既白	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	焼成段階でひびが入ってい る。
1053	324-1	平瓦	A1区・下位瓦群3	40.8	—	27.1	2.0	2.5/6/1 黄灰 (凹面) 2.5/6/3 黑灰 (新面)	2.5/6/1 黄灰 (凸面) 2.5/6/3 黑灰 (新面)	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1054	286-3	平瓦	A区・ <u>窓下・瓦群2</u>	40.9	—	25.6	1.4～1.8	2.5/6/1 黄灰 (凹面) 2.5/6/3 に少々黒 (新面) 2.5/7/1 黑灰	2.5/6/1 黄灰 (凸面) 2.5/6/3 黑灰 (新面)	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1055	320-3	平瓦	A2区・下位瓦群1	40.8	33.0	25.8	1.5～1.8	2.5/6/2 黄灰 (凹面) N20.0 黑 (新面) N30.0 黑	2.5/6/2 黄灰 (凸面) N20.0 黑 (新面)	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1056	289-3	平瓦	A1区・A2区・B2区 ・ <u>下位瓦群1</u>	41.0	33.2	—	1.5～1.8	2.5/6/1 黄灰 (凹面) N40.0 黑 (新面) N40.0 黑	2.5/6/1 黄灰 (凸面) N40.0 黑 (新面)	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1057	286-1	平瓦	A1区・A2区・瓦群2	41.0	33.8	—	1.7	2.5/6/1 黄灰 (凹面) 2.5/7/2 黑灰 (新面)	2.5/7/1 既白 (凸面) 2.5/7/1 既白 (新面)	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1058	289-6	平瓦	A1区・A2区・B2区 ・ <u>下位・瓦群1</u>	40.4	33.2	25.5	1.5～1.8	5/7/4 黄灰 (凹面) 5/7/2 黑灰 (新面) 10/7/1 既白	5/7/4 黄灰 (凸面) 5/7/2 黑灰 (新面) 10/7/1 既白	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1059	597	平瓦	A1区・瓦 022	40.9	33.3	24.5	2.0	7.5/7/1 既 (凹面) 7.5/7/1 既白 (新面) N8.0 既白	7.5/7/1 既白 (凸面) 7.5/7/1 既白 (新面) N8.0 既白	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1060	127	平瓦	A1区 <u>4・通棟面切</u>	40.3	33.0	25.2	1.5～2.4	10/7/1 既白 (凹面) 10/7/1 既白 (新面)	10/7/1 既白 (凸面) 10/7/1 既白 (新面)	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1061	281-1	平瓦	A2区・土台部 土台部	39.4	34.7	26.5	1.8	2.5/6/1 黄灰 (凹面) 2.5/6/1 黄灰 (新面) N20.0 黑 5/3/0 オリーブ黒	2.5/6/1 黄灰 (凸面) 2.5/6/1 黄灰 (新面) N20.0 黑 5/3/0 オリーブ黒	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。
1062	583	平瓦	A1区・瓦 008	40.5	—	26.8	1.6～1.8	2.5/7/1 既 (凹面) N20.0 黑 (新面) 2.5/7/2 黑灰 (新面) N30.0 黑	2.5/7/1 既 (凸面) N20.0 黑 (新面) 2.5/7/2 黑灰 (新面) N30.0 黑	凸面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) 凹面：格子目タキ A (狭幅部付近ナデ) （ヘケズリ）（頭方向）	凹面にヘラケズリによると みられるが入った筋目が入 る。

遺物 番号	種類	出土区・層位	金長 (cm)	広幅 (cm)	狭幅 (cm)	厚さ (cm)	色 調		調査等特徴	備考
							凸面	凹面		
1063	286-2	平瓦	A区・窓口・土瓦群2	40.7	—	25.5	1.7	凸面：格子目タキ A (床頭部付近ナデ) (窓枠方向に布の合せ目等による擦み。)	凹面：格子目タキ A (床頭部付近ナデ) (窓枠方向に布の合せ目等による擦み。)	凹面にへきケズリによると みられる擦れた筋目が入 る。
1064	580	平瓦	A2区・瓦005	40.6	—	22.7	1.9	凸面：108/1 底白 (新面) 573W/2 底オリーブ 578/2 底白	凸面：576/1 底白 (新面) 575/1 底白 577/1 底白	凹面にへきケズリによると みられる擦れた筋目が入 る。
1065	286-5	平瓦	A区・窓口・土瓦群2	40.4	33.5	25.3	1.8～2.3	凸面：575/1 底 (新面) 577/1 底白 578/2 底白	凸面：格子目タキ B (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目がほとんど残らない。)	凹面にへきケズリによると みられる擦れた筋目が入 る。
1066	149-2	平瓦	R2区①・透構照面	36.2 (35.5)	—	—	2.1	凸面：N2/0 黒、575W/2 底黄 (新面) N3/0 底灰 N3/0 底灰	凸面：格子目タキ C (床頭部付近ナデ) (窓枠方向に布の合せ目等による擦み。)	棘端部を窓面的に打ち削 っている。
1067	149-1	黒瓦	R2区①・透構照面	41.1	26.9	—	—	凸面：N2/0 黒、 (新面) 73Y/2 底 73Y/2 底	凸面：格子目タキ B (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目がほとんど残らない。布の合せ目等による擦み。)	凸面にへきケズリによると みられる擦れた筋目が入 る。
1068	286-7	平瓦	A区・窓口・土瓦群2	—	—	—	—	凸面：575/1 底 (新面) 575/1 底 25Y/2 底黄	凸面：格子目タキ C (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目少しお残る。)	凸面にへきケズリによると みられる擦れた筋目が入 る。
1069	42-4	平瓦	G3区・G3.9層 (C区)	—	—	—	—	凸面：108/1 底白 (新面) 107Y/1 底白 107Y/1 底白	凸面：格子目タキ B (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目少しお残る。)	凸面にへきケズリによると みられる擦れた筋目が入 る。
1070	270-1	平瓦	A1区・窓口・瓦群4	—	—	—	—	凸面：1.8 (新面) 25Y/2 底黄 25Y/2 底黄 25Y/2 底黄	凸面：格子目タキ A (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目少しお残る。)	凸面にへきケズリによると みられる擦れた筋目が入 る。
1071	127-3	平瓦	A1区④・透構照面	—	—	—	—	凸面：1.5～1.8 (新面) 10YR7/1 底白 10YR7/1 底白	凸面：格子目タキ A (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目少しお残る。)	凸面にへきケズリによると みられる擦れた筋目が入 る。
1072	127-2	平瓦	A1区④・透構照面	—	—	—	—	凸面：73Y/4 底 (新面) 73Y/4 底 57Y/1 底白	凸面：格子目タキ A (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目少しお残る。)	凸面のナガ部分に格子目状 の擦れが見られる。
1073	292-2	平瓦	A2区・窓口・瓦群2	—	—	—	—	凸面：7.5Y/1 底白 (新面) 576/1 底 575/1 底白	凸面：格子目タキ A (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目少しお残る。)	凸面のナガ部分に一部擦れ が認められる。
1074	249-2	丸瓦	A区・窓口・土瓦群1	37.5	—	—	—	凸面：N5/0 底 (新面) 25Y/5 底黄、25Y/2 底白	凸面：格子目タキ A (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目少しお残る。)	凹凸両面の同じ位置に楕円 形の粘土結合部がある。
1075	95	平瓦	A1区・セクショントラバ B1区③・透構照面	39.5	—	—	—	凸面：574/1 底 (新面) 25G/6/1 底 オリーブ灰	凸面：格子目タキ B (床頭部付近ナデ) (窓枠方向へカケナデ) (布目少しお残る。)	大きく抜け落ち。
1046	他	—	—	—	—	—	—	—	—	—

遺物 番号	原種 名	種類	出土区・層位	全長 (cm)	広場幅 (cm)	狭場幅 (cm)	厚さ (cm)	色 調	調査等特徴	備考
1076 154-2	平瓦	C1 区②・道構面部	—	—	—	—	—	・垂轍する中で最大の瓦 (凸面) 格子目タキ 8 (窓附付近端なナデ) 凹面・布目、端方向へラカズリ N7/0 扉白	・垂轍する中で最大の瓦 (凸面) 格子目タキ 8 (窓附付近端なナデ) 凹面・布目、端方向へラカズリ N7/0 扉白	4枚の半瓦が発見する。
1077 154-1	平瓦	C1 区②・道構面部	—	—	—	—	—	・垂轍する中で最大の瓦 (凸面) N6/0 扉白 凹面・N6/0 扉白 N7/0 扉白	・垂轍する中で最大の瓦 (凸面) 格子目タキ 8 (窓附付近端なナデ) 凹面・端方向へラカズリ (布目ほんど削入る。) N7/0 扉白	3枚の半瓦が発見する。
1078 60	瓦盤	G4 区・土器 3・5 (D1 区)	—	—	22.0	2.2	—	凸面: 7.5W6/2 切端部、10Y6/2 黒端 凹面: 7.5W6/2 切端部、10Y6/2 黒端 N7/0 扉白	凸面: 畫目タキ 凹面・布目	一枚作り。
1079 140	平瓦	E2 区①・道構面部	—	—	—	—	—	凸面: 2.5Y7/3 白黄 凹面: 10Y8/3.2 黄褐、2.5Y7/3.3 に赤 N7/0 扉白	凸面: 畫目タキ、ナデ 凹面・端方向ナデ (布目少し残る。)	
1080 87	平瓦	E2 区東半・第4層	—	—	—	—	—	凸面: 7.5W6/1 扉白 凹面: 2.5Y5/1 黄灰 N7/0 扉白	凸面・端目タキ、ナデ 凹面・布目、端面ナデ	
1081 324-6	丸瓦	A1 区・下位瓦群 3	—	—	—	—	—	凸面: 10Y5/1 扉白 凹面: 2.5Y7/1 扉白 N7/0 扉白	凸面・ナデ (端方向の平行する筋目が残り、端目タキの痕跡か?) 凹面・布目、端切り、端方向のナデ	
1082 72	丸瓦	A1 区東半・第4層	—	—	—	—	—	凸面: N3/0 黒端 凹面: K2/0 嘴灰 N7/0 扉白	凸面・ナデ 凹面・布目	玉縁部分が剥離する。

遺物觀察表（錢貨）

遺物番号	原品番号	錢種	出土区・層位	径幅 mm	徑幅 mm	厚度 mm	備考	通号	原品番号	錢種	出土区・層位	径幅 mm	徑幅 mm	厚度 mm	備考
2001	656 錢 4	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形參照	24.5	25.0	1.3	F 型式	2021	660 錢 5	周生寶實	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.5	26.0	1.5	D 型式
2002	656 錢 1	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形參照	25.0	25.0	1.2	D 型式	2022	660 錢 2	周生寶實	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	26.5	26.5	1.3	D 型式
2003	656 錢 2	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形參照	25.0	25.0	1.5	A 型式	2023	660 錢 4	周生寶實	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	26.0	26.0	1.6	D 型式
2004	656 錢 3	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形參照	24.7	24.7	1.3	A 型式	2024	660 錢 26	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.5	26.0	1.7	B 型式
2005	656 錢 5	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形參照	25.0	25.0	1.5	A 型式	2025	660 錢 27	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.0	26.0	1.6	B 型式
2006	656 錢 7	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形參照	25.0	25.0	1.6	D 型式	2026	660 錢 8	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	24.0	24.8	1.5	D 型式
2007	656 錢 6	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形參照	25.0	25.0	1.7	A 型式	2027	660 錢 23	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.0	24.6	1.8	D 型式
2008	657 錢 1	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形西側	24.5	24.5	1.2	F 型式	2028	660 錢 6	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	24.5	24.8	1.5	D 型式
2009	657 錢 6	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形西側	24.1	24.1	1.5	A 型式	2029	660 錢 16	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.0	25.5	1.7	E 型式
2010	657 錢 2	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形西側	24.9	24.9	1.5	A 型式	2030	660 錢 14	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.0	25.0	1.5	E 型式
2011	657 錢 3	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形西側	24.8	24.9	1.3	A 型式	2031	660 錢 10	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	24.0	25.0	1.7	E 型式
2012	657 錢 4	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形西側	24.7	24.6	1.4	A 型式	2032	660 錢 24	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.0	25.0	1.7	F 型式
2013	657 錢 5	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形西側	24.9	24.9	1.5	A 型式	2033	660 錢 22	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	24.5	24.5	1.7	E 型式
2014	658 錢 1	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形	24.6	24.4	1.4	D 型式	2034	660 錢 11	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	24.0	24.1	1.4	E 型式
2015	658 錢 2	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形	24.6	25.0	1.3	A 型式	2035	660 錢 12	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.0	25.0	1.7	E 型式
2016	658 錢 3	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形	24.5	25.0	1.5	D 型式	2036	660 錢 9	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	24.5	25.1	1.8	E 型式
2017	658 錢 4	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形	24.5	25.0	1.2	A 型式	2037	660 錢 17	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	24.0	24.0	1.4	E 型式
2018	658 錢 5	和田圓形	A2 区 2-1-通幅圓形・銅錢形	24.6	25.0	1.4	A 型式	2038	660 錢 20	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.0	25.0	1.3	E 型式
2019	660 錢 1	和田圓形	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.0	25.0	1.5	F 型式	2039	660 錢 26	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	24.9	24.9	1.6	E 型式
2020	660 錢 3	龐莊通寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	26.0	26.0	1.8	D 型式	2040	660 錢 7	神功開寶	A1 区・木 011 土台剖面西端付近	25.0	25.0	1.6	E 型式

遺物番号	原形番号	銘種	出土区・層位	径(幅) mm	径(幅) mm	厚さ mm	備考	遺物番号	原形番号	銘種	出土区・層位	径(幅) mm	径(幅) mm	厚さ mm	備考
2041	660 線 13	神功開寶	A1 区・木 011 土部西側約 1m	25.0	25.5	1.5	E 型式	2050	13.8	和田開寶	C1 区・岡ノ遺物土台木より引抜	24.5	25.0	1.5	C 型式
2042	660 線 21	神功開寶	A1 区・木 011 土部前西側約 1m	25.0	25.0	2.0	F 型式	2051	9.2	和田開寶	C1 区西半・高 4 層	25.0	25.0	1.6	A 型式
2043	660 線 18	神功開寶	A1 区・木 011 土部西側約 1m	25.0	25.5	2.2	F 型式	2052	21.4	神功開寶	C1 区・セシヨンジ・清瀬博士	25.0	25.3	1.4	E 型式
2044	660 線 25	神功開寶	A1 区・木 011 土部西側約 1m	25.0	25.0	2.1	F 型式	2053	79.4 鏡 2	神功開寶	E2 区西半部・清瀬臣利	26.0	26.0	1.6	A 型式
2045	660 線 19	神功開寶	A1 区・木 011 土部西側約 1m	25.0	25.0	2.0	F 型式	2054	79.4 鏡 1	神功開寶	E2 区西半部・清瀬臣利	24.0	24.5	1.5	E 型式
2046	660 線 15	神功開寶	A1 区・木 011 土部西側約 1m	24.5	25.0	1.5	F 型式	2055	80.8	萬年通寶	F 区西半部・清瀬臣利	26.0	26.5	1.8	A 型式
2047	659 線 2	萬年通寶	A2 区・南側前層・東側・清瀬町	25.0	24.8	1.5	D 型式	2056	26.8	萬年通寶	A1 区・骨 001・003・土台部	24.0	24.5	1.4	H 型式
2048	659 線 1	神功開寶	A2 区・南側前層・東側・清瀬町	25.0	24.8	1.4	E 型式	2057	70.4 鏡 1	承和昌寶	E 区・中央石集精部・清瀬臣利	21.0	20.7	1.3	A 型式
2049	661	和田開寶	A1 区・B1 区境界・北側壁面中 (清瀬町上)	24.0	—	1.5	A 型式	2058	70.4 鏡 2	承和昌寶	E 区・中央石集精部・清瀬臣利	20.5	20.7	1.4	A 型式

補注) 今回の調査により出土した銅貨の型式については、奈良國立文化財研究所編「平城宮跡調査報告 VI (1975 年)」を参考とした。以下、本文で詳述できなかつた銅鏡の型式についてまとめる。

和田開寶 [初期] 和銅元年 (708) 22 点出土した。2 点 (2015・2049) を除いて、20 点は完形品である。いずれも「開」の開構え上部が斜張型で、古和開はない。「開」を「開」につけり比較的細い A 型式が 14 点 (2003～2005・2007・2009～2013・2015・2017・2018・2049・2051) のである。他字に比べて「勝」が小さい「初鏡」の C 型式が 1 点 (2020)、背面の内郭縁が幅広の「背広部」の D 型式が 4 点 (2002・2006・2014・2016) である。「和」を内部寄りに配置し「和」の第 3 画がやや短い F 型式が 3 点 (2001・2008・2019) である。以上の 22 点は大方良品であるが、錢文が不鮮明なもの、型合わせがされているものがある。危端 (2002・2005)、危端 (2012・2051) が確認される。2015 は漏れりが悪く、「開」「開」の一帯が欠け、裏が生じている。

萬年通寶 [初期] 天平宝字 4 年 (760) 6 点出土した。全て完形品で、「萬」下部を「開」につくる。A 型式が 1 点 (2020～2023・2047) である。型合せのすれば内郭縁は整の筋が突り不整形である。

神功開寶 [初期] 天平寶字 4 年 (765) 27 点出土した。23 点 (2035・2041・2044) を除いて、24 点は完形品である。功の旁を「刀」につくり、開を「開」につくる A 型式が 1 点 (2053)、功の旁を「力」につくり「開」につくる「力功開」の B 型式が 2 点 (2024・2025)、「刀」の旁を「刀」の E 型式が 15 点 (2029～2031・2033～2041・2048・2052・2054)、外縁の輪が広い F 型式が 6 点 (2032・2042～2046) である。

以上の 27 点には胸 (上) のよい良品もあるが、鋤出しが浅く型合わせの悪い品が多い。危端 (2038・2041・2042)、危端 (2024・2043・2045・2052・2054) が確認され、2041 は、「萬」「開」が錯れ、そのあたりの外縁が欠損している。形状もやや横円状である。2054 は、鋤出しが浅く全体的にやがんでおり、「萬」の左側には逆割れによるものが鏡本体とは別の側面が接着している。

なお、和田開寶・萬年通寶・神功開寶の 3 種は地加鑄置が天平寶字元年 (765) に施設されたのが、一時期を除いて併用されたことが『続日本紀』にみえる。

陽平水質 [初期] 乾曆 15 年 (796) 1 点出土した。2056 は完形品で小形小字の H 型式である。小形小字の A 型式である。

遺物観察表（金属製品・木製品・石製品）

遺物 番号	所管番号	種類	出土区・層位		特徴・計測値	出土地・層位	種類	所管番号	特徴・計測値
			A1区-3-1-遺構回廊	B1区-セシヨン1-1-遺構1 In - 遺構回廊					
2059	—	鉄錆	鉄錆	鉄錆	鉄錆	E2区西半部・遺構回廊	鐵	2058	鐵
2060	—	鉄	A1区・セシヨン1-1-遺構1 In - 遺構回廊	鐵	鐵-不明形であるが、万葉経約8cm、万葉経約10cm	E1区東半部・遺構回廊	鐵	2059	鐵
2061	鉄錆- 鉄	鉄錆	G1区・土壤条件 (B1区)	鉄-不明形であるが、万葉経約10cm、万葉経約20cm	鉄-不明形であるが、万葉経約10cm、万葉経約20cm	E1区東半部・遺構回廊	鐵	2060	鐵
2062	鉄錆- 鉄	鉄錆	G1区・遺構面上 (B1区)	1は土質 鉄-不明形であるが、万葉経約9cm、万葉経約19cm	F区東半部・遺構面	鐵	2061	鐵	2058
2063	—	鉄	A2区下地・金属002	鉄-不明形であるが、万葉経約8cm、万葉経約19cm	E1区東半部・遺構面	鐵	2062	—	鐵
2064	—	鉄	E1区-1-遺構回廊	鉄-不明形であるが、万葉経約8cm、万葉経約20cm	G区土壤面上 (E1区下地)	鐵	2063	—	鐵
2065	—	鉄錆	D1区2-1-遺構回廊	「T」字状の鉄	G区土壤面上 (E1区下地)	鐵	2064	—	鐵
2066	—	鉄錆	A1区・B1区・第4層	「T」字状の鉄	A2区・金属004	鐵	2065	6/2	鐵
2067	—	鉄	A2区・金属005	細やかな鉄錆	A2区・木031土台面	鐵	2066	—	鐵
2068	—	鉄	A2区・田原瓦群1	鉄錆	A1区東半部・第4層	鐵	2067	—	鐵
2069	—	鉄	A2区3-1-遺構回廊	鉄錆	A1区A2区・木072～014土台面	鐵	2068	203	鐵
2070	—	鉄	A2区西半部・第4層	鉄錆	A1区上層056～058土台面	鐵	2069	276	鐵
2071	—	鉄	A1区・笠原アセ-1-遺構回廊	鉄錆	A1区・木026～027土台面	鐵	2100	300	鐵
2072	—	鉄	A1区・セシヨン1-1-遺構回廊	鉄錆	A1区・A2区・田1-2-瓦群・土台面	鐵	2101	250	鐵
2073	—	鉄	A1区・骨001・青002土台面	鉄	E2区1-1-遺構回廊	鐵	2102	183	鐵
2074	307	鉄	A2区・木032土台面	万葉経とも大きさ一致	1は土質	鐵	2103	181	鐵
2075	131	鉄	A2区-1-遺構回廊	万葉経とも大きさ一致	1は土質	鐵	2104	—	鐵
2076	678	鉄	A1区・セシヨン1-1-北面・遺構回廊	万葉経とも大きさ一致	C1区-1-遺構回廊	鐵	2105	—	鐵
2077	626	鉄	C1区・金属008	万葉経とも大きさ一致	D2区-1-遺構回廊	鐵	2106	—	鐵
2078	—	鉄	D1区2-1-遺構回廊	万葉経とも大きさ一致	D1区-1-遺構回廊	鐵	2107	—	鐵
2079	653	鉄	A1区・セシヨン1-1-下・遺構回廊	鉄が1本取れられたる	E1区・中央石集散筋土台面	鐵	2108	800	鐵
2080	259	鉄	A1区・木007土台面	鉄が1本取れられたる	E2区-1-遺構回廊	鐵	2109	140/2	刀子
2081	—	鉄	A2区西半部・第4層	鉄が1本取れられたる	G2区・G2-7層 (B2区)	刀子	2110	145/27	刀子
2082	鉄錆-02	鉄錆	G4区・G4-6層-7層 (D1区)	鉄のみ残る	A2区	刀子	2111	—	刀子
2083	772	鉄	E1区西半部・遺構回廊	1は土質	D1区-1-遺構回廊	刀子	2112	226	刀子
2084	792	鉄	E1区西半部・遺構回廊	万葉経部分欠損	A1区・セクション1-遺構回廊	鐵	2113	655	鐵
2085	768-3	鉄	E1区東半部・遺構回廊	鉄錆	C1区・セクション1-西面・遺構回廊	鐵	2114	167	鐵
2086	776	鉄	E1区西半部・遺構回廊	縫合かな鉄錆	B1区-1-遺構回廊	鐵	2115	144-4	鐵
2087	770	鉄	E1区西半部・遺構回廊	縫合かな鉄錆	D2区-1-遺構回廊	鐵	2116	128	鐵

遺物 番号	原標号	種類	出土区・層位	特徴・計測値		出土区・層位	特徴・計測値
				番号	種類		
2117 357	鉢	石土台形	A2 領下地・土高 135・136、直・ 石土台形	切妻形式、直さ 11.4 cm	直切妻形式、直身。直さ 32.0 cm	2146 1987	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 30
2118 120	鉢	A3 領下・瀬崎上	切妻形式、直さ 14.0 cm	直切妻形式、直身。直さ 31.6 cm	2147 1985	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 33	
2119 146	鉢	B1 区・瀬崎上	切妻形式、直さ 12.1 cm	直切妻形式、直身。直さ 34.6 cm	2148 1503	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 7	
2120 148	鉢	C1 領下・瀬崎上 (博洋製品 1位)	切妻形式、直さ 10.2 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 34.3 cm	2149 1472	縦 B1 区・瀬崎上	
2121 154	鉢	C1 領下・瀬崎上	切妻形式、直さ 14.6 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 34.5 cm	2150 —	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 9	
2122 677	鉢	D2 領下・瀬崎上	切妻形式、直さ 14.5 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 22.7 cm	2151 —	縦 B1 区・博洋製品 24	
2123 638	鉢	D2 領下・瀬崎上・直身	直切妻形式、直さ 14.2 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 36.0 cm	2152 1961	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 25	
2124 205-2	鉢	B1 区・北アゼ・瀬崎上	切妻形式、直さ 13.1 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 27.1 cm	2153 —	縦 B1 区・瀬崎上	
2125 336	鉢	B1 区・C1 区・木・044 土台形	欠損した切妻形式・直身。直さ 10.2 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 24.5 cm	2154 —	縦 B1 区・博洋製品 30	
2126 —	鉢	C1 区・セガシヨリ変形・瀬崎上	刀削形式、直さ 15.7 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 24.1 cm	2155 1501-13	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 19	
2127 788-2	鉢	E1 区東半周・直身	刀削形式、直さ 15.5 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 21.8 cm	2156 —	縦 B1 区・セガシヨリ変形 (直身)。直身	
2128 772	鉢	E1 区西半周・直身	刀削形式、直さ 14.0 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 21.2 cm	2157 162	縦 B1 区・瀬崎上	
2129 —	鉢	C1 区・瀬崎上	欠損した切妻形式・直身。直さ 10.9 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 21.2 cm	2158 145-5	縦 B1 区・瀬崎上	
2130 265	口金	B1 区・土高 3.0・土台形	輪郭を削除した外観へ、新規底径 3.0 cm、底径 1.3 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 21.5 cm	2159 145-2	縦 B1 区・瀬崎上	
2131 —	鉢	E1 区・瀬崎上面上・博洋製品 3	直切妻形式、直身。直さ 42.5 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 26.7 cm	2160 196-8	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 26	
2132 190-10	鉢	E1 区・瀬崎上・博洋製品 29	直切妻形式、直身。直さ 44.0 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 21.7 cm、大きさ 21.7 cm	2161 192-12	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 38	
2133 —	鉢	E1 区・瀬崎上面上・博洋製品 30	直切妻形式、直身。直さ 42.7 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 19.7 cm	2162 198-11	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 22	
2134 190-2	鉢	E1 区・瀬崎上・博洋製品 21	直切妻形式、直身。直さ 46.3 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 19.8 cm	2163 —	縦 B1 区・博洋製品 16	
2135 150-5	鉢	E1 区・瀬崎上・博洋製品 6	直切妻形式、直身。直さ 45.0 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 20.0 cm	2164 146-4	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 16	
2136 190-4	鉢	E1 区・瀬崎上・博洋製品 32	直切妻形式、直身。直さ 43.1 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 22.6 cm	2165 148-7	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 14	
2137 150-2	鉢	E1 区・瀬崎上・博洋製品 1	直切妻形式、直身。直さ 39.5 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 15.3 cm	2166 —	縦 B1 区・瀬崎上	
2138 190-3	鉢	E1 区・瀬崎上・博洋製品 27	直切妻形式、直身。直さ 40.4 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 17.8 cm	2167 198-14	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 37	
2139 150	鉢	E1 区・瀬崎上面上・博洋製品 12	直切妻形式、直身。直さ 39.6 cm 3.5 cmの底部分を削った。全体の直さ 39.6 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 22.6 cm	2168 147-1	縦 B1 区・瀬崎上	
2140 204	鉢	E1 区セガシヨリ・直身	直切妻形式、直身。直さ 41.0 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 21.7 cm	2169 198-15	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 34	
2141 150-6	鉢	E1 区・瀬崎上面上・博洋製品 13	直切妻形式 (直身)。直さ 37.0 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 19.8 cm	2170 145-6	縦 B1 区・瀬崎上	
2142 148-1	鉢	E1 区・瀬崎上面上・博洋製品 5	直切妻形式 (直身)。直さ 36.2 cm、直身直面。	直切妻形式 (直身)。直さ 14.6 cm	2171 —	縦 B1 区・瀬崎上	
2143 150-4	鉢	E1 区・瀬崎上面上・博洋製品 4	直切妻形式 (直身)。直さ 35.6 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 16.0 cm	2172 198-16	縦 B1 区・瀬崎上・博洋製品 24	
2144 —	鉢	E1 区・瀬崎上面上・博洋製品 2	直切妻形式 (直身)。直さ 35.8 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 15.8 cm	2173 —	縦 B1 区・博洋製品 17	
2145 190-9	鉢	E1 区・瀬崎上・博洋製品 36	直切妻形式 (直身)。直さ 34.8 cm	直切妻形式 (直身)。直さ 16.0 cm	2174 146-3	縦 B1 区・瀬崎上	

遺物 番号	原種号	種類	出土区・層位	特徴・計測値	番号	原種号	種類	出土区・層位	特徴・計測値
2195	—	鉄	E1区3-2-1-遺構底部	主張削加工式(直角)、長さ14.5 cm	2198	293	鍔	A1区-A2区-4-012～014土台部	両刃切削底さ9.5 cm
2196	239	鉄	A1区・遺構壁土	主張削加工式、長さ17.3 cm	2199	170	鍔	E1区-高半部-遺構底部	両刃切削底さ8.8 cm
2197	—	鉄	A3区・金属03	主張削加工式(直角)、長さ16.0 cm	2200	35	牟恩器	D1区-高半部-第4層	長さ12.0 cm、幅2.9 cm、厚さ4.0 cm
2198	—	鉄	E2区3-1-遺構底部	主張削加工式、長さ12.5 cm	2201	211	牟恩器	E2区-セクション2-遺構壁土	長さ22.0 cm、幅1.7 cm、厚さ1.5 cm
2199	87	鉄	E2区東半第4層	主張削加工式、長さ14.9 cm	2202	—	牟恩器	E1区-高半部-下層上部	長さ24.5 cm以上、幅2.3 cm、厚さ0.5 cm
2200	214	鉄	C1区・セクション2-遺構壁土	主張削加工式(直角)、長さ43.0 cm	2203	792	牟恩器	E2区-高半部-遺構底部	遺存長13.1 cm、幅2.2 cm、厚さ0.5 cm
2201	157	鉄	C2区3-1-遺構底部	主張削加工式、長さ13.8 cm	2204	867	牟恩器	F5-側面-下層	遺存長6.2 cm、幅2.6 cm、厚さ0.5 cm
2202	試錠47	鉄	G1区-G3区-C2区	主張削加工式、長さ17.6 cm	2205	785	鍔	E2区-上層下部	遺存4.8 cm、遺存厚1.6 cm、厚さ1.0 cm
2203	528-1	鉄	C2区・木G40土台部	主張削加工式、長さ14.7 cm	2206	785	鍔	E2区-上層下部	長さ22.0 cm
2204	373	鉄	D2区・木G52～G53土台部	主張削加工式、長さ20.0 cm	2207	767	鍔	E1区-下層	長さ19.5 cm
2205	705	鉄	E1区・黒漆塗瓦張り漆喰の層	主張削加工式(直角)、長さ29.0 cm	2208	—	加工材	E1区・木644	丸太の端部を削り加工される。
2206	—	鉄	A1区3-2-1-遺構底部	横刃の直角-24.4 cm(断面G)	2209	—	加工材	B1区-木444	木のV字溝部は削り加工される。
2207	126	釘	A1区3-1-遺構底部	横刃式、長さ26.6 cm	3001	329/2	ワカガ	C2区-木40土台部	剥離。
2208	205-3	釘	B1区・北壁アゼ-遺構壁土	丸頭、長さ22.2 cm	3002	104	ワカガ	D1区-北壁アゼ-第1～2層	剥離。
2209	794	釘	E2区西半部-遺構底部	丸頭、長さ23.0 cm	3003	228/2	ワカガ	D2区3-2-遺構底部	剥離。
2210	294	釘	C1区・セクション2-遺構壁土	横刃式、長さ16.7 cm	3004	121	石頭	A1区-E1区-遺構底部	穿孔(1.5 cm)、造石して施用か?
2211	159	釘	A3区3-1-遺構底部	横刃式、長さ18.6 cm	3005	160	磨削	A2区-木026-027土台部	残存で3箇所の削り跡がある。(裏面のG?)
2212	794	釘	E2区西半部-遺構底部	横刃式、長さ17.1 cm	3006	1628	砥石	G1区-高半部-遺構底部	ほぼり有り、周囲削り跡なしして施用されている。
2213	791	釘	E2区東半部-遺構底部	丸頭、長さ17.7 cm	3007	1627	砥石	G1区-高半部-遺構底部	周囲削り跡、見る面だけが削り跡として施用されている。
2214	206	釘	E2区・セクション2-遺構壁土	横刃式、長さ16.3 cm	3008	715	砥石	E1区-土台部	両面削り跡、4箇所を施用とする。
2215	77	釘	A1区西半第4層	長さ15.0 cm	3009	86	砥石	A2区-高半部-第4層	3箇所の削り跡、他の欠損。
2216	348	釘	A2区下位・土蔵127土台部	長さ8.1 cm	3010	1683	砥石	C2区-セクション2-土蔵-遺構底部	周囲削り跡、見る面だけが削り跡として施用されている。
2217	144-1	釘	B1区3-1-遺構底部	長さ6.9 cm	3011	1433	砥石	B1区3-1-遺構底部	2箇所の削り跡、他の欠損。

報告書抄録

ふりがな	ごたんじまいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	五反島遺跡発掘調査報告書
副書名	吹田市南吹田下水処理場雨水滞水池設置工事に伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	賀納章雄、堀口健二、西本安秀、佐藤健太郎、奥田尚、安部みき子
編集機関	吹田市教育委員会
所在地	〒564-8550 大阪府吹田市泉町1丁目3番40号 TEL(06)6384-1231
発行年月日	西暦 2016年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東經 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ごたんじまいせき 五反島遺跡	すいたし みなみすいた 吹田市南吹田 5-34	27205	90	34° 45' 01"	135° 29' 56"	20130204～ 20130303 ・ 20130415～ 20130917	804	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五反島遺跡	集落	弥生時代	川跡、杭跡	弥生土器、サヌカイト	皇朝十二 銭のうち 5種類の 銭貨が58 点出土。
		古墳時代		須恵器、土師器	
		飛鳥～奈良時代		土師器、須恵器、墨書き土器、瓦、 錢貨（和同開珎、萬年通寶、神功開寶）	
		平安時代		土師器、須恵器、墨書き土器、黒色 土器、瓦器、錢貨（隆平永寶、承 和昌寶）、綠釉陶器、灰釉陶器	
		古代		竈、製塙土器、土鍤、鉄柄付銅鋤、 鉄刃付鍤、鐵刃付鋤、鐵鍤、鐵斧、 鐵鎌、刀子	
		古代～中世		青磁、白磁、鉤、鐵釘、鏡、木杭、 箸、砥石、石鍋、輪羽口	
		中世		土師器、須恵器、瓦器、陶器、 卒塔婆	
		時期不明		人骨、獸骨（牛、馬等）	